幌内8遺跡

-経営体育成基盤整備事業 1区上流地区 埋蔵文化財発掘調査報告書-

2020.3

厚真町教育委員会

1. 調査区全景（Ⅲ層調査前） NW→

2. 中世アイヌ文化期遺構群検出 NW→

カラー図版2

1. ⅤP-02検出　S→

2. ⅤP-02断面　SW→

3. 調査区南西壁面Ⅷ～Ⅹ層断面　SW→

4. 幌内8遺跡出土　北大Ⅰ式土器

序　文

厚真町は北海道屈指の豊かな水田地帯を有する田園都市です。明治３年、今から 150 年前に和人による開拓の鍬が入り、先人の苦労の末に現在の厚真町があります。さらに、厚真町には１万 4,500 年前の旧石器時代の遺跡も発見されており、以降、縄文時代から先住民族アイヌに至るまでの連綿と続く歴史がある町です。

平成 30 年４月からは厚幌ダム、厚幌導水路の共用が始まり、本町農業の更なる発展に向け、町全体が新たな段階へ動き出していました。しかし、その年の９月６日に発生した北海道胆振東部地震において 37 人の尊い命と共に、厚真町の山々や先人たちが育んできた豊かな田園景観は甚大な被害を受けてしまいました。

厚真の先人たちにも洪水や地震など、いくつもの自然災害を乗り越えてきた歴史があります。今を生きる私たちも皆様のお力添えのもと、この難局を乗り越えるべく、復旧、復興に向けた日々を一歩一歩歩んでおります。

本書は、本町農業の更なる発展の礎として、水田営農環境の改善を図るべく平成 30 年・令和元年に実施した経営体育成事業に伴う幌内８遺跡発掘調査の成果を収めたものです。今から約 6,200 年前の縄文時代以降、アイヌの人々が暮らしていた時代に至るまで、自然と共に暮らしてきた先人たちの営みの痕跡が見つかり、それらを収録しています。

本調査・報告にあたり御指導御支援を賜りました関係諸氏並びに関係機関に厚く感謝申し上げますとともに、本書が今後の埋蔵文化財の保護や調査研究の一助なれば、幸いに存じます。

令和２年３月

厚真町教育委員会　教育長　遠藤　秀明

本 文 目 次

カラー図版

1-1　調査区全景（Ⅲ層調査前）
1-2　中世アイヌ文化期遺構群検出
2-1　VP-02 検出
2-2　VP-02 断面
2-3　調査区南西壁面Ⅷ～Ⅹ層断面
2-4　幌内８遺跡出土北大Ⅰ式土器

序　文／例　言／凡　例

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　調査要項と体制 …… 1
1. 調査要項 …… 1
2. 調査体制 …… 1
第２節　調査に至る経緯 …… 2
1. 発掘調査に至る経緯 …… 2
第３節　北海道胆振東部地震の影響 …… 3
第４節　調査の方法 …… 4
1. 調査区の設定 …… 4
2. グリッド設定 …… 4
3. 包含層及び遺構調査の方法 …… 5
4. 整理作業 …… 6
第５節　遺物の分類 …… 8
1. 土器 …… 8
2. 剥片石器 …… 9
3. 礫石器 …… 10
第６節　調査結果の概要 …… 11
1. Ⅲ層 …… 11
2. Ⅴ層 …… 11
第７節　遺跡の位置 …… 12
1. 厚真町の概要 …… 12
2. 遺跡の位置と周辺の環境 …… 20
3. 調査区の地形と地質 …… 21

第Ⅱ章　中世アイヌ文化期の調査

第１節　焼土・焼土ブロック …… 29
第２節　杭跡 …… 33
第３節　集中出土遺物 …… 35
1. 骸骨集中 …… 35
2. 礫集中 …… 35
第４節　包含層出土遺物 …… 43
1. 礫石器 …… 43
2. 金属製品 …… 43

第Ⅲ章　続縄文文化期の調査

第１節　焼土 …… 60
第２節　集中出土遺物 …… 63
1. 骸骨集中 …… 64
2. 土器集中 …… 69
3. 礫集中 …… 73
第３節　包含層出土遺物 …… 77
1. 土器 …… 77
2. 剥片石器 …… 83
3. 礫石器 …… 83

第Ⅳ章　縄文時代の調査

第１節　住居跡 …… 95
第２節　土坑 …… 96
第３節　灰集中・焼土 …… 100
第４節　集中出土遺物 …… 111
1. 土器集中 …… 111
2. 礫集中 …… 112
3. フレイク・チップ集中 …… 115
第５節　包含層出土遺物 …… 119
1. 土器・土製品 …… 119
2. 剥片石器 …… 139
3. 礫石器・石製品 …… 148

第Ⅴ章　自然科学的分析

第１節　厚真町幌内８遺跡の動物 …… 180
第２節　厚真町幌内８遺跡から出土した炭化種子 …… 189
引用・参考文献 …… 196
報告書抄録 …… 264
奥　付

写真図版

図版 …… 201

挿 図 目 次

Ⅰ章

図Ⅰ-1　グリッド設定関係杭位置図 …… 5
図Ⅰ-2　調査区範囲及び土層観察位置図 …… 7
図Ⅰ-3　グリッド区分図 …… 7
図Ⅰ-4　厚真町内遺跡分布図 …… 15
図Ⅰ-5　幌内８遺跡周辺地形図 …… 22
図Ⅰ-6　基本土層柱状図 …… 24
図Ⅰ-7　南東-北西（５ライン）セクション …… 25
図Ⅰ-8　北東-南西（Ｓライン）セクション …… 26

Ⅱ章

図Ⅱ-1　アイヌ文化期遺構配置図 …… 28
図Ⅱ-2　ⅢF-01･04･05 平面及び断面図 …… 30
図Ⅱ-3　ⅢBB-01 周辺遺構分布図 …… 31
図Ⅱ-4　ⅢFB･ⅢKP 平面及び断面図 …… 34
図Ⅱ-5　ⅢBB-01.A･B･ⅢSB-01 平面図 …… 36
図Ⅱ-6　ⅢBB-01.C･ⅢBB-11 平面図 …… 37
図Ⅱ-7　ⅢSB-01～04 平面及び垂直分布図 …… 40
図Ⅱ-8　ⅢSB-05～07 平面及び垂直分布図 …… 41
図Ⅱ-9　ⅢSB-08･09 平面及び垂直分布図 …… 42
図Ⅱ-10　アイヌ文化期遺構出土遺物及び
ⅢSB 出土礫(1) …… 44
図Ⅱ-11　アイヌ文化期ⅢSB 出土礫(2) …… 45
図Ⅱ-12　アイヌ文化期ⅢSB 出土礫(3)
及び包含層出土遺物 …… 46

Ⅲ章

図Ⅲ-1　縄文文化期遺構配置図 …… 59
図Ⅲ-2　ⅢF-02･03･06･ⅢBB-10 平面及び断面図 …… 62
図Ⅲ-3　ⅢF-07･08･ⅢPB-01 平面及び断面図 …… 63
図Ⅲ-4　ⅢBB-02～07･ⅢPB-05 平面及び断面図 …… 66
図Ⅲ-5　ⅢBB-08･09 平面及び断面図 …… 67
図Ⅲ-6　ⅢF･ⅢBB･ⅢPB 出土遺物 …… 68
図Ⅲ-7　ⅢPB-02･03 平面及び垂直分布図 …… 71
図Ⅲ-8　ⅢPB-04･05･07 平面及び垂直分布図 …… 72
図Ⅲ-9　ⅢPB-02～05 土器接合線図 …… 73
図Ⅲ-10　ⅢPB-02･03 出土遺物 …… 74
図Ⅲ-11　ⅢPB-04･05 出土遺物 …… 75
図Ⅲ-12　ⅢPB-06･ⅢSB-10･ⅢF-09
平面及び断面・垂直分布図 …… 78
図Ⅲ-13　ⅢPB-06･ⅢSB-10 出土遺物(1) …… 79
図Ⅲ-14　ⅢSB-10 出土遺物(2) …… 80
図Ⅲ-15　縄縄文文化期包含層出土土器・土製品 …… 81
図Ⅲ-16　縄縄文文化期包含層土器接合線図 …… 82
図Ⅲ-17　縄縄文文化期包含層出土剥片石器
及び礫石器(1) …… 84
図Ⅲ-18　縄縄文文化期包含層出土礫石器(2) …… 85
図Ⅲ-19　縄縄文文化期包含層出土礫石器(3) …… 86

Ⅳ章

図Ⅳ-1　縄文時代遺構配置図 …… 94
図Ⅳ-2　VH-01 平面及び断面図 …… 96
図Ⅳ-3　VP-01～05 平面及び断面図 …… 99
図Ⅳ-4　VP-06～09 平面及び断面図 …… 100
図Ⅳ-5　VH-01･VP-01 出土遺物 …… 101
図Ⅳ-6　VP-03･04･07･VF-40 出土遺物 …… 102
図Ⅳ-7　VAS-01･VF-01～09 平面及び断面図 …… 107
図Ⅳ-8　VF-10～21 平面及び断面図 …… 108
図Ⅳ-9　VF-22～32 平面及び断面図 …… 109
図Ⅳ-10　VF-33～36･38～44
平面及び断面図 …… 110
図Ⅳ-11　VPB-01～04 平面及び
垂直分布図･VFCB-01 平面図 …… 113
図Ⅳ-12　VSB-01 平面及び垂直分布図 …… 115
図Ⅳ-13　VPB-01･04･VSB-01 出土遺物(1) …… 116
図Ⅳ-14　VSB-01 出土遺物(2) …… 117
図Ⅳ-15　VSB-01 出土遺物(3) …… 118
図Ⅳ-16　縄文時代包含層出土土器(1) …… 126
図Ⅳ-17　縄文時代包含層出土土器(2) …… 127
図Ⅳ-18　縄文時代包含層出土土器(3) …… 128
図Ⅳ-19　縄文時代包含層出土土器(4) …… 129
図Ⅳ-20　縄文時代包含層出土土器(5) …… 130
図Ⅳ-21　縄文時代包含層出土土器(6) …… 131
図Ⅳ-22　縄文時代包含層出土土器(7) …… 132

図Ⅳ-23　縄文時代包含層出土土器(8) ･････････ 133
図Ⅳ-24　縄文時代包含層出土土器(9) ･････････ 134
図Ⅳ-25　縄文時代包含層出土土器(10) ･････････ 135
図Ⅳ-26　縄文時代包含層出土土器(11)
及び土製品 ･･ 136
図Ⅳ-27　縄文時代包含層土器
接合線図(Ⅰ･Ⅱ･Ⅳ･Ⅴ群) ･ 137
図Ⅳ-28　縄文時代包含層土器
接合線図(Ⅲ群) ･････････ 138
図Ⅳ-29　縄文時代包含層出土剥片石器(1) ････ 144
図Ⅳ-30　縄文時代包含層出土剥片石器(2) ････ 145
図Ⅳ-31　縄文時代包含層出土剥片石器(3) ････ 146
図Ⅳ-32　縄文時代包含層出土剥片石器(4) ････ 147
図Ⅳ-33　縄文時代包含層出土礫石器(1) ･････････ 151
図Ⅳ-34　縄文時代包含層出土礫石器(2) ･････････ 152
図Ⅳ-35　縄文時代包含層出土礫石器(3) ･････････ 153
図Ⅳ-36　縄文時代包含層出土礫石器(4) ･････････ 154
図Ⅳ-37　縄文時代包含層出土礫石器(5) ･････････ 155
図Ⅳ-38　縄文時代包含層出土礫石器(6) ･････････ 156
図Ⅳ-39　縄文時代包含層出土礫石器(7)
･石製品･････ 157

挿 表 目 次

Ⅰ章

表Ⅰ-1　グリッド設定関係杭数値一覧表 ･････････ 5
表Ⅰ-2　幌内８遺跡概要一覧表 ･････････････････ 12
表Ⅰ-3　幌内８遺跡出土遺物一覧表 ･････････････ 12
表Ⅰ-4　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1) ･･･ 16
表Ⅰ-5　厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2) ･･･ 17

Ⅱ章

表Ⅱ-1　アイヌ文化期遺構群一覧表 ･････････････ 27
表Ⅱ-2　アイヌ文化期関連遺構一覧表 ･････････････ 29
表Ⅱ-3　アイヌ文化期ⅢF･ⅢFB 属性表 ･････････ 47
表Ⅱ-4　アイヌ文化期ⅢBB･ⅢSHB 属性表 ･･････････ 47
表Ⅱ-5　アイヌ文化期ⅢKP 属性表 ･････････････ 47
表Ⅱ-6　アイヌ文化期ⅢSB 属性表･････････････････ 48
表Ⅱ-7　アイヌ文化期遺構出土遺物属性表 ･･････････ 48
表Ⅱ-8　ⅢSB 出土礫属性表(1) ･････････････････ 49
表Ⅱ-9　ⅢSB 出土礫属性表(2) ･････････････････ 50
表Ⅱ-10　ⅢSB 出土礫属性表(3) ･････････････････ 51
表Ⅱ-11　ⅢSB 出土礫属性表(4) ･････････････････ 52
表Ⅱ-12　ⅢSB 出土礫属性表(5) ･････････････････ 53
表Ⅱ-13　ⅢSB 出土礫属性表(6) ･････････････････ 54
表Ⅱ-14　ⅢSB 出土礫属性表(7) ･････････････････ 55
表Ⅱ-15　ⅢSB 出土礫属性表(8) ･････････････････ 56
表Ⅱ-16　ⅢSB 出土礫属性表(9) ･････････････････ 57
表Ⅱ-17　アイヌ文化期包含層出土遺物属性表 ････ 57

Ⅲ章

表Ⅲ-1　縄縄文文化期遺構群一覧表 ･････････････ 58
表Ⅲ-2　縄縄文文化期関連遺構一覧表･････････････ 58
表Ⅲ-3　縄縄文文化期ⅢF 属性表 ･････････････････ 87
表Ⅲ-4　縄縄文文化期ⅢBB 属性表 ･････････････････ 87
表Ⅲ-5　縄縄文文化期ⅢPB･ⅢSB 属性表 ･･････････ 87
表Ⅲ-6　縄縄文文化期遺構出土土器属性表(1) ･･･ 88
表Ⅲ-7　縄縄文文化期遺構出土土器属性表(2) ･･･ 89
表Ⅲ-8　縄縄文文化期遺構出土遺物属性表･･････ 90
表Ⅲ-9　縄縄文文化期包含層出土土器
･土製品属性表･･････････････････････ 91
表Ⅲ-10　縄縄文文化期包含層出土
剥片石器属性表 ････ 92
表Ⅲ-11　縄縄文文化期包含層出土礫石器属性表 ･･ 92

Ⅳ章

表Ⅳ-1　縄文時代遺構群一覧表･････････････････ 93
表Ⅳ-2　VH 属性表･･････････････････････････ 158
表Ⅳ-3　VH 付属炉属性表･･････････････････････ 158
表Ⅳ-4　VH-01 柱穴属性表･････････････････････ 158
表Ⅳ-5　VP 属性表･･････････････････････････ 158
表Ⅳ-6　VAS･VF 属性表･･････････････････････ 159
表Ⅳ-7　VPB･VSB･VFCB 属性表･･････････････････ 159
表Ⅳ-8　縄文時代遺構出土土器属性表(1) ･･････ 160
表Ⅳ-9　縄文時代遺構出土土器属性表(2) ･･････ 161
表Ⅳ-10　縄文時代遺構出土石器属性表･････････ 162

表Ⅳ-11　縄文時代遺構・包含層出土土製品属性表 …… 162
表Ⅳ-12　縄文時代包含層出土土器属性表(1) …… 163
表Ⅳ-13　縄文時代包含層出土土器属性表(2) …… 164
表Ⅳ-14　縄文時代包含層出土土器属性表(3) …… 165
表Ⅳ-15　縄文時代包含層出土土器属性表(4) …… 166
表Ⅳ-16　縄文時代包含層出土土器属性表(5) …… 167
表Ⅳ-17　縄文時代包含層出土土器属性表(6) …… 168
表Ⅳ-18　縄文時代包含層出土土器属性表(7) …… 169
表Ⅳ-19　縄文時代包含層出土土器属性表(8) …… 170
表Ⅳ-20　縄文時代包含層出土土器属性表(9) …… 171
表Ⅳ-21　縄文時代包含層出土土器属性表(10) …… 172
表Ⅳ-22　縄文時代包含層出土土器属性表(11) …… 173
表Ⅳ-23　縄文時代包含層出土土器属性表(12) …… 174
表Ⅳ-24　縄文時代包含層出土土器属性表(13) …… 175
表Ⅳ-25　縄文時代包含層出土土器属性表(14) …… 176
表Ⅳ-26　縄文時代包含層出土土器属性表(15) …… 177
表Ⅳ-27　縄文時代包含層出土剥片石器属性表(1) …… 177
表Ⅳ-28　縄文時代包含層出土剥片石器属性表(2) …… 178
表Ⅳ-29　縄文時代包含層出土礫石器属性表 …… 179

写真図版目次

図版1-1　調査区全景(Ⅲ層調査前) …… 201
図版1-2　調査区全景(Ⅴ層調査終了) …… 201
図版2-1　S-3区　北東側斜面断面1 …… 202
図版2-2　S-3区　北東側斜面断面2 …… 202
図版2-3　S-6区　Ⅲ層調査区断面 …… 202
図版2-4　S-6区　Ⅴ層調査区断面 …… 202
図版3-1　T-5区　Ⅲ層調査区断面 …… 203
図版3-2　T-5区　Ⅴ層調査区断面 …… 203
図版3-3　U-5区　Ⅲ層調査区断面 …… 203
図版3-4　U-5区　Ⅴ層調査区断面 …… 203
図版4-1　旧石器調査終了 …… 204
図版4-2　旧石器トレンチ断面1 …… 204
図版4-3　旧石器トレンチ断面2 …… 204
図版4-4　旧石器トレンチ断面3 …… 204
図版4-5　調査区南西壁面Ⅷ～Ⅹ層断面 …… 204
図版4-6　旧石器トレンチ断面3拡大 …… 204
図版4-7　調査区南西壁面Ⅸ・Ⅹ層断面拡大 …… 204
図版5-1　ⅢF-01検出 …… 205
図版5-2　ⅢF-01断面 …… 205
図版5-3　ⅢF-04検出 …… 205
図版5-4　ⅢF-04断面 …… 205
図版5-5　ⅢF-04地山被熱層検出 …… 205
図版5-6　ⅢF-05検出 …… 205
図版5-7　ⅢF-05断面 …… 205
図版5-8　ⅢFB-01.A検出 …… 205
図版6-1　ⅢFB-01.A断面 …… 206
図版6-2　ⅢFB-02検出 …… 206
図版6-3　ⅢFB-02.A・C断面 …… 206
図版6-4　ⅢBB-01・ⅢSB-01・ⅢFB分布状態 …… 206
図版6-5　ⅢBB-01.A検出1 …… 206
図版6-6　ⅢBB-01.A検出2 …… 206
図版6-7　ⅢBB-01.B検出 …… 206
図版7-1　ⅢBB-01.C検出1 …… 207
図版7-2　ⅢBB-01.C検出2 …… 207
図版7-3　ⅢBB-11検出 …… 207
図版7-4　ⅢKP-01・02完掘 …… 207
図版7-5　ⅢKP-01・02・ⅢFB-04断面 …… 207
図版7-6　ⅢKP-03完掘 …… 207
図版7-7　ⅢKP-03断面 …… 207
図版7-8　ⅢKP-04完掘 …… 207
図版7-9　ⅢKP-04断面 …… 207
図版7-10　ⅢKP-05完掘 …… 207
図版7-11　ⅢKP-05断面 …… 207
図版8-1　ⅢKP-06完掘 …… 208
図版8-2　ⅢKP-06断面 …… 208
図版8-3　ⅢKP-07完掘 …… 208
図版8-4　ⅢKP-07断面 …… 208
図版8-5　ⅢKP-08完掘 …… 208

図版 8-6　ⅢKP-08 断面 …… 208
図版 8-7　ⅢKP-09 完掘 …… 208
図版 8-8　ⅢKP-09 断面 …… 208
図版 8-9　ⅢKP-10 完掘 …… 208
図版 8-10　ⅢKP-10 断面 …… 208
図版 8-11　ⅢKP-11 完掘 …… 208
図版 8-12　ⅢKP-11 断面 …… 208
図版 8-13　ⅢKP-12 完掘 …… 208
図版 8-14　ⅢKP-12 断面 …… 208
図版 8-15　ⅢKP-13 完掘 …… 208
図版 8-16　ⅢKP-13 断面 …… 208
図版 9-1　ⅢKP-14 完掘 …… 209
図版 9-2　ⅢKP-14 断面 …… 209
図版 9-3　ⅢKP-15 完掘 …… 209
図版 9-4　ⅢKP-15 断面 …… 209
図版 9-5　ⅢKP-16 完掘 …… 209
図版 9-6　ⅢKP-16 断面 …… 209
図版 9-7　ⅢKP-17 完掘 …… 209
図版 9-8　ⅢKP-17 断面 …… 209
図版 9-9　ⅢKP-18 完掘 …… 209
図版 9-10　ⅢKP-18 断面 …… 209
図版 9-11　ⅢKP-19 完掘 …… 209
図版 9-12　ⅢKP-19 断面 …… 209
図版 9-13　ⅢKP-20 完掘 …… 209
図版 9-14　ⅢKP-20 断面 …… 209
図版 9-15　ⅢKP-21 完掘 …… 209
図版 9-16　ⅢKP-21 断面 …… 209
図版 10-1　ⅢKP-22 完掘 …… 210
図版 10-2　ⅢKP-22 断面 …… 210
図版 10-3　ⅢKP-23 完掘 …… 210
図版 10-4　ⅢKP-23 断面 …… 210
図版 10-5　ⅢKP-24 完掘 …… 210
図版 10-6　ⅢKP-24 断面 …… 210
図版 10-7　ⅢKP-25 完掘 …… 210
図版 10-8　ⅢKP-25 断面 …… 210
図版 10-9　ⅢKP-26 完掘 …… 210
図版 10-10　ⅢKP-26 断面 …… 210
図版 10-11　R-6 区付近ⅢKP 分布状態 …… 210
図版 10-12　ⅢSB-01 検出 …… 210
図版 10-13　ⅢSB-02 検出 …… 210
図版 11-1　ⅢSB-03 検出 …… 211
図版 11-2　ⅢSB-04 検出 …… 211
図版 11-3　ⅢSB-05 検出 …… 211
図版 11-4　ⅢSB-06 検出 …… 211
図版 11-5　ⅢSB-07 検出 …… 211
図版 11-6　ⅢSB-08 検出 …… 211
図版 11-7　ⅢSB-09 検出 …… 211
図版 11-8　ⅢSHB-01 検出 …… 211
図版 12-1　ⅢF-02 検出 …… 212
図版 12-2　ⅢF-02 断面 …… 212
図版 12-3　ⅢF-03 検出 …… 212
図版 12-4　ⅢF-03 断面 …… 212
図版 12-5　ⅢF-06 検出 …… 212
図版 12-6　ⅢF-06 断面 …… 212
図版 12-7　ⅢF-07・ⅢPB-01 検出 …… 212
図版 12-8　ⅢF-07 断面 …… 212
図版 13-1　ⅢF-08 検出 …… 213
図版 13-2　ⅢF-08 断面 …… 213
図版 13-3　ⅢPB-01 検出 …… 213
図版 13-4　ⅢPB-02 検出 …… 213
図版 13-5　ⅢPB-03 検出 …… 213
図版 13-6　ⅢPB-04 検出 …… 213
図版 13-7　ⅢPB-05・ⅢBB-06 検出 …… 213
図版 13-8　ⅢPB-06 検出 …… 213
図版 14-1　ⅢPB-07 検出 …… 214
図版 14-2　ⅢSB-10 検出 1 …… 214
図版 14-3　ⅢSB-10 検出 2 …… 214
図版 14-4　ⅢSB-10 断面 …… 214
図版 14-5　ⅢF-09 被熱層検出 …… 214
図版 14-6　ⅢF-09 断面 …… 214
図版 14-7　ⅢF-09 完掘 …… 214
図版 14-8　ⅢSB-10 調査状況 …… 214
図版 15-1　ⅢBB-02 検出 …… 215
図版 15-2　ⅢBB-03・04 検出 …… 215
図版 15-3　ⅢBB-05 検出 …… 215
図版 15-4　ⅢBB-07 検出 …… 215

図版 15-5　ⅢBB-08 検出 …… 215
図版 15-6　ⅢBB-09 検出 …… 215
図版 15-7　ⅢBB-09 断面 …… 215
図版 15-8　ⅢBB-10 検出 …… 215
図版 16-1　VH-01 完掘 1 …… 216
図版 16-2　VH-01 完掘 2 …… 216
図版 16-3　VH-01.HF01 検出 …… 216
図版 16-4　VH-01.HF01 完掘 …… 216
図版 16-5　VH-01.HF01 断面 …… 216
図版 16-6　VH-01.HP01 完掘 …… 216
図版 16-7　VH-01.HP01 断面 …… 216
図版 16-8　VH-01.HP02 完掘 …… 216
図版 16-9　VH-01.HP02 断面 …… 216
図版 16-10　VH-01.HP03 完掘 …… 216
図版 16-11　VH-01.HP03 断面 …… 216
図版 17-1　VH-01.HP04 完掘 …… 217
図版 17-2　VH-01.HP04 断面 …… 217
図版 17-3　VH-01.HP05 完掘 …… 217
図版 17-4　VH-01.HP05 断面 …… 217
図版 17-5　VH-01.HP06 完掘 …… 217
図版 17-6　VH-01.HP06 断面 …… 217
図版 17-7　VH-01.HP07 完掘 …… 217
図版 17-8　VH-01.HP07 断面 …… 217
図版 17-9　VP-01 完掘 …… 217
図版 17-10　VP-01 A-B ライン断面 …… 217
図版 17-11　VP-01 C-D ライン断面 …… 217
図版 17-12　VP-01 遺物出土状態 …… 217
図版 18-1　VP-02 検出 …… 218
図版 18-2　VP-02 完掘 …… 218
図版 18-3　VP-02 断面 …… 218
図版 18-4　VP-03 完掘 …… 218
図版 18-5　VP-03 断面 …… 218
図版 18-6　VP-03 遺物出土状態 …… 218
図版 18-7　VP-04 完掘 …… 218
図版 18-8　VP-04 断面 …… 218
図版 19-1　VP-05 完掘 …… 219
図版 19-2　VP-05 断面 …… 219
図版 19-3　VP-06 完掘 …… 219
図版 19-4　VP-06 断面 …… 219
図版 19-5　VP-07 完掘 …… 219
図版 19-6　VP-07 断面 …… 219
図版 19-7　VP-08 完掘 …… 219
図版 19-8　VP-08 断面 …… 219
図版 20-1　VP-09 完掘 …… 220
図版 20-2　VP-09 断面 …… 220
図版 20-3　VAS-01 検出 …… 220
図版 20-4　VAS-01 断面 1 …… 220
図版 20-5　VAS-01 断面 2 …… 220
図版 20-6　VAS-01 灰層除去後 …… 220
図版 20-7　VF-01 検出 …… 220
図版 20-8　VF-01 断面 …… 220
図版 21-1　VF-02 検出 …… 221
図版 21-2　VF-02 断面 …… 221
図版 21-3　VF-03 検出 …… 221
図版 21-4　VF-03 断面 …… 221
図版 21-5　VF-04 検出 …… 221
図版 21-6　VF-04 断面 …… 221
図版 21-7　VF-05 検出 …… 221
図版 21-8　VF-05 断面 …… 221
図版 22-1　VF-06 検出 …… 222
図版 22-2　VF-06 断面 …… 222
図版 22-3　VF-07 検出 …… 222
図版 22-4　VF-07 断面 …… 222
図版 22-5　VF-08 検出 …… 222
図版 22-6　VF-08 断面 …… 222
図版 22-7　VF-09 検出 …… 222
図版 22-8　VF-09 断面 …… 222
図版 23-1　VF-10 検出 …… 223
図版 23-2　VF-10 断面 …… 223
図版 23-3　VF-11 検出 …… 223
図版 23-4　VF-11 断面 …… 223
図版 23-5　VF-12 検出 …… 223
図版 23-6　VF-12 断面 …… 223
図版 23-7　VF-13 検出 …… 223
図版 23-8　VF-13 断面 …… 223
図版 24-1　VF-14 検出 …… 224

図版 24-2　VF-14 断面 …… 224
図版 24-3　VF-15 検出 …… 224
図版 24-4　VF-15 断面 …… 224
図版 24-5　VF-16 検出 …… 224
図版 24-6　VF-16 断面 …… 224
図版 24-7　VF-17 検出 …… 224
図版 24-8　VF-17 断面 …… 224
図版 25-1　VF-18 検出 …… 225
図版 25-2　VF-18 断面 …… 225
図版 25-3　VF-19 検出 …… 225
図版 25-4　VF-19 断面 …… 225
図版 25-5　VF-20 検出 …… 225
図版 25-6　VF-20 断面 …… 225
図版 25-7　VF-21 検出 …… 225
図版 25-8　VF-21 断面 …… 225
図版 26-1　VF-22 検出 …… 226
図版 26-2　VF-22 断面 …… 226
図版 26-3　VF-23 検出 …… 226
図版 26-4　VF-23 断面 …… 226
図版 26-5　VF-24 検出 …… 226
図版 26-6　VF-24 断面 …… 226
図版 26-7　VF-25 検出 …… 226
図版 26-8　VF-25 断面 …… 226
図版 27-1　VF-26 検出 …… 227
図版 27-2　VF-26 断面 …… 227
図版 27-3　VF-27 検出 …… 227
図版 27-4　VF-27 断面 …… 227
図版 27-5　VF-28 検出 …… 227
図版 27-6　VF-28 断面 …… 227
図版 27-7　VF-29 検出 …… 227
図版 27-8　VF-29 断面 …… 227
図版 28-1　VF-30 検出 …… 228
図版 28-2　VF-30 断面 …… 228
図版 28-3　VF-31 検出 …… 228
図版 28-4　VF-31 断面 …… 228
図版 28-5　VF-32 検出 …… 228
図版 28-6　VF-32 断面 …… 228
図版 28-7　VF-33 検出 …… 228
図版 28-8　VF-33 断面 …… 228
図版 29-1　VF-34 検出 …… 229
図版 29-2　VF-34 断面 …… 229
図版 29-3　VF-35 検出 …… 229
図版 29-4　VF-35 断面 …… 229
図版 29-5　VF-36 検出 …… 229
図版 29-6　VF-36 断面 …… 229
図版 29-7　VF-38 検出 …… 229
図版 29-8　VF-38 断面 …… 229
図版 30-1　VF-39 検出 …… 230
図版 30-2　VF-39 断面 …… 230
図版 30-3　VF-40 検出 …… 230
図版 30-4　VF-40 断面 …… 230
図版 30-5　VF-41 検出 …… 230
図版 30-6　VF-41 断面 …… 230
図版 30-7　VF-42 検出 …… 230
図版 30-8　VF-42 断面 …… 230
図版 31-1　VF-43 検出 …… 231
図版 31-2　VF-43 断面 …… 231
図版 31-3　VF-44 検出 …… 231
図版 31-4　VF-44 断面 …… 231
図版 31-5　VPB-01 検出 …… 231
図版 31-6　VPB-02 検出 …… 231
図版 31-7　VPB-03 検出 …… 231
図版 31-8　VPB-04 検出 …… 231
図版 32-1　VSB-01 検出 1 …… 232
図版 32-2　VSB-01 検出 2 …… 232
図版 32-3　VFCB-01 検出 …… 232
図版 32-4　調査状況 1 …… 232
図版 32-5　調査状況 2 …… 232
図版 32-6　調査状況 3 …… 232
図版 32-7　調査状況 4 …… 232
図版 32-8　調査状況 5 …… 232
図版 33-1　アイヌ文化期遺構出土遺物 …… 233
図版 33-2　ⅢSB 出土礫(1) …… 233
図版 34-1　ⅢSB 出土礫(2) …… 234
図版 34-2　アイヌ文化期包含層出土遺物 …… 234
図版 35　ⅢF・ⅢBB・ⅢPB 出土遺物 …… 235

図版 36　ⅢPB-02・03 出土遺物 …… 236
図版 37　ⅢPB-04～06 出土遺物 …… 237
図版 38　ⅢSB-10 出土遺物 …… 238
図版 39　続縄文文化期包含層
出土土器・土製品…… 239
図版 40　続縄文文化期包含層出土剥片石器
及び礫石器(1)…… 240
図版 41　続縄文文化期包含層出土礫石器(2) · 241
図版 42　VH-01・VP-01 出土遺物 …… 242
図版 43　VP・VF・VPB 出土遺物 …… 243
図版 44　VSB-01 出土遺物 …… 244
図版 45　VSB-01 出土礫石器 …… 245
図版 46　縄文時代 包含層出土土器(1) …… 246
図版 47　縄文時代 包含層出土土器(2) …… 247
図版 48　縄文時代 包含層出土土器(3) …… 248
図版 49　縄文時代 包含層出土土器(4) …… 249
図版 50　縄文時代 包含層出土土器(5) …… 250
図版 51　縄文時代 包含層出土土器(6)…… 251
図版 52　縄文時代 包含層出土土器(7)…… 252
図版 53　縄文時代 包含層出土土器(8)…… 253
図版 54　縄文時代 包含層出土土器(9)…… 254
図版 55　縄文時代 包含層出土土器(10)…… 255
図版 56　縄文時代 包含層出土土器(11)
及び土製品 …… 256
図版 57　縄文時代 包含層出土剥片石器(1)‥ 257
図版 58　縄文時代 包含層出土剥片石器(2)‥ 258
図版 59　縄文時代 包含層出土剥片石器(3)‥ 259
図版 60　縄文時代 包含層出土剥片石器(4)‥ 260
図版 61　縄文時代 包含層出土礫石器(1)‥‥ 261
図版 62　縄文時代 包含層出土礫石器(2)‥‥ 262
図版 63　縄文時代 包含層出土
礫石器(3)・石製品 ‥‥ 263

例　言

1. 本書は、平成 30 年･令和元年度に行った経営体育成基盤整備事業に伴い発掘調査された幌内８遺跡（登載番号：J-13-136）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、北海道胆振総合振興局の委託を厚真町教育委員会が受託した。
3. 調査・整理（分担）は以下の体制で行った。

　調査担当者：奈良智法･乾　哲也

　調査補助員：宮崎美奈子　事務員：吉岡美佐子

　測量技能作業員：石山　容　整備技能作業員：畑島雄樹　写図工：石山　容

　発掘作業員：11 名（H30）･6 名（R１）整理作業員１名（H30）･9 名（R１）

　　奈良：Ⅲ･Ⅴ層遺構図・写真図版・各種一覧表

　　乾　：Ⅲ･Ⅴ層出土遺物分類・実測指導・フローテーション試料選別・各種調整業務

　　宮崎：Ⅲ･Ⅴ層剥片石器・礫石器実測指導

4. 本書の編集は乾の協力を得て奈良が行い、各節の執筆は文末に記す。
5. 関連諸科学の同定分析については、以下の機関および個人に依頼した。

・動物遺存体同定：札幌大学非常勤講師　高橋　理

・炭化種子同定：北海道大学大学院文学研究院　高瀬克範

6. 出土遺物の写真撮影を有限会社 写真事務所クリーク　佐藤 雅彦に委託。
7. 剥片石器 3D デジタル写真図化、復元土器実測の一部を株式会社トラスト技研に委託。
8. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会軽舞遺跡調査整理事務所で保管している。
9. 調査･報告にあたって下記の機関および個人より御指導御協力を頂き、記して感謝申し上げます。

北海道教育庁生涯学習推進局文化財･博物館課、胆振総合振興局農村振興課、胆振総合振興局室蘭建設管理部苫小牧出張所、公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター、千歳市埋蔵文化財センター、苫小牧市美術博物館、苫小牧市勇払資料館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、恵庭市教育委員会、厚真アイヌ協会、苫小牧アイヌ協会、厚真町幌内自治会、(株)佐藤組、最終間氷期勉強会

赤井文人、赤石慎三、天方博章、岩橋由久、内田和典、大沼忠春、大原 博、岡 孝雄、岡本香菜、荻野幸男、長田佳宏、尾谷純司、笠原 興、木戸忠勝、工藤研治、工藤敏克、久保田正寿、越田賢一郎、佐藤一夫、鈴木将太、高橋宥悦、田口 尚、田才雅彦、田近 淳、中田裕香、長沼 孝、長町章弘、西脇対名夫、藤原秀樹、松井 昭、蓑島栄紀、宮塚義人、宗像公司、村井政雄、村田 大、村本周三、森岡健治、藪中剛司

凡　例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号等を用いた。なお、層位がこれらの略号に付加している。

〔遺構〕　住居：H　住居跡に付属する柱穴：HP　住居跡に付属する炉跡：HF　土坑：P　灰集中：AS

　　焼土：F　焼土ブロック：FB　柱穴：KP

〔遺物〕　土器：P（縄文土器：ZP　縄文土器：JP）　土製品：PP　剥片石器：FT　礫石器：ST　礫：S

　　ﾌﾚｲｸ・ﾁｯﾌﾟ：FC（黒曜石・頁岩製）　ﾌﾚｲｸ・ﾁｯﾌﾟ：SFC（緑色泥岩・片岩製）　石製品：SP　骨：B

　　貝：SH　金属製品：IP　漆製品：JP

〔遺物等集中〕土器片集中：PB　礫集中：SB　ﾌﾚｲｸ・ﾁｯﾌﾟ集中：FCB　獣骨集中：BB

〔計測値〕本文・一覧表中の計測値に（　）を付記したものは現存値を記載。

2. 地層等について下記の略号を用いた。

〔堆積土〕樽前b降下軽石：Ta-b　白頭山-苫小牧火山灰：B-Tm

樽前c砂質降下軽石：Ta-c

樽前d1細礫質降下スコリア：Ta-d1　樽前d2中礫質降下軽石：Ta-d2

恵庭岳a降下軽石：En-a　黄褐色粘土質シルト（いわゆるローム）：L

〔色調〕　小山・竹原編著（1994）『新版 標準土色帳』に従った。

〔注記〕　土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また、混入土については（　）内に粒径（単位：mm）、状態を記載した。

混入土の比率

A ＋ B：AとBが同量比混じる　　A−B：Aを主体にBが多量に混じる

A ＝ B：Aを主体にBが少量　　A≡B：Aを主体にBが微量

φ：粒径（単位・mm）　　↓：以下　　（状態）：斑状に混じる・均一に混じる

〔層位〕　標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や倒木撹乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また、本文・一覧表等には下記の略号を用いている。

U：上位　　M：中位　　L：下位

〔焼土・獣骨集中〕　被熱による土壌赤色化の度合い等の表現に以下のトーンを用いた。

3. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中スケールに縮尺を明記している。

基本土層：1/40　遺構周辺図：1/40　住居跡1/40・1/20　土坑1/40　灰集中・焼土1/20

集中遺物：1/10・1/20・1/40　土器・土製品実測図：1/3　土器拓影図：1/3

剥片石器：2/3　礫石器実測図：1/3・1/4・1/5　金属製品1/1・1/2　礫：1/4

4. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いている。

〔線種〕　-·-·-·-·-：推定線　　-··-··-··-：撹乱　　————：倒木痕

5. 土器・石器の挿図および写真図版の番号に後続する枝番号は同一個体表記である。

6. 遺物実測図中に以下の略号を用いている。

〔断面〕　∨————∨：たたき痕　　|————|：剥片石器 磨滅範囲 ／ 礫石器 擦り痕・滑沢面

〔平面〕　：滑沢面範囲/弱い被熱範囲　　：付着物範囲/強い被熱範囲

7. 一覧表中の石材については乾・宮崎が肉眼観察で分類した。

頁岩・泥岩・砂岩の分類については、粒度による基準ではなく、肉眼観察によるものである。

石材以外を含めた材質について下記に記す。

Aga.：メノウ　Aga-Sh.：メノウ質頁岩　Bl-Sch.：青色片岩　Bs.：玄武岩　Cha.：チャート　Con.：礫岩

Gr-Mud.：緑色泥岩　Mud.：泥岩　Obs.：黒曜石　Qua.：珪岩　Sa.：砂岩　Ser：蛇紋岩　Sh.：頁岩

Tu.：凝灰岩　Cray.：粘土　Irn.：鉄

第Ⅰ章 調査の概要

第１節 調査要項と体制

1. 調査要項

事 業 名：経営体育成基盤整備事業 １区上流地区 埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：北海道胆振総合振興局
受 託 者：厚真町教育委員会
遺 跡 名：幌内８遺跡（Ｊ－13－136）
所 在 地：勇払郡厚真町字幌内 564
調査面積：平成 30 年度　1,023 ㎡　令和元年度　528 ㎡（前年度調査着手範囲内の残存部分）
受託期間：平成 30 年 5 月 11 日 ～ 平成 31 年 3 月 20 日
　　令和元年 5 月 11 日 ～ 令和 2 年 3 月 25 日
調査期間：（発掘）平成 30 年 6 月 1 日 ～ 平成 30 年 11 月 16 日
　　※うち休止期間：平成 30 年 9 月 6 日～10 月 3 日
　　（整理）平成 30 年 11 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 18 日
　　（発掘）令和元年 5 月 15 日 ～ 令和元年 5 月 31 日
　　（整理）令和元年 6 月 1 日 ～ 令和 2 年 2 月 28 日

2. 調査体制

平成 30 年度

厚真町教育委員会　教育長　遠藤 秀明
　　生涯学習課　参　事　宮下 桂
　　主　幹　乾 哲也（調査担当者）
　　主　査　奈良智法（調査担当者）
　　嘱託職員　宮崎美奈子（調査補助員）
　　臨時職員　吉岡美佐子（事務員）
　　臨時職員　石山 容（測量技能作業員）
　　畑嶋雄樹（整備技能作業員）ほか発掘作業員 11 名
　　・整理作業員 1 名

令和元年度

厚真町教育委員会　教育長　遠藤 秀明
　　生涯学習課　参　事　宮下 桂（令和 2 年 1 月より課長職）
　　主　幹　乾 哲也（調査担当者）
　　主　査　奈良智法（調査担当者）
　　嘱託職員　宮崎美奈子（調査補助員）
　　臨時職員　吉岡美佐子（事務員）
　　臨時職員　石山 容（測量技能作業員・写図工）畑嶋雄樹（整備技能作業員）
　　発掘作業員 6 名・整理作業員 9 名　（乾）

第２節　調査に至る経緯

１．発掘調査に至る経緯

厚真町は明治３年（1870 年）に最初の和人定住者、青木与八が厚真川河口部に入植して以来、明治 24 年頃から農業開拓者の移住が進んできた。明治 25 年（1892 年）に豊丘地区において小坂伊次郎が稲作農耕を始めて以来、冷水害などの自然災害との苦闘の末に現在の農業の町厚真町がある。現在、厚真町内を縦貫する厚真川中下流域には作付面積 1,588ha の水田地帯、畑作等の作付面積 1,628ha の胆振日高管内随一の穀倉地帯が広がっている（2015 年統計）。これに至るまでには、厚真川河川改修や客土事業等、様々な土地改良基盤整備を行われ、昭和 34 年（1959 年）からは厚真川上流域における農業用ダムである厚真ダム建設工事が着工され、昭和 45 年（1970 年）に完成し、農業の近代化が進んだ。しかし、その後も洪水や農業用水の不足などによる凶作が幾度と無く発生し、また近年の国際社会における農業生産競争や後継者不足など時代と共に新たな営農課題も生じていた。このため、昭和 61 年（1986 年）により総合的な治水、利水目的とする「厚真川総合開発事業計画調査」が策定され、厚幌ダム建設事業、厚幌導水路建設事業（国営かんがい排水事業 勇払東部（二期）地区）、経営体育成基盤整備事業なども連動した厚真川流域の大規模事業が始まった。2019 年４月からは厚真町民念願の厚幌ダムが共用を開始し、農業用水を供給する厚幌導水路も軽舞地区までの部分共用を始めていた。

本遺跡の調査原因となる農業基盤整備事業は平成 10 年（1998 年）より始まり、作付耕地の大区画化、用排水路や暗渠排水、農道等を整備して農作業効率の向上、耕地の汎用化を図って水田農業経営の安定化を目指すとともに、担い手への農地流動化を促進する目的をもって、北海道が事業主体となり、経営体育成基盤整備事業を町内 23 地区に分割し、随時着工していた。幌内８遺跡が所在する幌内地区は 20 番目の事業にあたる。

当初計画では、富里地区と幌内地区一体の広域面積に及ぶ事業計画で、平成 24 年（2012 年）５月に北海道胆振総合振興局（以下、振興局）より埋蔵文化財保護のための事前協議書が厚真町教育委員会（以下、町教委）を経由して北海道教育委員会（以下、道教委）へ提出された（平成 24 年５月８日付け胆振振第 331 号）。厚真町土地改良区より町教委へ事前に相談を受けていたため、事業地内の所在確認調査をほぼ同時に実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地として富里１遺跡、幌内４遺跡、幌内７遺跡がかかり、新規登載の包蔵地として幌内８遺跡が確認されたほか、可能性地として２ヵ所の合計６ヵ所の協議対象地が報告された（平成 24 年５月 24 日付け厚教社号）。なお、幌内８遺跡は本来の独立丘の約３分の２が昭和 30 年代の個人住宅や耕作地造成によって削平されており、残存部分の切り土露頭と隣接する耕作地において、縄文土器や剥片類、被熱礫が表面採集され、町教委によって 136 番目の包蔵地として登載された。

この後、本地区の経営体育成基盤整備事業について振興局産業振興部農村振興課、厚真町土地改良区との事業調整が進められ、富里地区と幌内地区を切り離し、なおかつ幌内地区を上流側と下流側との２つの地区に区分することとなった。幌内８遺跡は事業用水管理区の第１区の上流区域として位置づけられた。この間、幌内８遺跡を文化財保護の観点から基盤整備事業からの除外することについても協議が進められたが、水田圃場の施工、営農の効率上、不可能であり、事業施工の際には完全に削平されることとなった。

具体的な工事施工計画が決まり、試掘調査は平成 28 年（2016 年）11 月に道教委によって事

業地内の幌内４遺跡と共に実施された。幌内８遺跡ではトレンチ４ヵ所とテストピット１ヵ所が掘開され、うち段丘残存部のテストピットから中世アイヌ文化期の未被熱の獣骨、統縄文文化期の剥片類や焼骨片、縄文時代中期の土器片や石器類が多数出土した。この調査結果のもと、道教委から振興局へ発掘調査 1,125 ㎡（段丘残存部）、慎重工事 2,375 ㎡（段丘削平部）の回答がなされた。なお、幌内４遺跡については、遺物包含層の検出には至らなかったことから慎重工事 2,500 ㎡の回答がなされている（平成 28 年 11 月 29 日付け教文博第 2411 号）。

発掘調査は費用負担区分の問題も生じたものの、事業主体者である振興局が調査費用を負担することとなり、平成 30 年（2018 年）5 月 10 日付けで調査主体となる町教委との間に幌内８遺跡の発掘調査に関する委託契約書が取り交わされ、発掘調査は 6 月 1 日より着手となった。なお協議の中で、調査費用や調査、整理報告体制の確保の観点から平成 30 年度の 1 年目は現地発掘調査、2 年目に整理・報告書作成の計画となった。（乾）

第３節　北海道胆振東部地震の影響

平成 30 年（2018 年）9 月 6 日午前 3 時 7 分 59.3 秒に発生した北海道胆振東部地震で、厚真町は北海道で初めての震度 7 を記録し、町内全域において甚大なる被害が及んだ。厚真町における被害は関連死を含めて死者 37 名、重軽傷者 61 名、住宅被害は全壊 222 棟、半壊・一部破損が 1,353 棟に達し、発災と同時に停電や断水も発生していた。調査担当者 2 名は発災直後から避難所開設と地区パトロールの防災体制に入り、町民の安全確保を最優先とする非常体制となった。このため発掘調査現場や整理事務所の被害状況把握には至らなかったが、発掘作業員も被災しており通常業務が不可能な状況であることが、即時に判断できる被災状況であったことから、同日のうちに当面の期間、発掘調査を休止する旨を胆振総合振興局へ電話連絡した。

斜面崩壊などの土砂災害は、厚真川中流域から上流域にかけて大規模に発生しており、発掘調査現場への道路も数箇所で寸断されていたが、厚真川堤防上を利用して 9 月 13 日に幌内８遺跡の現地を確認できた。発掘調査現場では、包含層トレンチの壁面が幅約 1m、高さ約 0.6m、奥行き最大 0.3m にわたって崩壊していた。また現地にはプレハブ 2 棟、仮設トイレ 2 棟、機材庫 1 棟を設置していたが、扇風機 1 台と殺虫剤スプレー缶 2 本が転倒したのみであった。

整理作業所として利用していた軽舞遺跡調査整理事務所には、9 月 9 日夕方に被災状況確認に入ることができた。書棚や展示ケースの一部が倒壊しており民俗資料の収蔵展示室に利用していた体育館は天井ボードや骨組みの一部が落下し、大きな被害が発生していた。幌内８遺跡に係わる被害状況としては、出土地点や種別確認のため会議用テーブルに展開していた遺物がテーブルの転倒により 10 点の混同が発生したほか、乾燥中のフローテーション試料も数段に積み重ねた角ザルが倒壊し、数サンプルほど混同する被害が生じていた。

これらの事務所復旧作業は、避難所運営業務を終えた深夜に調査担当者 2 名で協議を進め、所管上司への説明、了解のもと 9 月 19 日から開始できた。発掘調査作業員全員の安否確認と共に作業従事の可否について確認し 8 名を町費雇用に切り替えて実施した。3 名については、住宅の被災状況が激しいことや精神的ショックにより作業に加わることができなかった。事務所内では天井崩壊の危険性が残る体育館以外について倒壊した展示ケースや書棚、遺物収蔵庫などの後片付け、地下ピット内で破断した給水管からの漏水没み出し作業などを行った。幌内８遺跡の混同資料も可能な限り確実な範囲で元のデータへの復旧作業にあたった。

この間、町教委内部で発掘現場再開の協議を進め、道道や町道の公道での安全な通行の確保を条件に発掘調査を再開することとし、室蘭建設管理部や町建設課担当者へ道路復旧の予定、現地への道路状況の確認を連日行い、10月4日から迂回路を利用したマイクロバス送迎による発掘調査再開となった。

発掘調査休止期間が約1ヵ月間に及んだが、当初から調査終了を11月16日としており調査期間の延長が困難な状況であった。このため平成30年度の調査はⅥ層と遺構調査を未了のまま終えることとなり、次年度の5月に実施することとして平成30年度の発掘調査を終えた。

避難所からの出勤や悪路の中での通勤にもかかわらず、また今後の生活再建への不安の中、整理事務所の復旧作業や発掘調査現場へ来てくれた作業員に心より感謝する。　（乾）

第4節　調査の方法

1. 調査区の設定

調査区は前述の道教委回答の図面をもとに設定したが、宅地等の造成のほか、農道や倉庫建設時の造成によって削平された範囲も含まれており、結果的に遺物包含層の残存状態は悪く、より狭い調査範囲となっている。なお隣接する慎重工事回答範囲内には、部分的に段丘縁辺部の遺物包含層が残存している可能性がある。

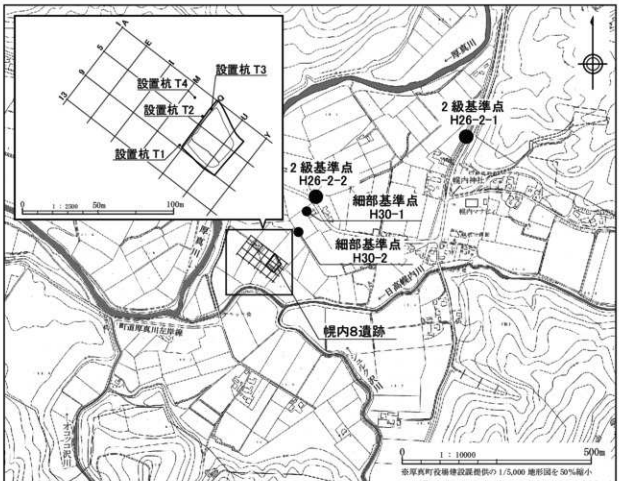
2. グリッド設定　（図Ⅰ-1･3）

発掘調査にあたってのグリッド網は、公共座標並びに標高値基準点設定を㈱トラスト技研に委託した。基礎基準点は一般道道上幌内早来停車場線沿い、幌内神社より北東約150mの2級基準点「H26-2-1」と幌内8遺跡調査区北東部から北東へ約200mの2級基準点「H26-2-2」の2点としている。公共座標値と標高値の基準杭は調査区内及び隣接するT1～T4の4ヵ所設置され、T2とT3杭から調査区内の打設杭に世界測地系XY座標、標高値を移設した。

調査区のグリッド網は地形を優先し、北西側の段丘削平時の露頭法面を概ねの基準方向（北東－南西軸）としたため、公共座標XY軸には整合しない任意のグリッド網となっている。真北から約37.4度西へ傾くラインをアルファベット軸とし、これに直交する北西－南東ラインをアラビア数字で表記する軸とした。グリッド網の基点は今回の発掘調査区北側コーナーより85m北東に位置する水田の中にA-1杭として図上設定した。なお、グリッド網は旧石器包含層などの調査区範囲の拡張も考慮し、丘陵削平部も含め実際の調査区より広範囲に設定している。

各グリッドの呼称はグリッド網の北側コーナーの杭名とし、5m×5mを大グリッドとして調査開始と共に測量技能作業員が、光波式トータルステーションを用いて調査区内及び周辺にグリッド杭を打設した。さらに2.5m四方に4分割した中グリッドと1m四方に25分割した小グリッドを設けた。中グリッドは縄文時代の遺物包含層出土の土器細片、剥片類、礫の平面位置の取り上げの際に用いた。小グリッドは発掘調査現場では利用していないが、報告書掲載の遺構平面図に位置関係を示すために用いたものである。なお、調査工程上、樽前c火山灰除去後の2回目のグリッド杭打設の際には、標高値が異なるため杭名末尾に「B」を付記し、調査開始時の打設杭と区別している。

調査は北海道胆振東部地震による約1ヵ月間の休止期間が発生したため、次年度以降にも調査を継続することとなったことから、調査区内及び隣接地に基準杭を深く打設し、これを令和元年度の調査区グリッド杭の基準とした。



図Ⅰ-1　グリッド設定関係杭位置図

表Ⅰ-1　グリッド設定関係杭数値一覧表

点名	X座標	Y座標	Z座標	備考
H26-2-1	-13801.910	-22216.652	47.274	使用基準点
H26-2-2	-138177.547	-22614.427	44.509	使用基準点
H30-1	-138216.197	-22638.466	44.742	細部基準点
H30-2	-138270.768	-22660.471	44.523	細部基準点
T-1	-138354.607	-22744.169	44.880	設置杭
T-2	-138335.847	-22728.721	44.884	設置杭
T-3	-138331.300	-22722.580	44.920	設置杭
T-4	-138323.141	-22733.457	44.920	設置杭

3. 包含層および遺構調査の方法

調査の準備段階として、調査員立会のもとバックホウにより樹根を残しながら表土や耕作土と樽前ｂ火山灰の除去を行った。遺物包含層のⅢ層黒色土上面でアイヌ文化期の遺構、遺物が検出される可能性が高いことから火山灰は 3cm 前後残し、Ⅲ層上面まではジョレンを用いて人力による清掃、検出作業を行った。

調査方法に関しては、これまでの町内での調査や試掘調査の結果から、Ⅲ層は基本的にⅢa 層からⅢb 層下位にかけては移植ゴテを用いて 1～2cm 程度ずつ掘り下げた。面的な遺物出土状態などから時期を把握し、新しい時期のアイヌ文化期（Ⅲa 層、Ⅲb 層上位）、古い時期のア

イヌ文化期（Ⅲb層中位）、擦文文化期（Ⅲb層下位）、続縄文文化期（Ⅲc層）の4面を考慮したうえでの調査を開始した。なお、包含層調査開始に先行してSラインと5ラインが直交する十字のトレンチを掘開し、包含層堆積状況と出土遺物の密度の確認を行い、トレンチラインで包含層堆積状況を実測した。

無遺物層のⅣ層樽前c火山灰はバックホウとジョレンで除去し、Ⅴ層黒色土はⅢ層と同じく上面よりⅤa層、Ⅴb層上位、中位、下位、Ⅴc層、漸移層Ⅵ層との層位区分のもと可能な限り面的な調査に留意し、移植ゴテによる包含層掘削調査を実施している。なお漸移層Ⅵ層については、遺物出土密度が極度に減じたため、一部ジョレンを用いての調査とした。

遺構調査は、土坑や掘り込みを伴う焼土など包含層上面から窪みとして確認できたものや調査区段丘削平の露頂面で確認した遺構は、先行トレンチや土層観察ベルトを設定し、できるだけ遺構構築面の把握や構築面での調査を考慮した。焼土や焼骨で構成される獣骨集中については、燃焼面や形成面の土壌ほぼ全量をフローテーションサンプルとして採取し、土壌サンプル量は合計393.2㎥に及ぶ。土器片集中や礫集中は遺物の平面形を光波式トータルステーションにて輪郭線を実測し、これを5分の1ないしは10分の1でプリントアウトしたものを素図として出土状態の微細図を作成した。微細遺物を多量に含むフレイク・チップ集中は範囲をトータルステーションで記録し、遺物を含む土壌の水洗選別によって回収した。これらの平面図化や土坑などのエレベーションは測量技能作業員が光波式トータルステーションで記録し、堆積状態については調査担当者及び調査補助員が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積図作成の実測作業を行った。各調査経過は35㎜一眼レフデジタルカメラで撮影記録した。なお、発掘調査区の等高線図はⅢ層上面とⅤ層上面において、光波式トータルステーションで1mメッシュの標高値単点を計測し、パソコン上での等高線作成を㈱シン技術コンサルへ委託した。

出土遺物は、Ⅲ層については全点に遺物番号を付した。取り上げについては調査員による層位確認と遺物の種別確認をしたうえで、光波式トータルステーションによるXYZ座標（公共座標世界測地系）をデジタル記録し、取り上げた。この時、手簿（日付・グリッド・層位・遺物名等）の記載も行い、データ入力ミスの補完を行っている。Ⅴ層調査では、出土遺物点数が極度に多いため、遺物全点を調査補助員と調査担当者が種別確認と層位区分を行い、遺構出土遺物と土器片、剥片石器、礫石器の個々の出土位置を記録した。加工痕や使用痕が認められない自然礫やフレイク・チップに関しては層位を記録しながら5mグリッドを4分割した中グリッド単位で取り上げた。

令和元年度には縄文時代の遺物包含層調査終了後、旧石器遺物の確認調査のため、Sラインにおいて5ヵ所のトレンチを設定し、Ⅷ層樽前d火山灰をバックホウで除去した後、Ⅸ層の黄褐色系粘土質シルト層40㎡を移植ゴテやジョレンを用いて遺物確認調査を行った（図Ⅰ-2）。一連の調査終了後は、旧石器トレンチや雨水の排水沈殿槽をバックホウで埋戻し、全ての撤収作業を行った。

4. 整理作業

平成30年度は発掘調査と並行して一次整理の遺物水洗作業と出土グリッドや層位の諸情報確認、遺物の種別分類作業、フローテーション作業を実施し、11月17日以降は整理作業員1名による一次整理作業と二次整理の遺構図作成を行った。本格的な整理業務は事業2年目にあたる令和元年6月からの

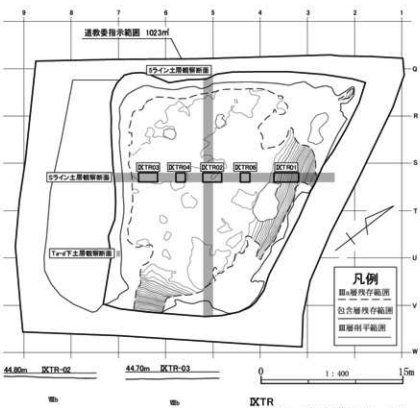
実施となった。

一次整理では出土遺物の水洗作業を終えたものから調査区遺構名や層位、種別、細分類、石材の判別等の諸情報の確認作業を行ったほか、未被熱獣骨のクリーニング作業やフローテーション処理後の選別作業も行っている。

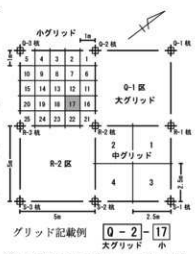
二次整理は、各種遺物の接合・復元・実測・拓本等の作業を行い、遺構等の平面図は㈱シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を用いて作成し、遺構堆積図と組み合わせた第二原図の作成や遺物実測図のトレース作業・編集については、パソコン(Os Windows Adobe IllustratorCS)で行った。また、出土遺物のうち復元土器の実測業務の一部と剥片石器の３Ｄ撮影及び断面実測作業を㈱トラスト技研に委託し、遺物の写真撮影は㈲写真事務所クリークへ委託している。写真図版はパソコン(Os Windows Adobe PhotshopCS)で版組み編集している。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集・版組みも上記のソフトで行い、本文原稿はWord、一覧表のExcelデータと合わせて印刷所へデジタル入稿している。

なお、フローテーションによって回収した動物遺存体と炭化種子は、整理担当者の指導のもと整理作業員によって同定可能部位や種子を抽出し、札幌大学非常勤講師 高橋 理氏と北海道大学大学院文学研究院 高瀬克範氏に同定を依頼した（第Ⅴ章 第１節・第２節）。

遺物の保管は報告書掲載のものは図版每に行い、それ以外のものは層位、調査区及び分類每にコンテナに収納し軽舞遺跡調査整理事務所にて保管している。　（乾）



図Ⅰ-2 調査区範囲及び土層観察位置図



図Ⅰ-3 グリッド区分図

第５節　遺物の分類

1. 土　器

縄文時代早期から擦文文化期までの土器をローマ数字に群別し、アルファベットで時期細分した。

第Ⅰ群土器　縄文時代早期に属する土器。

A類　貝殻文・条痕文土器。

B類　早期後半の東釧路式土器群。絡条体圧痕文、組紐圧痕文などを施すもの。

B1 類　東釧路Ⅱ式に相当するもの。

B2 類　東釧路Ⅲ式、コッタロ式に相当するもの。

B3 類　中茶路式に相当するもの。

B4 類　東釧路Ⅳ式に相当するもの。

第Ⅱ群土器　縄文時代前期に属する土器。

A類　前半期の縄文丸底・尖底土器群。

A1 類　美沢３式、綱文式土器に相当するもの。

A2 類　トビノ式、静内中野式に相当するもの。

B類　後半期の円筒形の平底土器群。

B1 類　円筒下層ａ式ないしはｂ式、虎杖浜２遺跡２群土器(白老町教育委員会 1978)に相当するもの。

B2 類ａ　円筒下層ｃ式・ｄ式に相当するもの。

B2 類ｂ　フゴッペ貝塚式に相当するもの。

B3 類　植苗式、大麻Ⅴ式に相当するもの。

B4 類　型式未設定の前期後半の蛇紋岩を含む平底土器で、植苗式に伴うもの。ヲチャラセナイ遺跡にて出土例がある。

第Ⅲ群土器　縄文時代中期に属する土器。

A類　中期前半の円筒上層式系土器群。

A1 類　円筒上層ａ式またはｂ式に相当するもの。

A2 類ａ　サイベ沢Ⅵ・Ⅶ式に相当するもの。

A2 類ｂ　厚真１式に相当するもの。

B類　中期後半から末葉の土器群。

B1 類ａ　萩ヶ岡１式に相当するもの。

B1 類ｂ　萩ヶ岡２式、天神山式に相当するもの。

B2 類　柏木川式に相当するもの。

B3 類ａ　北筒式に相当するもの。

B3 類ｂ　練瓦台式に相当するもの。

第Ⅳ群土器　縄文時代後期に属する土器。

A類　後期初頭の土器群。

A1 類ａ　古手の余市式土器。円形刺突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多段の羽状構成の土器。

A1 類ｂ　天祐寺式に相当するもの。Ⅳ群A1 類ａ種土器に併存する。非在地系。

A2 類　新しい段階の余市式。タプコプ式の古手。階段状の器表面や斜め下方からの刺突文や縄端圧痕文が施される土器。

B類　後期前葉の土器群。

B1 類　新手のタプコプ式。縦位の棒状貼付帯や縄線文または地文縄文のみが施されているもの。

B2 類　手稲砂山式に相当するもの。

B3 類　入江式、大津７群、白坂３式土器。

C類　後期中葉の土器群。

C1 類　ウサクマイＣ式に相当するもの。

C2 類　手稲式に相当するもの。

C3 類　鯉潤式に相当するもの。

D類　後期後葉の土器群。

D1 類　堂林式、御殿山式に相当するもの。

第Ⅴ群　縄文時代晩期に属する土器群。

A類　晩期前葉の土器群。

A1 類　爪形文や刺突文を施すもの。

A2 類　大洞B･BC 式土器に相当するもの。

B類　晩期中葉の土器群。

B1 類　縄線文や円弧文を施すもの。美々３式、ママチⅠ･Ⅱ群に相当するもの。

B2 類　大洞C1･C2 式土器に相当するもの。

C類　晩期後葉の土器群。

C1 類　ママチⅢ･Ⅳ･Ⅴ群に相当するもの。

C2 類　大洞A･A゛式土器に相当するもの。

第Ⅵ群土器　縄文文化期に属する土器群。

A1 類　砂沢式・二枚橋式に並存する在地の土器。
a：札幌市 H37 遺跡 丘珠空港地点相当のもの。
b：いわゆる汐見式相当。縄線文が施され地文に帯縄文発達以前の土器。

A2 類　砂沢式・二枚橋式に並存する搬入系土器。
a：砂沢式土器。　b：二枚橋式土器。

B1 類　アヨロ 2 類土器並行の土器。
a：アヨロ 2 類 a 相当の土器。
b：アヨロ 2 類 b 相当の土器。

B2 類　アヨロ 3 類相当の土器。

C1 類　江別太 1～3 式土器。

C2 類　後北 B 式土器。

C3 類　後北 C_1 式土器。

C4 類　後北 C_2-D 式土器。

D1 類　宇津内Ⅱa 式土器。

D2 類　宇津内Ⅱb 式土器。

E1 類　北大Ⅰ式土器。

E2 類　北大Ⅱ式土器。

第Ⅶ群土器　擦文文化期に属する土器群。

今回の調査では出土していないことから、細分の記述を省略する。　（乾）

2. 剥片石器

ポイント類

長軸 4 cmを境に石鏃と石槍・石錐とを区分した。

A「石鏃」
1 細身で薄手のもの。
2 無茎のもの。
a 平基。
b 凹基。
c 凸基・円基。
3 明瞭な茎部をもつもの。
a 柄が太いもの。
b 柄が細いもの。
①逆刺明瞭　②逆刺不明瞭（弓状）
c 素材剥片を利用したもの
4 不明瞭な茎部を持つもの。

B「石槍」・「石錐」
1 鏃身部が短い（比率 1.85 未満）
2 鏃身部が長い（比率 1.85 以上）
3 不明瞭な茎部のもの。
4 再調整品

C 欠損品・未成品

石　錐

A　剥片の一部に機能部を作出したもの。
B　柄と機能部の区別が明瞭なもの。
C　棒状で柄と機能部の区別が明瞭なもの。
D　棒状で柄と機能部の区別が不明瞭なもの。
E　平面形が紡錘形のもの。
F　他石器からの転用品と思われるもの。
G　欠損品の為、分類不可能なもの。

ナイフ・スクレイパー類

縁辺に刃部が作出されたもののうち、素材の 1 辺に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているもの。

A「つまみ付きナイフ」
1　つまみ部軸線と体部軸線の角度が 30°未満の「縦型」のもの。
2　つまみ部軸線と体部軸線の角度が 30～60°未満の「中間型」のもの。
3　つまみ部軸線と体部軸線の角度が 60°以上の「横型」のもの。
「縦型」「中間型」「横型」はそれぞれ以下の分類に分けられる。
A 2 縁辺で構成。　B 3 縁辺で構成。
4　素材剥片につまみを形成するもの。
5　つまみ付きナイフに分類されるが欠損のあるもの。

B　素材端部に刃部が形成されているもの。
1「ラウンド・スクレイパー」
a 刃部が全周するもの。
b 刃部が全周しないもの。
2「エンド・スクレイパー」

C　素材端部に刃部が形成されていないもの。
1「サイド・スクレイパー」
2「コンケイブ・スクレイパー」

3「抉入石器」
D　続縄文文化に伴う「ナイフ状石器」
E　欠損品

両面調整石器

A　木葉形で薄手のもの。
B　縦長で厚手のもの。
C　平面形が不定形で両面に二次加工剥離があり、定形器種に分類できないもの。
D　欠損・破片

R. F・U. F

一縁辺の長さの半分以下の調整痕があるものをR.F.使用による細かな剥離があるものをU.Fとした。

ピエス・エスキーユ

断面形が紡錘形で左右側面のいずれかに剪断面があるもの。

石 核

剥片を剥離した母核

3. 礫石器

石 斧

A　磨製石斧
1　短冊形
2　撥形
3　丸のみ形
4　剥片素材のもの
5　欠損品
B　未成品1：礫皮をほぼ残さず、研磨・剥離・敲打調整により完成に近いもの。
C　未成品2：調整痕は認められるが半分以上の礫皮を残すもの。
D　未成品3：調整痕は認められないが石斧素材礫と思われるもの。

たたき石

敲打痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。

Ⅰ　平面形が縦長のもの。
A　扁平のもの。
1　素材礫の平坦面に敲打痕があるもの。
2　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打があるもの。
3　1・2を並存するもの。
B　棒状または角柱状のもの。
1　素材礫の平坦面に敲打痕があるもの。
2　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕があるもの。
3　1・2が並存するもの。
Ⅱ　平面形が方形～不整形で幅広のもの。
A　扁平のもの。
1　素材礫の平坦面に敲打痕があるもの。
2　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕があるもの。
3　1・2を並存するもの。
B　棒状または角柱状のもの
1　素材礫の平坦面に敲打痕があるもの。
2　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕があるもの。
3　1・2が並存するもの。
Ⅲ　平面形が円～楕円形のもの。
A　扁平のもの。
B　球形または棒状のもの。
Ⅳ　破片のため上記に分類不可のもの。
Ⅴ　礫片を素材とするもの

すり石

A　断面三角形の礫の稜に擦り面があるもの。
B　断面楕円形礫の側縁に擦り面があるもの。
C　扁平礫の側縁・端部に擦り面があるもの。
D　北海道式石冠
E　その他
F　たたき併用

砥 石

素材礫の形状が変形する使用面があるもの。

石鋸

素材礫の側縁稜に並行する擦痕があり、表裏面にも及ぶ。機能部断面形がU字ないしはV字状となるもの。

滑沢面のある礫

素材礫の形状を変えず、平滑な面があるもの。線条痕はほとんど観察できない。

線条痕のある礫

肉眼観察において、明瞭な線条痕があるもの。

石皿・台石

便宜的に素材礫の重量が 900 g 以上で、素材礫の平坦面に擦痕・敲打痕があるもの。

加工痕ある礫

加工目的の剥離があるもので、剥離加圧(打点)部分に潰打面が形成されず、側面観が稜線状となるもの。

（乾・宮崎）

第 6 節　調査結果の概要

1. Ⅲ層

Ⅲ層からは中世アイヌ文化期と続縄文文化期の遺構、遺物を検出している。

中世アイヌ文化期はⅢb 層中位主体で、黒色土を 2～3cm 被覆して遺構を検出している。遺構は焼土（ⅢF）3 ヵ所、焼土投棄ブロック（ⅢFB）4 ヵ所、礫集中（ⅢSB）9 ヵ所、獣骨集中（ⅢBB）2 ヵ所を検出した。その他、Ⅲ層起源の柱穴を 26 基検出しているが覆土から同時期に帰属するものと考えⅡ章で掲載している。遺構分布は図Ⅱ-1 に示したが R-6 区周辺に焼土（ⅢF-01）と礫集中（ⅢSB-02～06）、未被熱の獣骨集中（ⅢBB-11）がまとまって検出された。また、S・T-5・6 区には未被熱の獣骨集中（ⅢBB-01）が南西-北東軸に帯状の分布を示し、周囲には礫集中（ⅢSB-01・07）、焼土ブロック（ⅢFB-01～04）を検出する。この 2 つのまとまりは当初、焼土と獣骨集中の位置関係から、これまでの厚真町の発掘成果（町教委 2007 ほか）から平地式住居跡と想定していたが、柱穴列が伴わないため、別々のまとまりと捉えた。

続縄文文化期は主にⅢc 層主体で出土する。遺構は焼土 6 ヵ所、土器集中 7 ヵ所、礫集中 1 ヵ所、獣骨集中 9 ヵ所検出している。出土土器は続縄文文化期前葉の汐見式相当、後葉の北大Ⅰ式が主体的に出土している。遺構の分布は図Ⅲ-1 に示したが調査区の東側段丘縁辺部に焼土（ⅢF-07）と土器集中（ⅢPB-01）が近接しており、土器集中の型式から北大Ⅰ式期に帰属する。また、R-6 区を中心とする土器集中（ⅢPB-03・05）と焼骨で構成される獣骨集中（ⅢBB-03・04・06・07）は北大Ⅰ式の土器も一部重複して出土しているが、整理段階で出土レベル等を精査すると汐見式相当が伴うと思われ、前葉の遺構群と思われる。また、Q・R-4 区では小礫が多量に出土した礫集中（ⅢSB-10）を検出しており、その周囲には同一レベルで土器集中（ⅢPB-06）、獣骨集中（ⅢBB-02）を検出している。礫集中は集中下位に焼土（ⅢF-09）が形成されており、出土礫は約半分の 1,500 点余りが被熱しているため、一連の遺構と判断した。土器集中および礫集中からは汐見式相当が出土しているため、これらの遺構群は前葉に帰属する。その他、焼土ではⅢF-02・06 の燃焼面が明瞭で形状も楕円形で他とは様相が異なる。周辺には柱穴が認められないため屋外炉と思われる。

遺物はⅢ層で土器 1,018 点、剥片石器 99 点、礫石器 179 点、土製品 11 点、金属製品 22 点、礫剥片 16 点、剥片類 1,780 点、礫 5,487 点、漆塗膜片（その他）1 点出土している。遺物は土器、剥片石器以外は明瞭に区分できないので一括で報告する。また、金属製品は 3 点が続縄文文化期から出土しているが、小片であることから中世アイヌ文化期からの混入の可能性もある。

2. Ⅴ層

縄文時代については早期から晩期まで各時期の土器が出土した。遺構は竪穴式住居跡 1 軒、

表Ⅰ-2 幌内8遺跡概要一覧表

項 目	Ⅲ層			Ⅴ層		
	アイヌ文化期	続縄文文化期		縄文時代		
調査年度	平成30年度		合計	平成30年度	令和元年度	合計
発掘調査面積(㎡)	1,023㎡			1,023㎡	528㎡ (面積内数)	
竪穴式住居跡	0	0	0	1	0	1
土坑	0	0	0	1	8	9
灰集中	0	0	0	1	0	1
焼土	3	6	9	42	1	43
焼土ブロック	4	0	4	0	0	0
杭跡	26	0	26	0	0	0
土器集中	0	7	7	4	0	4
礫集中	9	1	10	1	0	1
フレイク・チップ集中	0	0	0	1	0	1
獣骨集中	2	9	11	0	0	0

表Ⅰ-3 幌内8遺跡出土遺物一覧表

層位	細分類										合計
	土器	剥片石器	礫石器	土製品	石製品	鉄製品	石斧石器群剥片	剥片類	礫	その他	
	P	FT	ST	PP	SP	IP	SFC	FC	S		
Ⅲ層遺構	388	26	34	5	0	2	8	703	4,068	0	5,234
Ⅲ層包含層	630	73	145	6	0	19	8	1,077	1,419	1	3,378
Ⅴ層遺構	795	60	75	5	0	0	74	1,095	534	0	2,638
Ⅴ層包含層	7,339	1,149	1,038	146	2	0	190	8,040	11,214	0	29,118
表採・攪乱	131	51	5	4	0	1	1	209	51	0	453
合 計	9,283	1,359	1,297	166	2	22	281	11,124	17,286	1	40,821

(枝番等を含む遺物点数)

土坑9基、灰集中1ヵ所、焼土43ヵ所、土器集中4ヵ所、礫集中1ヵ所、フレイク・チップ集中1ヵ所を検出している。遺構については特徴的な分布は認められず全体的に検出している。住居跡は段丘南西側が削平によって消失しているため、Ⅲ層調査時には法面で落ち込みを確認できた。調査の結果、住居跡は炉跡を含む約半分が残存していた。周囲も倒木痕が著しく南東側も一部欠失しているが隅丸方形状と思われる。時期については床面から遺物がほとんど出土していないがⅢ群B3類の土器片が床面付近から出土しているので中期末葉に帰属すると思われる。土坑ではVP-02は円形プランで、堆積状態から土坑墓の可能性が高い。

遺物は土器8,134点、剥片石器1,209点、礫石器1,113点、土製品151点、石製品2点、礫剥片264点、剥片類9,135点、礫11,748点である。出土土器は縄文早期後半から晩期まで出土しているが、Ⅲ群B1類の天神山式が全体的に多い傾向にある。 (奈良)

第7節 遺跡の位置

1. 厚真町の概要

A 地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁に隣接し、北海道胆振支庁の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川水系に水田地帯が広がる、人口4,481人(令和2年2月末現在)の農業の町である。町域の総面積は404.56k㎡で、流路52.3kmの二級河川厚真川流域に広がり南北32.5km、東西17.3kmと細長く、南部は約6.5kmにわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。北海道の空の玄関口である新千歳空港から車で35分、海上物流の拠点である苫小牧西港から40分、町内浜厚真には秋田・新潟・敦賀を結ぶ日本海航路の東港が

あり現代社会において利便性に恵まれた位置環境でもある。町域を縦貫する厚真川は源流部から河口まで厚真町域のみを流下している。行政区域の北部は夕張市や由仁町と接し、夕張山地南部の標高 200～600mの山地が続き、総面積の約 70%を山林が占める。東は夕張山地から続く低い山地を挟んでむかわ町と接し、北西は標高 100m前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯（以下、苫東地区）内で苫小牧市と接している。厚真の語源は 3 説ほどあるが、最も有力な説として「アットマム」（at-to-mam「向こうの湿地帯」）で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという(厚真村 1956)。

町内は、大きく 4 つの地区に分かれ、厚真川沿いに下流域の浜厚真・上厚真地区、中流域の厚真市街地周辺、中流から上流域の幌内地区で、むかわ町と接し、入鹿別川流域の鹿沼地区がある。ここでは厚真川流域を中心に概略を述べる。

南部は砂浜が続き、明治期以前より地引網での鰯漁が盛んであったが、現在では、苫小牧沿岸にかけてウバガイ（ホッキ貝）の全国一の漁場となっている。かつては標高 10m前後の砂丘列が発達し、背後には勇払原野の湿地帯が広がっていたが、現在は苫東地区の一部で、苫小牧東港や道内最大の火力発電所、国内最大の石油備蓄タンク群等の工業用地となっている。また国道や高規格道路、鉄道があり、札幌圏から日高方面への主要幹線路ともなっている。地形的には、苫東地区の静川・源武台地と同じ様相を示し、樹枝状に開折された標高 10～20m前後の支笏火山・樽前山の火山砕屑物で構成される低平な台地と湿地、湖沼群が見られる。特に厚真川左岸から入鹿別川右岸にかけての厚和地区は静川台地と全く同じ地形・地質様相を呈している(仮称厚和台地・鯉沼台地)。

中部には厚真町の中心市街があり、鵡川、平取・穂別、早来、浜厚真方面への道道交差部に官公署や住宅地が形成されている。かつては、町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展していた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追丘陵南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中部以北では、厚真川は頗美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。北部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部で、本流とシュルク川、幌内川の 3 河川の合流点でもある。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、昭和 5 年から 24 年まで現在の JR 早来駅とを結ぶガソリン機関軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く（松野・石田 1960）。標高 400m以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜を特徴とする壮年期地形を呈している。厚真川源流部は夕張市、由仁町との 1 市 2 町の境界線付近、標高 500m付近の夕張山地南域にある。

B　歴史的環境

(1) 埋蔵文化財包蔵地の概要

厚真町内には令和 2 年 1 月末現在で、後期旧石器時代から近世アイヌ文化期、近代に至る 144ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されている（図Ⅰ-4、表Ⅰ-4･5）。遺跡の分布傾向として、開発行為の多寡に左右されるが、南部の苫東地区や厚真川下流域左岸から入鹿別川流域右岸にかけての仮称厚和台地や仮称鯉沼台地、厚真川中流域の支流河川沿い、北部の高丘地区および幌内地区にやや集中する傾向がある。遺跡の立地は、南部において湿地と隣接する台地縁辺部や

湧水地付近、中部では厚真川沿いや小河川との合流点付近の河岸段丘縁辺部に多い。北部の山間部では、頗美宇川流域の高丘地区や厚幌ダム湛水区域内に多く分布する。これらは安平町安平地区や夕張市滝之上地区、むかわ町穂別・豊田地区に抜ける山越えのルート上の遺跡と考えられ、土器胎土中に石英結晶を多量に含む富良野盆地系土器がややまとまって出土している。

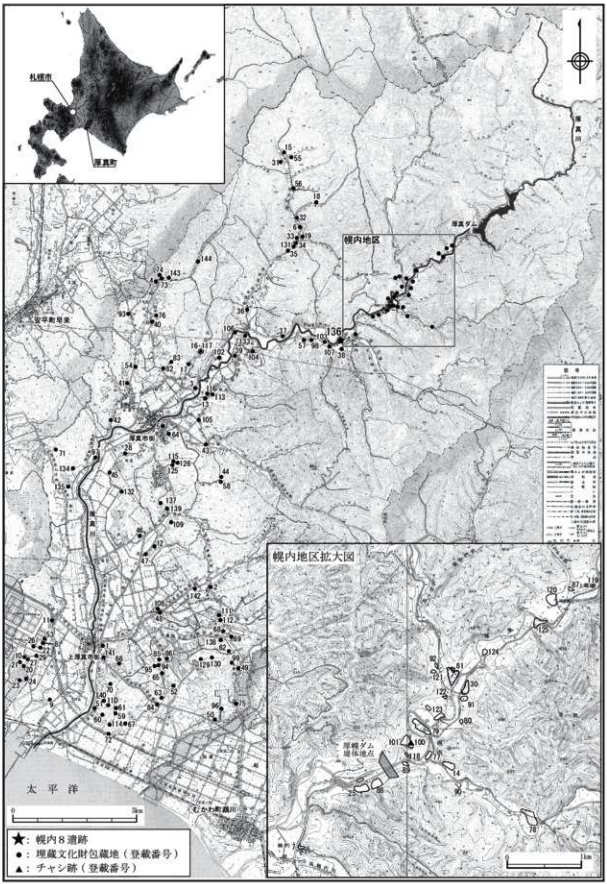
時期的には、町内最古の遺跡として上幌内モイ遺跡で札滑型細石刃核を伴う石器集中が1ヵ所検出されており、AMS法炭素年代測定の結果、補正年代3点の平均で14,591.69±60yrB.P.が得られている（町教委2006a）。縄文時代の最も古いものではヲチャラセナイ遺跡において、樽前dテフラより下層の暗褐色ローム質土中より、テンネル・暁式に伴うと思われる無茎の三角形鏃1点が出土している（町教委2014c）。この他、豊沢4遺跡の試掘調査で早期中葉の物見台系貝殻文土器片1点が出土し、長沼1遺跡ではアルトリ式土器がややまとまった点数で表採されている。時期が下って浜厚真3遺跡の調査では東釧路Ⅱ式土器が出土している（道埋文2003）。早期後葉の東釧路系土器群も厚真川中下流域に多く、上流域の調査では中茶路式期以降に遺物量が増加してくる。町内における遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前半の縄文尖底土器群の時期と考えられ、多量の被熱礫や哺乳綱の焼骨片が出土する遺跡が厚真町南部から北部に至るまで多数確認されている。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭にかけての北筒・余市式期に遺跡数のピークを迎える。縄文時代後期中葉から後葉にかけては遺跡数が激減し、晩期前葉以降、続縄文文化期に再び増加し、擦文文化期前期は遺跡数が再び減少する傾向にある。この様な各時期における遺跡数の偏りは隣接する苫小牧市の傾向と概ね一致しているが、差異として擦文文化期中期後半から中世・近世アイヌ文化期にかけては遺跡数が増加し、多種多様な交易性の搬入遺物が出土し、全国的に注目されている。

(2) 町内における埋蔵文化財調査の概要

町内における埋蔵文化財の調査・研究は、大きく3期に別けることが可能である。

a. 厚真村郷土史研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究（昭和20年代後半～40年代中頃）

最初の埋蔵文化財に関する記録として、大正5年（1916年）、現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を教材として学校に保管する許可書が発行されたことである（厚真村郷土研究会1956）。遺物の多くは縄文晩期初頭の土器片と思われ、数点の土偶片も出土している（厚真村郷土研究会1956、亀井1956、古井1961、北海道大学附属図書館HP 北方資料データベース）。その後、元厚真村長 亀井喜久太郎氏の熱心な働きかけで昭和27年（1952年）に八幡一郎氏、30年に大場利夫氏等が来村し、町内の遺跡・遺物を実見している。また、亀井氏は昭和28年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報『郷土研究』で遺物の紹介を行い、昭和31年には『厚真村古代史』を刊行している（厚真村郷土研究会1956）。現在、埋蔵文化財保護の基礎資料である埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「昭和31年7月　厚真村郷土研究会『厚真村古代史』」や「昭和47年12月　厚真町郷土史研究会 踏査」の記載で始まるものが32遺跡もあり、厚真町の埋蔵文化財保護・調査研究に大きな功績を残し、礎となっている。町内で初めての組織的な発掘調査は、昭和37年（1962年）に厚真村郷土史研究会によって朝日遺跡と共和遺跡で行われた。調査に関する記録を入手できず詳細は不明だが、縄文時代晩期初頭の土器片を中心とした出土遺物がコンテナにして5箱分ほど保管されている。



図Ⅰ-4　厚真町内遺跡分布図（令和２年１月１日現在）

表Ⅰ-4 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1)

登載番号	種別	名称	時代	発掘調査年度
1	遺物包含地	上厚真遺跡	縄文中期、続縄文期、擦文期	
2	遺物包含地	軽舞遺跡	縄文中期、続縄文期	
3	墳墓・遺物包含地	朝日遺跡	縄文中～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期、近代	2012・13
4	遺物包含地	幌里1遺跡	縄文中・晩期、続縄文期	
5	墳墓・遺物包含地	新町遺跡	縄文早・中期、続縄文期、アイヌ期	
6	遺物包含地	高丘1遺跡	縄文中期・続縄文期、擦文期、アイヌ期	
7	遺物包含地	幌内1遺跡	縄文中・後期	
8	集落跡	共和遺跡	縄文晩期、続縄文期、擦文期	1978
9	遺物包含地	浜厚真遺跡	詳細不明	
10	遺穴遺構	厚真10遺跡	縄文中・晩期	1977・78
11	遺物包含地	厚真11遺跡	縄文時代	
12	遺物包含地	豊沢1遺跡	続縄文期	
13	遺物包含地	東和遺跡	縄文後期	
14	集落跡	オニキシベ1遺跡	縄文早～晩期、擦文期	2012・13
15	遺物包含地	高丘3遺跡	縄文中期	
16	チャシ跡	桜丘チャシ跡	中世アイヌ期	
17	遺物包含地	桜丘1遺跡	縄文晩期	
18	遺物包含地	高丘2遺跡	詳細不明	
19	集落跡	高丘10遺跡	詳細不明	
20	集落跡	厚真1遺跡	縄文中期	1976
21	遺穴遺構	厚真2遺跡	縄文時代	1977
22	遺穴遺構	厚真3遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期	1978・79
23	集落跡	厚真4遺跡	縄文中・後期、続縄文期、近代	
24	遺物包含地	厚真5遺跡	縄文時代、続縄文期	
25	集落跡	厚幌1遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期、中・近世アイヌ期	2002・03・08・12・13・15
26	集落跡	厚真7遺跡	縄文早・中～晩期、続縄文期、擦文期	1977・78
27	集落跡	厚真8遺跡	縄文早・中～晩期、続縄文期	1977
28	遺穴遺構	美里2遺跡	縄文早・中期	
29	墳墓	厚真12遺跡	縄文早・後・晩期、擦文期	1979
30	集落跡	上幌内1遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2014・16
31	遺物包含地	高丘4遺跡	縄文時代	
32	遺物包含地	高丘5遺跡	縄文時代	
33	遺物包含地	高丘6遺跡	縄文時代	
34	遺物包含地	高丘7遺跡	縄文中期	
35	遺物包含地	高丘8遺跡	縄文時代	
36	遺物包含地	高丘9遺跡	続縄文期	
37	集落跡	富里1遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期、中近世アイヌ期	2015・16
38	遺物包含地	幌内4遺跡	縄文中期?	
39	遺物包含地	チコマナイ遺跡	縄文時代	
40	遺物包含地	幌里2遺跡	縄文中期	
41	遺物包含地	本郷1遺跡	縄文中・晩期	
42	遺物包含地	本郷2遺跡	縄文後期	
43	遺物包含地	宇陸1遺跡	擦文期	
44	遺物包含地	宇陸2遺跡	縄文後期	
45	遺物包含地	美里1遺跡	縄文中期	
46	遺物包含地	豊沢2遺跡	擦文期	
47	遺物包含地	豊沢3遺跡	続縄文期	
48	遺物包含地	鰹沼1遺跡	縄文中期	
49	遺物包含地	鹿沼2遺跡	縄文中期	
50	遺物包含地	鹿沼1遺跡	縄文早期	
51	遺物包含地	厚和1遺跡	縄文中期、アイヌ期	
52	遺物包含地	鹿沼3遺跡	縄文中・晩期	
53	遺穴遺構	厚真13遺跡	縄文早期	1980
54	遺物包含地	本郷3遺跡	縄文時代	
55	遺物包含地	高丘11遺跡	縄文晩期	
56	遺物包含地	高丘12遺跡	縄文時代	
57	墳墓	幌内5遺跡	縄文前期、近世アイヌ期	2009
58	遺穴遺構	豊沢4遺跡	縄文早・後期	
59	遺物包含地	厚和2遺跡	縄文中期	
60	遺物包含地	厚和3遺跡	縄文後期	
61	遺物包含地	厚和4遺跡	縄文中期	
62	遺物包含地	鹿沼4遺跡	縄文時代	
63	遺物包含地	厚和5遺跡	縄文時代	
64	遺物包含地	新町2遺跡	縄文後期	
65	遺物包含地	鹿沼5遺跡	縄文後期	
66	遺物包含地	厚和6遺跡	縄文前期	
67	遺物包含地	浜厚真2遺跡	縄文早期	
68	遺穴遺構	鰹沼2遺跡	縄文時代	1999・2000
69	遺物包含地	豊丘遺跡	縄文前期	
70	集落跡	厚和7遺跡	縄文後期	
71	集落跡	豊川1遺跡	縄文中～後期	2000
72	遺穴遺構	浜厚真3遺跡	縄文早・後期	2002
73	遺物包含地	ニタッポロ沢遺跡	縄文後・晩期	
74	遺物包含地	幌里神社遺跡	縄文時代	
75	遺穴遺構	入鹿別沼遺跡	縄文中期	
76	遺穴遺構	幌里3遺跡	縄文時代	
77	**集落跡・墳墓**	**オニキシベ2遺跡**	**縄文中・後期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期**	**2007・08**
78	集落跡	オニキシベ3遺跡	縄文早・中・後期	2014・16
79	集落跡・墳墓	上幌内モイ遺跡	旧石器、縄文早・中～晩期、続縄文期、擦文期、中近世アイヌ期	2004・07
80	遺穴遺構	一里沢遺跡	縄文早～後期、擦文期、アイヌ期、	2014
81	集落跡	ショロマ1遺跡	縄文早～後期、擦文期、中世アイヌ期	2013・16
82	遺物包含地	東ニタッポロ1遺跡	縄文中・晩期	
83	遺物包含地	東ニタッポロ2遺跡	縄文中・晩期	
84	遺物包含地	浜厚真4遺跡	縄文中期	
85	集落跡	鰹沼3遺跡	縄文前～後期	2006・07
86	遺物包含地	鰹沼4遺跡	縄文後期	
87	遺物包含地	イクパンドユクチセ遺跡	縄文後期	
88	集落跡	厚幌2遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、中世アイヌ期	2015・17
89	集落跡	オニキシベ4遺跡	縄文早・中～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2012
90	集落跡	オニキシベ5遺跡	縄文中期・後期	2010・11
91	集落跡・墳墓	上幌内2遺跡	縄文早～後期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2014・16
92	集落跡	ショロマ2遺跡	縄文前～後期	2013・14

表Ⅰ-5 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2)

登載番号	種別	名称	時代	発掘調査年度
93	遺穴遺構	幌里4遺跡	縄文時代	
94	集落跡	厚和8遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、中世アイヌ文化期	
95	遺物包含地	厚和9遺跡	縄文中期	
96	遺物包含地	鹿沼6遺跡	縄文時代	
97	遺物包含地	豊川2遺跡	続縄文期、擦文期	
98	集落跡	幌内6遺跡	縄文前～晩期、擦文期、中世アイヌ期	2015
99	集落跡	鹿沼7遺跡	縄文早～晩期	
100	チャシ跡	ワチャウセナイチャシ跡	中世アイヌ期	2008・10
101	集落跡	ワチャウセナイ遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2008・12
102	遺物包含地	吉野1遺跡	縄文中・晩期	
103	集落跡・遺物包含地	幌内7遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2008・15・16
104	集落跡	ニタップナイ遺跡	縄文前～後期、続縄文期、擦文期、近世アイヌ期、近代	2007・08
105	遺物包含地	宇陸3遺跡	縄文中期	
106	遺物包蔵地	富里2遺跡	縄文後・晩期、擦文期、近世アイヌ期	2009
107	集落跡・遺物包蔵地	オコッコ1遺跡	縄文前～後期、続縄文期、擦文期、中世アイヌ期	2015・16
108	遺物包含地	軽舞2遺跡	縄文前期、続縄文期	
109	集落跡	豊沢5遺跡	縄文後・晩期	2016
110	遺物包含地	厚和10遺跡	縄文早・中・後期	
111	貝穴遺構・遺物包含地	豊丘2遺跡	縄文早期	2017
112	遺物包蔵地	豊丘3遺跡	縄文中期	
113	遺物包蔵地	東和2遺跡	縄文晩期	
114	遺物包含地	浜厚真5遺跡	縄文後期	
115	遺物包蔵地	豊沢6遺跡	縄文早・中・後期	
116	遺物包蔵地	東和3遺跡	縄文早期	
117	遺物包含地	桜丘2遺跡	縄文中期	
118	貝穴遺構	オニキシベ6遺跡	縄文前～晩期、続縄文期、擦文期	2012
119	貝穴遺構	イクパンドュクチセ2遺跡	縄文中・後期	2013
120	集落跡・遺物包含地	イクパンドュクチセ3遺跡	縄文早・中・後期、擦文期、中世アイヌ期	2013
121	墳墓・遺物包含地	ショロマ3遺跡	縄文早～後期、続縄文期、擦文期	2013
122	集落跡	ショロマ4遺跡	縄文早・中・後期、縄文文化期擦文期、中世アイヌ期	2014
123	集落跡・墳墓	上幌内3遺跡	縄文早～後期、続縄文期、擦文期、中・近世アイヌ期	2013・14
124	集落跡	上幌内4遺跡	縄文早～後期、中世アイヌ期	2014・16
125	集落跡・貝穴遺構	上幌内5遺跡	縄文中・後期	2013・15・16
126	遺物包含地	豊沢7遺跡	縄文中・後期	
127	遺物包含地	豊沢8遺跡	縄文後期	
128	遺物包含地	ヲイカルマイ遺跡	続縄文期、擦文期、中・近世アイヌ期、近代	2010・11
129	遺物包含地	長沼1遺跡	縄文早期	
130	遺物包含地	長沼2遺跡	縄文中期	
131	遺物包含地	高丘13遺跡	縄文前期、擦文期	
132	遺物包含地	上野1遺跡	縄文中期	
133	貝穴遺構	富里3遺跡	縄文中・晩期、アイヌ期	2015
134	遺物包含地	豊川3遺跡	縄文晩期	
135	遺物包含地	三ヶ月沼遺跡	縄文晩期	
136	集落跡	幌内8遺跡	縄文早～晩期、続縄文期、中世アイヌ期	2018・19
137	遺物包含地	豊沢9遺跡	縄文時代	
138	貝穴遺構	鯉沼5遺跡	縄文時代	
139	遺物包含地	豊沢10遺跡	縄文後・晩期	2017
140	貝穴遺構	厚和11遺跡	縄文時代	
141	貝穴遺構	厚和12遺跡	縄文時代	
142	遺物包含地	軽舞3遺跡	縄文早・中・後期、擦文期	
143	遺物包含地	ニタッポロ沢2遺跡	縄文中期	
144	遺物包含地	幌里5遺跡	縄文中期	

b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センターの大規模な行政発掘「苫東調査」（昭和 48～54 年）

昭和 48 年（1973 年）から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、昭和 59 年（1984 年）までの 12 年間で厚真町域では新規登載 14 遺跡、調査着手 11 遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。昭和 51 年調査の厚真 1 遺跡(苫教委 1986)は、この地域で初めてのＴピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真 1 式土器」（赤石 1999）の標識遺跡でもある。厚真 7 遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居址 8 軒の他、石狩川中流域で数多く出土する丸のみ形石斧も出土している（苫教委 1987）。また共和遺跡では苫東地区内で唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居址 2 軒が調査された(苫教委 1987)。これらの成果は苫小牧市教育委員会により『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』として報告書が刊行され（苫教委 1986・1987・1990・1992）、整理・報告後の出土遺物等は平成 13 年に町教委へ返却・保管された。なお厚真町における道教委の「埋蔵文化財包蔵地資料整備の一般分布調査」は、昭和 54 年（1979 年）9 月行われ、52 遺跡の包蔵地カードが作成されている。

c．開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始（平成 10 年以降）

近年は火山灰採取などの開発に伴う試掘調査や工事立会調査が増加し、道教委による豊川１遺跡(町教委 2001)、鯉沼２遺跡(町教委 2001)、鯉沼３遺跡(町教委 2005･2006b･2008)などの調査が行われた。（財)北海道埋蔵文化財センター（以下、道埋文）による高規格道路日高自動車道の建設に伴う浜厚真３遺跡の調査では､187 基のＴピットが検出されている(道埋文 2003)。これらの調査結果では、縄文時代中期後葉以前にＴピットが数多く構築されていることが分かり、周囲には比較的規模の大きい集落跡の存在が想定できる。

平成 12 年（2000 年）には北海道室蘭土木現業所より厚幌ダム建設事業に係る埋蔵文化財保護の事前協議書が提出され所在踏査や試掘調査が開始された。発掘調査は平成 14 年度の厚幌１遺跡（町教委 2004）から町教委によって継続的に行われ、平成 24 年から道埋文センターも調査を実施している。厚幌ダム湛水区域内及び付随する切替道路の発掘調査は平成 28 年度までの 15 年間にわたって実施され、調査地点 22 遺跡、調査面積は約 199,875 ㎡に及んでいる。

平成 15 年(2003 年)には総延長 24.5km に及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が提出され、平成 19 年度からは厚真川中流域富里地区のニタップナイ遺跡（町教委 2009b）を最初の調査として、平成 30 年度までの 8 年間に道埋文も調査主体となり 14 遺跡、23,935 ㎡の発掘調査が実施された。

これらの大規模開発に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成 30 年度まで継続され、平成 14 年度以降の厚幌ダム、厚幌導水路関連、道道改良工事等の埋蔵文化財発掘調査は合計で 42 遺跡、工事立会を含め 233,236 ㎡となる。旧石器時代、縄文時代、続縄文文化期、擦文文化期、中世アイヌ文化期、近世アイヌ文化期、近代に至るまで各時期において、国内外の様々な要素に関連する注目すべき情報が数多く得られている。

(2)歴史時代

厚真周辺の記録として、1643(寛永 20)年に編纂された北海道最古の文書とされる『新羅之記録』（松前 1643）によると「松前以東は阪川（ムカワ）西は奥依地（ヨイチ）迄人間往古する事、右大将頓朝卿進発して奥州の泰衡を追討し御ひし節、糠部津軽より人多く此国に逃げ渡って居住す。」とあり 12 世紀末葉には本州東北地方の和人が厚真周辺域まで進出していたことが伺われる。考古学的成果でも、生産年代が 12 世紀中葉から後葉にかけての愛知県常滑窯の壺形陶器が宇隆１遺跡から出土しているほか、12 世紀中葉の京都を産地とする秋草双鳥鏡が上幌内２遺跡で出土している。この前後の 11 世紀の佐波理鉢（上幌内モイ遺跡、ショロマ４遺跡）や 13 世紀から 14 世紀前半の中世都市鎌倉に由来するスタンプ文漆器（オニキシベ２遺跡）が厚真川上流域で出土しており、密接な関係が立証されている地域でもある。

厚真町とほぼ特定できる最初の記述は、1692(元禄 5)年に書かれた『蝦夷記』（野澤 1692)にシャクシャインの戦い(1669・寛文 9 年)に関連して「於多久具印住處阿津摩ニテ討取ル」とある。関連するものとして厚真町中部に位置する桜丘チャシ跡が想定されていたが、平成 21 年度のトレンチ調査で構築面は樽前ｂテフラより下層で 1～2cm 程度黒色土を被覆しており、より古い中世アイヌ文化期のチャシ跡であることが判明している。この時期の遺跡は厚真川上中流域の発掘調査で多数の遺構遺物が検出されており、関連性が伺われる。

これ以降の記録として、1700 年の『松前家臣支配所持名前帳』には鳥屋支配所として「志古

津ノ阿津満」と記され、2ヵ所の鷹打場が設けられている。シャクシャインの戦いに係わる『津軽一統志』（相坂兵右衛門 1731）には「あつまへつ～川有、戸田義兵衛　商場」と記されているが、産物や周辺のコタンについてなどの記述は見られない。1739 年頃に成立した『蝦夷商賣聞書』には義経伝説を交えた記述の中に「右之山奥ニアツマト申所ニ城跡ト申而松柏之古木沢山ニ繁リテアリ～」や 1785 年の「三国通覧図説蝦夷国全図」に「アヅマ」と記載があり、注記に「鬼ヒンノ出処」と記されている（林子平 1785）。また、寛政から文化年間（18 世紀末～19 世紀初）の『東蝦夷地道中記』（1791）や『蝦夷記行』（谷元旦 1799）、『拾遺北日本地図全図蝦夷地出産交通略図』などの紀行文や古地図には僅かな記述にすぎず、1800 年に八王子千人同心等、数名の和人が浜厚真に移り住むが、一冬で全員が病死する悲壮な状況が知られている。近世アツマ場所や明治期の産物として干鮭や椎茸、シナ縄、鹿皮が挙げられているが、詳細な記述はなく、以降の紀行文や測量日誌にも交通路であった勇払と鵡川間の厚真川河口周辺の簡単な記述に留まっている。本町の和人定住者として、明治 3 年（1870 年）に新潟県人の青木与八が厚真川河口のアツマコタンのアイヌ民族と共生し、渡船場を開業したことが始めとされている（厚真村 1956）。

内陸部までの詳述は、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』（松浦・吉田 1962、松浦・秋葉他 1985）で、蝦夷地探検の 6 回目にあたる安政 5 年（1857 年）6 月に苫小牧市勇払から厚真川河口を経てトンニカ（現富里）にて 3 泊している。町内には 6 ヵ所のコタンが記録され、比較的規模の大きいコタンでは粟、稗、隠元、蕪などの畑作が盛んに行われているが、直前に襲った厚真川の洪水によって、畑地のほとんどが流出したことも記され、かつてより氾濫の多い河川であったことが伺える。宿泊したトンニカコタンのイカシユ（乙名板蔵）の家中について「西同所の土人等とは大に違ひ、凡行器の三十も有、耳盥の七ツ八ツ、筐の弐ツ計、蝦夷太刀の二十五六振も懸、また此余短刀の七八本も有るよし語りけるなり。」（松浦・秋葉他 1985）とあり漆器や刀剣類の宝物が多く、その裕福な文化に驚いている。しかし、訪れた各コタンは老人、婦女子、病人ばかりで、健康な者は皆「雇いに出されており」と記され、疲弊した状況を記録している。北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授　蓑島栄紀氏は、これらの松浦武四郎の記録から古交通路について論じており、トニカコタンの記述や上流域の上幌内モイ遺跡の搬入系遺物の出土量から鵡川水系や夕張水系へのルートの存在について述べている（蓑島 2005）。

明治維新後、廃藩置県までは高知藩所管の時代があり、明治 6 年（1873 年）以降に開拓使苫小牧出張所や勇払郡役所の所管となる。現在の厚真町が行政単位として独立したのは明治 30 年（1897 年）に苫小牧外 6 ヶ村から分離独立し、厚真村戸長役場が現桜丘地区の専厚寺境内に設置されたことによる。

内陸部の和人開拓は明治 20 年代からで、ほぼ同時期に手掘りによる石油掘削も始めら、明治 21 年には北海道庁から農事指導員が派遣され西老軽舞（現吉野地区）へ集住させられたアイヌ民族への勧農政策も実施されている。1892 年（明治 25 年）には現在の安平町に鉄道室蘭本線が開通し、近隣である厚真の内陸部も開拓移住者が急激に増加した。これらは明治 19 年の国有未開地の開放によって北海道開拓の促進を図る「北海道土地払下規則」が制定されたことにもよる。以後、開拓移住者の増加が続き現在の農業の町厚真の礎が確立されていくとともに、厚真の中心部も厚真川河口部から中流域へと変遷していく。

2. 遺跡の位置と周辺の環境

A　地理的環境

幌内８遺跡が所在する幌内地区はアイヌ語の「ポロ・ナイ」を語源とし、「親である・沢」、「大きい・沢」の意という（厚真村 1956）。支流の中でもっと大きい日高幌内川を指しているものと思われる。この地区は厚真川中下流域に広がる沖積低地の最奥部にあたり、厚真川が北北東から流下し、西北西へほぼ直角に流路を変えている。また支流オコッコ沢川、シュルク沢川、日高幌内川が合流しており、周囲は標高約 150～250mの山地に囲まれ、盆地状の地形様相を示している。遺跡はこれらの河川合流部、盆地状地形のほぼ中心に位置している。なお、これより上流域となり、厚真川周辺は標高 200～500mの侵食が進み急峻な山稜を形成する壮年期地形を呈している。

遺跡は、厚真川の河口から約 28.5km、一般道道上幌内早来停車場線の幌内橋より約 180m下流の左岸に位置し、周囲は標高約 44mの沖積低地（現在は水田）で、標高約 46.5mの独立丘状の河岸段丘上に形成されている。極めて特徴的な景観で、河川合流部に多くみられる残丘地形のひとつと思われる。

なお、シュルク沢川は安政５年（1857 年）に松浦武四郎が鵡川流域の毛似湧川へ抜けたルートでもあり、厚真川本流はむかわ町穂別地区や豊田地区、夕張市滝ノ上地区へも通じ、幌内８遺跡周辺は内陸ルートの要衝といえる地区でもある。明治時代以降の近代においても、森林資源の集積地ともなった地区でもある。現在では、厚真川上流域左岸のメルクンナイ沢川から鵡川流域穂別地区の鵡川支流オビラルカ川沿いの一般道道北進平取線（2020 年１月現在は震災により通行不可能）のルート上にもあたる。

B　周辺の遺跡

幌内８遺跡周辺には、縄文時代から中世アイヌ文化期までの時期にわたる４遺跡が所在する（図Ⅰ-5）。この地区において大正時代から知られる遺跡として幌内神社境内の幌内遺跡（J-13-7）があり、神社建立の用地造成の際に遺物が出土していたものと思われる。遺跡は厚真川と日高幌内川の合流点に突き出す河岸段丘先端部に立地し、幌内８遺跡からは東北東へ約 520mの位置にある。文献としては昭和 31 年（1956 年）発行の「厚真村古代史」（厚真村郷土研究会 1956）の中に遺跡番号 14 として紹介されており、隣接地から出土した円筒上層式土器が掲載されている。

近年の調査例では幌内７遺跡（J-13-103）とオコッコ１遺跡（J-13-107）があり、いずれも厚幌導水路建設に伴う発掘調査が実施されている（町教委 2010、道埋文 2017･2019）。

幌内７遺跡は、幌内８遺跡より西へ約 720m、標高約 58mの厚真川左岸の河岸段丘上に立地しており、平成 20 年（2008 年）に町教委、平成 27･28 年（2015･16 年）に道埋文によって発掘調査が実施された。縄文時代晩期中葉の土坑や焼土のほか、赤色塗彩の大洞系土器や黒曜石棒状原石、東旭川産の安山岩を用いたスクレイパーなどの当該期を特徴づける遺物一式が出土している。また続縄文文化期終末期から擦文文化期初期の北大式期の焼土、擦文文化期終末期の土坑や焼土、土器片集中などを検出している。中世アイヌ文化期では 13～14 世紀の平地式住居跡１軒、建物跡３軒のほか、内耳鉄鍋や鉤状鉄製品などの遺物も出土している。このほか 16 世紀中葉の道路１条が河岸段丘縁辺部に並行して延長約 66mにわたって検出されている（町

教委 2010、道埋文 2017）。

オコッコ１遺跡は、幌内８遺跡より西南西に約 500mの厚真川とオコッコ沢川の合流点に突き出した標高約 60mの半島状の河岸段丘上に立地している。平成 27･28 年（2015･16 年）に道埋文によって発掘調査された（道埋文 2017･2019）。平成 19 年に道教委による試掘調査が実施され、縄文時代前期前葉の盛土遺構が確認されていた。発掘調査では静内中野式期の盛土遺構 2 列とその供給源となる削平部が中央に検出された。盛土遺構からは多量の土器や石器類（特に磨製石斧類）、被熱礫、焼骨片が出土しており、当該期の竪穴住居跡 5 軒や人骨を伴う土坑墓 2 基、土坑、柱穴状小土坑などを検出している。盛土遺構は、これまで縄文時代前期中葉や後期の検出例が多く、当該期の本格的な調査例としては千歳市美々貝塚北遺跡（千教委 2005）に続くものであり重要な成果と思われる。また主体的に出土している前期前半の土器の胎土分析と検討を積極的に実施し、蛇紋岩･滑石を含む粘土素地を遺跡内に持ち込み、即時的な土器製作を行っているとの調査結果や石斧製作工程、北海道式石冠の変遷過程などの考察も提言された。このほか、擦文文化期後期の平地式住居跡 4 軒、礫集中などが検出されている。また中世アイヌ文化期の金属製品もややまとまって出土している。

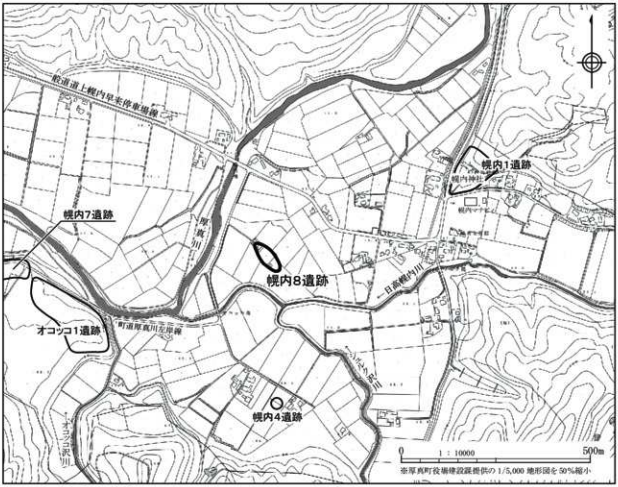
幌内４遺跡（J-13-38）は幌内８遺跡から南へ 390mの沖積低地（自然堤防上）に位置する。昭和 54 年（1977 年）の道教委による一般分布調査で登載された包蔵地であるが、記載には土器片が出土していること以外の詳細はなく、平成 24 年の試掘調査においても、遺物包含層は確認できなかった。地元住民からは、本地点より南西へ約 150mの河岸段丘を切り土造成した際に遺物が出土したとの情報を得ていることから、この地点からの客土による混入遺物の可能性もある。

3. 調査区の地形と地質

幌内８遺跡は前述のとおり、河川合流部の沖積低地のほぼ中心に形成された残丘地形の独立丘に立地している。戦後の宅地や農地造成によって本来の地形は遺失しているが、北西－南東を長軸に約 80m、短軸約 40mの楕円形状の独立丘であったものと推定される。調査区内では南東部から西側にかけて、樽前ｂテフラを確認しており、残丘の南東部分のうち、特に北東斜面が残存している。調査区内の地形としては、本来の地形が残存しているⅢ層上面の微地形では、残丘頂部のほぼ平坦面を呈しているが、標高 46.4mを最高値に南西方向へ僅かに傾斜している。この傾斜方向は概ね厚真川や日高幌内川の上流から下流方向への河川傾斜に符合し、河岸段丘の特徴を見出すことができる。

本遺跡の地質的様相は、以下に表層から記述していく。調査区は近代以降の耕作によって本来の表土層は撹拌されており、全面を覆うⅡ層･樽前ｂテフラ（1667 年降下）の上位もこの影響を受け、残存層厚は約 5cm 程度であった。この直下には有珠ｂテフラ（1663 年降下）が厚さ数ミリで堆積しているはずだが、今回の調査では確認できていない。独立丘であることから風食作用と同じ現象によって遺失している可能性がある。

Ⅲ層とした黒色腐植土は、これまでの厚幌ダム関連調査と同様に上層の樽前ｂテフラや下層の樽前ｃテフラとの混合比率によって上層からａ～ｃに分層した。主にⅢb 層とⅢc 層から遺構遺物を検出しており、それぞれ中世アイヌ文化期と続縄文文化期の遺物包含層である。また、Ⅲｂ層とⅢｃ層との境界付近には白頭山苫小牧テフラ（946 年降下）が倒木の窪みなどにおい



図Ⅰ-5　幌内８遺跡周辺地形図

て部分的に検出している。粒度淘汰が非常に良好なアッシュ状のテフラで、顕微鏡観察で火山ガラスを見ることができる。

Ⅳ層・樽前ｃテフラは粒径 1mm 前後のパミスで、層厚約 10cm を測る。約 2,500 年前の縄文時代晩期中葉に降下した火山灰で、c1～c3 まで細分されているうちの樽前 c2 テフラに相当する。

Ｖ層・黒色腐植土は Ⅲ層と同じく樽前ｃテフラや下層の樽前ｄテフラとの混合比率によって上層からａ～ｃに分層した。今回はＶb 層中位（ＶbM）からの出土遺物が多く、縄文時代中期後葉の包含層に相当する。後期前葉の遺物は概ねＶb 層上位（ＶbU）からの出土であった。

Ⅵ層は上層のＶ層黒色土と下層の樽前ｄテフラⅦ層との漸移層で、樽前 d1 テフラとの混合が進んでいる。これまでの厚幌ダム関連等の調査からも縄文時代早期の遺物包含層に相当する。

これまで継続的に実施してきた厚幌ダム湛水区域内での発掘調査では、遺跡が主体的に形成されている河岸段丘 T_2 面において本来Ⅶ層とする樽前ｄテフラを基質とする水成二次堆積層が発達している。しかし本遺跡は、より上位の河岸段丘 T_3 面に形成されており樽前ｄテフラ降下以前に完全に離水していることから二次堆積層が欠落している。このため本報告書ではⅦ層の表記は一切ない。

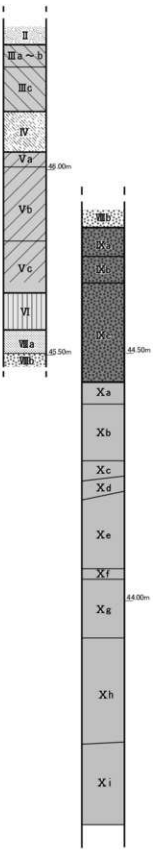
樽前ｄテフラ降下堆積層（約 8,000～9,000 年前降下）をⅧ層とした。テフラはスコリア質の樽前 d1 と発泡の良い軽石質の樽前 d2 テフラとに分層でき、それぞれⅧa とⅧb 層とした。

発掘調査現場での堆積状況としてⅧa 層の樽前 d1 は 5cm 前後の層厚で確認でき、岩相で空隙があるため断面検出後、数時間で乾燥し、色調が白色化するため容易に区別ができる。ただし、厚幌ダム湛水区域内の調査では再堆積Ⅶ層を被覆する場合は層厚約 10cm で暗緑灰色から青灰色のスコリアの単純層で確認できるが、本遺跡ではⅧa 層の上層の漸移層Ⅵ層の混入により風化している可能性がある。下層のⅧb 層の樽前 d2 テフラは層厚が 60～70cm で、概ね上位は赤褐色で、下位は灰黄褐色を呈している。発泡度が高いパミスであることからその空隙は保水性が高い。また本層中には不規則不整合に灰白色化した極めて軟質の風化粘性土が発達している。この成因については不明な点が多いものの、樽前 d テフラが厚く堆積する苫小牧市美沢地区や千歳市美々地区では観察できず、厚真町内でも中部の美里地区ではほぼ形成されず、より北部の幌里地区で発達している露頭がある。またこの風化粘性土はこれまでの発掘調査において、T ピット壁面や坑底面の逆茂木跡周囲、現生の木の根の周囲に発達していることが多く見受けられる。これらのことから雨水や地下水などの水分供給と厚真町の山間部における寒冷地気候による凍結・融解による風化作用によって生じたものと推定される。北海道胆振東部地震における斜面崩壊の要因にはこの樽前 d2 テフラの風化、軟弱化も挙げられる。

Ⅸ層は風成堆積の可能性がある黄褐色粘土質シルト層で、a ～ c に分層した。Ⅸa 層は、僅かに黒味がかり、微細な炭化物を少量含んでいる。締まり、粘性が共に非常に強く不透水層となる。このため直上層であるⅧb 層最下位は特に保水性に富み、過去の調査においては地下水脈を形成していることが多く見受けられた。この現象も北海道胆振東部地震の土砂災害の大きな要因となり、樽前 d テフラ最下層の飽和水分が摩擦係数を減じ、いわゆる「すべり層」となったものと思われる。また、樽前 d テフラと本層との土壌密度、締まり具合ともに大きく異なることもすべり面となる要因と考えられる。なおこのⅨa 層は樽前 d テフラの直下層であり、層位的に新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）調査のⅢ黒（ⅢB）層相当と思われる。先述の寒冷気候のため、黒色腐植土が未発達である。Ⅸb 層はいわゆるソフトロームで粘性は強いが、締まりが無くボソボソとしている。Ⅸc 層はいわゆるハードロームで極度に硬く締まる。上幌内モイ遺跡の後期旧石器時代の遺物包含層に相当する堆積層。

Ⅹ層は河岸段丘堆積物である。基盤は新第三紀中新世の砂岩泥岩の互層である軽舞層と推定されるが、確認には至っていない。樽前 d テフラ基底部から約 1m 下層に段丘礫層を確認しており、これが基盤層を被覆しているものと思われる。構成礫は砂岩泥岩の扁平を基調とする亜角礫から円礫で、粗砂粒を基質としている。層状に円磨が進む恵庭 a パミスが挟在しており、この段丘面は恵庭 a テフラ降下（約 2 万年前）以降、樽前 d テフラ降下（約 8,000～9,000 年前）以前に離水したことが判る。同様な堆積層序は上幌内モイ遺跡（町教委 2006）の旧石器調査トレンチでも確認しており、恵庭 a パミスを含む水成堆積層が 14,500 年前よりも古い年代であることが判明している。なお、厚真川流域の河岸段丘面区分において、このような堆積状態は T_3 面の特徴となり、後期旧石器時代の遺物包含層が存在しうる段丘面でもある。　（乾）

〔幌内８遺跡基本土層〕



Ｏ層 ： 盛土・耕作土　近代以降の人為的作用による堆積土壌。

Ⅰ層 ： 表土　笹等の植物根が密生する土壌　層厚 10cm 前後。

Ⅱ層 ： 近世火山噴出物及び黒色砂質腐植土
　樽前ｂテフラ（Ta-b）2.5YR7/3 浅黄色　細礫質降下軽石 1667 年降下。
　層厚 20cm 前後。

Ⅲ層 ： 黒色腐植土
　新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）の調査におけるⅠ黒（ⅠB）層相当。
　ａ ； 砂質シルト 7.5YR2/1 黒色　Ⅱ層を斑状に含む。層厚 1cm 前後。
　　やや赤味あり。近世初頭遺物包含層。
　ｂ ； シルト 10YR1.7/1 黒色　やや粘性あり。層厚 6cm 前後。上位中位は中世
　　アイヌ文化期遺物包含層。下位は擦文文化期包含層。Ⅲb 層とⅢc 層との
　　層境に白頭山苫小牧火山灰（B-Tm）シルト質降下火山灰 946 年降下。部
　　分的に堆積する。
　ｃ ； 砂質シルト 10YR2/3 黒褐色　層厚 12cm 前後。樽前ｃテフラ基質。
　　擦文文化期前期～縄文晩期後半の包含層。

Ⅳ層 ： 樽前 c2 テフラ（Ta-c）10YR6/6 明黄褐色　砂質降下軽石　B.P.2,500 年前後
　　降下。層厚 10cm 前後。Ⅰ層のフォール・ユニット。

Ⅴ層 ： 黒色腐植土
　新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）調査におけるⅡ黒（ⅡB）層相当。
　ａ ； シルト 10YR3/2 黒褐色　層厚 4cm 前後。縄文晩期前半の遺物包含層。
　ｂ ； シルト 10YR1.7/1 黒色　層厚 20cm 前後。縄文中・後期の遺物包含層。
　ｃ ； シルト 10YR2/3 黒褐色　層厚 15cm 前後。縄文前・中期の遺物包含層。
　　Ta-d パミスを少量含む。

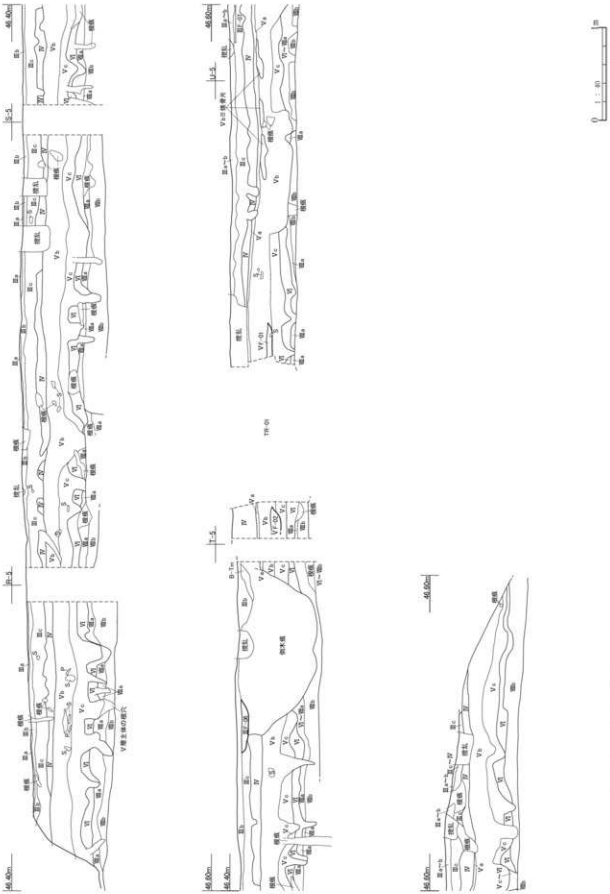
Ⅵ層 ： 漸移層　2.5YR4/6 褐色　暗褐色シルト。層厚 15cm 前後。
　　樽前 d1 テフラを基質とする。縄文早期の遺物包含層。

Ⅶ層 ： 樽前ｄテフラ（Ta-d）B.P.8,000 ～ 9,000 年降下。
　ａ ： 樽前 d1 テフラ（Ta-d1）5YR3/6 暗赤褐色　細礫質降下スコリア（φ5↓）層。
　　基質は樽前 d2 テフラのシルト。層厚 5cm 前後。
　ｂ ： 樽前 d2 テフラ（Ta-d2）5YR4/8 赤褐色　中礫質降下パミス層。
　　層厚 60cm 前後。白色に粘土化した部分が不規則に見られる。
　ｃ ： 最下位に黄褐色に沈殿化した褐鉄鉱層を残す部分も見られる。

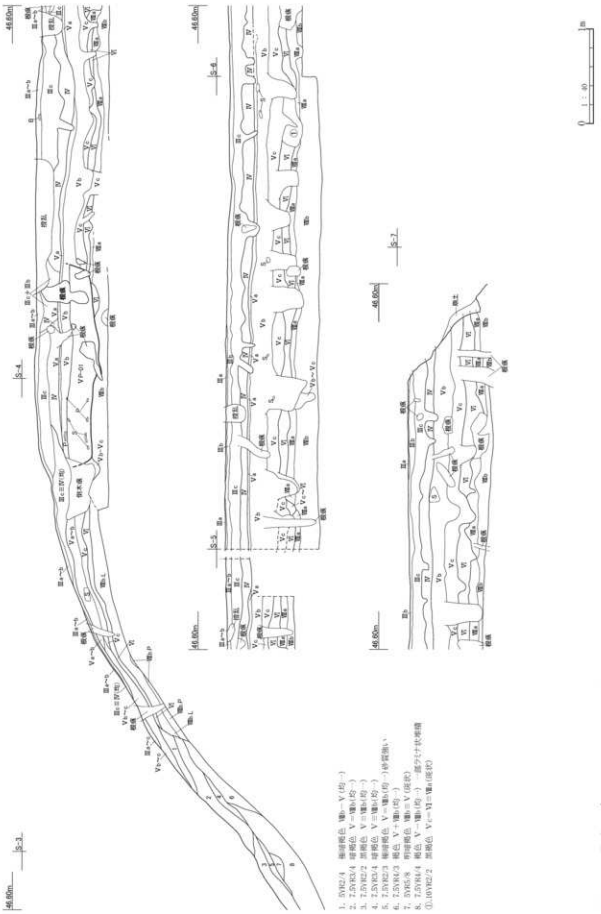
Ⅸ層 ： 黄褐色系粘土質シルトでａ～ｃに細分した。
　上幌内モイ遺跡（町教委 2006）のⅨa ～ｃ層に相当。
　ａ ： 粘土層 10YR5/4 にぶい黄褐色　炭化材極微量に含む。非常に硬く締まる。
　　新千歳空港（美沢川流域の遺跡群）調査におけるⅢ黒層相当。
　ｂ ： 粘土質シルト層 10YR6/6 明黄褐色　いわゆるソフトローム。
　ｃ ： シルト層 10YR6/4 にぶい黄橙色　炭化材を極微量に含む。
　　非常に硬く締まる。いわゆるハードローム。

Ⅹ層 ： 礫・砂～シルト・水成二次堆積の恵庭ａパミス（En-a）・風化ローム。
　河岸段丘堆積層。
　ａ ： 砂質シルト 10YR5/4 にぶい黄褐色　やや硬く締まる。
　ｂ ： 細砂＝円礫（φ5 ～ 20）2.5Y4/2 暗灰黄色。
　ｃ ： En-a 風化ローム　10YR6/8 明黄褐色。
　ｄ ： 砂・En-a パミス互層堆積　10YR4/2 灰黄褐色。
　ｅ ： En-a パミス・砂（一部互層堆積）10YR6/6 明黄褐色。
　　亜角礫（φ40↓）少量含む。
　ｆ ； En-a パミス＋砂　10YR4/4 褐色。
　ｇ ； 砂　10YR3/2 黒褐色。
　ｈ ： 砂・En-a パミス・風化ローム互層堆積　10YR4/1 褐灰色　φ50↓亜角礫含む。
　ｉ ； 粗粒砂基質の亜角礫河岸段丘礫層　10YR3/1 黒褐色。

図Ⅰ-6 基本土層柱状図



図Ⅰ-7　南東－北西（5ライン）セクション



図Ⅰ-8 北東－南西（Ｓライン）セクション

第Ⅱ章　中世アイヌ文化期の調査

本時期の遺構及び遺物はⅢ層を 2～3 cm掘り下げたⅢb 層中位で検出したものが主体である。遺構は焼土 3 ヵ所、焼土ブロック 4 ヵ所、獣骨集中 2 ヵ所、礫集中 9 ヵ所、柱穴 26 基検出した。これらの遺構は大きく 2 ヵ所に分布している（表Ⅱ-2）。

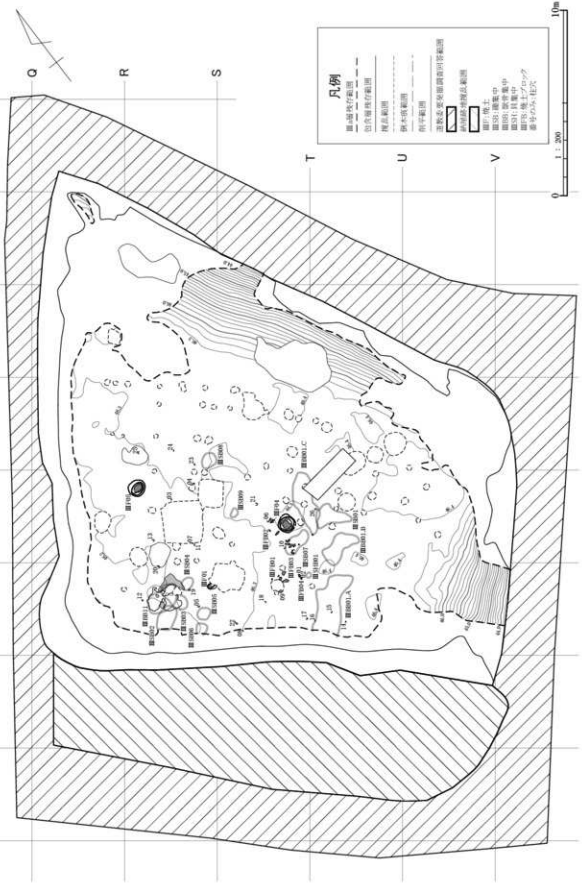
R-6 区周辺はⅢF-01 や棒状礫の集中が 4 ヵ所近接している。当初は焼土や棒状礫の分布、南東側の獣骨集中（ⅢBB-01）との位置関係から平地式住居跡を想定していたが、柱穴の配列が伴わない。ⅢBB-11 についてはⅢb 層中位でⅢc 層を含む掘り上げ土が認められⅤ層上面で遺存状態が非常に良好な未被熱獣骨の集中を確認した。プランや掘り込みについては図上で礫集中との重複関係を確認した結果、Ⅴb 層まで不整形に掘り込んだ窪みに投棄したものと考え本時期の所産であると判断した。もう 1 ヵ所は S･T-5･6 区に広がるⅢBB-01 を中心とした焼土、焼土ブロック、礫集中がまとまる地点で部分的に重複している。焼土ブロックについては、粘性があるⅢb 層や灰層ブロックが混同して散在することから、焼土から掻き出したものと思われる。

遺物は棒状礫が主体で、金属製品は刀子 1 点を含む 18 点、漆塗膜片 1 点が出土している。

（奈良）

表Ⅱ-1　アイヌ文化期遺構群一覧表

遺構名	帰属時期	グリッド	層位	備考	遺構名	帰属時期	グリッド	層位	備考
ⅢF-01	中世アイヌ文化期	R･S-6	ⅢbM		ⅢKP-18	中世アイヌ文化期	S-6	ⅢcL	
ⅢF-04	中世アイヌ文化期	S-5	ⅢcU		ⅢKP-19	中世アイヌ文化期	R-6	Ⅲc	
ⅢF-05	中世アイヌ文化期	R-6	ⅢcU		ⅢKP-20	中世アイヌ文化期	R-6	Ⅲc	
ⅢFB-01	中世アイヌ文化期	S-6	ⅢbM		ⅢKP-21	中世アイヌ文化期	S-5	ⅢcL	
ⅢFB-02	中世アイヌ文化期	S-5	ⅢbL		ⅢKP-22	中世アイヌ文化期	S-6	ⅢcL	
ⅢFB-03	中世アイヌ文化期	S-5	ⅢbM		ⅢKP-23	中世アイヌ文化期	R-4	ⅢcL	
ⅢFB-04	中世アイヌ文化期	S-6	ⅢbM		ⅢKP-24	中世アイヌ文化期	R-4	ⅢcL	
ⅢKP-01	中世アイヌ文化期	S-6	ⅢbM		ⅢKP-25	中世アイヌ文化期	R-4	ⅢcL	
ⅢKP-02	中世アイヌ文化期	S-6	ⅢbM		ⅢKP-26	中世アイヌ文化期	T-5	ⅢcL	
ⅢKP-03	中世アイヌ文化期	R-5	ⅢcL		ⅢSB-01	中世アイヌ文化期	T-5	ⅢbM	
ⅢKP-04	中世アイヌ文化期	R-5	ⅢcL		ⅢSB-02	中世アイヌ文化期	R-6	ⅢbM	
ⅢKP-05	中世アイヌ文化期	R-6	ⅢcL		ⅢSB-03	中世アイヌ文化期	R-6	ⅢbM	
ⅢKP-06	中世アイヌ文化期	S-5	ⅢcL		ⅢSB-04	中世アイヌ文化期	R-6	ⅢbM	
ⅢKP-07	中世アイヌ文化期	R-5	ⅢcL		ⅢSB-05	中世アイヌ文化期	R-6	ⅢbM	
ⅢKP-08	中世アイヌ文化期	S-6	ⅢcL		ⅢSB-06	中世アイヌ文化期	R-6	ⅢbM	
ⅢKP-09	中世アイヌ文化期	S-6	ⅢcL		ⅢSB-07	中世アイヌ文化期	S-5	ⅢbL	
ⅢKP-10	中世アイヌ文化期	S-5	ⅢcL		ⅢSB-08	中世アイヌ文化期	R-4	ⅢbL	
ⅢKP-11	中世アイヌ文化期	R-5	ⅢcL		ⅢSB-09	中世アイヌ文化期	S-5	ⅢbL	
ⅢKP-12	中世アイヌ文化期	R-6	ⅢcL		ⅢBB-01.A	中世アイヌ文化期	T-6	ⅢbM	
ⅢKP-13	中世アイヌ文化期	R-5	ⅢcL		ⅢBB-01.B	中世アイヌ文化期	T-5･6	ⅢbM	
ⅢKP-14	中世アイヌ文化期	T-6	ⅢcL		ⅢBB-01.C	中世アイヌ文化期	S･T-5	ⅢbM	
ⅢKP-15	中世アイヌ文化期	T-6	ⅢcL		ⅢBB-11	中世アイヌ文化期	R-6	ⅢcL	
ⅢKP-16	中世アイヌ文化期	T-6	ⅢcL		ⅢSHB-01	中世アイヌ文化期	S-6	ⅢbM	
ⅢKP-17	中世アイヌ文化期	S-6	ⅢcL						



図Ⅱ-1 アイヌ文化期遺構配置図

表Ⅱ-2　アイヌ文化期関連遺構一覧表

関連	遺構名	グ	層位	備考
R-6区に礫集中を中心として遺構 遺物が密集する地点。	Ⅲ -01	R S-6	Ⅲ M	灰層を伴う焼土。
	ⅢSB-02	R-6	Ⅲ M	
	ⅢSB-03	R-6	Ⅲ M	
	ⅢSB-04	R-6	Ⅲ M	
	ⅢSB-05	R-6	Ⅲ M	
	ⅢSB-06	R-6	Ⅲ M	
	ⅢBB-11	R-6	Ⅲ L	不整形な窪みに投棄された未被熱獣骨の集中。
S T-5 6区に北東-南西軸に未被熱獣骨の集中が帯状に分布する ⅢBB-01 。この獣骨集中に重複または隣接する関連遺構。	Ⅲ -04	S-5	Ⅲ U	浅い窪みに形成された焼土。
	ⅢBB-01.A	T-6	Ⅲ M	シカを中心する未被熱獣骨の集中。それぞれ密な集中ではないがA　C　　クに分かれる。
	ⅢBB-01.B	T-5 6	Ⅲ M	
	ⅢBB-01.C	S T-5	Ⅲ M	
	ⅢFB-01	S-6	Ⅲ M	焼土　　ク主体に灰層も混じる遺構。それぞれが小規模な　　クであるため、焼土から掻き出し等と思われる。
	ⅢFB-02	S-5	Ⅲ L	
	ⅢFB-03	S-5	Ⅲ M	
	ⅢFB-04	S-6	Ⅲ M	
	ⅢSB-01	T-5	Ⅲ M	
	ⅢSB-07	S-5	Ⅲ L	
	ⅢSHB-01	S-6	Ⅲ M	カ　シ　ジ　ガイの集中。

第１節　焼土・焼土ブロック

焼土の調査は平面、断面の記録の後に、灰層、焼骨片を含む土壌をフローテーション用サンプルとして適宜採取している。詳細については第Ⅴ章第１節・2 節を参照されたい。また、ⅢFB は焼土主体に灰層ブロックが混入するものや灰層等を若干含む粘性の強いⅢb 層が散在している範囲なので焼土とは区別して調査、報告するものである。

ⅢF-01（図Ⅱ-2　図版 5-1・2）

位置：R・S-6 区　規模：(32)×24.5 cm　検出層位：ⅢbM

確認・調査　調査開始時に精査した際、撹乱穴壁面で灰層を検出し、黒色土を 2～3 cm被覆していることから中世アイヌ文化期と推定した。Ⅲb 層中位で面的に精査を行い、焼骨片を含む灰層を検出したため、平面記録後に短軸で半截して断面確認を行った。断面で灰層下位に薄い被熱層を確認したためⅢF-01 を付番した。断面記録後には柱穴との位置関係確認のため被熱層のみ残して調査終了とした。

2 層灰層は約 3 cm、下位には 3 層被熱層が認められ、付帯黒色土の 4 層は明瞭に形成されている。なお、周囲に検出した柱穴は焼土に対しての配列が認められないため平地式住居跡の炉跡ではないと判断した。分布域は南西側の礫集中等に関連するものと思われる。

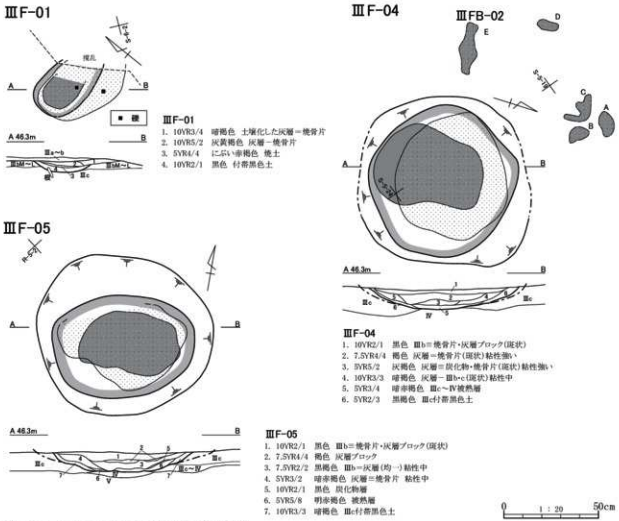
同定試料からは部位不明の哺乳類、サケ科、キビ、ブドウ科、クルミ属などが出土している。

出土遺物（図Ⅱ-10-1　図版 33-1-1）　1 はフローテーションから出土した棒状鉄製品である。先端は X 線で観察する限り尖状で、「し」の字状に湾曲し、断面は楕円形に近い。

ⅢF-04（図Ⅱ-2　図版 5-3～5）

位置：S-5 区　規模：80×75 cm　検出層位：ⅢcU

確認・調査　Ⅲc 層上位を調査中、Ⅲb 層主体の黒色円形プランを検出。トレンチで半截し、断面確認したところ灰層と被熱層が認められた。断面記録後に平面形の検出作業を行い、サンプルを採取して調査終了とした。1 層はⅢb 層で僅かに焼骨片等を含む。2～4 層の灰層は最大で約 7 cmあり焼骨片も認められる。5 層の被熱層は約 2 cmで、灰層の厚さに比べ薄い印象を受けるが、周囲にⅢFB-02・03 を検出していることから、掻き出しが行われた結果と思われる。本



図Ⅱ-2 ⅢF-01･04･05 平面及び断面図

遺構は灰層に直接Ⅲb 層を被覆し、灰層の残存状態が良好であることから浅い掘り込み内に形成された中世アイヌ文化期の所産であると考えられる。

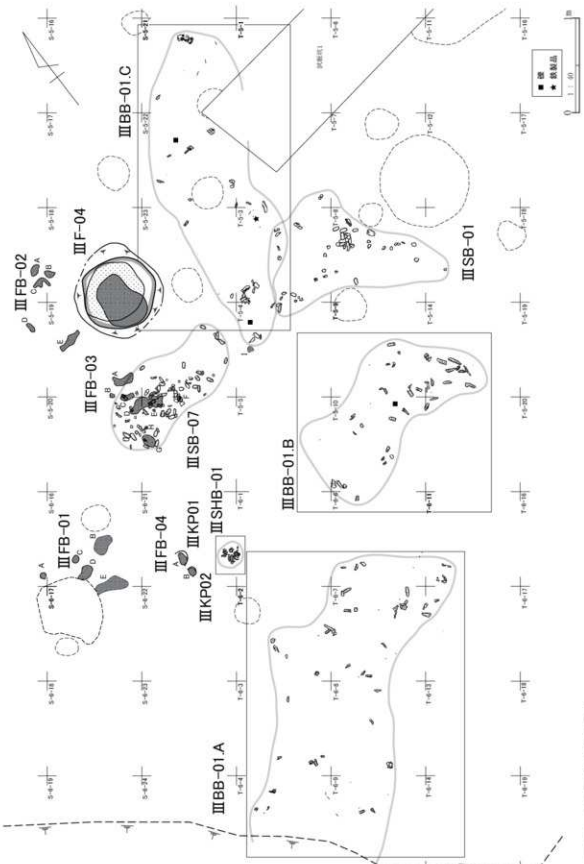
同定試料からはシカ、部位不明哺乳類、サケ科、コイ科、イトウ？、アワ、ナス科、ブドウ科、マメ科、ハギ属、クルミなどが出土している。

ⅢF-05（図Ⅱ-2　図版 5-6･7）

位置：R-5 区　規模：75×55 cm　検出層位：ⅢcU

確認・調査　ⅢF-04 と同じくⅢc 層上位でⅢb 層主体の黒色円形プランを検出。トレンチで断面確認し、堆積状態を記録後、灰層の検出を行った。平面形の記録後にサンプルを採取して調査終了とした。2～4 層は約 6 cmの灰層で、5 層は炭化物が認められる。6 層被熱層は約 1.5 cm と薄く一部は灰層がⅣ層まで到達する。被熱層の観察からⅢF-04 同様掻き出しを行っていたことが示唆できる。また、浅く掘り込んだ窪み内に形成されること、Ⅲb 層の被覆、灰層の残存状態からⅢF-04 と同様中世アイヌ文化期の所産であると考えられる。

同定試料からはシカ、サケ科、アワ、キビ、ブドウ科、キハダ属、キイチゴ属、サクラ属、クルミが出土している。



図Ⅱ-3　ⅢBB-01周辺遺構分布図

ⅢFB

ⅢBB-01 北西側に焼土を主体とするブロックが多数認められた。不整形で規模も様々でⅢb層との層境が明瞭であることから、投棄された焼土と思われる。供給源はⅢF-04と思われ、同定試料からはブドウ科、ハギ属など共通する炭化種子も出土している。ⅢFBの遺構名は調査段階で近接するものでⅢFB-01～04まで付番し、さらにアルファベットで細分した。

ⅢFB-01（図Ⅱ-4　図版5-8・6-1）

位置：S-6区　全体規模：92×54㎝　検出層位：ⅢbM

各ブロック規模　A：7×6㎝　B:22×14㎝　C:8×7㎝　D:18×10㎝　E:（33）×15㎝

A～Eの5ブロック検出した。いずれも焼土が希薄で厚さも1㎝未満であったが、最も遺存状態の良いAブロックで断面記録を行った。1層は焼土ブロック主体で粘性があることから土壌化した灰層が含まれていたと考えられる。

ⅢFB-02（図Ⅱ-4　図版6-2・3）

位置：S-5区　全体規模：96×60㎝　検出層位：ⅢbL

各ブロック規模　A：13×8㎝　B:10×7㎝　C:18×9㎝　D:11×5㎝　E:26×10㎝

ⅢF-04の北西側でA～Eの5ブロック検出。D・Eは粘性あるⅢb層で厚さも1㎝未満である。断面は比較的良好に残存するA・Cで断面記録を行った。1層はⅢb層に灰層が混入し粘性がある。2・3層は焼土主体のブロックで色調が異なる。

ⅢFB-03（図Ⅱ-4）

位置：S-5区　全体規模：85×60㎝　検出層位：ⅢbM

各ブロック規模　A：22×7㎝　B:6×4㎝　C:14×7㎝　D:38×11㎝　E:3×2㎝

F:6×5㎝　G:16×11㎝　H:4×2㎝　I:（6）×6㎝

ⅢSB-07調査中、一部礫を被覆する状態でⅢb層主体に焼土が混入する土壌を検出しⅢFBとした。平面規模が広く残存状態の良いA・C・Dの断面記録を行った。1・2層ともにⅢb層主体で焼土が僅かに混入し、粘性が認められる。Iブロックはやや離れているため図Ⅱ-3で位置関係を示している。

ⅢFB-04（図Ⅱ-4　図版7-5）

位置：S-6区　全体規模：28×8㎝　検出層位：ⅢbM

各ブロック規模　A：13×8㎝　B:10×7㎝

ⅢFB-01のやや南東側でⅢb層に若干灰層が混入する範囲を並列する位置関係で検出した。平面形の記録後に半截したところ柱穴の覆土上位にⅢFBが堆積していたため、柱穴と合わせて堆積状態の記録を行い調査終了とした。

本遺構の1層灰層を含むブロックはⅢKP-01・02の上位に堆積しているため、新旧関係ではⅢFB-04がやや新しいと思われる。（奈良）

第 2 節　杭跡

柱穴はⅢb 層下位からⅢc 層下位にかけて 26 基検出しており、殆どが覆土にⅢb 層を主体としていることから中世アイヌ文化期に帰属するものと思われる。全体には内陸側の遺構がまとまる地点に検出され、その中での分布は北西側と南東側の大きく 2 群に分けられる。

北西側　ⅢKP-03～05･07･11～13･19･20･23～25

（図Ⅱ-4　図版 7-6～11　8-3･4･11～16　9-11～14　10-3～8）

北西側には焼土を 2 ヵ所（ⅢF-01･05）検出しているが、焼土に沿って 3 基以上で直線または方形から長方形状に構成される配列は認められない。このうちⅢKP-05･19 と 04･23 は約 1m 地点で近接して検出している。深さはⅢKP-05･19 が 30cm 前後、ⅢKP-04･23 が 18cm･26cm で前者には比較的統一性がみられる。ⅢKP-03･11･20 は間隔が 2.3～2.6m で「L」字状に配列しているが、深さはそれぞれ約 20cm･30cm･39cm と規格性が認められない。またⅢKP-11 横のⅢKP-07 は撹乱穴壁面で検出したため、残存部分が少なく本来はより深い柱穴であったと思われる。ⅢKP-12･24 は上端が約 6cm 前後でⅢKP-13･25 は上端が約 9cm･12cm である。ⅢKP-13 は 03･11･20 の「L」字状配列の対角線上に検出するが、他の柱穴と規則的な位置関係は認められない。覆土はⅢKP-25 がⅢc 層主体で、それ以外はⅢb 層主体にⅢc･Ⅳ層を含む。ⅢKP-20 に含まれる焼骨片はⅢc 層に含まれる続縄文文化期の焼骨片が一部崩落したものと思われる。

南東側　ⅢKP-01･02･06･09･10･14～18･21･22･26

（図Ⅱ-4　図版 7-4･5　8-1･2･7～10　9-1～10･15･16　10-1･2･9･10）

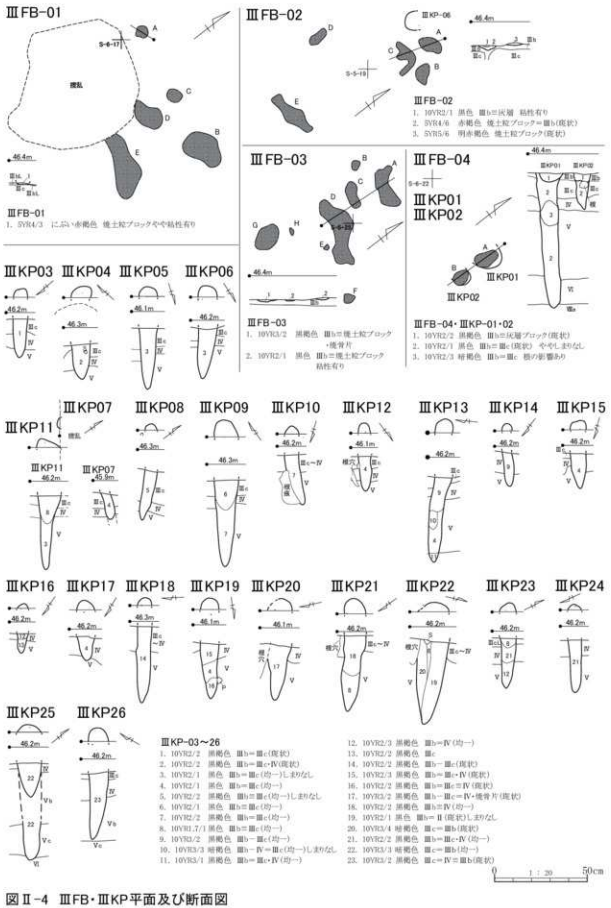
ⅢBB-01 とその周辺に分布する柱穴で、ⅢKP-01･02･06･09･10･18･21 は「L」字状に検出しているが、間隔が 1m、1.3m、1.6m と全体では規則性が認められない。このうち、1m で近接するⅢKP-09･18 は上端規模が異なるが深さは 40cm 以上ある。ⅢKP-06･21 も近接するが、06 は深さが 26cm であることから南側に直線状に位置するⅢKP-10 や 02 と規格が類似する。覆土はいずれもⅢb 層を主体としてⅢc･Ⅳ層を含む。また、ⅢKP-01 と 02 は隣接し、覆土にⅢFB-04 の 1 層が堆積していることから同時期の所産と考えられる。

ⅢFB-04 との新旧関係ではⅢKP-01･02 がやや古いと思われる。

ⅢKP-14～17 はⅢBB-01.A 周辺に分布するが、配列に規則性はみられない。ⅢKP-17 は上端が約 9cm と若干規模が異なるが、それ以外は 4～6cm で、深さ 20cm 以下と細く浅い。ⅢKP-26 はやや離れたⅢBB-01.C で検出し、上端、深さも 14～17 と異なり、覆土もⅢb 主体の 14～17 に対し 26 はⅢc 層主体である。

ⅢKP-08･22（図Ⅱ-4　図版 9-9･10　10-1･2）

これら以外にⅢKP-08･22 が約 60cm と近接して検出した。ⅢKP-08 は上端約 6cm、深さ 26cm。ⅢKP-22 は上端では確認できなかったが、断面から時間差をもって 2 本打ち込まれていたと思われる。覆土 19 層はⅡ層（Ta-b）を少量含んでいることからより新しい時期の可能性がある。この 2 基については規模や覆土が異なるため関連性はないものと思われる。（奈良）



図Ⅱ-4 ⅢFB・ⅢKP平面及び断面図

第３節　集中出土遺物

1. 獣骨集中

ⅢBB-01.A（図Ⅱ-5　図版 6-5･6）　位置：T-6 区　規模：3100×134 cm　検出層位：ⅢbM
ⅢBB-01.B（図Ⅱ-5　図版 6-7）　位置：T-5･6 区　規模：192×91 cm　検出層位：ⅢbM
ⅢBB-01.C（図Ⅱ-6　図版 7-1･2）　位置：S･T-5 区　規模：272×107 cm 検出層位：ⅢbM

確認・調査　Ⅲb 層調査中、調査区のほぼ中央南東側にシカを主体とする未被熱獣骨を検出した。範囲確認のため周囲を精査したところ南西側は削平されて不明であるが、南西-北東軸に約 8.6m×2.5m 分布が認められた。検出層位は概ねⅢb 層中位で中世アイヌ文化期の所産である。獣骨の集中域は連続しておらず一部空白地帯を生じているが、出土状態から同一の遺構と判断できるため細分で A～C ブロックに分けて記録を行った。獣骨は精査段階で酢酸ビニル樹脂（木工用ボンド）を希釈して塗布し劣化防止に努めている。調査は全体写真、個々のブロック撮影後、1 点ずつ骨番号を付して図化できる獣骨は輪郭を、微細な獣骨は位置情報のみ記録した。微細図の記録後に個別の写真、手台帳を作成し取り上げを行って調査終了とした。

ハンドピック同定試料ではシカ主体であることがわかり、A･B ブロックは四肢骨、C ブロックは四肢骨のほか下顎骨や臼歯も出土している。また、集中外であるが S-5 区にイタチ？の切歯、犬歯歯槽、下顎歯槽臼歯、裂肉歯が出土している。

出土遺物（図Ⅱ-10-2　図版 33-1-2）　2 は C ブロックから出土した帯状の板状鉄製品である。2 点接合したもので緩く湾曲し、正面左側に約 4mm の穿孔が認められ、形状から口金を打ち延ばしたものの可能性がある。

ⅢBB-11（図Ⅱ-6　図版 7-3）

位置：R-6 区　規模：166×109 cm　検出層位：ⅢcL

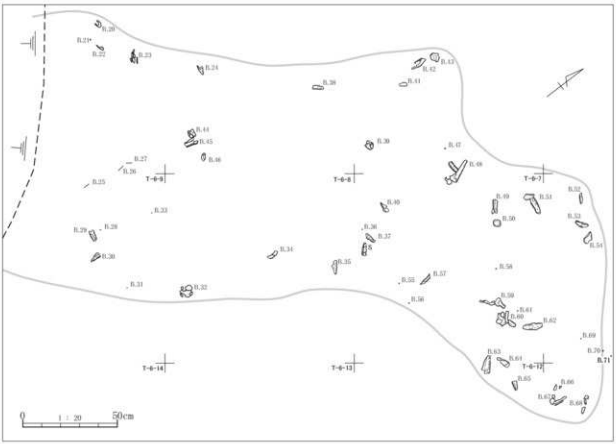
確認・調査　Ⅲb 層中位で不整形なⅢc～Ⅳ層分布範囲を確認した。断面確認からⅢb 層上に認められており掘り上げ土と思われたが、周囲からは供給源となる遺構を検出できなかったため範囲のみ記録した。面的に調査していくとⅢc 層下位でⅢb 層の不整形プランを検出した。当初は根痕の影響で獣骨が下位に押し込まれたと考えていたが、Ⅴ層上面で未被熱獣骨がまとまって出土したことから、不整形に掘り込まれた窪みに投棄された獣骨集中であると判断した。調査はⅢBB-01 と同じく全体の撮影後に骨番号を付し、取り上げを行って調査終了とした。本遺構の獣骨を図上で掘り上げ土との位置関係を確認すると概ね図Ⅱ-6 のようになり、Ⅲb 層中位で確認したⅢc～Ⅳ層は掘り上げ土であったということが確認できたため、Ⅱ章で掲載している。

ハンドピック試料の殆どは遺存状態が良好で、獣骨は部位不明の哺乳類を除いてシカの大腿骨や上腕骨などの四肢骨が中心で、カット痕が認められる個体もある。　（奈良）

2. 礫集中

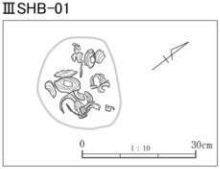
本章で掲載する礫集中はⅢb 層出土の 9 ヵ所で、大きく 2 群にまとまる（表Ⅱ-2）。記録方法については基本的に写真撮影後に光波式トータルステーションでおよそ長軸 2 cm以上の礫輪郭を記録して微細図を作成した後に遺物を取り上げ調査終了とした。

ⅢBB-01.A

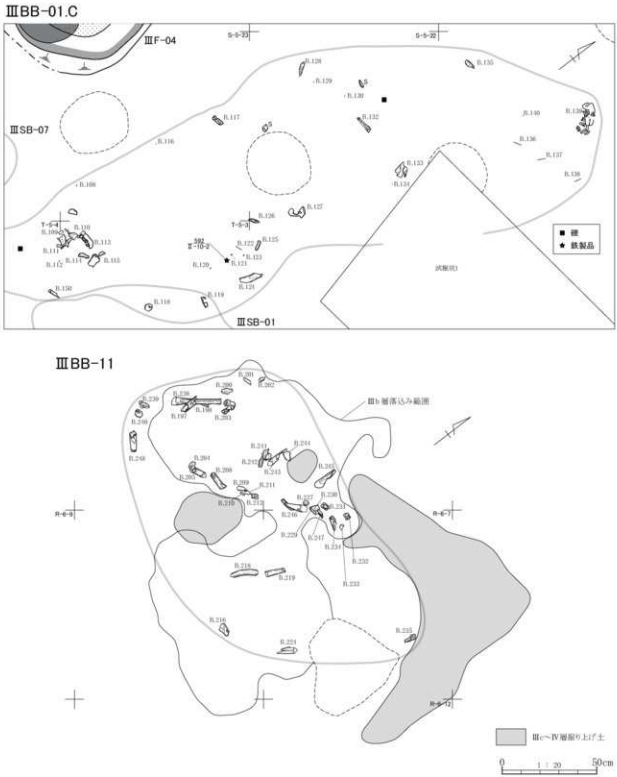


ⅢBB-01.B

ⅢSHB-01



図Ⅱ-5　ⅢBB-01.A･B･ⅢSHB-01 平面図



図Ⅱ-6　ⅢBB-01.C・ⅢBB-11 平面図

ⅢSB-01（図Ⅱ-7　図版10-12）

位置：T-5区　規模：190×110㎝　検出層位：ⅢbM

確認・調査　ⅢBB-01を精査している段階で同一レベルから棒状礫が出土した。礫の一部はⅢBB-01.B範囲内まで分布しており、数点が密集する地点とその周囲に散在する範囲で出土したため、散在する礫も含めて本礫集中とした。

出土遺物（図Ⅱ-10-3･6～12　図版33-1-1･33-2-1）　ⅢSB-01から出土した遺物は69点で、そのうち接合資料も含めて礫石器が1点、完形礫が21点である。3は滑沢面のある礫。礫の中心部と思われる平坦面を使用しており、使用面で破損している。滑沢面上に数条の短い線条痕が認められる。砂岩製である。出土礫は長軸が36.6～97.0㎜で平均値は74.5㎜。21点の完形礫の中で被熱していたのは1点、石材は砂岩が75%を占め、残りは泥岩である。

ⅢSB-02（図Ⅱ-7　図版10-13）

位置：R-6区　規模：132×86㎝　検出層位：ⅢbM

確認・調査　火山灰除去の段階で礫数点出土していたため、ベルトを設定して周囲を掘り下げた。礫はベルト断面から黒色土を2～3㎝被覆し、Ⅲb層中位を基底面にまとまりが認められたため、写真記録後にベルトを外して全体精査を行った。最も密集する地点は円形に近く、同様の形状をした棒状礫が南西側に広がりを示していたので、これらも含めて礫集中と判断した。範囲内にカワシンジュガイ数点出土しているが、殻皮のみで遺存状態は不良である。

出土遺物（図Ⅱ-10-13～36　図版33-2-2）　完形礫は76点、すべて未被熱で長軸20～111㎜と幅がある。平均値は72.8㎜。石材は74%が砂岩、その他は泥岩である。

ⅢSB-03（図Ⅱ-7　図版11-1）

位置：R-6区　規模：170×76㎝　検出層位：ⅢbM

確認・調査　ⅢSB-02の精査段階で東側に同一レベルで検出した。本集中は南北に広がり、02に比べ全体的に散逸していたため別の礫集中と判断した。

出土遺物（図Ⅱ-10-37～47　図版33-2-3）　完形礫は35点、長軸61～94㎜で平均値は74.4㎜、長短比が1.6～3.1である。被熱したものはなく、石材は29点が砂岩、泥岩5点、礫岩が1点である。

ⅢSB-04（図Ⅱ-7　図版11-2）

位置：R-6区　規模：68×54㎝　検出層位：ⅢbM

確認・調査　ⅢSB-03東側で小規模な礫集中を検出した。03との間に連続した遺物分布が認められないため別集中と判断した。検出層位はⅢb層中位であるが、垂直分布図ではⅢSB-04からⅢSB-02にかけて高低差が認められる。これは地山が南西方向に緩く傾斜しているためで出土層位の違いではないことからⅢSB-02･03は同時期の所産と思われる。また、集中内にまとまって出土するカワシンジュガイの下位にはⅢSB-04の礫が出土せず、同一層位出土であるため同時期の所産と判断できる。カワシンジュガイについては酢酸ビニル樹脂を希釈して塗布し、礫集中と同様に微細図を記録した後、可能な限り番号を付して手台帳に記入しながら取り上げた。遺存状態は殻頂部を残した状態で折り重なるように出土しているが、道具として利用した痕跡は認められない。

出土遺物（図Ⅱ-11-1～4　図版 33-2-4）　完形礫は 11 点。長軸の平均値は 73.8mm で亜角礫 1 点を除くと長軸 59.7～95.3mm でほぼ規格的な棒状礫で構成される。すべて未被熱で 2 点の泥岩以外は砂岩である。

ⅢSB-05・06（図Ⅱ-8　図版 11-3・4）

05　位置：R-6 区　規模：67×62 cm　検出層位：ⅢbM

06　位置：R-6 区　規模：（61）×58 cm　検出層位：ⅢbM

確認・調査　ⅢSB-02～04 の南東側で礫が数点出土した。ⅢSB-02 と同じくベルトを設定して周囲を掘り下げると、棒状礫を主体とする礫がまとまって出土した。断面で黒色土を 2～3 cm被覆しているため中世アイヌ文化期の所産であると判断した。ベルト除去後に分布確認したところ、棒状礫以外に扁平礫を含む集中と棒状礫のみに分かれることから、前者をⅢSB-05、後者に 06 を付番した。05 範囲内にカワシンジュガイの殻皮が少量認められるが、04 ほど遺存状態は良好ではない。このカワシンジュガイ下位にも礫が出土しておらず、同一レベルの出土であることから同時期の所産であると思われる。

出土遺物（図Ⅱ-10-4・5・図Ⅱ-11-5～20　図版 33-1-4・5　2-5・6）　4 はたたき石で破損した礫の平坦面に集中した敲打痕がある。5 はすり石で 2 点が接合したもの。折損部分に敲打痕があり、使用時に破損したと思われる角柱状礫の端部 1 破片をすり石として使用したもの。すり痕は破断面の外周を巡り中心部には及んでいない。接合面で明確な段差が認められ、破損後の礫片をすり石として利用している。どちらも砂岩製である。

ⅢSB-05 で出土した完形礫は 17 点、長軸 43.2～108.3mm で平均値は 74.8mm。すべて未被熱で、石材は 70.6%が砂岩、残りは泥岩である。

ⅢSB-06 で出土した完形礫は 31 点。長軸の平均値は 65.4mm で最小礫を除くと長軸 51.9～87.2mm で形態はまとまっている。被熱したものはなく、砂岩が 74.2%を占め他は泥岩である。

ⅢSB-07（図Ⅱ-8　図版 11-5）

位置：S-5 区　規模：156×67 cm　検出層位：ⅢbL

確認・調査　ⅢBB-01 の周辺精査で C ブロック西側に棒状礫が数点出土した。範囲確認のため周辺を確認するとⅢb 層下位で棒状礫が東西に細長く散在する状態で出土した。本遺構の検出層位はⅢb 層下位でⅢFB-03 が礫の一部に直接被覆している。出土層位は東側に検出したⅢSB-01 と垂直分布図で比較すると、ほぼ同一レベルであるため中世アイヌ文化期に帰属すると思われる。

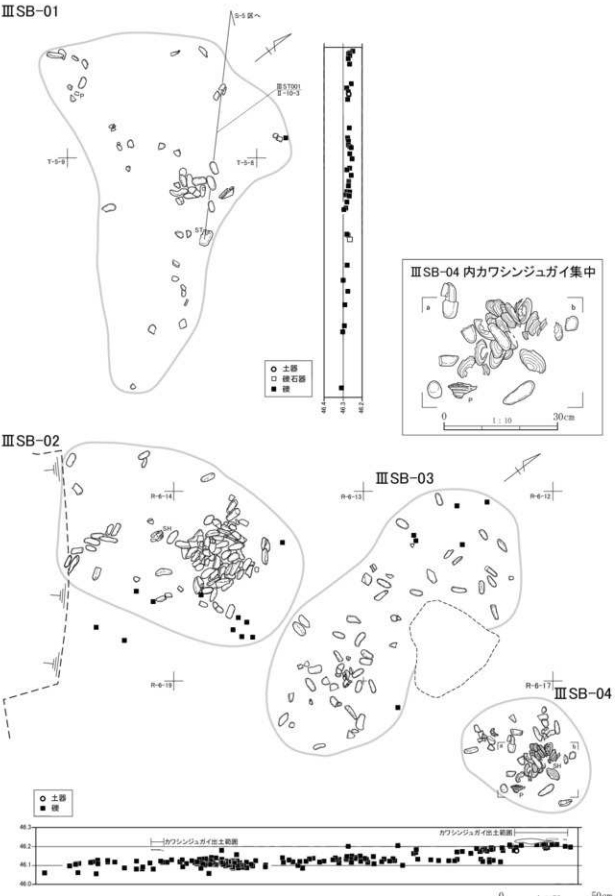
ⅢSB-07 は整理した結果、被熱礫が多く出土する。これは約 30cm 北側にⅢF-04 を検出しているため、焼土で被熱した礫をⅢFB-03 と共に投棄し、結果的にⅢSB-07 上位にⅢFB-03 が被覆したと考えられる。そのため、ⅢF-04 も含め周辺遺構は同時期の所産と思われる。

出土遺物（図Ⅱ-11-21～34　図版 34-1-7）　完形礫は 47 点である。長軸は 36.1～91.8mm で平均値は 72.1mm、63.8%の礫が被熱している。石材は 83%が砂岩で他は泥岩である。

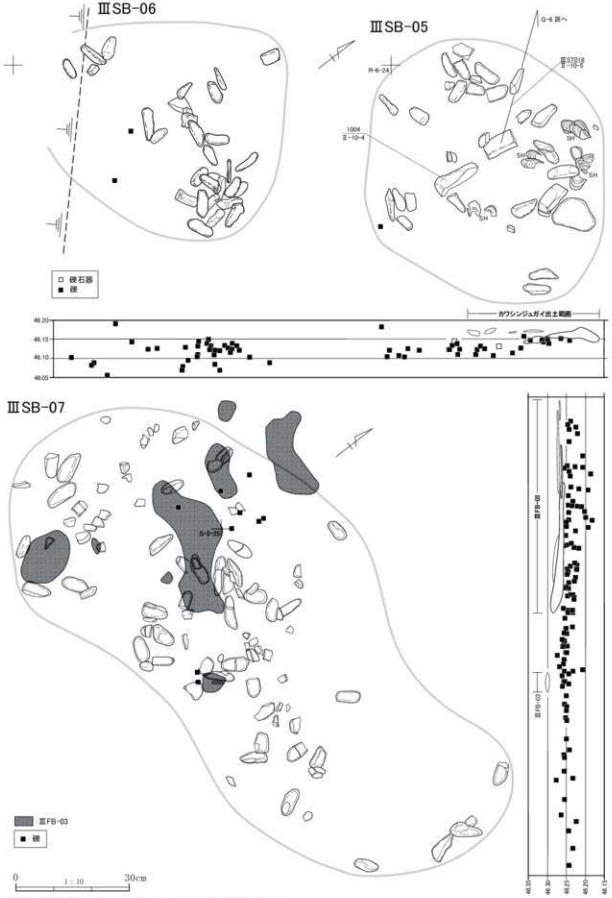
ⅢSB-08（図Ⅱ-9　図版 11-6）

位置：R-4 区　規模：90×70 cm　検出層位：ⅢbL

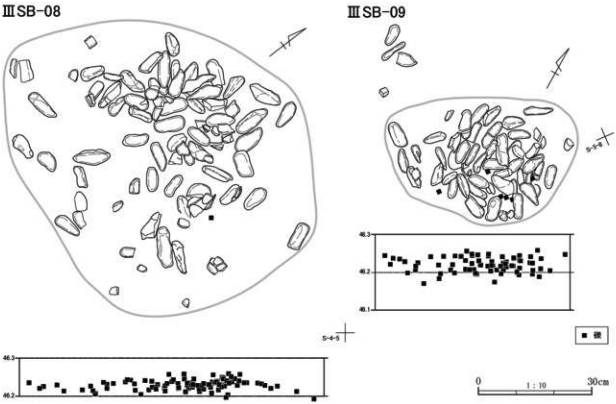
確認・調査　調査区中央やや北西側で棒状礫がまとまって出土したためⅢSB-08 を付番した。周囲にⅢb 層中位の遺物は出土しておらず、本遺構の帰属時期については整理段階で約 2.5m 南



図Ⅱ-7 ⅢSB-01 ～ 04 平面及び垂直分布図



図Ⅱ-8　ⅢSB-05 ～ 07 平面及び垂直分布図



図Ⅱ-9 ⅢSB-08･09 平面及び垂直分布図

側に検出したⅢSB-09の垂直分布と比較した。ⅢSB-09もⅢb層下位で検出しているが、周囲のⅢb層中位の遺物とレベルを比較すると1cm程度の差であったため、本遺構も中世アイヌ文化期に帰属すると考えられる。

出土遺物（図Ⅱ-11-35～50　図版34-1-2）　完形礫は53点。長軸は56.2～114.0mm、平均値は81.1mmで被熱礫は含まれていない。石材は砂岩が84.9%で他は泥岩である。

ⅢSB-09（図Ⅱ-9　図版11-7）

位置：S-5区　規模：49×33cm　検出層位：ⅢbL

確認・調査　調査区中央付近、S-5区のⅢb層下位でまとまった礫が出土した。円形に近い小規模な範囲でまとまっていたことから礫集中と判断した。ⅢbL層下位から検出しており、垂直分布でみると約8cmの高低差が認められる。礫は重なり合って出土することから、浅い窪みにまとめて投棄された可能性が考えられる。

出土遺物（図Ⅱ-12-1～15　図版34-1-3）　完形礫は50点。長軸は52.5～89.3mmで平均値は65.4mm。被熱礫はない。石材は砂岩と泥岩で砂岩が74%を占める。（奈良･出土遺物:宮崎）

3．貝集中

ⅢSHB-01（図Ⅱ-5　図版11-8）

位置：S-6区　規模：40×35cm　検出層位：ⅢbM

確認・調査　ⅢBB-01.Aに近接して小規模なカワシンジュガイ集中を検出した。集中範囲からは他の遺物は出土していないためⅢSHB-01を付番して調査を行った。殻皮はⅢSB-04と同様に酢酸ビニル樹脂を塗布して、微細図の記録後に番号ごとの取り上げを行った。本集中内には

部分的に殻頂部が残存する遺存状態が良好な部分も認められるが、殆どが殻皮であるため道具としての判別は不明である。

本遺構については、ⅢBB-01 と同様に未被熱の動物遺存体を投棄する行為が認められ、層位的にも同時期の所産である。こうしたカワシンジュガイ集中は先述したⅢSB-04・05 内にも認められ、本遺構との同時期性について肯定できる出土状態である。（奈良）

第 4 節　包含層出土遺物

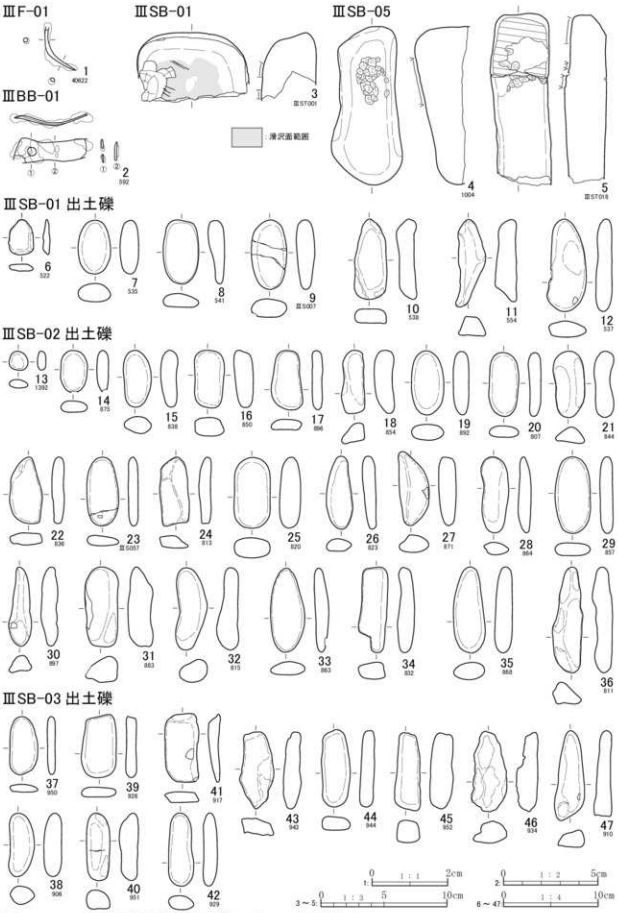
1. 礫石器（図Ⅱ-12-16～18　図版 34-2-1～3）

包含層から出土した礫石器は破片を含めて 27 点で、滑沢面のある礫 14 点、線条痕のある礫 12 点、台石 1 点で、そのうち 3 点を図示した。

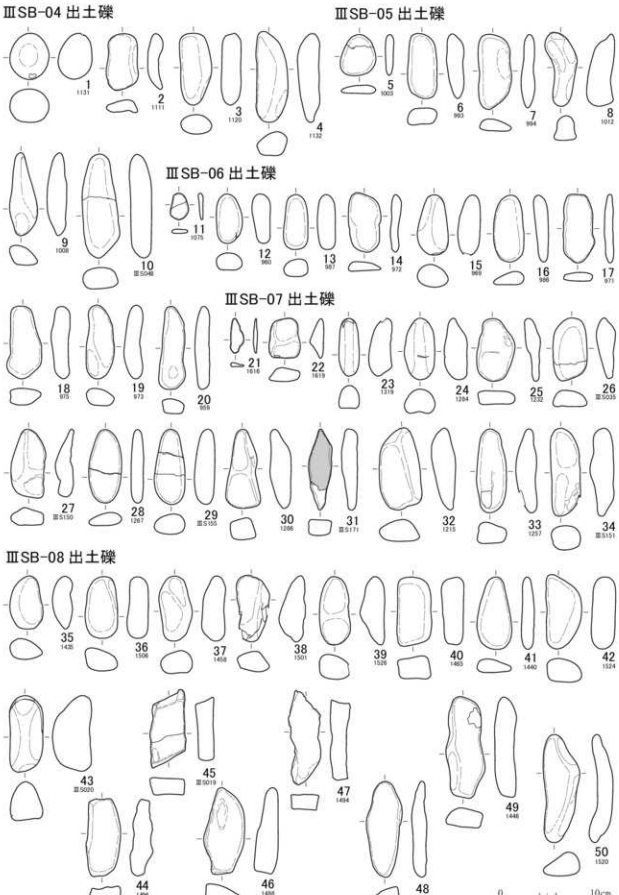
16 は滑沢面のある礫。不整形礫の平坦面の大部分を使用している。左側縁稜付近と右下に明瞭な線条痕が認められる。石材は礫岩としたが使用面は大部分が粗粒砂岩である。17 は泥岩製の線条痕のある礫である。平面形が菱形を呈した下端部付近を除く平坦面に方向が一定しない短い線条痕がある。破損後、被熱している。18 は両平坦面のほぼ全面に滑沢面が認められるが、その後の敲打痕が認められるため台石に分類した。敲打痕は明瞭だが浅く、両面と右側縁の中心に集中している。（宮崎）

2. 金属製品（図Ⅱ-12-19～34　図版 34-2-4～19）

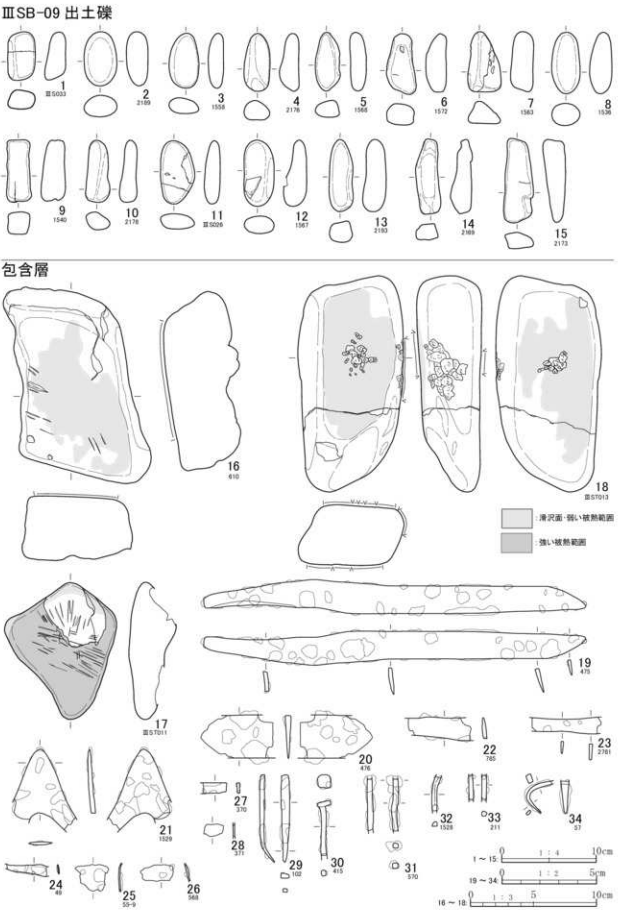
19 は刀子で刃部が目減りのためか緩やかに湾曲している。棟区は不明瞭で茎部分に向かって若干反る。茎の棟側には僅かに潰れのような厚みがあり再加工した可能性がある。目釘の痕跡は認められない。断面は棟から刃部に向かって薄くなり、切先の方が顕著である。20 は断面形より刀子片と判断したもので、両端を欠損している。正面右側の段差は錆びの付着で不明瞭だが、捻じ曲がった残りが平坦に見えている。21 は基部を欠失した無茎の鉄鏃で、基部湾入部の縁辺は角状になるため本来の形状を残していると思われる。短軸断面は薄いレンズ状で、縦断面では尖頭部に向かって薄くなる。22～28 は板状鉄製品としたもの。22～24 は両端を欠損している。22 は断面で上側に厚さを減じているが下側も部分的に薄いため本来は同様の厚さであると思われる。23 は中央がやや湾入し、断面も中央は下側に向かって薄くなる。24 は一端がすぼまる形状で、錆びのため判然としないが薄いレンズ状を呈する。25～28 は不定形な鉄片で 25・26・28 は特に薄く錆びにより断面形状が不明瞭である。27 は方形状の断面で上側にやや厚みをもつ。29～33 は棒状鉄製品。29 は一端が細く尖る。端部付近で緩く屈曲し、断面は方形を呈する。30 は釘？と思われ、頭部の上面観は隅丸方形である。胴部の断面は方形で先端部は折損している。31 は両端が欠損し、断面は角状を呈し、全体に錆び膨れが顕著でやや捻じ曲がる形状。30 と同一グリッドで、形態から同一個体の可能性がある。32 は両端欠損で全体に捻じ曲がるが、部分的に角状の稜が認められる。33 は両端欠損で断面がほぼ円形。34 は環状製品としたもので先端に向かって先細り尖る。断面は角状で屈曲していることから締め金具の可能性がある。（奈良）



図Ⅱ-10 アイヌ文化期遺構出土遺物及びⅢSB 出土礫（1）



図Ⅱ-11　アイヌ文化期ⅢSB 出土礫（2）



図Ⅱ-12 アイヌ文化期ⅢSB 出土礫（3）及び包含層出土遺物

表Ⅱ-3　アイヌ文化期ⅢF・ⅢFB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備　考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-2	5-1・2	ⅢF-01	R・S-6	ⅢbM	－	(32.0)	24.5	8.5	灰・焼骨	
Ⅱ-2	5-3～5	ⅢF-04	S-5	ⅢcU	不整形	80.0	75.0	10.5	灰・焼骨	浅い掘り込みに形成
Ⅱ-2	5-6・7	ⅢF-05	R-6	ⅢcU	楕円形	75.0	55.0	10.5	灰・焼骨	浅い掘り込みに形成
Ⅱ-4	5-8・6-1	ⅢFB-01	S-6	ⅢbM	不整形	92.0	54.0	1.0	灰	5ブロック
Ⅱ-4	6-2・3	ⅢFB-02	S-5	ⅢbL	不整形	96.0	60.0	1.0	灰	5ブロック
Ⅱ-4	－	ⅢFB-03	S-5	ⅢbM	不整形	85.0	60.0	1.0	灰	8ブロック
Ⅱ-4	7-5	ⅢFB-04	S-6	ⅢbM	不整形	28.0	8.0	1.0	灰	2ブロック

表Ⅱ-4　アイヌ文化期ⅢBB・ⅢSHB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			被熱の有無	備　考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-5	6-5・6	ⅢBB-01.A	T-6	ⅢbM	不整形	3100.0	134.0	－	未被熱	
Ⅱ-5	6-7	ⅢBB-01.B	T-5・6	ⅢbM	不整形	192.0	91.0	－	未被熱	
Ⅱ-6	7-1・2	ⅢBB-01.C	S・T-5	ⅢbM	不整形	272.0	107.0	－	未被熱	
Ⅱ-6	7-3	ⅢBB-11	R-6	ⅢcL	不整形	166.0	109.0	－	未被熱	
Ⅱ-5	11-8	ⅢSHB-01	S-6	ⅢbM	楕円形	40.0	35.0	－	未被熱	

表Ⅱ-5　アイヌ文化期ⅢKP属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
					上端	下端	深さ			
Ⅱ-4	7-4・5	ⅢKP-01	S-6	ⅢbM	13.6	1.5	72.0	2	打込み	
Ⅱ-4	7-5	ⅢKP-02	S-6	ⅢbM	9.0	0.0	18.9	2	打込み	
Ⅱ-4	7-6・7	ⅢKP-03	R-5	ⅢcL	7.2	1.0	20.0	0	打込み	
Ⅱ-4	7-6・7	ⅢKP-04	R-5	ⅢcL	10.4	0.0	18.0	2	打込み	
Ⅱ-4	7-8・9	ⅢKP-05	R-6	ⅢcL	9.6	2.0	32.8	0	打込み	
Ⅱ-4	8-1・2	ⅢKP-06	S-5	ⅢcL	10.0	1.0	26.0	4	打込み	
Ⅱ-4	8-3・4	ⅢKP-07	R-5	ⅢcL	6.0	1.0	13.0	10	打込み	
Ⅱ-4	8-5・6	ⅢKP-08	S-6	ⅢcL	6.6	0.0	26.6	9	打込み	
Ⅱ-4	8-7・8	ⅢKP-09	S-6	ⅢcL	12.2	0.0	46.0	0	打込み	
Ⅱ-4	8-9・10	ⅢKP-10	S-5	ⅢcL	6.6	1.0	27.0	13	打込み	
Ⅱ-4	8-11・12	ⅢKP-11	R-5	ⅢcL	12.0	1.0	39.0	3	打込み	
Ⅱ-4	8-13・14	ⅢKP-12	R-6	ⅢcL	6.0	1.0	18.6	0	打込み	
Ⅱ-4	8-15・16	ⅢKP-13	R-5	ⅢcL	9.4	0.0	46.0	5	打込み	
Ⅱ-4	9-1・2	ⅢKP-14	T-6	ⅢcL	5.2	1.0	17.4	8	打込み	
Ⅱ-4	9-3・4	ⅢKP-15	T-6	ⅢcL	4.4	0.0	18.6	0	打込み	
Ⅱ-4	9-5・6	ⅢKP-16	T-6	ⅢcL	6.0	1.0	10.2	8	打込み	
Ⅱ-4	9-7・8	ⅢKP-17	S-6	ⅢcL	9.2	1.0	13.0	0	打込み	
Ⅱ-4	9-9・10	ⅢKP-18	S-6	ⅢcL	7.4	0.0	41.0	0	打込み	
Ⅱ-4	9-11・12	ⅢKP-19	R-6	Ⅲc	9.2	0.0	29.6	4	打込み	
Ⅱ-4	9-13・14	ⅢKP-20	R-6	Ⅲc	(13.6)	1.0	30.0	4	打込み	
Ⅱ-4	9-15・16	ⅢKP-21	S-5	ⅢcL	11.4	0.0	40.5	6	打込み	
Ⅱ-4	10-1・2	ⅢKP-22	S-6	ⅢcL	16.4	0.0	45.2	10	打込み	
Ⅱ-4	10-3・4	ⅢKP-23	R-4	ⅢcL	8.2	0.0	26.0	3	打込み	
Ⅱ-4	10-5・6	ⅢKP-24	R-4	ⅢcL	6.4	1.0	28.5	0	打込み	
Ⅱ-4	10-7・8	ⅢKP-25	R-4	ⅢcL	12.3	1.0	52.0	0	打込み	
Ⅱ-4	10-9・10	ⅢKP-26	T-5	ⅢcL	10.2	0.0	34.5	6	打込み	

表Ⅱ-6 アイヌ文化期ⅢSB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm) 長軸	規模(cm) 短軸	被熱の有無	備考
Ⅱ-7	10-12	ⅢSB-01	T-5	ⅢbM	不整形	190.0	110.0	有	
Ⅱ-7	10-13	ⅢSB-02	R-6	ⅢbM	不整形	132.0	86.0	無	
Ⅱ-7	11-1	ⅢSB-03	R-6	ⅢbM	不整形	170.0	76.0	無	
Ⅱ-7	11-2	ⅢSB-04	R-6	ⅢbM	不整形	68.0	54.0	無	カワシンジュガイ検出
Ⅱ-8	11-3	ⅢSB-05	R-6	ⅢbM	楕円形	67.0	62.0	無	カワシンジュガイ検出
Ⅱ-8	11-4	ⅢSB-06	R-6	ⅢbM	楕円形	(61.0)	58.0	無	
Ⅱ-8	11-5	ⅢSB-07	S-5	ⅢbL	不整形	156.0	67.0	有	ⅢFB-03被覆
Ⅱ-9	11-6	ⅢSB-08	R-4	ⅢbL	楕円形	90.0	70.0	無	
Ⅱ-9	11-7	ⅢSB-09	S-5	ⅢbL	楕円形	49.0	33.0	無	

表Ⅱ-7 アイヌ文化期遺構出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド/遺構名	計測値(mm) 長軸	計測値(mm) 短軸	計測値(mm) 厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-10-1	33-1-1	-	40622	棒状鉄製品	-	ⅢbM	ⅢF-01	(10.7)	1.2	1.1	(0.1)	Irn.	FLT出土
Ⅱ-10-2	33-1-2	-	592	板状鉄製品	-	ⅢbM	ⅢBB-01	(45.1)	11.7	3.4	(4.5)	Irn.	Cブロック
Ⅱ-10-3	33-1-3	ⅢST 001	526 181	滑沢面のある礫	-	ⅢbM	ⅢSB-01 S-5	(55.0)	(89.4)	43.7	(238.0)	Sa.	
Ⅱ-10-4	33-1-4	-	1004	たたき石	Ⅳ	ⅢbM	ⅢSB-05	124.4	(53.1)	(43.6)	(298.0)	Sa.	
Ⅱ-10-5	33-1-5	ⅢST 018	1002 350	すり石	E	ⅢbM	ⅢSB-05 Q-6	(134.2)	46.9	33.0	(340.0)	Sa.	敲打痕有

表Ⅱ-8　ⅢSB出土礫属性表(1)

ⅢSB-01

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-10-6	33-2-1	-	522	ⅢbM	完形	36.6	-37.9	25.8	-7.2	7.1	-11.8	1.4	-0.9	8.0		Mud.	
Ⅱ-10-7		-	535	ⅢbM	完形	56.1	-18.4	33.6	0.6	19.4	0.5	1.7	-0.6	48.4		Sa.	
-		ⅢS010	561 562 563	ⅢbM	略完形	60.6	-13.9	27.0	-6.0	25.2	6.3	2.2	-0.1	54.4		Sa.	
-		-	528	ⅢbM	完形	61.2	-13.3	30.9	-2.1	18.3	-0.6	2.0	-0.3	38.5		Sa.	
-		-	551	ⅢbM	完形	63.7	-10.8	39.5	6.5	17.4	-1.5	1.6	-0.7	62.8		Sa.	
-		-	539	ⅢbM	完形	67.0	-7.5	31.5	-1.5	22.2	3.3	2.1	-0.2	62.0		Sa.	
-		-	534	ⅢbM	完形	67.4	-7.1	30.9	-2.1	23.7	4.8	2.2	-0.1	49.0		Mud.	
Ⅱ-10-8		-	541	ⅢbM	完形	67.7	-6.8	37.0	4.0	17.1	-1.8	1.8	-0.5	55.7		Sa.	
Ⅱ-10-9		ⅢS007	523 524 525	ⅢbM	略完形	72.6	-1.9	36.7	3.7	18.1	-0.8	2.0	-0.3	69.3		Sa.	
-		ⅢS005	558 559 560	ⅢbM	略完形	74.6	0.1	30.9	-2.1	16.7	-2.2	2.4	0.1	61.0		Sa.	
-		-	540	ⅢbM	完形	74.8	0.3	35.3	2.3	14.1	-4.8	2.1	-0.2	60.7		Sa.	
-		-	527	ⅢbM	略完形	76.3	1.8	35.7	2.7	20.7	1.8	2.1	-0.2	81.1		Sa.	
-		ⅢS009	518 519	ⅢbM	完形	78.0	3.5	41.3	8.3	14.7	-4.2	1.9	-0.4	74.4		Sa.	
-		-	536	ⅢbM	完形	80.9	6.4	40.7	7.7	24.5	5.6	2.0	-0.3	117.0		Sa.	
Ⅱ-10-10		-	538	ⅢbM	完形	84.4	9.9	33.3	0.3	22.4	3.5	2.5	0.2	75.1		Sa.	
-		ⅢS003	552 555	ⅢbM	完形	86.0	11.5	31.8	-1.2	14.0	-4.9	2.7	0.4	47.6		Sa.	
-		-	529	ⅢbM	略完形	87.1	12.6	29.8	-3.2	17.1	-1.8	2.9	0.6	41.2		Mud.	
-		ⅢS006	556 557 23885 23886	ⅢbM	完形	89.5	15.0	20.9	-12.1	17.4	-1.5	4.3	2.0	32.6	○	Mud.	
Ⅱ-10-11		-	554	ⅢbM	完形	91.4	16.9	27.5	-5.5	21.3	2.4	3.3	1.0	59.6		Mud.	
-		-	532	ⅢbM	完形	91.6	17.1	31.2	-1.8	29.6	10.7	2.9	0.6	96.1		Sa.	
Ⅱ-10-12		-	537	ⅢbM	完形	97.0	22.5	41.7	8.7	16.1	-2.8	2.3	0.0	82.4		Sa.	
完形合計														21			
完形平均値						74.5		33.0		18.9		2.3		60.8			
遺物総重量														1276.9			

ⅢSB-02(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-10-13	33-2-2	-	1392	ⅢbM	完形	20.7	-52.1	19.5	-12.3	8.0	-8.4	1.1	-1.2	4.0		Sa.	
Ⅱ-10-14		-	875	ⅢbM	完形	42.5	-30.3	26.6	-5.2	10.6	-5.8	1.6	-0.7	19.5		Sa.	
-		-	849	ⅢbM	完形	48.8	-24.0	28.8	-3.0	9.3	-7.1	1.7	-0.6	18.2		Sa.	
-		-	874	ⅢbM	完形	52.2	-20.6	30.0	-1.8	11.2	-5.2	1.7	-0.6	29.5		Sa.	
Ⅱ-10-15		-	838	ⅢbM	完形	58.8	-14.0	28.6	-3.2	17.0	0.6	2.1	-0.2	38.2		Sa.	
-		-	895	ⅢbM	完形	59.5	-13.3	31.0	-0.8	24.2	7.8	1.9	-0.4	44.0		Mud.	
-		-	809	ⅢbM	完形	59.6	-13.2	28.1	-3.7	14.1	-2.3	2.1	-0.2	29.8		Sa.	
-		-	822	ⅢbM	完形	59.7	-13.1	34.7	2.9	15.4	-1.0	1.7	-0.6	46.1		Sa.	
-		-	866	ⅢbM	完形	60.3	-12.5	32.6	0.8	13.8	-2.6	1.8	-0.5	30.3		Sa.	
Ⅱ-10-16		-	850	ⅢbM	完形	60.7	-12.1	30.4	-1.4	19.9	3.5	2.0	-0.3	55.6		Sa.	
Ⅱ-10-17		-	896	ⅢbM	完形	62.3	-10.5	32.9	1.1	9.5	-6.9	1.9	-0.4	32.6		Sa.	
-		-	837	ⅢbM	完形	62.4	-10.4	29.8	-2.0	11.4	-5.0	2.1	-0.2	28.1		Sa.	
-		-	862	ⅢbM	完形	63.3	-9.5	34.6	2.8	9.6	-6.8	1.8	-0.5	28.9		Sa.	
-		-	881	ⅢbM	完形	63.3	-36.2	41.3	9.5	19.4	3.0	1.5	-0.8	63.0		Sa.	
-		-	830	ⅢbM	完形	63.6	-9.2	30.3	-1.5	12.6	-3.8	2.1	-0.2	31.5		Sa.	

表Ⅱ-9 ⅢSB出土礫属性表(2)
ⅢSB-02(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
−		−	894	ⅢbM	完形	64.8	−8.0	32.8	1.0	18.6	2.2	2.0	−0.3	49.1		Sa.	
−		−	845	ⅢbM	完形	64.8	−8.0	37.6	5.8	19.6	3.2	1.7	−0.6	56.8		Sa.	
−		図50-55	819 903	ⅢbM	完形	65.8	−7.0	26.1	−5.7	13.9	−2.5	2.5	0.2	36.2		Sa.	
−		−	824	ⅢbM	完形	65.9	−6.9	29.1	−2.7	12.5	−3.9	2.3	0.0	34.5		Sa.	
−		−	812	ⅢbM	完形	66.1	−6.7	24.0	−7.8	11.6	−4.8	2.8	0.5	30.4		Sa.	
−		−	804	ⅢbM	完形	66.1	−6.7	26.5	−5.3	25.1	8.7	2.5	0.2	45.0		Mud.	
Ⅱ-10-18		−	854	ⅢbM	完形	66.2	−6.6	23.0	−8.8	19.7	3.3	2.9	0.6	46.8		Sa.	
Ⅱ-10-19		−	892	ⅢbM	完形	66.5	−6.3	33.2	1.4	15.4	−1.0	2.0	−0.3	50.1		Sa.	
Ⅱ-10-20		−	807	ⅢbM	完形	66.7	−6.1	30.2	−1.6	11.9	−4.5	2.2	−0.1	37.3		Sa.	
−		−	821	ⅢbM	完形	67.2	−5.6	28.8	−3.0	16.1	−0.3	2.3	0.0	37.5		Sa.	
−		−	861	ⅢbM	完形	67.4	−5.4	39.8	8.0	10.2	−6.2	1.7	−0.6	40.3		Sa.	
−		図50-58	846 847	ⅢbM	完形	67.8	−5.0	39.2	7.4	15.4	−1.0	1.7	−0.6	51.7		Sa.	
−		−	810	ⅢbM	完形	68.5	−4.3	29.9	−1.9	16.1	−0.3	2.3	0.0	55.7		Sa.	
Ⅱ-10-21		−	844	ⅢbM	完形	69.3	−3.5	31.3	−0.5	19.5	3.1	2.2	−0.1	62.6		Sa.	
−		−	877	ⅢbM	略完形	69.5	−3.3	33.8	2.0	15.1	−1.3	2.1	−0.2	44.0		Mud.	
−		−	870	ⅢbM	完形	69.6	−3.2	27.0	−4.8	15.9	−0.5	2.6	0.3	36.9		Mud.	
Ⅱ-10-22		−	836	ⅢbM	完形	69.7	−3.1	34.2	2.4	12.3	−4.1	2.0	−0.3	42.4		Sa.	
−		−	867	ⅢbM	完形	69.7	−3.1	37.5	5.7	10.5	−5.9	1.9	−0.4	31.3		Sa.	
−		−	835	ⅢbM	完形	69.9	−2.9	36.3	4.5	15.6	−0.8	1.9	−0.4	51.0		Sa.	
−		−	901	ⅢbM	完形	70.4	−2.4	23.0	−8.8	15.3	−1.1	3.1	0.8	29.9		Mud.	
−		−	839	ⅢbM	略完形	71.3	−1.5	32.7	0.9	9.7	−6.7	2.2	−0.1	29.5		Sa.	
Ⅱ-10-23		図50-57	834 669	ⅢbM	完形	71.9	−0.9	32.8	1.0	10.6	−5.8	2.2	−0.1	34.7		Sa.	
−		−	899	ⅢbM	完形	72.1	−0.7	36.2	4.4	12.2	−4.2	2.0	−0.3	43.0		Sa.	
Ⅱ-10-24	33-2-2	−	813	ⅢbM	完形	72.5	−0.3	28.8	−3.0	14.1	−2.3	2.5	0.2	35.1		Mud.	
−		−	843	ⅢbM	完形	73.3	0.5	36.2	4.4	14.5	−1.9	2.0	−0.3	46.8		Sa.	
−		−	802	ⅢbM	完形	73.8	1.0	40.8	9.0	15.8	−0.6	1.8	−0.5	64.9		Mud.	
−		−	833	ⅢbM	完形	74.0	1.2	28.4	−3.4	15.9	−0.5	2.6	0.3	44.5		Mud.	
Ⅱ-10-25		−	820	ⅢbM	完形	74.3	1.5	38.5	6.7	20.1	3.7	1.9	−0.4	91.5		Sa.	
−		−	869	ⅢbM	完形	74.6	1.8	35.1	3.3	22.5	6.1	2.1	−0.2	79.7		Sa.	
−		−	891	ⅢbM	完形	75.9	3.1	28.6	−3.2	16.9	0.5	2.7	0.4	48.8		Mud.	
Ⅱ-10-26		−	823	ⅢbM	完形	77.0	4.2	27.7	−4.1	14.8	−1.6	2.8	0.5	35.3		Sa.	
−		−	876	ⅢbM	完形	77.5	4.7	31.2	−0.6	21.0	4.6	2.5	0.2	63.0		Sa.	
−		−	826	ⅢbM	完形	77.6	4.8	39.7	7.9	16.1	−0.3	2.0	−0.3	63.1		Mud.	
Ⅱ-10-27		−	871	ⅢbM	完形	78.2	5.4	30.6	−1.2	18.7	2.3	2.6	0.3	53.6		Sa.	
−		図50-56	886 887	ⅢbM	略完形	79.6	6.8	28.6	−3.2	23.8	7.4	2.8	0.5	77.4		Sa.	
Ⅱ-10-28		−	864	ⅢbM	完形	80.1	7.3	26.8	−5.0	13.1	−3.3	3.0	0.7	33.4		Mud.	
−		図50-52	842 9	ⅢbM	完形	80.3	7.5	33.6	1.8	23.9	7.5	2.4	0.1	77.4		Sa.	
−		図50-59	816 817	ⅢbM	完形	80.5	7.7	20.7	−11.1	11.8	−4.6	3.9	1.6	22.3		Mud.	
Ⅱ-10-29		−	857	ⅢbM	完形	80.5	7.7	36.3	4.5	13.5	−2.9	2.2	−0.1	61.8		Sa.	
−		−	856	ⅢbM	完形	80.9	8.1	45.1	13.3	22.3	5.9	1.8	−0.5	103.5		Sa.	
−		−	827	ⅢbM	略完形	81.8	9.0	32.8	1.0	16.0	−0.4	2.5	0.2	45.0		Mud.	
−		−	855	ⅢbM	完形	82.0	9.2	37.1	5.3	22.4	6.0	2.2	−0.1	74.9		Sa.	
−		図50-53	840 841	ⅢbM	完形	82.7	9.9	31.7	−0.1	24.1	7.7	2.6	0.3	73.8		Mud.	
−		−	900	ⅢbM	完形	83.2	10.4	24.9	−6.9	14.7	−1.7	3.3	1.0	49.6		Sa.	
−		−	828	ⅢbM	完形	83.2	10.4	25.9	−5.9	17.8	1.4	3.2	0.9	32.1		Sa.	
Ⅱ-10-30		−	897	ⅢbM	完形	83.2	10.4	23.6	−8.2	18.7	2.3	3.5	1.2	35.8		Sa.	
−		−	888	ⅢbM	完形	83.4	10.6	29.8	−2.0	19.6	3.2	2.8	0.5	44.1		Mud.	
−		−	825	ⅢbM	完形	83.4	10.6	41.4	9.6	19.1	2.7	2.0	−0.3	68.3		Sa.	

表Ⅱ-10　ⅢSB出土礫属性表(3)
ⅢSB-02(3)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
–	33-2-2	–	893	ⅢbM	完形	84.2	11.4	29.1	-2.7	18.6	2.2	2.9	0.6	46.6		Mud.	
Ⅱ-10-31		–	883	ⅢbM	完形	84.9	12.1	35.2	3.4	29.4	13.0	2.4	0.1	113.9		Sa.	
–		–	878	ⅢbM	完形	85.7	12.9	27.1	-4.7	11.8	-4.6	3.2	0.9	33.1		Sa.	
Ⅱ-10-32		–	815	ⅢbM	完形	85.9	13.1	35.0	3.2	25.1	8.7	2.5	0.2	65.0		Sa.	
–		–	889	ⅢbM	完形	86.6	13.8	43.4	11.6	16.9	0.5	2.0	-0.3	60.8		Sa.	
–		–	829	ⅢbM	完形	86.7	13.9	35.0	3.2	19.7	3.3	2.5	0.2	85.9		Sa.	
–		–	873	ⅢbM	完形	86.9	14.1	29.2	-2.6	17.9	1.5	3.0	0.7	67.0		Mud.	
–		–	853	ⅢbM	完形	87.8	15.0	35.1	3.3	13.8	-2.6	2.5	0.2	52.4		Mud.	
Ⅱ-10-33		–	863	ⅢbM	完形	88.1	15.3	36.1	4.3	14.4	-2.0	2.4	0.1	57.5		Sa.	
–		–	808	ⅢbM	完形	88.3	15.5	35.5	3.7	24.0	7.6	2.5	0.2	80.9		Sa.	
Ⅱ-10-34		–	832	ⅢbM	完形	90.0	17.2	26.8	-5.0	18.6	2.2	3.4	1.1	64.4		Sa.	
Ⅱ-10-35		–	868	ⅢbM	完形	90.1	17.3	32.9	1.1	17.8	1.4	2.7	0.4	69.5		Sa.	
Ⅱ-10-36		–	811	ⅢbM	完形	111.0	38.2	31.1	-0.7	22.0	5.6	3.6	1.3	64.6		Mud.	
完形合計														76			
完形平均値						72.8		31.8		16.4		2.3		49.5			
遺物総重量														3763.3			

ⅢSB-03(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-10-37	33-2-3	–	950	ⅢbM	完形	61.1	-13.3	30.0	-2.0	9.4	-7.3	2.0	-0.4	25.3		Sa.	
–		–	942	ⅢbM	完形	64.0	-10.4	30.5	-1.5	14.3	-2.4	2.1	-0.3	37.3		Sa.	
–		–	931	ⅢbM	完形	65.6	-8.8	31.6	-0.4	21.8	5.1	2.1	-0.3	53.9		Sa.	
–		Ⅲ5065	915 916	ⅢbM	略完形	66.4	-8.0	42.5	10.5	12.8	-3.9	1.6	-0.8	48.5		Sa.	
Ⅱ-10-38		–	906	ⅢbM	完形	66.7	-7.7	24.5	-7.5	18.2	1.5	2.7	0.3	43.4		Sa.	
Ⅱ-10-39		–	926	ⅢbM	完形	66.7	-7.7	36.6	4.6	11.3	-5.4	1.8	-0.6	45.0		Sa.	
–		–	933	ⅢbM	完形	67.3	-7.1	32.3	0.3	15.7	-1.0	2.1	-0.3	51.4		Sa.	
–		–	947	ⅢbM	完形	67.5	-6.9	27.1	-4.9	13.9	-2.8	2.5	0.1	31.3		Sa.	
–		–	928	ⅢbM	完形	68.1	-6.3	34.8	2.8	16.3	-0.4	2.0	-0.4	48.6		Sa.	
–		–	911	ⅢbM	完形	68.9	-5.5	36.1	4.1	16.9	0.2	1.9	-0.5	63.5		Sa.	
–		–	925	ⅢbM	完形	69.2	-5.2	22.5	-9.5	22.1	5.4	3.1	0.7	32.2		Mud.	
–		–	954	ⅢbM	完形	69.3	-5.1	40.5	8.5	11.5	-5.2	1.7	-0.7	47.0		Sa.	
–		–	948	ⅢbM	完形	70.3	-4.1	25.2	-6.8	21.3	4.6	2.8	0.4	54.0		Sa.	
–		Ⅲ5156	920 1063-2	ⅢbM	完形	70.9	-3.5	37.0	5.0	16.0	-0.7	1.9	-0.5	51.0		Sa.	
Ⅱ-10-40		–	951	ⅢbM	完形	71.2	-3.2	24.3	-7.7	20.2	3.5	2.9	0.5	49.6		Sa.	
–		–	927	ⅢbM	完形	71.7	-2.7	33.0	1.0	19.8	3.1	2.2	-0.2	66.5		Sa.	
–		–	953	ⅢbM	完形	71.8	-2.6	31.9	-0.1	13.2	-3.5	2.3	-0.1	38.0		Sa.	
Ⅱ-10-41		–	917	ⅢbM	完形	72.4	-2.0	36.1	4.1	11.5	-5.2	2.0	-0.4	37.1		Mud.	
–		–	914	ⅢbM	完形	72.7	-1.7	33.3	1.3	14.3	-2.4	2.2	-0.2	49.3		Sa.	
–		–	923	ⅢbM	完形	73.9	-0.5	33.4	1.4	13.0	-3.7	2.2	-0.2	42.2		Sa.	
–		–	949	ⅢbM	完形	75.9	1.5	30.5	-1.5	22.2	5.5	2.5	0.1	45.6		Sa.	
Ⅱ-10-42		–	929	ⅢbM	完形	77.0	2.6	26.4	-5.6	15.0	-1.7	2.9	0.5	40.0		Sa.	
–		–	938	ⅢbM	完形	77.4	3.0	31.3	-0.7	13.9	-2.8	2.5	0.1	43.1		Sa.	
–		–	904	ⅢbM	完形	78.4	4.0	31.2	-0.8	15.6	-1.1	2.5	0.1	39.3		Sa.	
Ⅱ-10-43		–	943	ⅢbM	完形	80.5	6.1	37.7	5.7	17.2	0.5	2.1	-0.3	51.0		Mud.	
–		–	1066	ⅢbL	完形	80.5	6.1	21.6	-10.4	20.8	4.1	3.7	1.3	49.2		Sa.	
Ⅱ-10-44		–	944	ⅢbM	完形	80.6	6.2	29.1	-2.9	13.9	-2.8	2.8	0.4	54.7		Sa.	
–		–	930	ⅢbM	完形	81.8	7.4	33.4	1.4	22.4	5.7	2.4	0.0	75.0		Sa.	
–		Ⅲ5066	913 918 919	ⅢbM	略完形	82.2	7.8	31.5	-0.5	12.5	-4.2	2.6	0.2	39.6		Sa.	
Ⅱ-10-45		–	952	ⅢbM	完形	83.2	8.8	26.9	-5.1	25.0	8.3	3.1	0.7	78.5		Sa.	

表Ⅱ-11 ⅢSB出土礫属性表(4)

ⅢSB-03(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
−	33-2-3	−	909	ⅢbM	完形	83.2	8.8	38.6	6.6	15.9	−0.8	2.2	−0.2	59.3		Sh.	
−		−	935	ⅢbM	完形	83.8	9.4	38.3	6.3	18.9	2.2	2.2	−0.2	79.8		Sa.	
Ⅱ-10-46		−	934	ⅢbM	完形	84.9	10.5	38.7	6.7	23.6	6.9	2.2	−0.2	67.5		Con.	
−		−	1065	ⅢbL	完形	85.0	10.6	32.0	0.0	16.1	−0.6	2.7	0.3	31.8		Mud.	
Ⅱ-10-47		−	910	ⅢbM	完形	94.2	19.8	30.9	−1.1	19.1	2.4	3.0	0.6	53.2		Mud.	
完形合計														35			
完形平均値						74.4		32.0		16.7		2.4		49.2			
遺物総重量														1722.7			

ⅢSB-04

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-11-1	33-2-4	−	1131	ⅢbM	完形	48.5	−25.3	40.9	9.9	35.0	14.8	1.2	−1.2	81.2		Sa.	
Ⅱ-11-2		−	1111	ⅢbM	完形	59.7	−14.1	33.8	2.8	16.6	−3.6	1.8	−0.6	37.8		Sa.	
−		−	1112	ⅢbM	略完形	66.0	−7.8	27.4	−3.6	17.3	−2.9	2.4	0.0	37.0		Mud.	
−		−	1114	ⅢbM	完形	67.6	−6.2	26.7	−4.3	20.4	0.2	2.5	0.1	49.9		Sa.	
−		−	1109	ⅢbM	完形	71.9	−1.9	27.9	−3.1	11.9	−8.3	2.6	0.2	33.6		Sa.	
Ⅱ-11-3		−	1120	ⅢbM	完形	75.2	1.4	32.9	1.9	21.1	0.9	2.3	−0.1	74.7		Sa.	
−		Ⅲ5050	1115 1134	ⅢbM	完形	76.7	2.9	27.2	−3.8	14.1	−6.1	2.8	0.4	36.9		Sa.	
−		Ⅲ5051	1108 ほか5点	ⅢbM	略完形	78.1	4.3	34.7	3.7	16.8	−3.4	2.3	−0.1	51.1		Mud.	
−		−	1121	ⅢbM	完形	85.4	11.6	27.8	−3.2	26.4	6.2	3.1	0.7	60.6		Sa.	
−		−	1135	ⅢbM	完形	87.0	13.2	29.6	−1.4	16.2	−4.0	2.9	0.5	57.9		Sa.	
Ⅱ-11-4		−	1132	ⅢbM	完形	95.3	21.5	32.5	1.5	26.5	6.3	2.9	0.5	10.0		Sa.	
完形合計														11			
完形平均値						73.8		31.0		20.2		2.4		48.2			
遺物総重量														530.7			

ⅢSB-05

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-11-5	33-2-5	−	1003	ⅢbM	完形	43.2	−31.6	37.8	6.1	8.5	−9.0	1.1	−1.3	17.3		Sa.	
−		−	1007	ⅢbM	完形	59.3	−15.5	33.6	1.9	16.8	−0.7	1.8	−0.6	40.9		Sa.	
−		−	989	ⅢbM	完形	61.7	−13.1	34.6	2.9	16.0	−1.5	1.8	−0.6	37.0		Sa.	
−		−	991	ⅢbM	完形	68.0	−6.8	24.8	−6.9	16.2	−1.3	2.7	0.3	29.3		Mud.	
−		−	988	ⅢbM	完形	68.2	−6.6	22.0	−9.7	19.2	1.7	3.1	0.7	27.8		Mud.	
Ⅱ-11-6		−	993	ⅢbM	完形	68.8	−6.0	31.4	−0.3	18.6	1.1	2.2	−0.2	53.6		Sa.	
−		−	1016	ⅢbM	完形	71.7	−3.1	31.0	−0.7	13.2	−4.3	2.3	−0.1	35.4		Sa.	
−		Ⅲ5141	998 665	ⅢbM	略完形	75.1	0.3	28.1	−3.6	17.2	−0.3	2.7	0.3	34.8		Mud.	
−		−	1011	ⅢbM	完形	76.0	1.2	35.2	3.5	15.7	−1.8	2.2	−0.2	46.2		Sa.	
−		−	1009	ⅢbM	完形	78.5	3.7	25.7	−6.0	24.2	6.7	3.1	0.6	68.2		Sa.	
Ⅱ-11-7		−	994	ⅢbM	完形	78.5	3.7	35.1	3.4	13.8	−3.7	2.2	−0.2	43.9		Mud.	
Ⅱ-11-8		−	1012	ⅢbM	完形	79.6	4.8	30.7	−1.0	28.4	10.9	2.6	0.2	61.4		Mud.	
−		−	1015	ⅢbM	完形	80.6	5.8	29.8	−1.9	13.5	−4.0	2.7	0.3	43.9		Sa.	
−		−	1000	ⅢbM	完形	82.2	7.4	37.0	5.3	16.7	−0.8	2.2	−0.2	50.0		Sa.	
−		−	1013	ⅢbM	完形	85.5	10.7	37.2	5.5	16.1	−1.4	2.3	−0.1	59.6		Sa.	
Ⅱ-11-9		−	1008	ⅢbM	完形	86.9	12.1	28.6	−3.1	20.6	3.1	3.0	0.6	53.1		Sa.	
Ⅱ-11-10		Ⅲ5048	996 997	ⅢbM	完形	108.3	33.5	37.0	5.3	22.4	4.9	2.9	0.5	130.5		Sa.	
完形合計														17			
完形平均値						74.8		31.7		17.5		2.4		49.0			
遺物総重量														832.9			

表Ⅱ-12　ⅢSB出土礫属性表(5)

ⅢSB-06

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-11-11	33-2-6	－	1075	ⅢbM	完形	27.7	-37.7	19.8	-11.6	5.3	-12.0	1.4	-1.0	2.9		Sa.	
Ⅱ-11-12		－	960	ⅢbM	完形	51.9	-13.5	35.8	4.4	19.5	2.2	1.4	-1.0	35.8		Sa.	
－		－	978	ⅢbM	完形	56.4	-9.0	26.8	-4.6	14.2	-3.1	2.1	-0.3	26.8		Mud.	
－		－	967	ⅢbM	完形	56.7	-8.7	55.1	23.7	20.9	3.6	1.0	-1.4	55.1		Sa.	
－		－	961	ⅢbM	完形	56.9	-8.5	29.1	-2.3	18.2	0.9	2.0	-0.4	29.1		Sa.	
Ⅱ-11-13		－	987	ⅢbM	完形	57.6	-7.8	42.3	10.9	18.7	1.4	1.4	-1.0	42.3		Sa.	
－		－	981	ⅢbM	完形	59.1	-6.3	27.7	-3.7	23.0	5.7	2.1	-0.3	45.7		Mud.	
－		－	955	ⅢbM	完形	59.6	-5.8	29.4	-2.0	12.7	-4.6	2.0	-0.4	29.4		Sa.	
－		－	965	ⅢbM	完形	61.5	-3.9	37.0	5.6	25.2	7.9	1.7	-0.7	69.5		Sa.	
－		－	979	ⅢbM	完形	61.6	-3.8	22.0	-9.4	13.1	-4.2	2.8	0.4	22.0		Mud.	
－		－	976	ⅢbM	完形	61.7	-3.7	30.6	-0.8	19.5	2.2	2.0	-0.4	30.6		Sa.	
Ⅱ-11-14		－	972	ⅢbM	完形	63.0	-2.4	33.2	1.8	10.2	-7.1	1.9	-0.5	26.6		Mud.	
Ⅱ-11-15		－	969	ⅢbM	完形	63.3	-2.1	32.3	0.9	23.6	6.3	2.0	-0.4	60.1		Sa.	
－		－	977	ⅢbM	完形	63.6	-1.8	25.4	-6.0	20.3	3.0	2.5	0.1	31.0		Mud.	
－		－	968	ⅢbM	完形	64.1	-1.3	28.9	-2.5	17.3	0.0	2.2	-0.2	35.2		Sa.	
－		－	984	ⅢbM	完形	64.3	-1.1	27.4	-4.0	19.1	1.8	2.3	-0.1	43.4		Sa.	
－		－	974	ⅢbM	完形	65.6	0.2	28.8	-2.6	10.9	-6.4	2.3	-0.1	21.2		Mud.	
－		－	983	ⅢbM	完形	65.8	0.4	23.8	-7.6	22.8	5.5	2.8	0.4	41.9		Mud.	
－		－	970	ⅢbM	完形	66.5	1.1	28.2	-3.2	15.7	-1.6	2.4	0.0	26.5		Mud.	
－		－	966	ⅢbM	完形	66.9	1.5	37.1	5.7	20.1	2.8	1.8	-0.6	61.6		Sa.	
－		－	958	ⅢbM	完形	66.9	1.5	32.8	1.4	23.4	6.1	2.0	-0.4	63.4		Sa.	
Ⅱ-11-16		－	986	ⅢbM	完形	70.0	4.6	32.0	0.6	13.7	-3.6	2.2	-0.2	40.8		Sa.	
Ⅱ-11-17		－	971	ⅢbM	完形	72.0	6.6	33.1	1.7	8.5	-8.8	2.2	-0.2	27.0		Mud.	
－		－	982	ⅢbM	完形	73.0	7.6	39.3	7.9	16.4	-0.9	1.9	-0.5	58.3		Sa.	
－		－	980	ⅢbM	完形	73.6	8.2	38.1	6.7	12.5	-4.8	1.9	-0.5	41.9		Mud.	
－		－	956	ⅢbM	完形	75.4	10.0	25.7	-5.7	22.4	5.1	2.9	0.5	57.1		Sa.	
－		－	962	ⅢbM	完形	75.7	10.3	33.2	1.8	16.6	-0.7	2.3	-0.1	51.2		Sa.	
Ⅱ-11-18		－	975	ⅢbM	完形	76.2	10.8	36.7	5.3	15.9	-1.4	2.1	-0.3	56.3		Sa.	
Ⅱ-11-19		－	973	ⅢbM	完形	77.8	12.4	29.4	-2.0	19.0	1.7	2.6	0.2	50.9		Sa.	
－		－	985	ⅢbM	完形	86.8	21.4	26.1	-5.3	21.5	4.2	3.3	0.9	56.8		Sa.	
Ⅱ-11-20		－	959	ⅢbM	完形	87.2	21.8	27.5	-3.9	15.4	-1.9	3.2	0.8	47.8		Sa.	
完形合計														31.0			
完形平均値						65.4		31.4		17.3		2.4		41.6			
遺物総重量														1288.2			

ⅢSB-07(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-11-21	34-1-7	－	1616	ⅢbL	完形	36.1	-36.0	13.7	-19.3	4.2	-16.2	2.6	0.4	1.9		Mud.	
Ⅱ-11-22		－	1619	ⅢbL	完形	41.9	-30.2	32.6	-0.4	14.3	-6.1	1.3	-0.9	17.8		Mud.	
－		図S154	1273 188-2	ⅢbL ⅢbM	完形	53.4	-18.7	32.8	-0.2	23.4	3.0	1.6	-0.6	63.0	○	Sa.	
－		図S038	1202 1203	ⅢbL	略完形	58.4	-13.7	29.9	-3.1	18.2	-2.2	2.0	-0.2	38.4	○	Sa.	
－		－	1622	ⅢbL	略完形	59.2	-12.9	34.0	1.0	23.2	2.8	1.7	-0.5	56.7	○	Sa.	
－		－	1280	ⅢbL	完形	59.4	-12.7	30.8	-2.2	19.1	-1.3	1.9	-0.3	41.1	○	Sa.	
－		－	1191	ⅢbL	完形	59.8	-12.3	34.7	1.7	16.4	-4.0	1.7	-0.5	43.4	○	Sa.	
Ⅱ-11-23		－	1319	ⅢbL	略完形	61.3	-10.8	26.3	-6.7	20.5	0.1	2.3	0.1	42.9			
－		－	1219	ⅢbL	完形	63.3	-8.8	27.0	-6.0	21.7	1.3	2.3	0.1	45.7		Sa.	
－		図S139	186 1198 1199	ⅢbM ⅢbL	略完形	63.3	-8.8	33.0	0.0	23.4	3.0	1.9	-0.3	40.3		Sa.	
－		－	1278	ⅢbL	完形	64.8	-7.3	29.8	-3.2	16.8	-3.6	2.2	0.0	42.1		Sa.	
Ⅱ-11-24		－	1284	ⅢbL	完形	64.9	-7.2	31.8	-1.2	24.3	3.9	2.0	-0.2	63.7		Sa.	
－		－	1230	ⅢbL	略完形	65.8	-6.3	37.8	4.8	23.1	2.7	1.7	-0.5	77.4	○	Sa.	

表Ⅱ-13 ⅢSB出土礫属性表(6)
ⅢSB-07(2)

掘図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
−		−	1617	Ⅲb1.	完形	66.2	−5.9	27.9	−5.1	26.9	6.5	2.4	0.2	50.0	○	Sa.	
−		−	1234	Ⅲb1.	略完形	66.3	−5.8	22.5	−10.5	16.0	−4.4	2.9	0.7	32.3	○	Mud.	
Ⅱ-11-25		−	1232	Ⅲb1.	完形	66.4	−5.7	38.5	5.5	15.6	−4.8	1.7	−0.5	47.5		Sa.	
Ⅱ-11-26		Ⅲ5035	1266 1268	Ⅲb1.	完形	66.6	−5.5	35.4	2.4	22.3	1.9	1.9	−0.3	57.0	○	Sa.	
−		−	1289	Ⅲb1.	完形	67.0	−5.1	27.6	−5.4	26.1	5.7	2.4	0.2	72.1		Sa.	
−		−	1226	Ⅲb1.	完形	67.2	−4.9	39.5	6.5	12.1	−8.3	1.7	−0.5	43.5	○	Sa.	
−		−	1239	Ⅲb1.	完形	69.6	−2.5	36.5	3.5	16.4	−4.0	1.9	−0.3	61.9	○	Sa.	
−		−	1260	Ⅲb1.	完形	70.3	−1.8	43.9	10.9	20.4	0.0	1.6	−0.6	83.8	○	Sa.	
−		−	1222	Ⅲb1.	略完形	71.3	−0.8	34.4	1.4	13.3	−7.1	2.1	−0.1	42.9		Sa.	
−		−	1620	Ⅲb1.	完形	71.6	−0.5	32.5	−0.5	24.5	4.1	2.2	0.0	57.2		Mud.	
−		−	1233	Ⅲb1.	完形	72.3	0.2	34.5	1.5	15.2	−5.2	2.1	−0.1	54.8	○	Sa.	
Ⅱ-11-27		Ⅲ5150	1274 1275	Ⅲb1.	完形	73.1	1.0	35.1	2.1	17.8	−2.6	2.1	−0.1	53.7		Mud.	
−		−	1255	Ⅲb1.	完形	73.1	1.0	24.5	−8.5	19.2	−1.2	3.0	0.8	49.5	○	Sa.	
−		Ⅲ5152	1282 1283	Ⅲb1.	略完形	73.5	1.4	33.2	0.2	18.9	−1.5	2.2	0.0	55.2	○	Sa.	
−		Ⅲ5043	1205 1207 1209 1210 1211 23906	Ⅲb1.	完形	74.7	2.6	35.3	2.3	22.2	1.8	2.1	−0.1	72.0	○	Sa.	
−	34-1-7	Ⅲ5153	1256 1320	Ⅲb1.	完形	74.8	2.7	31.8	−1.2	24.5	4.1	2.4	0.2	65.6	○	Sa.	
−		Ⅲ5039	1261 1262	Ⅲb1.	完形	76.9	4.8	35.6	2.6	22.8	2.4	2.2	0.0	71.7	○	Sa.	
−		−	1621	Ⅲb1.	完形	77.2	5.1	41.3	8.3	15.9	−4.5	1.9	−0.3	78.5		Sa.	
Ⅱ-11-28		−	1267	Ⅲb1.	完形	77.3	5.2	33.9	0.9	13.0	−7.4	2.3	0.1	44.7		Sa.	
−		Ⅲ5140	1034 1227	Ⅲb1.	完形	77.6	5.5	29.0	−4.0	24.5	4.1	2.7	0.5	78.5	○	Sa.	
Ⅱ-11-29		Ⅲ5155	322 1279	Ⅲb1. Ⅲb1.	完形	78.9	6.8	32.2	−0.8	21.3	0.9	2.5	0.3	66.1	○	Sa.	
−		−	1241	Ⅲb1.	完形	82.0	9.9	32.2	−0.8	25.2	4.8	2.5	0.3	60.5	○	Mud.	
−		−	1618	Ⅲb1.	完形	82.5	10.4	40.7	7.7	26.6	6.2	2.0	−0.2	92.6	○	Sa.	
Ⅱ-11-30		−	1286	Ⅲb1.	完形	83.7	11.6	36.4	3.4	24.8	4.4	2.3	0.1	69.4		Mud.	
−		−	1285	Ⅲb1.	完形	83.8	11.7	39.1	6.1	24.8	4.4	2.1	−0.1	76.0		Sa.	
Ⅱ-11-31		Ⅲ5171	1270-1 1272	Ⅲb1.	完形	85.1	13.0	23.4	−9.6	17.2	−3.2	3.6	1.4	32.8	○	Mud.	
−		−	1223	Ⅲb1.	完形	85.4	13.3	38.2	5.2	22.2	1.8	2.2	0.0	67.9	○	Sa.	
Ⅱ-11-32		−	1215	Ⅲb1.	完形	86.9	14.8	43.2	10.2	24.6	4.2	2.0	−0.2	106.3	○	Sa.	
−		−	1225	Ⅲb1.	完形	86.9	14.8	30.3	−2.7	25.3	4.9	2.9	0.7	65.5	○	Sa.	
−		−	1263	Ⅲb1.	完形	88.1	16.0	33.5	0.5	17.4	−3.0	2.6	0.4	57.8	○	Sa.	
Ⅱ-11-33		−	1257	Ⅲb1.	完形	88.2	16.1	31.7	−1.3	22.3	1.9	2.8	0.6	77.9	○	Sa.	
−		−	1214	Ⅲb1.	完形	88.7	16.6	37.0	4.0	23.4	3.0	2.4	0.2	89.8	○	Sa.	
−		Ⅲ5040	1287 1288	Ⅲb1.	略完形	90.8	18.7	36.4	3.4	22.7	2.3	2.5	0.3	106.5		Sa.	
Ⅱ-11-34		Ⅲ5151	1251 1258	Ⅲb1.	略完形	91.8	19.7	30.6	−2.4	25.9	5.5	3.0	0.8	92.2	○	Sa.	
完形合計														47.0			
完形平均値						72.1		33.0		20.4		2.2		59.7			
遺物総重量														2808.1			

表Ⅱ-14　ⅢSB出土礫属性表(7)
ⅢSB-08(1)

検図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-11-35		－	1435	ⅢbL	完形	56.2	-24.9	34.2	32.5	21.7	-0.5	1.6	-0.7	47.8		Sa.	
－		▦SO18	1478 1509	ⅢbL	略完形	59.7	-21.4	34.1	1.7	24.9	2.7	1.8	-0.5	60.8		Sa.	
Ⅱ-11-36		－	1506	ⅢbL	完形	64.8	-16.3	36.7	1.7	22.9	0.7	1.8	-0.5	73.4		Sa.	
－		－	1461	ⅢbL	完形	66.1	-15.0	29.9	-5.1	17.8	-4.4	2.2	-0.1	51.1		Sa.	
－		－	1479	ⅢbL	完形	66.2	-14.9	38.9	3.9	23.9	1.7	1.7	-0.6	70.5		Sa.	
－		▦SO14	1450 1456	ⅢbL	略完形	67.4	-13.7	35.9	-0.9	22.4	0.2	1.9	-0.4	65.6		Sa.	
Ⅱ-11-37		－	1458	ⅢbL	完形	68.8	-12.3	34.1	-0.9	24.7	2.5	2.0	-0.3	74.7		Sa.	
－		－	1434	ⅢbL	完形	70.1	-11.0	36.3	1.3	24.2	2.0	1.9	-0.4	59.3		Mud.	
Ⅱ-11-38		－	1501	ⅢbL	完形	70.5	-10.6	33.7	-1.3	26.0	3.8	2.1	-0.2	66.6		Sa.	
－		－	1512	ⅢbL	完形	70.5	-10.6	31.6	-3.4	20.6	-1.6	2.2	-0.1	47.8		Sa.	
－		－	1437	ⅢbL	完形	70.7	-10.4	28.5	-6.5	20.0	-2.2	2.5	0.2	45.6		Mud.	
－		－	1519	ⅢbL	完形	71.3	-9.8	34.5	-0.5	24.4	2.2	2.1	-0.2	86.6		Sa.	
Ⅱ-11-39		－	1526	ⅢbL	完形	71.9	-9.2	31.4	-3.6	25.5	3.3	2.3	0.0	72.0		Sa.	
－		－	1484	ⅢbL	完形	72.0	-9.1	34.2	-0.8	15.5	-6.7	2.1	-0.2	60.5		Sa.	
－		－	1499	ⅢbL	完形	72.4	-8.7	30.6	-4.4	17.5	-4.7	2.4	0.1	55.7		Sa.	
Ⅱ-11-40		－	1465	ⅢbL	完形	72.5	-8.6	35.7	0.7	24.5	2.3	2.0	-0.3	105.3		Sa.	
－		－	1481	ⅢbL	完形	73.1	-8.0	35.2	0.2	23.1	0.9	2.1	-0.2	66.5		Sa.	
－		－	1513	ⅢbL	完形	73.2	-7.9	39.7	4.7	17.2	-5.0	1.8	-0.5	63.0		Sa.	
－		－	1457	ⅢbL	完形	73.5	-7.6	30.7	-4.3	23.5	1.3	2.4	0.1	69.3		Sa.	
－		－	1487	ⅢbL	完形	73.6	-7.5	33.0	-2.0	23.3	1.1	2.2	-0.1	73.0		Sa.	
－		－	1518	ⅢbL	略完形	74.2	-6.9	30.8	-4.2	25.7	3.5	2.4	0.1	75.9		Sa.	
－		－	1462	ⅢbL	完形	74.6	-6.5	42.9	7.9	23.5	1.3	1.7	-0.6	92.2		Sa.	
－		－	1495	ⅢbL	完形	75.9	-5.2	40.8	5.8	28.3	6.1	1.9	-0.4	88.9		Sa.	
Ⅱ-11-41		－	1440	ⅢbL	完形	76.1	-5.0	36.5	1.5	14.8	-7.4	2.1	-0.2	47.2		Sa.	
－	34-1-8	－	1480	ⅢbL	完形	76.6	-4.5	31.3	-3.7	21.2	-1.0	2.4	0.1	72.0		Sa.	
Ⅱ-11-42		－	1524	ⅢbL	完形	78.3	-2.8	36.4	1.4	25.5	3.3	2.2	-0.1	101.4		Sa.	
－		－	1490	ⅢbL	完形	79.0	-2.1	31.6	-3.4	20.8	-1.4	2.5	0.2	66.9		Sa.	
－		－	1510	ⅢbL	完形	80.3	-0.8	36.8	1.8	24.9	2.7	2.2	-0.1	87.8		Sa.	
－		－	1500	ⅢbL	完形	81.2	0.1	34.2	-0.8	20.9	-1.3	2.4	0.1	68.6		Sa.	
Ⅱ-11-43		▦SO20	1452 (ほか3点)	ⅢbL	完形	81.3	0.2	34.9	-0.1	41.1	18.9	2.3	0.0	151.2		Sa.	
－		－	1463	ⅢbL	完形	81.3	0.2	32.8	-2.2	26.0	3.8	2.5	0.2	106.3		Sa.	
－		－	1445	ⅢbL	完形	81.5	0.4	38.0	3.0	23.4	1.2	2.1	-0.2	52.8		Mud.	
－		－	1460	ⅢbL	完形	81.8	0.7	31.6	-3.4	21.6	-0.6	2.6	0.3	55.1		Sa.	
Ⅱ-11-44		－	1496	ⅢbL	完形	82.0	0.9	35.8	0.8	22.2	0.0	2.3	0.0	75.4		Mud.	
－		－	1470	ⅢbL	略完形	82.5	1.4	37.5	2.5	24.0	1.8	2.2	-0.1	86.0		Sa.	
－		－	1474	ⅢbL	完形	84.3	3.2	42.2	7.2	13.3	-8.9	2.0	-0.3	75.5		Sa.	
－		－	1464	ⅢbL	略完形	85.6	4.5	29.7	-5.3	20.7	-1.5	2.9	0.6	52.0		Mud.	
Ⅱ-11-45		▦SO19	1514 1523	ⅢbL	完形	85.9	4.8	36.4	-10.7	21.4	-0.8	2.4	0.1	72.7		Mud.	
－		－	1447	ⅢbL	完形	86.0	4.9	24.3	-10.7	21.0	-1.2	3.5	1.2	48.3		Sa.	
－		－	1491	ⅢbL	略完形	86.3	5.2	39.8	4.8	15.4	-6.8	2.2	-0.1	48.5		Mud.	
－		▦SO15	1502 1505	ⅢbL	略完形	89.7	8.6	34.6	-3.6	20.8	-1.4	2.6	0.3	73.9		Sa.	
－		－	1433	ⅢbL	完形	89.9	8.8	31.4	-3.6	20.4	-1.8	2.9	0.6	72.3		Sa.	
Ⅱ-11-46		－	1488	ⅢbL	完形	91.3	10.2	42.7	7.7	24.7	2.5	2.1	-0.2	101.8		Sa.	
－		▦S157	1486 1515	ⅢbL	完形	96.9	15.8	44.0	3.2	26.1	3.9	2.2	-0.1	104.0		Sa.	
－		－	1489	ⅢbL	完形	97.8	16.7	38.2	3.2	23.8	1.6	2.6	0.3	119.8		Sa.	
Ⅱ-11-47		－	1494	ⅢbL	完形	99.4	18.3	33.8	-1.2	22.2	0.0	2.9	0.6	72.4		Mud.	
－		▦SO22	1473 1507	ⅢbL	略完形	99.7	18.6	34.5	2.4	11.5	-10.7	2.9	0.6	55.5		Sa.	
Ⅱ-11-48		－	1436	ⅢbL	完形	101.0	19.9	37.4	2.4	20.0	-2.2	2.7	0.4	77.6		Sa.	

表Ⅱ-15 ⅢSB出土礫属性表(8)

ⅢSB-08(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
−	34-1-8	−	1493	ⅢbL.	完形	101.6	20.5	36.5	1.5	25.4	10.0	2.8	0.5	121.0		Sa.	
−		−	1498	ⅢbL.	完形	102.4	21.3	32.9	−2.1	17.7	2.3	3.1	0.8	74.6		Sa.	
−		−	1525	ⅢbL.	完形	106.6	25.5	32.4	−2.6	22.0	6.6	3.3	1.0	102.5		Sa.	
Ⅱ-11-49		−	1446	ⅢbL.	完形	106.8	25.7	37.6	2.6	19.8	4.4	2.8	0.5	127.0		Sa.	
Ⅱ-11-50		−	1520	ⅢbL.	完形	114.0	32.9	38.0	3.0	24.3	8.9	3.0	0.7	105.8		Sa.	
完形合計														53.0			
完形平均値						81.1		35.0		22.2		2.3		76.4			
遺物総重量														4048.0			

ⅢSB-09(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅱ-12-1	34-1-9	ⅢS033	1573 2194	ⅢbL.	完形	52.5	−12.9	29.5	0.5	21.6	0.5	1.8	−0.5	44.9		Sa.	
−		−	1545	ⅢbL.	完形	55.0	−10.4	26.2	−2.8	18.1	−3.0	2.1	−0.2	31.3		Mud.	
−		ⅢS027	2197 2199	ⅢbL.	略完形	56.7	−8.7	23.0	−6.0	21.0	−0.1	2.5	0.2	37.2		Sa.	
Ⅱ-12-2		−	2189	ⅢbL.	完形	57.0	−8.4	34.3	5.3	22.5	1.4	1.7	−0.6	57.7		Sa.	
Ⅱ-12-3		−	1558	ⅢbL.	完形	57.9	−7.5	31.3	2.3	16.9	−4.2	1.8	−0.5	38.7		Sa.	
−		−	2196	ⅢbL.	完形	58.3	−7.1	31.7	2.7	20.8	−0.3	1.8	−0.5	50.7		Sa.	
−		−	2198	ⅢbL.	完形	59.7	−5.7	29.3	0.3	18.1	−3.0	2.0	−0.3	42.7		Sa.	
−		−	1696	ⅢbL.	完形	59.9	−5.5	30.9	1.9	15.2	−5.9	1.9	−0.4	40.3		Sa.	
−		−	1547	ⅢbL.	略完形	60.0	−5.4	22.3	−6.7	19.7	−1.4	2.7	0.4	27.7		Mud.	
−		−	2174	ⅢbL.	完形	60.4	−5.0	30.6	1.6	19.3	−1.8	2.0	−0.3	41.5		Mud.	
−		−	1554	ⅢbL.	略完形	60.8	−4.6	25.6	−3.4	15.6	−5.5	2.4	0.1	32.3		Mud.	
Ⅱ-12-4		−	2176	ⅢbL.	完形	60.9	−4.5	26.9	−2.1	20.7	−0.4	2.3	0.0	40.8		Sa.	
−		−	1569	ⅢbL.	完形	61.2	−4.2	27.8	−1.2	20.4	−0.7	2.2	−0.1	52.4		Sa.	
Ⅱ-12-5		−	1568	ⅢbL.	完形	61.8	−3.6	25.6	−3.4	17.2	−3.9	2.4	0.1	37.2		Sa.	
−		−	1570	ⅢbL.	完形	62.0	−3.4	27.7	−1.3	25.5	4.4	2.2	−0.1	42.3		Sa.	
−		−	2187	ⅢbL.	完形	62.1	−3.3	26.0	−3.0	17.9	−3.2	2.4	0.1	34.8		Sa.	
−		−	2179	ⅢbL.	完形	62.6	−2.8	26.7	−2.3	27.9	6.8	2.3	0.0	65.1		Sa.	
−		−	1553	ⅢbL.	完形	62.7	−2.7	29.7	0.7	23.7	2.6	2.1	−0.2	55.4		Sa.	
−		ⅢS030	1552 1562 2180	ⅢbL.	略完形	62.8	−2.6	30.2	1.2	21.5	0.4	2.1	−0.2	43.3		Mud.	
−		−	2185	ⅢbL.	完形	63.1	−2.3	33.0	4.0	19.2	−1.9	1.9	−0.4	48.5		Sa.	
−		−	2188	ⅢbL.	完形	63.3	−2.1	31.8	2.8	17.1	−4.0	2.0	−0.3	47.5		Sa.	
Ⅱ-12-6		−	1572	ⅢbL.	完形	63.9	−1.5	30.0	1.0	22.4	1.3	2.1	−0.2	52.6		Sa.	
−		−	1549	ⅢbL.	完形	63.9	−1.5	28.7	−0.3	19.7	−1.4	2.2	−0.1	49.9		Sa.	
−		−	1564	ⅢbL.	完形	64.2	−1.2	27.0	−2.0	23.6	2.5	2.4	0.1	57.1		Sa.	
−		ⅢS029	1550 1561	ⅢbL.	完形	64.3	−1.1	35.6	6.6	26.4	5.3	1.8	−0.5	69.1		Mud.	
Ⅱ-12-7		−	1563	ⅢbL.	完形	64.5	−0.9	34.9	5.9	25.0	3.9	1.8	−0.5	52.4		Mud.	
−		−	1557	ⅢbL.	完形	64.7	−0.7	28.0	−1.0	26.1	5.0	2.3	0.0	46.7		Sa.	
Ⅱ-12-8		−	1536	ⅢbL.	完形	64.8	−0.6	29.8	0.8	23.3	2.2	2.2	−0.1	57.0		Sa.	
Ⅱ-12-9		−	1540	ⅢbL.	完形	65.2	−0.2	26.3	−2.7	25.1	4.0	2.5	0.2	70.2		Sa.	
Ⅱ-12-10		−	2178	ⅢbL.	完形	65.8	0.4	22.2	−6.8	17.9	−3.2	3.0	0.7	37.3		Sa.	
Ⅱ-12-11		ⅢS026	2182 2186	ⅢbL.	完形	66.2	0.8	35.9	6.9	16.1	−5.0	1.8	−0.5	42.5		Mud.	
−		−	1565	ⅢbL.	完形	66.5	1.1	34.9	5.9	15.6	−5.5	1.9	−0.4	52.0		Sa.	
−		−	1560	ⅢbL.	完形	66.5	1.1	23.8	−5.2	22.8	1.7	2.8	0.5	46.9		Sa.	
−		−	1544	ⅢbL.	完形	66.6	1.2	28.3	−0.7	25.4	4.3	2.4	0.1	53.6		Mud.	
−		ⅢS138	207 2184	ⅢbL. ⅢbL.	完形	67.0	1.6	28.8	−0.2	15.3	−5.8	2.3	0.0	36.4		Sa.	
−		−	1537	ⅢbL.	略完形	67.4	2.0	31.1	2.1	20.9	−0.2	2.2	−0.1	66.1		Sa.	

表Ⅱ-16　ⅢSB出土礫属性表(9)
ⅢSB-09(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
–	34-1-9	–	1538	ⅢbL	完形	68.0	2.6	31.3	2.3	16.7	-4.4	2.2	-0.1	41.7		Sa.	
–		ⅢSO32	2172 2175	ⅢbL	略完形	68.1	2.7	28.6	-0.4	20.0	-1.1	2.4	0.1	51.4		Sa.	
–		ⅢSO31	1556 1566	ⅢbL	略完形	68.2	2.8	30.4	1.4	24.4	3.3	2.2	-0.1	47.3		Mud.	
Ⅱ-12-12		–	1567	ⅢbL	完形	70.4	5.0	31.8	2.8	22.4	1.3	2.2	-0.1	58.3		Sa.	
–		ⅢSO28	2170 2171 496	ⅢbL	完形	71.4	6.0	30.5	1.5	26.3	5.2	2.3	0.0	44.9		Mud.	
–		–	2191	ⅢbL	完形	71.5	6.1	31.2	2.2	21.3	0.2	2.3	0.0	66.4		Sa.	
–		–	1543	ⅢbL	完形	71.9	6.5	24.3	-4.7	20.9	-0.2	3.0	0.7	46.9		Sa.	
–		–	1539	ⅢbL	完形	72.0	6.6	37.1	8.1	24.9	3.8	1.9	-0.4	60.0		Sa.	
Ⅱ-12-13		–	2193	ⅢbL	完形	76.1	10.7	24.7	-4.3	23.8	2.7	3.1	0.8	51.4		Mud.	
–		–	2177	ⅢbL	略完形	77.7	12.3	25.1	-3.9	22.1	1.0	3.1	0.8	41.4		Sa.	
–		–	1548	ⅢbL	完形	78.8	13.4	28.0	-1.0	20.3	-0.8	2.8	0.5	46.1		Sa.	
Ⅱ-12-14		–	2169	ⅢbL	完形	79.1	13.7	22.8	-6.2	22.9	1.8	3.5	1.2	41.8		Mud.	
–		ⅢSO34	1574 2192	ⅢbL	略完形	82.3	16.9	29.3	0.3	21.5	0.4	2.8	0.5	51.8		Sa.	
Ⅱ-12-15		–	2173	ⅢbL	完形	89.3	23.9	29.9	0.9	22.8	1.7	3.0	0.7	79.3		Sa.	
完形合計														50.0			
完形平均値						65.4		29.0		21.1		2.3		68.6			
遺物総重量														2430.8			

表Ⅱ-17　アイヌ文化期包含層出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド/遺構名	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-12-16	34-2-1	–	610	滑沢面のある礫	–	ⅢbM	S-6	171.0	102.0	63.1	1244.0	Con.	線条痕有
Ⅱ-12-17	34-2-2	ⅢST 011	21 55	線条痕のある礫	–	ⅢbU ⅢbL	S-5	107.8	88.1	(37.2)	(270.0)	Mud.	被熱
Ⅱ-12-18	34-2-3	ⅢST 013	332 707	台石	–	ⅢbM	Q-5 R-6	166.5	81.8	50.5	1037.0	Sa.	滑沢面有
Ⅱ-12-19	34-2-4	–	475	刀子	–	ⅢbM	S-5	206.0	15.2	3.9	35.6	Irn.	
Ⅱ-12-20	34-2-5	–	476	刀子	–	ⅢbM	R-6	(38.8)	22.0	3.3	(9.6)	Irn.	
Ⅱ-12-21	34-2-6	–	1529	鉄鏃	–	ⅢbL	R-6	(44.7)	(33.5)	4.5	(5.9)	Irn.	
Ⅱ-12-22	34-2-7	–	785	板状鉄製品	–	ⅢbM	R-6	(34.1)	12.8	2.4	(2.7)	Irn.	
Ⅱ-12-23	34-2-8	–	2781	板状鉄製品	–	ⅢcL	R-6	(36.8)	6.6	2.3	(2.0)	Irn.	
Ⅱ-12-24	34-2-9	–	49	板状鉄製品	–	ⅢbM	R-6	(21.0)	6.6	2.2	(0.4)	Irn.	
Ⅱ-12-25	34-2-10	–	55-9	板状鉄製品	–	ⅢbL	S-5	(18.1)	(13.8)	3.6	(1.0)	Irn.	
Ⅱ-12-26	34-2-11	–	568	板状鉄製品	–	ⅢbL	S-5	(17.3)	(8.3)	2.8	(0.6)	Irn.	
Ⅱ-12-27	34-2-12	–	370	板状鉄製品	–	ⅢbM	S-5	(12.6)	5.8	2.0	(0.5)	Irn.	
Ⅱ-12-28	34-2-13	–	371	板状鉄製品	–	ⅢbM	S-5	(10.1)	(6.7)	1.5	(0.2)	Irn.	
Ⅱ-12-29	34-2-14	–	102	棒状鉄製品	–	ⅢbM	S-6	52.0	5.1	3.2	3.1	Irn.	
Ⅱ-12-30	34-2-15	–	415	棒状鉄製品	–	ⅢbM	R-6	(28.0)	3.4	3.3	(2.1)	Irn.	
Ⅱ-12-31	34-2-16	–	570	棒状鉄製品	–	ⅢbL	R-6	(33.3)	6.7	6.6	(2.0)	Irn.	
Ⅱ-12-32	34-2-17	–	1528	棒状鉄製品	–	ⅢbL	R-6	(19.5)	4.4	4.2	(0.6)	Irn.	
Ⅱ-12-33	34-2-18	–	211	棒状鉄製品	–	ⅢbM	S-5	(16.6)	4.8	3.5	(0.7)	Irn.	
Ⅱ-12-34	34-2-19	–	57	環状鉄製品	–	ⅢbM	S-6	(19.1)	13.0	4.0	(1.5)	Irn.	

第Ⅲ章　続縄文文化期の調査

本章では主にⅢc 層から出土、検出した遺構、遺物を対象に掲載した。時期は出土土器から大きく前葉の汐見式相当、後葉の北大Ⅰ式に分けられる。遺構は焼土6ヵ所、獣骨集中9ヵ所、土器集中7ヵ所、礫集中1ヵ所検出し、獣骨集中はいずれも焼骨片で構成されている。遺構、遺物の分布については表Ⅲ-2で示したように大きく3ヵ所に分けられる。

調査区東側段丘縁辺部で検出したⅢF-07 は近接して北大Ⅰ式の小型土器が出土しており検出層位などから同時期の所産と考えられる。R-6 区を中心とした獣骨集中及び土器集中を検出した地点は調査区の中でも特に遺物が多く、前葉と後葉の土器が混じって出土する状態である。この区域には獣骨集中4ヵ所が近接し、調査段階では帰属時期不明であったが、整理段階で獣骨集中と出土土器レベルの確認を行ったところ前葉の可能性が高いと判断した。なお、同一グリッドで出土したⅢPB-02･04は北大Ⅰ式土器で広範囲にわたって接合している。調査区中央北西側に位置するⅢSB-10、ⅢPB-06、ⅢBB-02、ⅢF-09 については、近接して検出するほか、周囲または遺構内に出土する土器から前葉のまとまった遺構群と考えられる。ⅢSB-10 については不定形礫と長軸 1～2cm 程度の被熱した小礫で構成されている礫集中で下位に焼土を形成している。遺物は土器 1,018 点、剥片石器 99 点以外は明瞭に時代を区分するに至らないため表Ⅰ-3を参照されたい。また、Ⅲc 層下位の続縄文文化期前葉の包含層でコハクが出土しているが、砕片のため掲載していない。（奈良）

表Ⅲ-1　続縄文文化期遺構群一覧表

遺構名	帰属時期	グリッド	層位	備考	遺構名	帰属時期	グリッド	層位	備考
ⅢF-02	続縄文文化期	S-4･5	ⅢcU		ⅢPB-07	続縄文文化期前葉	R-5	ⅢcU	
ⅢF-03	続縄文文化期	T-4	ⅢcL		ⅢSB-10	続縄文文化期前葉	Q･R-4	ⅢcL	
ⅢF-06	続縄文文化期中葉	S-4･5	ⅢcU		ⅢBB-02	続縄文文化期前葉	R-4	ⅢcL	
ⅢF-07	続縄文文化期後葉	U-4･5	ⅢcU		ⅢBB-03	続縄文文化期前葉	R-6	ⅢcU	
ⅢF-08	続縄文文化期前葉	S-6	ⅢcU		ⅢBB-04	続縄文文化期前葉	R-6	ⅢcU	
ⅢF-09	続縄文文化期前葉	Q-4	ⅢcU		ⅢBB-05	続縄文文化期前葉	S･T-6	ⅢcU	
ⅢPB-01	続縄文文化期後葉	U-5	ⅢcU		ⅢBB-06	続縄文文化期前葉	R-5･6	ⅢcL	
ⅢPB-02	続縄文文化期後葉	R･S-6	ⅢcU		ⅢBB-07	続縄文文化期前葉	R-6	ⅢcU	
ⅢPB-03	続縄文文化期前葉	R-6	ⅢcU		ⅢBB-08	続縄文文化期	Q-3	ⅢcU	
ⅢPB-04	続縄文文化期後葉	R-5･6	ⅢcU		ⅢBB-09	続縄文文化期	R-3	ⅢcU	
ⅢPB-05	続縄文文化期前葉	R-5･6	ⅢcL		ⅢBB-10	続縄文文化期前葉	S･T-5	ⅢcL	
ⅢPB-06	続縄文文化期前葉	R-4	ⅢcL						

表Ⅲ-2　続縄文文化期関連遺構一覧表

関連	推定時期	遺構名	グ	層位	備考
東側段丘縁辺部付近のU-5区で近接して検出。	続縄文後葉	Ⅲ -07	U-4 5	Ⅲ U	灰層を伴わず弱い被熱層が認められる。
		ⅢPB-01	U-5	Ⅲ U	北大Ⅰ式の　　ア土器。
R-6区を中心として検出した焼骨片 土器集中範囲。焼骨片集中に近接して出土する土器などから同時期の所産と考えられる。	続縄文前葉	ⅢBB-03	R-6	Ⅲ U	近接して検出。
		ⅢBB-04	R-6	Ⅲ U	
		ⅢBB-06	R-5 6	Ⅲ U	
		ⅢBB-07	R-6	Ⅲ U	
		ⅢPB-03	R-6	Ⅲ U	後葉の土器と混在して出土。
		ⅢPB-05	R-5 6	Ⅲ U	ⅢBB-06と一部重複。
Q R-4区に近接して検出。ⅢSB-10とその東 南東側に同時期の土器集中と同一　　で検出した焼骨片集中が認められる。	続縄文前葉	Ⅲ -09	Q-4	Ⅲ U	ⅢSB-10の下位に形成。
		ⅢPB-06	R-4	Ⅲ U	ⅢSB-10に近接。
		ⅢSB-10	Q R-4	Ⅲ L	小礫の集中範囲。
		ⅢBB-02	R-4	Ⅲ L	ⅢSB-10に近接。

図Ⅲ-1　続縄文文化期遺構配置図

第1節　焼土

焼土は焼骨片を確認または燃焼面を確認した段階でフローテーション用のサンプル採取を適宜行っている。分布についてはⅢF-02･06 が長軸上に並列しているが周囲に柱穴や遺物が密集するなどの特徴が認められず単独の焼土と判断した。また、同じ図で掲載している関連遺構についてはまとめて記載する。

同定試料の結果については第Ⅴ章第1･2節を参照されたい。

ⅢF-02（図Ⅲ-2　図版12-1･2）

位置：S-4･5区　規模：82×60㎝　検出層位：ⅢcU

確認・調査　調査区南東-北西軸トレンチ掘削中、Ⅲc 層上位で焼土を検出。焼土周辺はⅢc 層上位で掘削をやめ、面的に焼土の平面形を確認した。焼土は南西側に広がり、平面形は楕円形で燃焼面に焼骨片が僅かに認められた。平面形の記録後に長軸方向で半截し断面観察を行った。2 層被熱層は比較的厚く、3 層付帯黒色土も明瞭に形成されている。後述するⅢF-06 と長軸方向で並び、被熱層も明瞭であることから住居の炉跡の可能性も考慮したが、周囲に掘り込みや柱穴が認められないため単独の遺構として掲載する。遺物は出土していない。

同定試料からは部位不明の哺乳類、アワ、キビ、キイチゴ属が出土している。続縄文文化期におけるアワ、キビの栽培植物が出土する例は極端に少ないことから、同定を行った高瀬氏もコメントで指摘しているように、今回の結果は混入の可能性が高いと思われる。

ⅢF-03（図Ⅲ-2　図版12-3･4）

位置：T-4区　規模：（90）×58㎝　検出層位：ⅢcL

確認・調査　調査区東側の調査区断面観察ベルトの下位から焼骨片と暗赤褐色の範囲を検出し焼土と判断してⅢF-03 を付番し、平面、断面の記録を行って調査終了とした。1は比較的明瞭な被熱層で焼骨片を微量に含む。断面B 側の3 層は根痕によって擾乱を受けており、焼骨片が斑状に混入している。遺物は出土していない。

同定試料からはシカの四肢骨、部位不明の哺乳類 665ｇ、キハダ属、マタタビ属が出土している。

ⅢF-06（図Ⅲ-2　図版12-5･6）

位置：S-4･5区　規模：104×70㎝　検出層位：ⅢcU

確認・調査　ⅢF-02 と同じく調査区トレンチ内で検出。焼土調査を優先させるため、Ⅲc 層上位で調査区断面の断面記録を行い、ベルトを外して焼土の広がりを確認した。焼土は概ね楕円形状のプランで東側は倒木痕のⅤ層揚げ土の上に形成されている。ⅢF-06 を付番して平面、断面の記録を行って調査終了とした。焼土は倒木痕の後に形成されており、1 層燃焼面には焼骨片が微量に混入する。2 層被熱層は8cm と厚くⅢF-02 と同様明瞭な焼土である。

同定試料からは部位不明の哺乳類4点が出土している。

ⅢBB-10（図Ⅲ-2　図版15-8）

位置：S･T-5区　規模：106×64㎝　検出層位：ⅢcU

確認・調査　調査区ほぼ中央の試掘坑周辺で焼骨片を含む範囲を確認した。北西側にはⅢF-06 を検出しており、周囲はⅢc 層も一部倒木の影響を受けていた。本遺構はⅢc 層上位で面的に2ブロックの分布を検出した。平面の記録後、規模の大きいAブロックの長軸で断面記録を

行った。その後、焼骨片回収の際に倒木痕で乱れる北側で土器片とともに焼骨片が下層へ続いていた。断面の記録は行っていないが、土器片（Ⅵ群 C2 類）も焼骨に混じって下層で出土していることから、本遺構はⅢBB-08 同様倒木痕の窪みに投棄されたものと思われる。

同定試料からはシカの四肢骨と部位不明哺乳類が 176g、ブドウ科が出土している。　（奈良）

出土遺物（図Ⅲ-6-10～14　図版 35-11～15）　10～12 は同一個体の深鉢でⅥ群 C2 類に分類。9 は 2 個 1 対の山形突起が認められる。突起頂部には刺突文が施され、口縁部には帯縄文施文後の隆起線文の間に列点文が充填される。内面は口唇部直下に斜行縄文が施文され、下半はナデ調整される。13 はⅥ群 C1 類の小型深鉢に分類した土器で、器表面は無文のナデ調整。14 は B 類の頁岩製の石錐で、上下両端には素材剥片の剥離面が明瞭に残り、成形剥離は側縁部からのみである。端部や側縁稜、剥離稜には磨滅もみられないことから、未成品ないしは未使用品と思われる。　（土器：奈良・石器：乾）

ⅢF-06・ⅢBB-10 の時期

ⅢF-06 と ⅢBB-10 は約 40cm の距離で近接してⅢc 層上位で検出している。両遺構とも倒木発生後に形成されており、同時期の所産と思われる。時期については焼骨片と同じく倒木の窪みから出土した土器片から縄縄文文化期中葉に帰属すると思われる。　（奈良）

ⅢF-07（図Ⅲ-3　図版 12-7・8）

位置：U-4・5 区　規模：74×60 cm　検出層位：ⅢcU

確認・調査　調査区東側段丘縁辺部付近、南東-北西軸トレンチ上で焼骨片が多量に分布する焼土を検出した。調査区断面を記録した後にベルトを外して面的に分布確認を行うと、焼骨片を含む楕円形のプランと近接して小規模な土器集中（ⅢPB-01）を検出した。ⅢPB-01 と合わせて写真撮影を行い、平面、断面の記録を行って調査終了とした。

出土遺物（図Ⅲ-6-1　図版 35-1・2）　1 はⅥ群 E1 類の胴部下半から底部にかけての土器片で図上合成している。地文は斜行する帯縄文が施され、内面はヘラ状工具による整形痕が顕著。破片はフローテーションからも出土しているため、一部は焼土に投棄された可能性がある。

ⅢPB-01（図Ⅲ-3　図版 13-3）

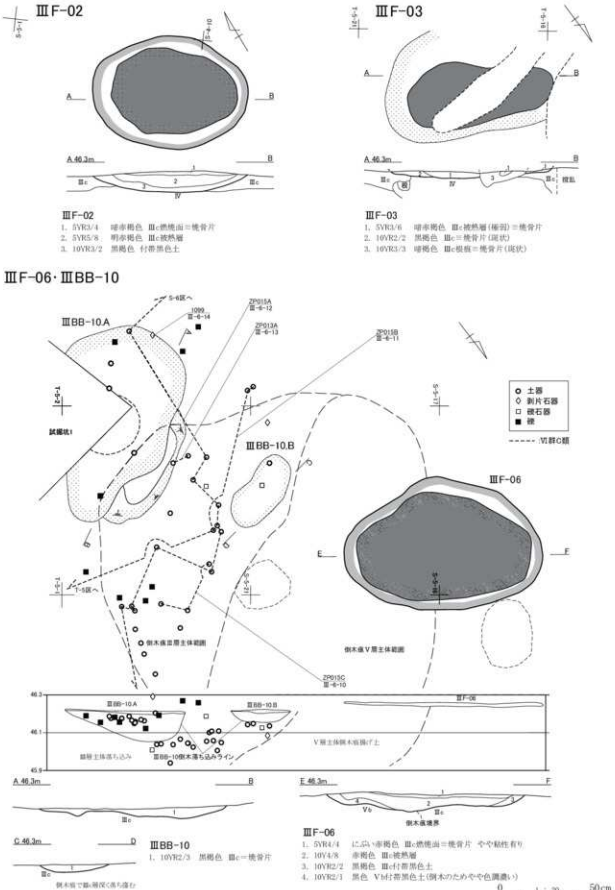
位置：U-5 区　規模：17×17 cm　検出層位：ⅢcU

確認・調査　調査区南東側段丘縁辺部付近でⅢF-07 調査中に南西側約 15 cm地点で検出した。出土状態は底部を上向きに倒伏した状態で放射状に破片が広がり、口縁部も認められていた。ⅢF-07 と合わせて撮影後、光波式トータルステーションで輪郭を記録した後、微細図で図化して遺物を取り上げて調査終了とした。

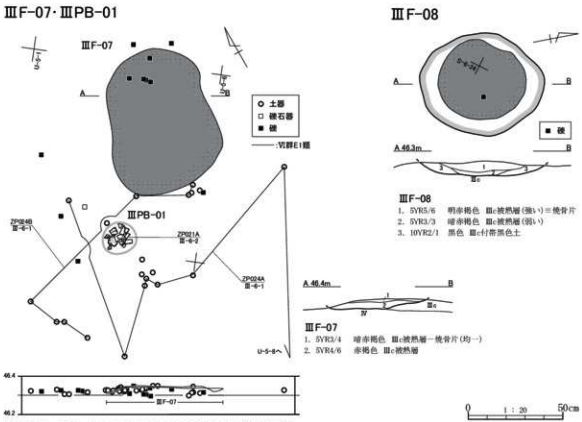
出土遺物（図Ⅲ-6-2　図版 35-3）　2 は小型片口土器のほぼ完形品で、3 ヵ所に山形突起がある。口唇部直下は無文帯でその下位に帯縄文と列点文が鋸歯状に施文される。内面は横方向にハケメ調整が顕著である。

ⅢF-07・ⅢPB-01 の時期

ⅢPB-01 とⅢF-07 は約 15cm と近接して出土しており、検出層位からも同時期の所産と思われる。ⅢPB-01 の土器は北大Ⅰ式の小型片口土器で、周辺で出土する土器片も同時期であることからⅢF-07 は縄縄文文化期後葉に帰属すると思われる。



図Ⅲ-2 ⅢF-02・03・06・ⅢBB-10 平面及び断面図



図Ⅲ-3　ⅢF-07・08・ⅢPB-01 平面及び断面図

ⅢF-08（図Ⅲ-3　図版 13-1・2）

位置：S-6 区　規模：66×54 ㎝　検出層位：ⅢcU

確認・調査　調査区中央南西側で面的に掘り下げていると、Ⅲc 層上位で焼骨片を含む焼土を検出した。ⅢF-08 を付番して平面、断面の記録を行って調査終了とした。1 層は色調が明赤褐色を呈する強い被熱層で微量に焼骨片が混入する。2 層は弱い被熱で、両側に 3 層付帯黒色土が認められる。周囲に遺物が殆ど出土していないため詳細時期は不明であるが、南東側にⅢBB-05 を同一層位で検出しているため関連する可能性がある。

同定試料からはサケ科と部位不明の哺乳類 42 点が出土している。（奈良）

第 2 節　集中出土遺物

本節では獣骨集中、土器集中、礫集中の順に記載するが、同じ図で掲載している関連遺構についてはまとめて記載している。獣骨集中は全て焼骨片集中で下位に焼土が認められないものである。検出層位は獣骨の浮遊などでⅢc 層上位であったが、断面観察、周辺土器の出土層位精査を行うと主体的に形成されているのはⅢc 層下位に帰属するものが多く、縄文文化期前葉に相当すると思われる。なお、本遺構においても精査、半截、調査終了時には土壌サンプルを回収して試料の同定を行っている。土器集中や礫集中は、光波式トータルステーションで遺物輪郭を記録後に出土状態の微細図を作成し、遺物を取り上げた。

1. 獣骨集中

ⅢBB-02（図Ⅲ-4　図版 15-1）

位置：R-4 区　規模：160×92 ㎝　検出層位：ⅢcL

確認・調査　調査区中央の北西側で焼骨片を検出したため、面的に分布範囲の確認を行った。焼骨片は不整形な広がりを示し、範囲内に焼土粒が混じるブロックを 5 ヵ所検出した。平面記録後、長軸方向で断面観察を行い下位に焼土が形成されていないことから獣骨集中と判断した。本遺構の北西側にはⅢPB-06 とⅢSB-10 を検出し、同一層位で比較的近接していることから関連遺構と思われる。時期は周辺出土土器から続縄文文化期前葉と思われる。

同定試料からはシカの四肢骨や部位不明の哺乳類 101g、クルミ属が出土している。　（奈良）

ⅢBB-03（図Ⅲ-4　図版 15-2）

位置：R-6 区　規模：54×36 ㎝　検出層位：ⅢcU

確認・調査　R-6 区は遺物や土器集中が多く全体を同一レベルで面的に掘り下げると、Ⅲc 層に焼骨片を少量含む楕円形状の範囲を検出した。本集中の西側約 50㎝にはⅢBB-04、北側約 20㎝にはⅢPB-03 が近接して出土した。遺物を残した状態で平面形の記録をとり、半截して断面観察を行い、下位に焼土が認められないため獣骨集中と判断した。時期は整理段階で出土レベルや土器接合関係を精査した結果、続縄文文化期前葉と思われ、検出面に出土したⅥ群 E1 類土器は続縄文文化期後葉の活動によって混在したものと判断した。

同定試料からはシカの四肢骨や部位不明哺乳類 204g のほかサケ科椎骨も 2 点出土している。

出土遺物（図Ⅲ-6-3･4　図版 35-4･5）　3 はⅥ群 A1 類 b 種の緩い波状縁をもつ口縁部片で、口縁部直下から縦位の帯縄文が施文されている。二次被熱した接合も含まれるため、焼骨片と同じく焼土から投棄されたものと思われる。4 は B2 類のスクレイパーで薄い縦長剥片を素材とし、下端部に急角度の刃部を作出している。黒曜石製である。

ⅢBB-04（図Ⅲ-4　図版 15-2）

位置：R-6 区　規模：77×73 ㎝　検出層位：ⅢcU

確認・調査　ⅢPB-03 とⅢBB-03 の南西側地点で不整形な焼骨片範囲を検出した。中心部は焼骨片の密度が濃く、範囲内は遺物が多く出土している。短軸にトレンチを設定し断面を観察したところ、B 側の断面ラインが根の影響で一部落ち窪んでいるが下位に焼土は認められないため獣骨集中と判断した。遺物出土状態については、調査段階ではⅥ群 A1 類とⅥ群 E1 類の土器が混在して出土していたが、整理段階で出土レベルや土器分布状態を精査するとⅢBB-03 同様、続縄文文化期前葉に帰属すると思われる。なお、石器、鉄製品については出土レベルから本遺構で掲載するが、石器はⅢPB-02 の ZP022A（Ⅵ群 E1 類）に伴う可能性がある。鉄製品については上層の中世アイヌ文化期と遺構が重複するため混入の可能性もあるが、明瞭な痕跡が認められないためここで掲載する。

同定試料からはシカの四肢骨と、部位不明哺乳類が 543g 出土している。

出土遺物（図Ⅲ-6-5･6　図版 35-6･7）　5 は B2 類のエンド･スクレイパーである。素材剥片の背面に調整を行い、刃部の作出は下端部のみで、腹面の主剥離面は内湾している。黒曜石製で被熱している。6 は板状鉄製品で両側を欠損し、断面ライン①で緩やかに内湾をしている。断面は隅丸方形状を呈する。　（奈良･石器:宮崎）

ⅢBB-05（図Ⅲ-4　図版 15-3）

位置：S･T-6 区　規模：100×76 ㎝　検出層位：ⅢcU

確認・調査　調査区中央南西側で不整形な焼骨片の分布を検出した。平面の記録後に長軸上でトレンチによる半截を行った。断面観察で下位に焼土が認められないため獣骨集中と判断した。本遺構は南西側約 90 ㎝に同一層位でⅢF-08 を検出しており、関連する遺構と考えられる。

同定試料からはシカの四肢骨以外に歯根が 1 点と部位不明哺乳類が 94g 出土している。

ⅢBB-06（図Ⅲ-4　図版 13-7）

位置：R-5･6 区　規模：98×50 ㎝　検出層位：ⅢcL

確認・調査　ⅢPB-05 に一部重複してⅢc 層上位から僅かに焼骨片を検出した。焼骨片は微量であるが東側に分布していたため、ⅢPB-05 と合わせて平面形の記録をした後に長軸上でトレンチによる半截を行った。断面観察からは下位に焼土が認められないため獣骨集中と判断した。本遺構はⅢPB-05 と同一レベルのⅢc 層下位であるため縄縄文文化期前葉に帰属する。

同定試料からはシカの四肢骨と部位不明哺乳類が 96 点、22g 出土している。　（奈良）

ⅢBB-07（図Ⅲ-4　図版 15-4）

位置：R-6 区　規模：61×45 ㎝　検出層位：ⅢcU

確認・調査　ⅢPB-03 の精査段階で、南東側に小規模な焼骨片集中を検出した。平面形の記録後に、長軸上でトレンチによる半截を行った。断面観察でで下位に焼土が認められないことから獣骨集中と判断した。

遺物の出土状態はⅢBB-03･04 と同様に検出面でⅥ群 A1 類とⅥ群 E1 類土器が混在して出土していたが、破片のため図示していない。整理段階において出土レベルや土器接合状況を確認した結果、本遺構は縄縄文文化期前葉に帰属すると考えられる。

同定試料からはシカの四肢骨と部位不明哺乳類が 75 点出土している。

出土遺物（図Ⅲ-6-7　図版 35-8）　7 は B1a 類、黒曜石製のスクレイパーで、断面が三角形の縦長剥片を素材とする。左側縁と下端部は微細剥離で刃部を作出している。

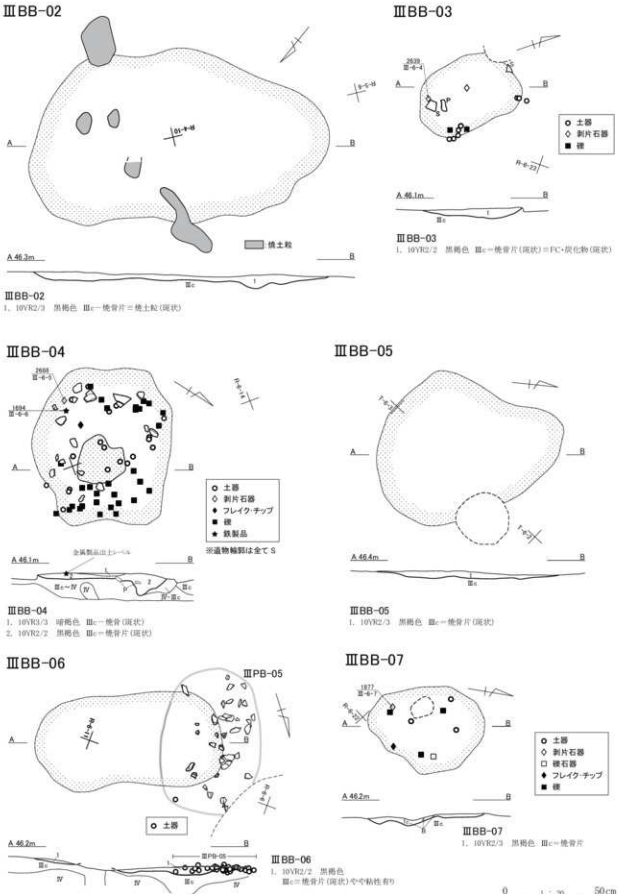
（奈良・石器：宮崎）

ⅢBB-08（図Ⅲ-5　図版 15-5）

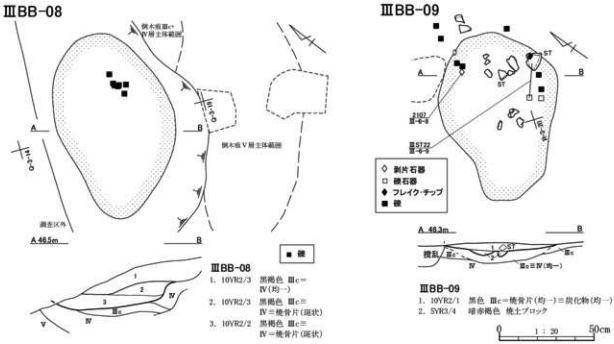
位置：R-5 区　規模：99×56 ㎝　検出層位：ⅢcU

確認・調査　調査区北西側の削平されていた法面に焼骨片が認められた。調査区内のⅢc 層を精査するとこの法面を含む一帯に倒木痕が認められた。焼骨片範囲を確認するため法面に直交するトレンチを設定して断面確認を行った。その結果、倒木痕の窪みに焼骨片の集中を検出した。1 層はⅢc 層にⅣ層が少量混じるため獣骨集中の上に流れ込んだものと思われる。これらの検出状態から、Ⅳ層降下後に倒木痕が形成され、窪みに投棄された獣骨集中と判断した。遺物は礫のみで周囲に遺構は検出されていないため詳細な時期は不明。

同定試料からはシカの四肢骨と部位不明哺乳類が 1,000g、ブドウ科、キハダ属、マタタビ属が出土している。



図Ⅲ-4 ⅢBB-02 ～ 07・ⅢPB-05 平面及び断面図



図Ⅲ-5　ⅢBB-08・09 平面及び断面図

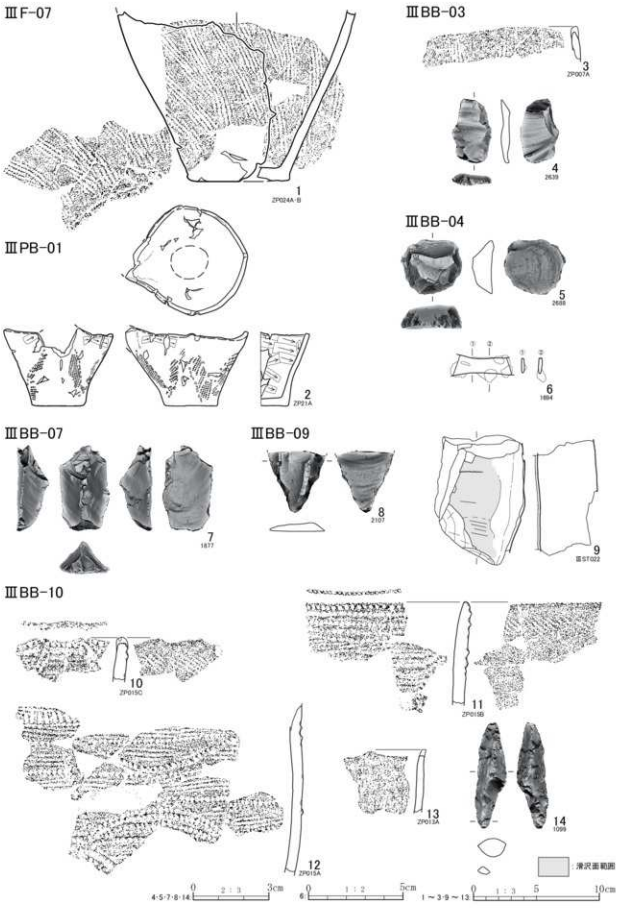
ⅢBB-09（図Ⅲ-5　図版 15-6・7）

位置：R-3 区　規模：90×62 ㎝　検出層位：ⅢcU

確認・調査　調査区北側で礫を主体とする遺物とともに焼骨片を検出した。平面記録後にトレンチで断面確認したところ下位に明瞭な焼土は認められず獣骨集中と判断した。1 層はⅢc 層に焼骨片少量、炭化物微量含み、2 層は色調から焼土ブロックが 2 ヵ所認められたが、面的に捉えることができず、断面のみの記録としている。焼土の投棄ブロックと思われる。

同定試料からはシカの四肢骨と部位不明哺乳類が 205g、タデ科、アカザ属、ブドウ科が出土している。（奈良）

出土遺物（図Ⅲ-6-8・9　図版 35-9・10）　8 はスクレイパー類の尖状の先端部片で、右側縁に刃部形成の剥離が施されている。刃縁には使用による微細剥離があり密集部分は弱いノッチ状に抉れている。左側縁にも微細剥離が連続するが、先端部側に形成されており、破損部分まで続かないことから、折損後の破片を使用した際に生じた可能性もある。9 は滑沢面ある礫の破片資料。表面のみに滑沢面が形成され、右側縁の転礫面と使用面とに弱い稜線が認められる。使用面は表面上部と下部の 2 面があり、下部面には僅かに擦痕も残っている。砂岩転礫を素材とし、被熱し色調の異なる 2 点が接合している。なお、下部左側縁からの剥離は破損後の礫片を素材とした、たたき石へ転用した際の敲打に伴う剥離と思われ、裏面にも 3 枚の剥離面と敲打部分が僅かに残っている。この礫石器は滑沢面のある礫→破損・破壊＝礫片化→たたき石→破損→被熱の流れが推定できる。（乾）



図Ⅲ-6 ⅢF·ⅢBB·ⅢPB 出土遺物

2. 土器集中

ⅢPB-02（図Ⅲ-7　図版 13-4）

位置：R･S-6 区　規模：74×55 ㎝　検出層位：ⅢcU

確認・調査　本遺構はⅢBB-03･04 の精査に伴い面的に周辺を広げたところ、比較的大きな土器片のまとまりを検出した。土器片は内面を上にした状態で口縁部から胴部が主体的に認められ一つの集中として捉えることができたためⅢPB-02 とした。平面の記録後に取り上げ調査終了とした。整理作業において R-6 区内で広範囲にわたって接合しており、底部片は北側に検出したⅢPB-04 の範囲内から出土しているため、遺構間の関連性を示すものと思われる。

出土遺物（図Ⅲ-10-1　図版 36-1）　1 は口縁部から底部まで復元できたⅥ群 E1 類。口唇部は非常に丁寧な角状に整形されている。口縁部文様帯には微隆起線文 5 条と内面突瘤状になる刺突文が施文される。胴部文様帯は上下を微隆起線文と帯縄文で区画し、微隆起線文と帯縄文が入組の鋸歯状構成をなす。胴部下半には鼠歯状の細かな痕跡が一部認められる。胎土には海綿骨針を少量含み道南系の土器と考えられる。

ⅢPB-03（図Ⅲ-7　図版 13-5）

位置：R-6 区　規模：124×71 ㎝　検出層位：ⅢcU

確認・調査　R-6 区のほぼ中央に礫と比較的大きな土器片がまとまった地点を検出した。土器の殆どが内側を上にした状態であったが、礫を含む同一個体の集中と判断しⅢPB-03 とした。範囲内の礫を含む遺物の出土状態を記録して、図化後に取り上げた。本集中の土器を整理した段階で、縄縄文文化期前葉と後葉の土器が混在した状態で出土していたことが判明した。なお、図上のトーンで示した遺物は前葉の土器で、垂直分布図でもやや混在しているが、これは縄縄文文化期後葉の活動によって生じたものと考えられる。後述のラウンド･スクレイパーも後葉のものと考えられるが、同一面出土として本遺構にて扱った。（奈良）

出土遺物（図Ⅲ-10-2～8　図版 36-2～8）　2～4 はⅥ群 A1 類 b 種に分類した口縁部から底部の同一個体片。3 が本集中範囲から出土しており、2 は周囲、4 は同時期と思われるⅢBB-06 付近から出土している。地文は口縁部から胴部にかけて横走する帯縄文が施文され、内面はナデ調整で平滑に調整されている。5･6 は B1b 類の半円形のラウンド･スクレイパーで、いずれも完形品で弱い被熱資料である。5 は円刃状の刃部が作出されており、刃縁の右半分に微細剥離があり、左側は刃部再生剥離となっている。裏面は素材剥片の主剥離面で片面調整の刃部となる。裏面の上部には左右側縁からの対向する調整剥離があることから、完形品とした。6 は下部刃縁がやや直線状となる平面形で、左側の一部に刃部が残る。中央部は転礫面が大きく残り、刃部調整は縁辺部に限られている。裏面には表面の刃部調整剥離を切る二次的な剥離がある。左右側縁から対向する階段状の剥離が密に施されている。これら 2 点のスクレイパーは平面形や被熱していること、表面の刃面を打点とする左右側面からの対向する剥離の特徴などの共通性が強い。なお、形態的に北大Ⅰ式に伴うラウンド･スクレイパーである。7･8 は台石。7 は平面形が紡錘形で断面形状は台形を呈する。表面は平坦面の中心に敲打痕が密集している。裏面は右側の平坦面に滑沢面があり、最大幅部分に敲打痕がある。全体的に弱く被熱しており、部分的に赤色化している。8 は層理で破損した破片 2 点を接合したもので下部分は欠損している。表裏の平坦面の破断面側に敲打痕がある。（土器:奈良･石器:乾･宮崎）

ⅢPB-04　図Ⅲ-8　図版 13-6

位　　R-5 6区　　模　108×66 cm　検出層位　ⅢcU

確認・調査　R-6 区で比　的大きな土器片が器　　を上にした状態でまとまって出土した。周囲を　査すると板状の亜　礫とともに土器片も出土したため同一個体と判断してⅢBP-04 として平　形の　　後に取り上げた。土器は殆どが　中内に収まっているが一　はⅢPB-03 に分布している。また、掲　した台石　図Ⅲ-11-4　は同時期のⅢPB-02 と接合していることから、この 2 つの　中は同時期であると思われる。

出土遺物　図Ⅲ-11-1　4　図版 37-1　4　　1 2はⅥ　E1　の深　に分　した口　　から　下半にかけての同一個体片。1 は平　で上　　は方形となり、口唇　は　状。文様は口直下に横　する微　　文が 4 条付され、一番下位の微　　文　には三　列点文が　分的に施文される。微　　文下位に沿って三　列点文、帯　文が横　し、下位には帯　文が　歯状区画したものに、「X」字状構成を充填している。三　列点文は基本的に帯　文に沿って施文され、区画内の微　　文は一　剥　している。2 は　　下半で帯　文が横　して無文帯となる。3 は B1b　に分　したスクレイパー。滴形を呈し　　のみを　整している。刃　は下に作出しており、特に左側は急　度である。　　上　に岩砕　が残る。4 は台石でⅢPB-02 と 04 から出土した 2 点が接合したもので、厚みのある方形礫を　材としている。　　中心付　と右側　の上　と下　の側　　付　、　　の下　に敲打痕がある。破断　に沿った　分的な剥は破損後のものである。　　奈　　石器:宮崎

ⅢPB-05　図Ⅲ-8　図版 13-7

位　　R-5 6区　　模　76×40 cm　検出層位　ⅢcL

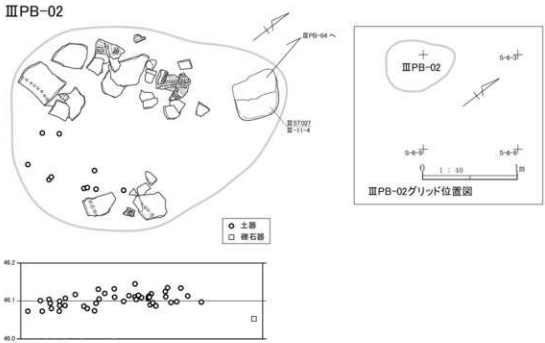
確認・調査　Ⅲc 層上位で土器がややまとまって出土した。分布確　のため周囲を掘り広げると、Ⅲc 層下位を主体に土器片が出土し、南東側にはⅢBB-06 を検出した。土器は殆どが内　を上にした状態であったが、　査段　で同一個体と判断できたためⅢPB-05 として平　形の　　後に取り上げた。同一個体は　中　囲外にも　められ、やや散　している状態であった。

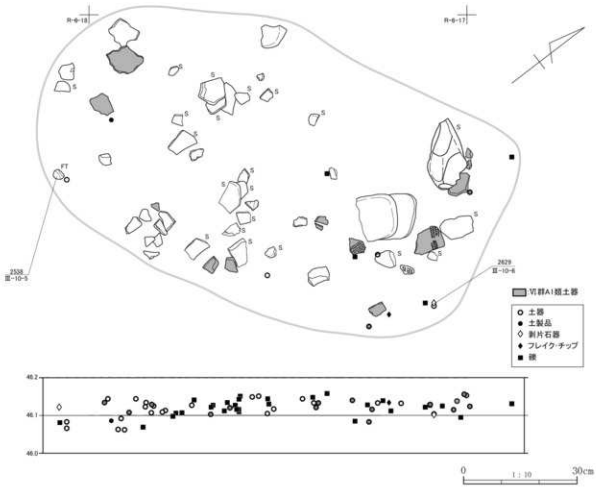
出土遺物　図Ⅲ-11-5　7　図版 37-5　7　　5　7はⅥ　A1　b　に分　した同一個体片。文様は口唇　に　　状工具で　　した横位の刺し文を施し、口　　下には　　椎　の側　圧痕文が 3 条、　は浅い横　　文が施文される。　土には白　岩片を含み、文様　　も合わせて今回出土した土器に　められない特徴である。なお、　　文文化期前　の汐　式期における　文の　例は石狩市　　山 33 号　　GP-14　石教委 1984　での出土例のみである(大沼忠春氏工　研治氏ご教示　。極めて　定的であることから、本破片　料を　小牧市　　博物　の　石慎三氏にもご確　ご教示を　いている。

ⅢPB-07　図Ⅲ-8　図版 14-1

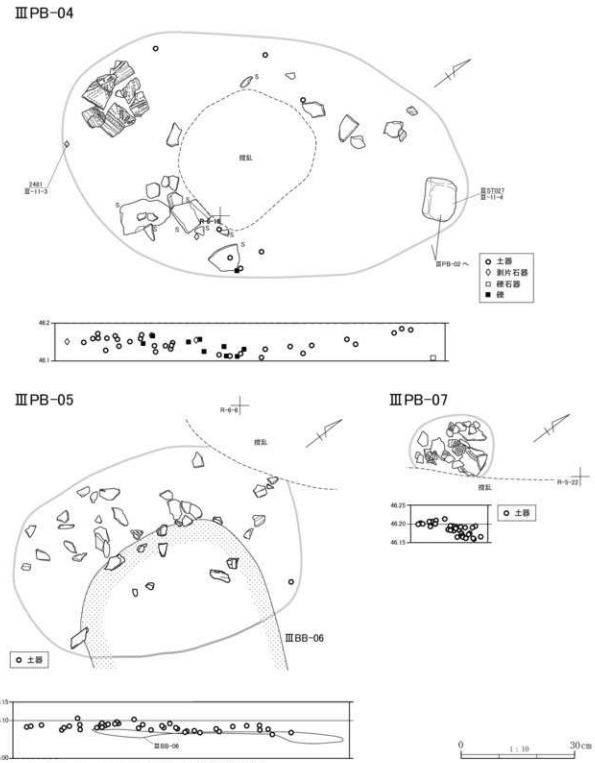
位　　R-5区　　模　22×　15　cm　検出層位　ⅢcU

確認・調査　R-5 区のⅢc 層　査中に撹乱にかかる地点で土器のまとまりを検出した。　囲確　を　ったところ殆ど広がりを　せず小　模にまとまる　中であった。土器は同一個体であったためⅢPB-07 として平　形の　　と取り上げを　って　査　了とした。垂直分布で確　すると南東側に土器が　ち　むが　査段　では土坑　の確　には　らなかった。土器はⅢPB-03 と同一個体であるため再掲　していない。　　奈

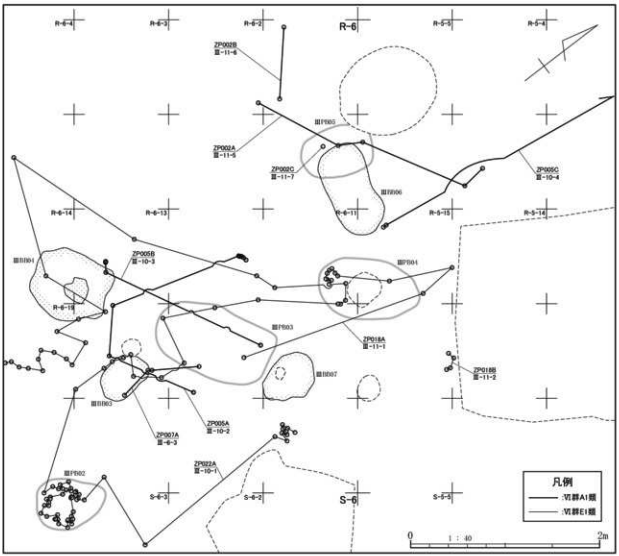




図Ⅲ-7　ⅢPB-02･03 平面及び垂直分布図



図Ⅲ-8　ⅢPB-04·05·07 平面及び垂直分布図



図Ⅲ-9　ⅢPB-02～05土器接合線図

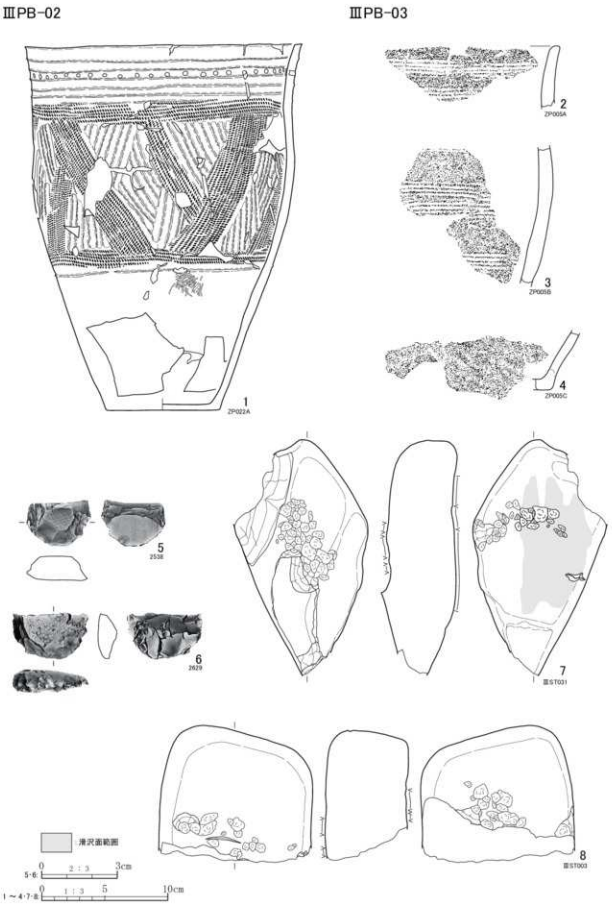
3．礫集中

ⅢSB-10（図Ⅲ12　図版4-2）

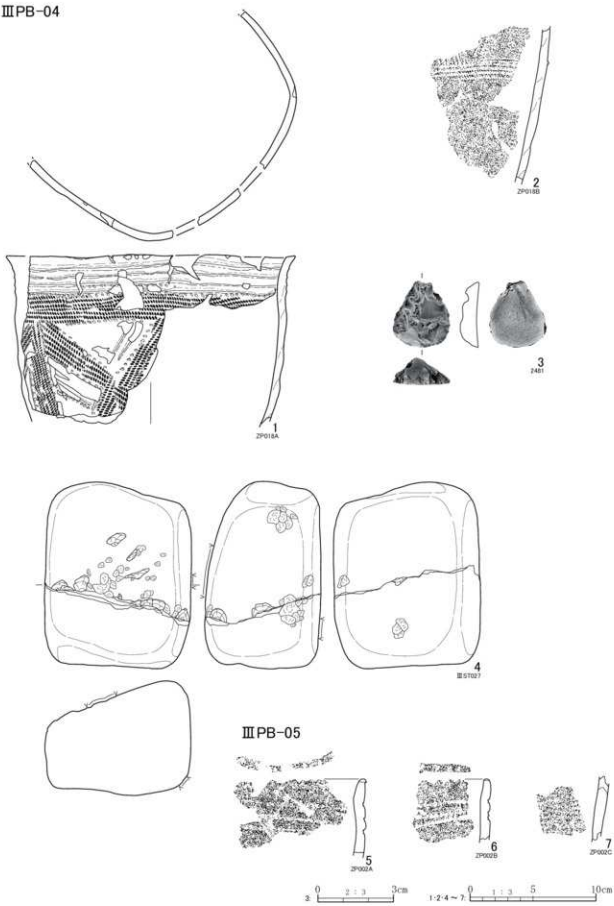
位置：Q・R-4区　規模：254×172㎝　検出層位：ⅢcL

確認・調査　Ⅲc層下位を調査中、調査区中央の北西側段丘縁辺部付近に不定形な板状礫、亜角礫が出土する範囲を検出した。礫の分布を確認するため周辺を掘り広げると、板状礫を中心に直軸約1～3㎝の小礫が多量に出土した。

調査は不定形な礫も含めて全体と小礫が集中する地点の写真撮影後に、概ね2㎝以上の礫は光波式トータルステーションで輪郭を記録し、微細図による図化を行った。その後、小礫が集中する板状礫を横断する形で断面を確認するため、トレンチ設定部分の遺物を取り上げ、Ⅳ層上位まで掘り下げた。断面観察ではⅣ層上位に弱い被熱層（ⅢF-09）と浅い窪みが認められた。断面を記録して遺物を取り上げた後に焼土と窪み範囲の検出を行った。ⅢF-09は弱い被熱層で浅い窪みに形成されたものと判断しⅢF-09を付番した。焼土、窪み範囲の平面記録を行い、残りの遺物を取り上げて調査終了とした。



図Ⅲ-10 ⅢPB-02・03 出土遺物



図Ⅲ-11　ⅢPB-04·05 出土遺物

本遺構では礫石器、礫合わせて破片を含む3,124点が出土しており、うち1,514点が被熱している。このような小礫構成の礫集中は町内において類例が無く、特異な遺構と思われる。

出土遺物（図Ⅲ-13-3a～6・14-7～16　図版38-1～15）　3a・3bはⅥ群A1類b種に分類した口縁部から底部まで復元できた鉢形土器である。平縁で山形突起は欠損しているが2個1対の可能性があり、上面観は楕円形状になる。文様は口唇部に縄文、突起部下？の口縁部に貫通孔1ヵ所が残る。器表面には斜行縄文施文後、口縁部直下と胴部下半に横走沈線文で区画して、波状、レンズ状の沈線文を充填しているが、下半の沈線文は統一性がなく、一部波状沈線文に統合する。底部は上げ底である。4～7はたたき石である。4はⅠA1類で3点が接合したもの。縦長扁平礫の両面を使用している。表面は上部と中央部に敲打痕が、裏面は上部と折損部分にわずかな敲打痕がみられる。5はⅠB3類。敲打痕は表面中央付近のものは明瞭だが、裏面は小さな敲打痕が左側縁下部の稜に沿って連続している。6はⅡA1類で、隣接するR-5区で出土した1点と接合したもので、全体的に被熱しているが接合部分で被熱の度合いが異なる。表面上部に滑沢面があり、その中にその後の使用と思われる敲打痕が認められる。裏面は上部片の破断面からの剥離が連続していることから、破損していた上部片のみを使用した可能性もある。7はⅢA類。楕円形礫の中心から上端にかけて敲打痕が連続している。8～12は滑沢面のある礫。8はやや厚みのある方形礫の表面ほぼ全面に滑沢面があり中心部が窪んでいる。被熱しており左上端部と右側縁付近に黒色で不整形の付着物が認められる。9は不整形の偏平礫の表裏面にに滑沢面がある。10は楕円形、11は不整形の扁平礫の表面に滑沢面があるもの。12は楕円形礫の表裏面のほぼ全面にやや窪む滑沢面があり、表面の滑沢面の長軸上に稜が認められる。上端部と右下端部付近に敲打痕とこれに伴う剥離も認められる。13は台石。断面形が三角形を呈する大型礫の頂点付近を使用している。浅い敲打痕は上部側に集中し、折損部付近にもわずかにみられる。14は加工痕のある礫。棒状の素材礫の上部左側縁は連続した剥離で稜を形成している。礫石器はすべて砂岩製である。15・16は縫い針？としたもの。15は2ヵ所で折れ曲がり、下端部は欠失し不明瞭。16は下端部が尖状になる。いずれも目通し孔は認められない。断面はいずれも隅丸方形状で、15は厚さ約1mm、16は1mm以下と非常に薄く脆弱な資料である。これら金属製品はⅢSB-10のフローテーションから出土しているが、上層の中世アイヌ文化期からの混入も考えられる。

ⅢF-09（図Ⅲ-12　図版14-5～7）

位置：Q-4区　規模：42×40㎝　検出層位：ⅢcL

確認・調査　本遺構はⅢSB-10の小礫が集中する下位に形成されていた焼土である。断面観察から焼土は浅い窪み内に形成され、その上のⅢc層に小礫を含む1・2層が堆積している。1層には炭化材が極微量認められた。焼土は薄く、非常に弱い被熱層で焼骨片など認められない。調査はⅢSB-10の遺物を取り上げた後、焼土プランの検出とこれに伴う浅い窪みの完掘を行って平面を記録し、調査終了とした。

ⅢPB-06（図Ⅲ-12　図版13-8）

位置：R-4区　規模：80×61㎝　検出層位：ⅢcL

確認・調査　調査区中央北西側のⅢSB-10東側約50㎝の地点で検出した。調査はⅢc層上位を面的に掘り下げたところ、口縁部を含む土器片が出土したので周辺を精査した。同一個体片

のまとまりが認められたためⅢPB-06 として平面の記録および取り上げを行った。土器は全て内面を上にした状態でほぼ水平に出土している。隣接するⅢSB-10 からも同時期の土器が出土している。

出土遺物（図Ⅲ-13-1･2　図版 37-8･9）　1はⅥ群 A1 類 b に分類した口縁部から胴部下半にかけて復元できた深鉢形土器である。文様は口唇部に連続した刻みを施し、口唇部直下は無文帯、胴部下半にかけて横走縄文が全体に施文される。この土器は二次被熱している土器片が接合しているため、近接するⅢF-09 に関連するものと思われる。周辺はⅢSB-10 出土の土器（図Ⅲ-13-3a･3b）が同一層で出土していることから、この 2 個体は共伴するのものと考えられる。2 は I A3 類のたたき石で、破片 3 点が接合している。石材が蛇紋岩で風化により脆く、接合面付近が部分的に欠損している。表面の敲打痕は素材礫長軸上に連続しており、裏面は上部から中間付近までは連続するが、一度途切れて下部で小さくまとまっている。裏面左側縁には敲打に伴う剥離が連続している。

ⅢSB-10･ⅢF-09･ⅢPB-06 の時期

本遺構群は近接して同一層位から検出しており、ⅢF-09 はⅢSB-10 と付随する遺構であることから、南東側約 20cm に近接するⅢBB-02 と合わせて同時期の所産と思われる。時期はⅢSB-10･ⅢPB-06 の復元土器から縄縄文文化期前葉に帰属する。（奈良･石器：宮崎）

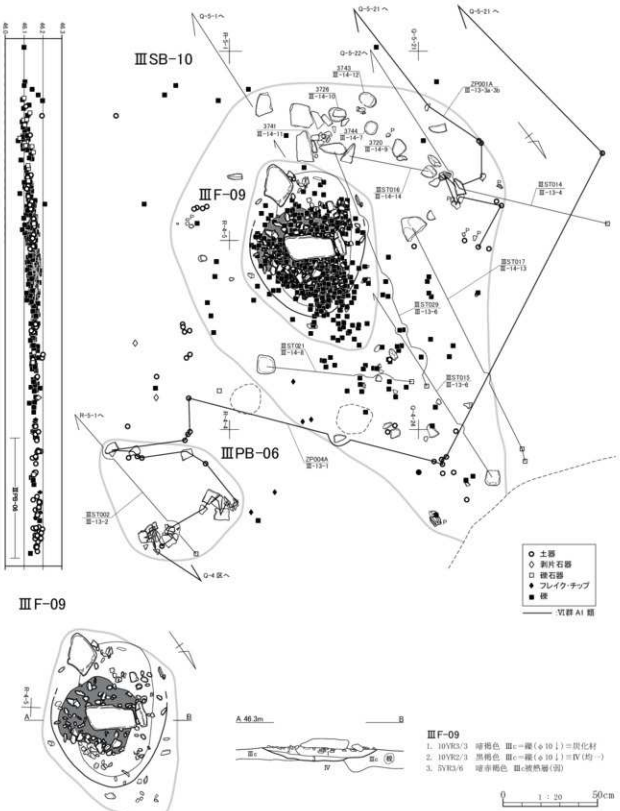
第 3 節　包含層出土遺物

1．土器（図Ⅲ-15-1～14　図版 39-1～14）

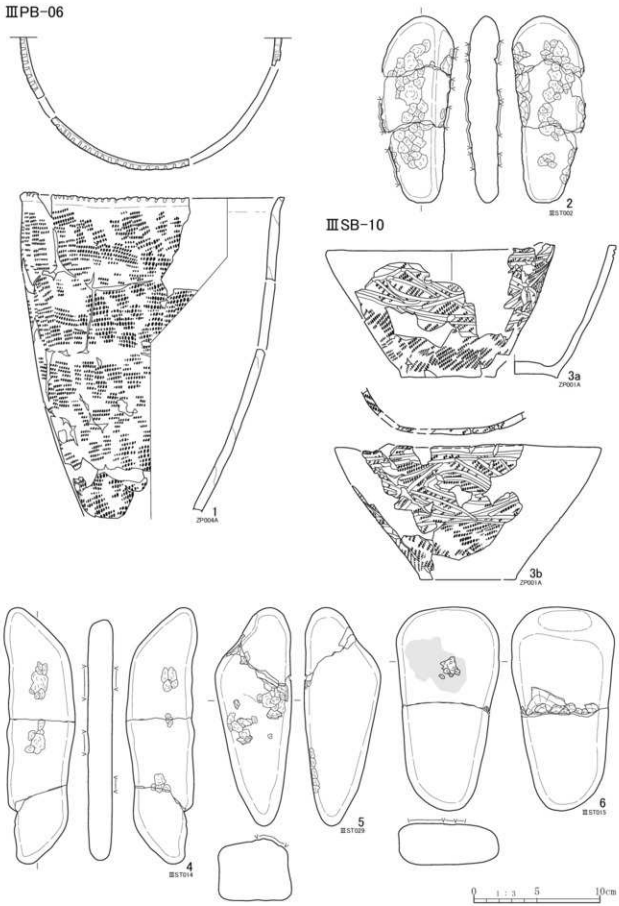
Ⅲ層で出土する土器のうち分類できたもので、Ⅵ群 A 類は 410 点、Ⅵ群 C 類は 87 点、Ⅵ群 E 類は 357 点と前葉と後葉の土器で偏りはみられない。分布域は R-6 区がもっとも多く、2 時期の土器が層位的に混在する出土状態であった。これは、縄縄文文化期後葉の人々が活動した結果、混在したものと理解している。

包含層土器の記載では基本的に観察表にあるため、詳細は表Ⅲ-9 を参照されたい。

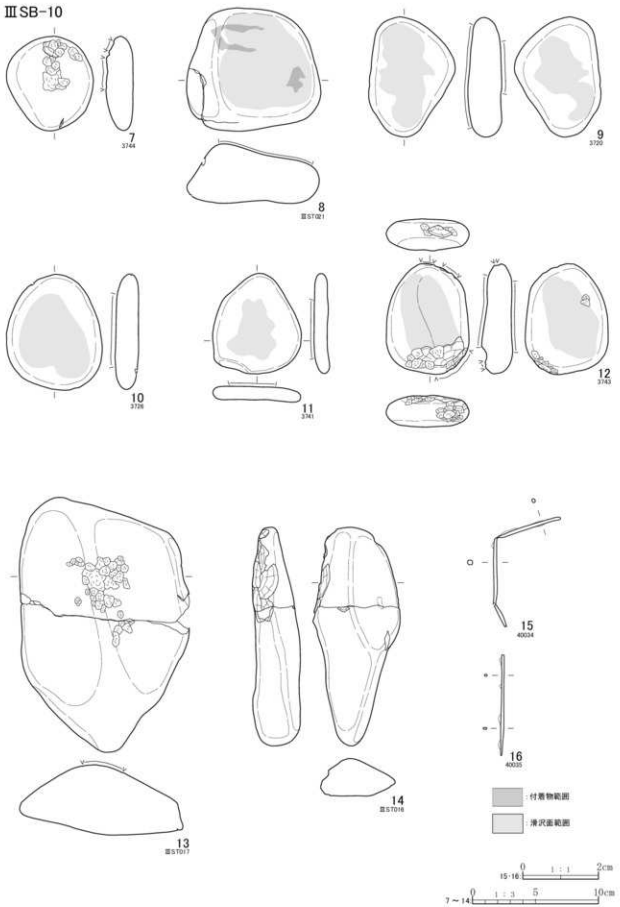
1～3 はⅥ群 A1 類 b 種で 1･2 は深鉢、3 は小型鉢である。3 は二次被熱破片が接合しており、接合線ではⅢF-09 付近で出土し、出土層位もⅢPB-06 やⅢSB-10 出土の復元土器（図Ⅲ-1･3a･3b）と同じであり、共伴すると思われる。4～7 はⅥ群 C1 類の胴部片で、4～6 は同一個体。胴部上半には横位の帯縄文間に斜位沈線文と列点文が施文され、下半は縦位の帯縄文である。8 はⅥ群 C2 類の胴部片で地文に帯縄文施文後、擬状貼付文を斜位、横位に配置している。9～13 はⅥ群 E1 類に分類した土器で、9･10、12･13 はそれぞれ同一個体である。出土地点は R-5･6 区が主体で、同一地区からはⅢPB-02･04 を検出している。12･13 も同地点で集中遺物地点に混在していたことから同時期で共伴する土器と思われる。12 はⅢPB-04（Ⅲ-11-1･2）と同じく上面観が方形状を呈し、口縁部に微隆起線文が施文され、胴部文様帯は「X」字状に構成される帯縄文とこれに沿う刺突文も共通する。器形については 12 の胴部が若干膨らみをもって立ち上がる。11 は壺の頚部から胴部上半で、頚部で強く外反する。出土位置も遺物集中地点から離れ、同一個体は出土していないため共伴土器は不明。14 は焼成粘土塊で指頭圧痕が残る。ⅢPB-03 範囲内で出土したが、Ⅵ群 E1 類土器も混在していたため包含層出土として掲載した。（奈良）



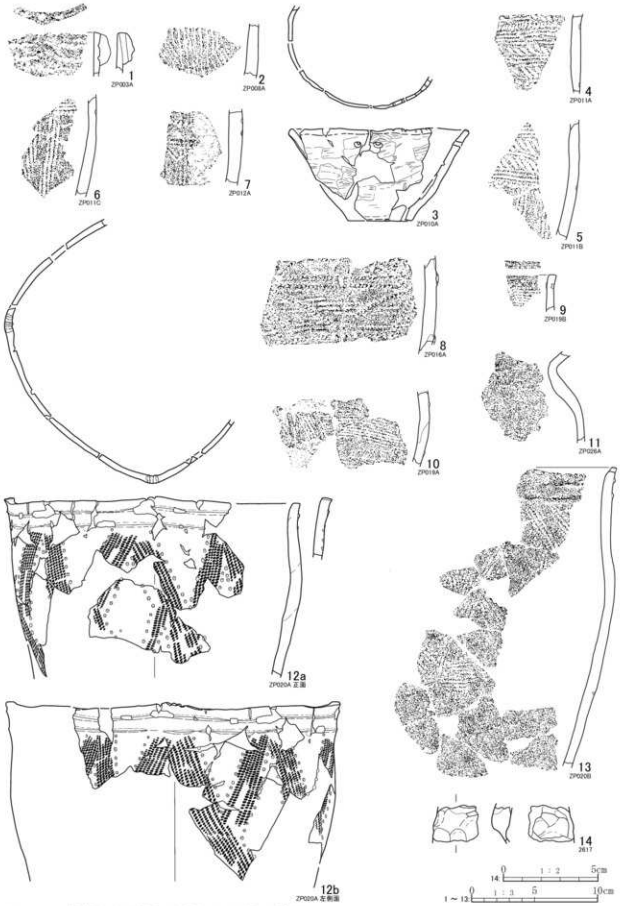
図Ⅲ-12 ⅢPB-06・ⅢSB-10・ⅢF-09 平面及び断面・垂直分布図



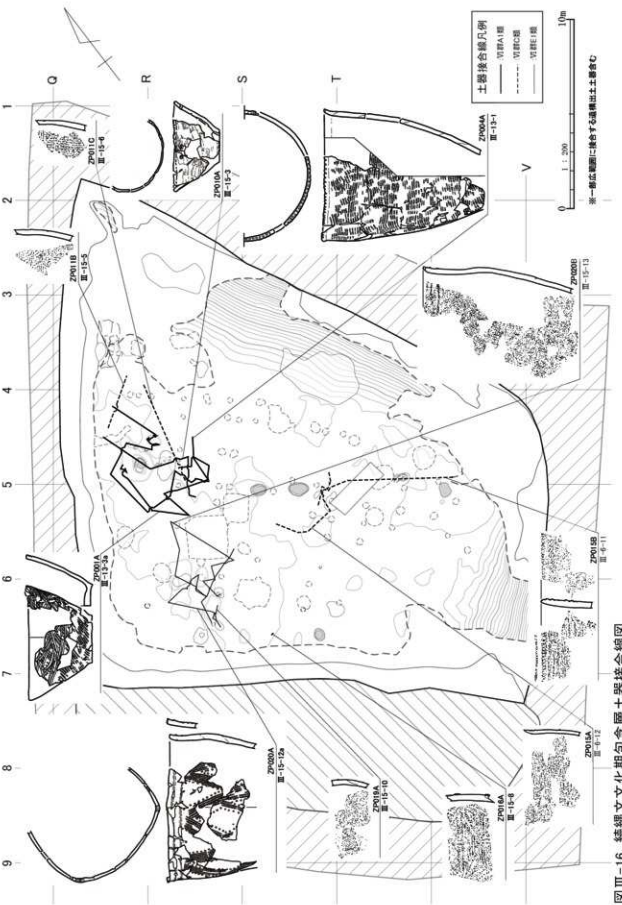
図Ⅲ-13　ⅢPB-06・ⅢSB-10 出土遺物（1）



図Ⅲ-14　ⅢSB-10 出土遺物（2）



図Ⅲ-15　続縄文文化期包含層出土土器・土製品



図Ⅲ-16 縄文文化期包含層土器接合線図

2. 剥片石器（図Ⅲ-17-1～9　図版 40-1～9）

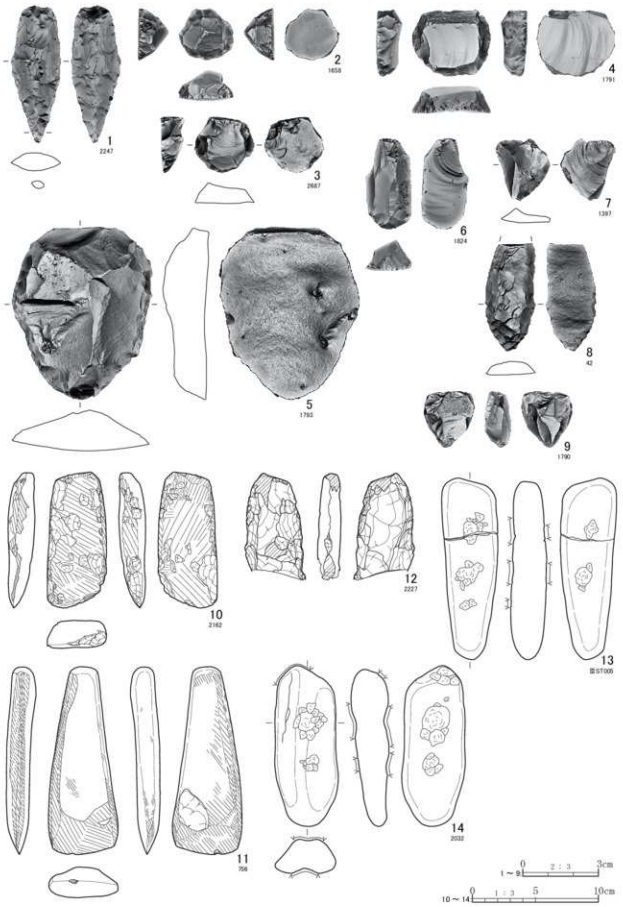
包含層から出土した剥片石器は破片を含めて 73 点が出土している。内訳はポイント類 6 点、石錐 3 点、ナイフ・スクレイパー類 48 点、ピエス・エスキーユ 1 点、R・F3 点、U・F12 点である。そのうち完形の 8 点を図示した。

1 は D 類の石錐である。柄部の上端から両側縁に調整を施し、機能部を最後に作出している。チャート製である。2～5 はラウンド・スクレイパーである。2 は B1a 類で、背面のみを加工している小型で円形に近いタイプのもの。全周を急角度の剥離調整で刃部を作出している。3～5 は B1b 類で、刃部が全周しないタイプである。3 は下端部のみに刃部を作出している。上端部は転礫面で被熱している。4 は厚みのある縦長剥片を横位に利用したもので上端部に岩砕面を残す。両側縁と下端部に大きめな剥離調整を施し、右側縁から下端部にかけて更に微細剥離で調整している。5 は長軸 69.2mm の大型のもの。背面のみ加工されているが一部岩砕面を残す。6 は B2 類で、縦長剥片の下端部に刃部を作出している。背面に岩砕面を残し、腹面は主剥離面である。7・8 は C1 類のサイド・スクレイパー。7 は右側縁部のみに刃部を作出している。上端部にわずかな転礫面を残し腹面は主剥離面。8 は縦長剥片の両側縁に刃部を作出している。背面中央に原石面を残し、腹面は右側縁部のみに微細調整が施されている。頁岩製で、縄文時代のつまみ付ナイフの可能性がある。スクレイパー類は 8 が頁岩製でその他は黒曜石製である。9 はピエス・エスキーユに分類したもの。上方と下方から階段状の剥離があり、右側面は剪断面と思われる上下からの剥離がある。黒曜石製である。

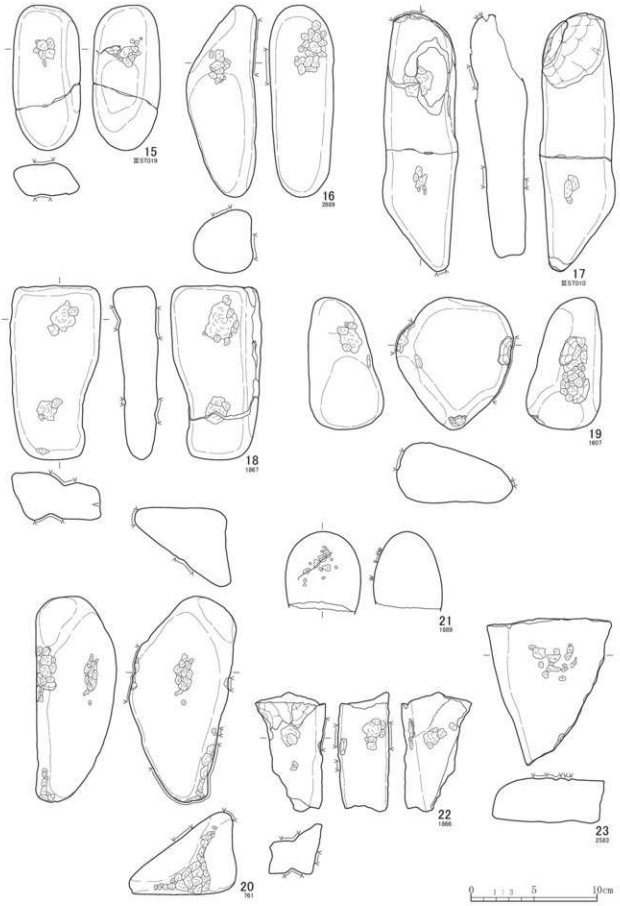
3. 礫石器（図Ⅲ-17-10～14・18-15～23・19-24～29　図版 40-10～19・41-20～29）

包含層からは破片を含めて礫石器 118 点が出土している。内訳は石斧が 6 点、たたき石 71 点、すり石 2 点、砥石 10 点、石皿 2 点、台石 22 点、加工痕のある礫 5 点で、石材は石斧を除きほとんどが砂岩製である。そのうち 22 点を図示した。

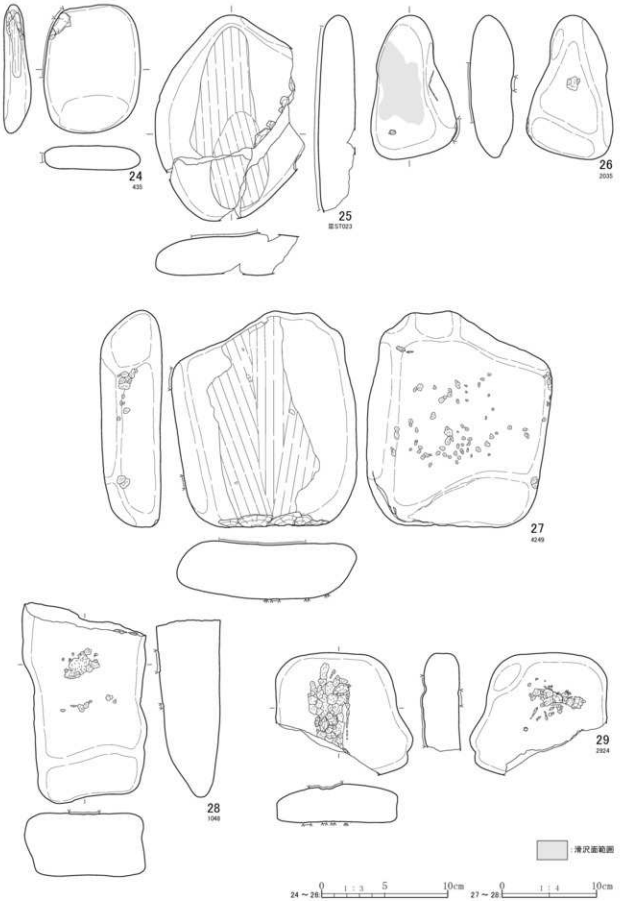
10 は A1 類の片刃の石斧。長軸長が約 11 cmの短冊形で、刃部右側の中心付近から刃こぼれとみられる複数の剥離が認められる。全体的に研磨は行っているが剥離による調整痕が残る。石材は不明である。11 は A2 類の石斧で撥形。両面と右側縁に素材礫を大きく残すが、刃部付近から左側縁稜にかけて入念な研磨を施している。両刃の刃部には使用による刃こぼれがある。緑色泥岩製である。12 は B 類の石斧未成品。刃部が欠損している。全体的に剥離調整を施しているが基部付近を中心に部分的に原石面を残す。緑色泥岩製で被熱している。13～22 はたたき石。13 は ⅠA1 類。平坦面の両面を表面は 3 ヵ所、裏面は 2 ヵ所使用しているが敲打痕は浅い。14 は ⅠA3 類で断面三角形の棒状礫を素材とし、中心稜と裏面の平坦面、上端に敲打痕がある。15～17 は ⅠB 類の棒状または角柱状の礫を素材としたもの。15 は表裏平坦面とも 1 ヵ所に集中した敲打痕がみられる。16 は表面と右側縁の平坦面にそれぞれ 1 ヵ所の浅い敲打痕がある。17 は 6 点の破片が接合されたもので、表裏の平坦面と両端部に敲打痕がある。表面上部の敲打痕はやや深いが、それ以外は浅く上端部は大きく剥離している。18 は ⅡA1 類で、不整形礫の両平坦面にそれぞれ大きく 2 ヵ所のやや深い敲打痕がみられる。19 は ⅡB2 類。厚みのある五角形礫を素材としている。端部 2 ヵ所と右側縁に敲打痕がある。20 は断面三角形礫の平坦面と左側縁、右側縁から下端部にかけて密集した敲打痕がある。21 は厚みのある楕円形礫が欠損したもの。表面に疎らな敲打痕が認められる。22・23 は Ⅴ類。22 は板状礫の破片を素材としたもの



図Ⅲ-17 続縄文文化期包含層出土剥片石器及び礫石器（1）



図Ⅲ-18　縄文文化期包含層出土礫石器（2）



図Ⅲ-19 続縄文文化期包含層出土礫石器（3）

で、両面の中心付近と右側縁上部にやや深い敲打痕がある。23は三角形の礫の中心付近に疎らな敲打痕がある。すべて砂岩製。24は砂岩製のすり石。扁平で隅丸方形状の礫の左側縁上部を使用している。25は砂岩製の砥石。不整形の扁平礫の表面に2つの単位の砥面が認められる。26は滑沢面のある礫。不整形礫の表面に滑沢面、裏面中心にわずかに敲打痕がある。27は扁平で不整形を呈した石皿である。表面の中央付近に擦痕がみられ、裏面のほぼ全体に疎らな敲打痕、左側縁稜にややまとまった敲打痕が認められる。砂岩製である。28・29は台石。28は破損した大型礫を素材としたもの。表面のやや上端側に敲打痕が密集しており、その下部にもわずかに敲打痕がある。29は方形に近いやや扁平の礫を素材とする。表面中央部を縦断する溝状の敲打痕と剥離が密集している。裏面は横方向に敲打と剥離痕が、左下部にキズ状の敲打痕がある。どちらも砂岩製である。　（宮崎）

表Ⅲ-3　縄縄文文化期ⅢF属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-2	12-1・2	ⅢF-02	S-4・5	ⅢcU	楕円形	82.0	60.0	11.0	焼骨	
Ⅲ-2	12-3・4	ⅢF-03	T-4	ⅢcL	不整形	(90.0)	58.0	3.6	焼骨	
Ⅲ-2	12-5・6	ⅢF-06	S-4・5	ⅢcU	楕円形	104.0	70.0	9.2	焼骨	
Ⅲ-3	12-7・8	ⅢF-07	U-4・5	ⅢcU	不整形	74.0	60.0	5.2	焼骨	
Ⅲ-3	13-1・2	ⅢF-08	S-6	ⅢcU	楕円形	66.0	54.0	8.0	焼骨	
Ⅲ-12	14-5～7	ⅢF-09	Q-4	ⅢcL	不整形	42.0	40.0	2.0	－	ⅢSB-10と共伴

表Ⅲ-4　縄縄文文化期ⅢBB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			被熱の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-4	15-1	ⅢBB-02	R-4	ⅢcL	楕円形	160.0	92.0	7.0	被熱	
Ⅲ-4	15-2	ⅢBB-03	R-6	ⅢcU	楕円形	54.0	36.0	5.2	被熱	
Ⅲ-4	15-2	ⅢBB-04	R-6	ⅢcU	不整形	77.0	73.0	11.0	被熱	
Ⅲ-4	15-3	ⅢBB-05	S・T-6	ⅢcU	不整形	100.0	76.0	4.0	被熱	
Ⅲ-4	13-7	ⅢBB-06	R-5・6	ⅢcL	楕円形	98.0	50.0	4.0	被熱	
Ⅲ-4	15-4	ⅢBB-07	R-6	ⅢcU	不整形	61.0	45.0	3.0	被熱	
Ⅲ-5	15-5	ⅢBB-08	Q-3	ⅢcU	楕円形	99.0	56.0	11.0	被熱	
Ⅲ-5	15-6・7	ⅢBB-09	R-3	ⅢcU	楕円形	90.0	62.0	6.4	被熱	
Ⅲ-2	15-8	ⅢBB-10	S・T-5	ⅢcL	不整形	106.0	64.0	6.0	被熱	

表Ⅲ-5　縄縄文文化期ⅢPB・ⅢSB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		備考
						長軸	短軸	
Ⅲ-3	13-3	ⅢPB-01	U-5	ⅢcU	円形	17.0	17.0	ⅢF-07と共伴
Ⅲ-7	13-4	ⅢPB-02	R・S-6	ⅢcU	不整形	74.0	55.0	
Ⅲ-7	13-5	ⅢPB-03	R-6	ⅢcU	不整形	124.0	71.0	
Ⅲ-8	13-6	ⅢPB-04	R-5・6	ⅢcU	不整形	108.0	66.0	
Ⅲ-8	13-7	ⅢPB-05	R-5・6	ⅢcL	楕円形	76.0	40.0	
Ⅲ-12	13-8	ⅢPB-06	R-4	ⅢcL	不整形	80.0	61.0	
Ⅲ-8	14-1	ⅢPB-07	R-5	ⅢcU	楕円形	22.0	(15.0)	
Ⅲ-12	14-2	ⅢSB-10	Q・R-4	ⅢcL	不整形	254.0	172.0	小礫集中 被熱多数

表Ⅲ-6 続縄文文化期遺構出土土器属性表(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グ	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁 口唇/胴部/底側面 変換点 底面	文様 **口唇 口縁 内面/胴部 内面/底側面 底面 内面**	胎土	備考
Ⅲ F-07											
Ⅲ-6-1	35-1	ZP024A	VIE1	ⅢPB-01	Ⅲ U	2	深鉢/胴下半	外傾	RL帯縄文 斜行 –	砂粒少量	二次被熱 破片接合
				U-5	Ⅲ	1					
				U-5	ⅢcU	5					
				U-5	Ⅴ L	1					
	35-2	ZP024B	VIE1	U-5	Ⅲ U	5	深鉢/胴下半底	外傾/外傾-隅丸角状 成形時捻れ張り出し -平底	RL帯縄文 斜行 –	砂粒少量	二次被熱 破片接合
				U-5	Ⅲ L	3					
				U-5-3	Ⅴ U	1					
				ⅢF-07	1	1					
Ⅲ RB-03											
Ⅲ-6-3	35-4	ZP007A	VIA1b	ⅢPB-03	Ⅲ U	1	深鉢/口縁	緩い波状縁 ほぼ直立-隅丸切り出し状 内倒ぎ	0段多条RL帯縄文 縦走 –	砂粒少量	成形時粘土帯接合痕で破損
				ⅢBB-03	Ⅲ L	3					
Ⅲ RB-10											
Ⅲ-6-10	35-11	ZP015C	VIC2	S-4	Ⅲ L	2	深鉢/口縁	平縁 山形突起 2個1対 やや外反 -実状 外倒ぎ	突起頂部 刺突文 刻み-隆起線文+列点文 RL帯縄文-RL斜行縄文	砂粒中量	器表面に炭化物付着顕著
				S-5	Ⅲ	1					
Ⅲ-6-11	35-12	ZP015B	VIC2	T-4	Ⅲ L	1	深鉢/胴上半	平縁 やや外反 -実状 外倒ぎ	刻み-隆起線文 列点文 擬縄貼付文 RL帯縄文-RL斜行縄文	砂粒中量	器表面に炭化物付着顕著
				U-4	Ⅲ U	1					
				S-5	Ⅲ L	3					
Ⅲ-6-12	35-13	ZP015A	VIC2	S-4	Ⅲ L	4	深鉢/胴上半	直立	刻み-隆起線文 列点文 擬縄貼付文 RL帯縄文-	砂粒中量	器表面に炭化物付着顕著
				S-5	Ⅲ L	1					
				S-5	Ⅲ	2					
				S-5	Ⅲ U	3					
				S-5	Ⅲ L	5					
Ⅲ-6-13	35-14	ZP013A	VIC1	S-5	Ⅲ L	2	小型深鉢/口縁 胴上半	平縁 山形突起 やや外反-角状/直立 やや外傾	無文 –	砂粒中量	
Ⅲ PB-01											
Ⅲ-6-2	35-3	ZP021A	VIE1	ⅢPB-01/U-5	Ⅲ U	16	小型鉢 片口/口縁 底	平縁 山形突起 外傾-角状 片口部 実状+列点文 外傾/直立-隅丸角状-平底	無文帯 ケ目調整 – ケ目/0段多条RL帯縄文+列点文 縦歯状構成 – ケ目	砂粒中量 石英結晶微量	
Ⅲ PB-02											
Ⅲ-10-1	36-1	ZP022A	VIE1	ⅢPB-02	Ⅲ U	30	深鉢/口縁 底	平縁 やや外反-角状/緩く内傾 直立/外傾-角状-平底	OH刺突文 内面突瘤文 微隆起線文/微隆起線文+0段多条RL帯縄文 入組鋸歯状構成 /無文-	砂礫少量 海綿骨針少量	朝突文転用の補修孔 胴部下半に二次的傾斜
				ⅢPB-02	Ⅲ L	12					
				ⅢPB-03	Ⅲ U	5					
				ⅢBB-03	Ⅲ L	1					
				ⅢPB-04	Ⅲ U	7					
				R-6	Ⅲ L	6					
				R-6	Ⅲ U	21					
				R-6	Ⅲ L	8					
				S-6	Ⅲ L	2					
Ⅲ PB-03											
Ⅲ-10-2	36-2	ZP005A	VIA1b	ⅢBB-04	Ⅲ L	1	深鉢/口縁	平縁 やや外反-角状	0段多条RL帯縄文 横走 –	砂粒中量	ⅢPB-07と同一個体
				R-6	Ⅲ U	7					
Ⅲ-10-3	36-3	ZP005B	VIA1b	ⅢPB-03	Ⅲ U	1	深鉢/胴下半	膨らみをもって外反	0段多条RL帯縄文 横走 –	砂粒中量	
				R-6	Ⅲ L	3					
Ⅲ-10-4	36-4	ZP005C	VIA1b	Q-5	Ⅲ U	1	深鉢/胴下半底	外傾/直立-隅丸角状-平底	無文-	砂粒中量	
				R-5	Ⅲ U	2					

表Ⅲ-7　続縄文文化期遺構出土土器属性表(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グ	層位	点数	器形/部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁　口唇/胴部/底側面	変換点 底面	**口唇　口縁　内面/胴部　内面/底側面　底面　内面**			
Ⅲ PB-04													
Ⅲ-11-1	37-1	ZP018A	VIE1	Ⅲ PB-04	Ⅲ U	9	深鉢/口縁上面観方形胴上半	平縁 外反-角状/やや内湾　直立やや外傾		微隆起線文/微隆起線文+三角列点文+0段多条RL帯縄文 鋸歯状構成区画に字状構成を充填 --	砂粒少量	成形時粘土帯接合部で破損 内横接合
				Ⅲ PB-04	Ⅲ L	2							
				R-5	Ⅲ	1							
				R-5	Ⅲ U	1							
				R-5	KR	1							
				R-6	Ⅲ L	1							
Ⅲ-11-2	37-2	ZP018B	VIE1	R-5	Ⅲ U	1	深鉢/胴上半下半	直立/外傾		微隆起線文+三角列点文+0段多条RL帯縄文 鋸歯状構成 /無文 --	砂粒少量	内面に炭化物付着 顕著
				R-5	Ⅲ L	3							
Ⅲ PB-05													
Ⅲ-11-5	37-5	ZP002A	VIA1b	Ⅲ PB-05	Ⅲ U	2	深鉢/口縁胴上半	平縁 やや外反-実状/ほぼ直立		刺突文-魚骨側面圧痕文　シ　椎骨 3条/LR横走縄文-	砂礫極多量 白色岩片	
				R-6	Ⅲ L	1							
				R-5	Ⅲ L	1							
				R-5	Ⅲ U	1							
Ⅲ-11-6	37-6	ZP002B	VIA1b	R-6	Ⅲ L	2	深鉢/口縁胴上半	平縁 ほぼ直立-隅丸角状/ほぼ直立		刺突文-魚骨側面圧痕文　シ　椎骨 3条/LR横走縄文-	砂礫極多量 白色岩片	
Ⅲ-11-7	37-7	ZP002C	VIA1b	Ⅲ PB-05	Ⅲ U	1	深鉢/胴下半	外傾		LR横走縄文-	砂礫極多量 白色岩片	補修孔
Ⅲ PB-06													
Ⅲ-13-1	37-8	ZP004A	VIA1b	Ⅲ PB-06	Ⅲ L	28	深鉢/口縁胴下半	平縁 ややや内湾-隅丸角状　丸状/直立　膨らみをもって外傾		刻み-無文帯/LR横走縄文-	砂粒中量	成形時粘土帯接合部破断 外側接合 包含層 二次被熱破片接合
				Q-4	Ⅲ U	2							
				Q-4	Ⅲ L	9							
				R-4	Ⅲ U	2							
				R-4	Ⅲ L	16							
				R-5	Ⅲ	1							
				R-5	Ⅲ U	1							
Ⅲ SB-10													
Ⅲ-13-3a,3b	38-2	ZP001A	VIA1b	Ⅲ SB-10	Ⅲ L	5	鉢/口縁底	平縁 山形突起　欠損 2個1対 外傾-角状/外傾/ほぼ直立-隅丸角状		LR縄文-突起下貫通孔 平行沈線文　文様帯区画 2条1対/波状沈線文+楕円状沈線文を充填 LR斜行縄文/無文帯-無文-	砂粒中量	
				Q-4	Ⅲ U	2							
				Q-4	Ⅲ L	3							
				R-4	Ⅲ U	4							
				R-4	Ⅲ L	5							
				R-5	Ⅲ L	1							
				R-5	Ⅲ	1							
				R-5	Ⅲ U	6							
				R-5	Ⅲ L	1							

表Ⅲ-8　続縄文文化期遺構出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド/遺構名	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅲ-6-4	35-5	－	2639	ﾁｬﾌﾟｽﾀﾚｲﾔｰ類	B2	Ⅲc U	Ⅲ BB-03	24.7	15.4	4.3	1.7	Obs.	
Ⅲ-6-5	35-6	－	2688	ﾁｬﾌﾟｽﾀﾚｲﾔｰ類	B2	Ⅲc U	Ⅲ BB-04	34.3	19.9	13.4	6.2	Obs.	
Ⅲ-6-6	35-7	－	1694	板状鉄製品	－	Ⅲb L	Ⅲ BB-04	(33.9)	13.3	3.0	(2.8)	Irn.	
Ⅲ-6-7	35-8	－	1877	ﾁｬﾌﾟｽﾀﾚｲﾔｰ類	B1a	Ⅲc U	Ⅲ BB-07	24.3	23.7	9.3	5.3	Obs.	
Ⅲ-6-8	35-9	－	2107	ﾁｬﾌﾟｽﾀﾚｲﾔｰ類	E	Ⅲc U	Ⅲ BB-09	(24.6)	(23.1)	3.3	(1.8)	Obs.	
Ⅲ-6-9	35-10	Ⅲ ST 022	2769 2098	滑沢面のある礫	－	Ⅲc Ⅲc U	Ⅲ BB-09	(96.4)	(71.7)	(47.8)	(376.0)	Sa.	擦痕有
Ⅲ-6-14	35-15	－	1099	石錘	B	Ⅲb L	Ⅲ BB-10	42.1	11.7	7.7	3.5	Sh.	未使用品
Ⅲ-10-5	36-5	－	2538	ﾁｬﾌﾟｽﾀﾚｲﾔｰ類	B1b	Ⅲc U	Ⅲ PB-03	23.9	21.7	11.9	5.3	Obs.	
Ⅲ-10-6	36-6	－	2629	ﾁｬﾌﾟｽﾀﾚｲﾔｰ類	B1b	Ⅲc U	Ⅲ PB-03	29.8	19.1	8.1	4.6	Obs.	転礫面
Ⅲ-10-7	36-7	Ⅲ ST 031	2536 1625	台石	－	Ⅲc U	Ⅲ PB-03 S-6	(195.4)	(105.3)	64.5	(1125.0)	Sa.	裏面に滑沢面有
Ⅲ-10-8	36-8	Ⅲ ST 003	2534 2535	台石	－	Ⅲc U	Ⅲ PB-03	(100.2)	122.5	69.4	(1335.0)	Sa.	
Ⅲ-11-3	37-3	－	2481	ﾁｬﾌﾟｽﾀﾚｲﾔｰ類	B1b	Ⅲc U	Ⅲ PB-04	25.5	21.7	10.1	4.4	Obs.	岩砕面
Ⅲ-11-4	37-4	Ⅲ ST 027	2421 2479	台石	－	Ⅲc U	Ⅲ PB-02 Ⅲ PB-04	142.4	116.6	90.1	2360.0	Sa.	
Ⅲ-13-2	37-9	Ⅲ ST 002	3338 2125 3099	たたき石	Ⅰ A3	Ⅲc L Ⅲc U Ⅲc L	Ⅲ PB-06 R-4 R-4	147.4	(54.5)	25.1	(153.0)	Ser.	
Ⅲ-13-4	38-3	Ⅲ ST 014	3716 3113 2034	たたき石	Ⅰ A1	Ⅲc U Ⅲc L Ⅲc L	Ⅲ SB-10 Q-5 Q-4	201.2	53.7	20.7	342.0	Sa.	
Ⅲ-13-5	38-4	Ⅲ ST 029	3725 1990	たたき石	Ⅰ B3	Ⅲc U Ⅲc L	Ⅲ SB-10 Q-4	172.8	69.3	50.2	695.0	Sa.	
Ⅲ-13-6	38-5	Ⅲ ST 015	3424 1729	たたき石	Ⅱ A1	Ⅲc U Ⅲc L	Ⅲ SB-10 R-5	161.5	81.0	33.8	578.0	Sa.	破断面に加工痕
Ⅲ-14-7	38-6	－	3744	たたき石	Ⅲ A	Ⅲc L	Ⅲ SB-10	74.3	68.3	22.5	131.0	Sa.	
Ⅲ-14-8	38-7	Ⅲ ST 021	3428 1991	滑沢面のある礫	－	Ⅲc L Ⅲc L	Ⅲ SB-10 Q-4	106.3	97.1	48.8	573.0	Sa.	付着物有
Ⅲ-14-9	38-8	－	3720	滑沢面のある礫	－	Ⅲc L	Ⅲ SB-10	94.1	56.8	26.2	232.0	Sa.	
Ⅲ-14-10	38-9	－	3726	滑沢面のある礫	－	Ⅲc L	Ⅲ SB-10	92.2	75.4	18.5	167.0	Sa.	
Ⅲ-14-11	38-10	－	3741	滑沢面のある礫	－	Ⅲc L	Ⅲ SB-10	79.8	79.3	13.0	84.0	Sa.	
Ⅲ-14-12	38-11	－	3743	滑沢面のある礫	－	Ⅲc L	Ⅲ SB-10	85.7	65.2	24.5	170.4	Sa.	たたき併用
Ⅲ-14-13	38-12	Ⅲ ST 017	3723 3070 2165	台石	－	Ⅲc U Ⅲc L Ⅲc L	Ⅲ SB-10 Q-4 Q-4	201.3	133.5	51.3	1759.0	Sa.	
Ⅲ-14-14	38-13	Ⅲ ST 016	3717 3724	加工痕のある礫	－	Ⅲc L	Ⅲ SB-10	172.3	68.2	33.2	451.0	Sa.	
Ⅲ-14-15	38-14	－	40034	縫い針？	－	Ⅲc L	Ⅲ SB-10	(23.1)	1.4	0.9	(0.2)	Irn.	FLTNo.70
Ⅲ-14-16	38-15	－	40035	縫い針？	－	Ⅲc L	Ⅲ SB-10	(26.7)	0.9	0.6	(0.1)	Irn.	FLTNo.70

表Ⅲ-9　続縄文文化期包含層出土土器・土製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グ	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁　口唇/胴部/底側面　変換点　底面	文様 口唇　口縁　内面/胴部　内面/底側面　底面　内面	胎土	備考
Ⅲ-15-1	39-1	ZP003A	VIA1b	S-4	Ⅲ L	1	深鉢/口縁	平縁 ほぼ直立-角状 やや外傾	RL縄文+刻み-縦位 棒状貼付文+貫通孔 縦位 RL縄線文 無文帯/RL斜行縄文 -	砂粒少量	
Ⅲ-15-2	39-2	ZP008A	VIA1b	U-6	Ⅲ L	1	深鉢/胴下半	外傾	L撚糸絡条体R巻き原体縦位 斜位回転文-弱い ガキ	砂粒少量	
Ⅲ-15-3	39-3	ZP010A	VIA1b	Q-4	Ⅲ L	1	小型鉢/口縁 底	平縁 やや外反-隅丸角状 やや外傾ぎ /外傾 やや膨らむ /直立-隅丸角状-上げ底	部分的に刻み-OI貫通孔 2個1対 無文 横位 /無文-	砂粒少量 繊維微量	二次被熱 破片接合
				R-4	Ⅲ U	5					
				R-4	Ⅲ L	2					
				R-5	Ⅲ U	2					
Ⅲ-15-4	39-4	ZP011A	VIC1	表採	-	1	深鉢/胴上半	ほぼ直立	列点文 斜位短沈線文 帯縄文-	砂粒やや多量	
Ⅲ-15-5	39-5	ZP011B	VIC1	Q-4	Ⅲ U	1	深鉢/胴上半 下半	ほぼ直立 やや外傾	列点文 斜位短沈線文 帯縄文/帯縄文 縦走 -	砂粒やや多量	
				Q-3	Ⅲ L	1					
Ⅲ-15-6	39-6	ZP011C	VIC1	R-4	Ⅲ U	1	深鉢/胴下半	ほぼ直立　外傾	列点文 櫛歯状沈線文 帯縄文/帯縄文 縦走 -	砂粒やや多量	
				Q-3	Ⅲ U	1					
Ⅲ-15-7	39-7	ZP012A	VIC1	Q-4	Ⅲ U	1	深鉢/胴上半	ほぼ直立	列点文 横位短沈線文 櫛歯状沈線文 帯縄文-	細砂粒中量	
Ⅲ-15-8	39-8	ZP016A	VIC2	S-6	Ⅲ	3	深鉢/胴上半	ほぼ直立	擬縄貼付文 RL帯縄文 -	砂粒中量	成形時粘土帯接合部で破断 内傾接合
Ⅲ-15-9	39-9	ZP019B	VIE1	S-5	Ⅲ L	1	深鉢/口縁	平縁 やや外反-角状	OI刺突文 0段多条RL帯縄文-	砂粒中量	
Ⅲ-15-10	39-10	ZP019A	VIE1	ⅢPB-03	Ⅲ U	5	深鉢/胴上半	直立　外傾	微隆起線文 列点文 0段多条RL帯縄文 目詰まり無節状 方形状構成 -	砂粒中量	成形時粘土帯接合部で破損 内傾接合
				R-6	Ⅲ L	1					
Ⅲ-15-11	39-11	ZP026A	VIE1	T-6	Ⅲ	1	壺/口縁 頸部 胴上半	強い外反/強い屈曲/内湾	無文-	砂粒少量	
Ⅲ-15-12a	39-12	ZP020A	VIE1	ⅢPB-03	Ⅲ U	4	深鉢/口縁 上面観 方形 胴上半	平縁 低い山形突起 ほぼ直立-角状/弱い膨らみ 外傾	突起頂部 刻み-微隆起線文 無文帯/RL帯縄文+刺突文 字状構成 - 弱い ガキ	砂粒中量	二次被熱破片接合
				ⅢPB-03	Ⅲ L	1					
				ⅢPB-04	Ⅲ L	1					
				R-6	Ⅲ L	1					
				R-6	Ⅲ U	10					
				R-6	Ⅲ L	3					
				R-6	Ⅲ	1					
				R-5	Ⅲ U	1					
				R-5	Ⅲ	3					
Ⅲ-15-13	39-13	ZP020B	VIE1	ⅢPB-04	Ⅲ U	1	深鉢/口縁 胴下半	平縁 山形突起 やや外反-角状/直立/内傾	突起頂部 刻み-微隆起線文 無文帯/RL帯縄文+刺突文 字状構成 / 無文-弱い ガキ	砂粒中量	内傾接合
				ⅢBB-07	Ⅲ L	1					
				R-5	Ⅲ L	2					
				R-5	Ⅲ	1					
				R-5	Ⅲ U	2					
				R-5	Ⅲ L	1					
				R-6	Ⅲ U	4					
				R-6	Ⅲ L	2					
				R-6	KR	1					
Ⅲ-15-14	39-14	2617	他成粘土塊	ⅢPB-03	Ⅲ U	1	-	-	指頭圧痕	砂粒 繊維等混和材無し	

表Ⅲ-10　続縄文文化期包含層出土剥片石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド/遺構名	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅲ-17-1	40-1	－	2247	石錐	D	Ⅲc L	T-5	54.0	19.8	7.9	8.7	Cha.	側縁の可動性有
Ⅲ-17-2	40-2	－	1658	ナイフ・スクレイパー類	B1a	Ⅲc U	R-5	21.8	20.4	11.9	4.7	Obs.	
Ⅲ-17-3	40-3	－	2687	ナイフ・スクレイパー類	B1b	Ⅲc U	R-6	22.9	22.1	9.4	4.5	Obs.	転礫面
Ⅲ-17-4	40-4	－	1791	ナイフ・スクレイパー類	B1b	Ⅲc U	R-6	31.0	26.2	9.5	10.1	Obs.	
Ⅲ-17-5	40-5	－	1793	ナイフ・スクレイパー類	B1b	Ⅲc U	R-6	69.2	54.9	18.4	71.0	Obs.	砂砂面、黒肌
Ⅲ-17-6	40-6	－	1824	ナイフ・スクレイパー類	B2	Ⅲc U	R-6	36.0	18.1	11.9	6.4	Obs.	
Ⅲ-17-7	40-7	－	1397	ナイフ・スクレイパー類	C1	Ⅲb L	R-6	24.4	22.8	5.8	2.4	Obs.	
Ⅲ-17-8	40-8	－	42	ナイフ・スクレイパー類	C1	Ⅲc	U-5	(43.6)	20.3	6.4	(5.8)	Sh.	
Ⅲ-17-9	40-9	－	1790	ピエス・エスキーユ	－	Ⅲc U	R-6	22.2	20.1	9.4	3.6	Obs.	

表Ⅲ-11　続縄文文化期包含層出土礫石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド/遺構名	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅲ-17-10	40-10	－	2162	石斧	A1	Ⅲb L	R-4	109.2	46.1	20.5	173.0	不明	
Ⅲ-17-11	40-11	－	756	石斧	A2	Ⅲc	S-5	146.1	54.5	19.2	250.0	Gr·Mud.	
Ⅲ-17-12	40-12	－	2227	石斧	B	Ⅲc L	U-4	(80.8)	45.0	17.1	(93.0)	Gr·Mud.	未成品
Ⅲ-17-13	40-13	ⅢST 005	383 451	たたき石	Ⅰ A1	Ⅲc	R-5	142.0	43.0	28.0	240.0	Sa.	
Ⅲ-17-14	40-14	－	2032	たたき石	Ⅰ A3	Ⅲc U	Q-4	125.0	49.0	31.0	230.0	Sa.	
Ⅲ-18-15	40-15	ⅢST 019	2126 2711	たたき石	Ⅰ B1	Ⅲc U Ⅲc L	R-4 R-5	116.0	64.0	27.0	232.0	Sa.	
Ⅲ-18-16	40-16	－	2889	たたき石	Ⅰ B1	Ⅲc L	Q-4	152.0	52.0	51.0	482.0	Sa.	
Ⅲ-18-17	40-17	ⅢST 010	1358 1359 1360 1361 1362 1951	たたき石	Ⅰ B3	Ⅲb L Ⅲc U	S-4	205.3	58.0	41.0	(601.0)	Sa.	
Ⅲ-18-18	40-18	－	1867	たたき石	Ⅱ A1	Ⅲc U	S-5	138.1	71.0	37.0	475.0	Sa.	
Ⅲ-18-19	40-19	－	1607	たたき石	Ⅱ B2	Ⅲc U	T-5	105.0	91.2	58.2	590.0	Sa.	
Ⅲ-18-20	41-20	－	761	たたき石	Ⅱ B3	Ⅲc	T-4	162.9	80.5	62.5	795.0	Sa.	
Ⅲ-18-21	41-21	－	1889	たたき石	Ⅲ B	Ⅲc U	R-6	(62.3)	59.7	52.5	(300.0)	Sa.	
Ⅲ-18-22	41-22	－	1866	たたき石	Ⅴ	Ⅲc U	S-5	94.0	55.0	39.2	153.0	Sa.	礫片素材
Ⅲ-18-23	41-23	－	2583	たたき石	Ⅴ	Ⅲc L	R-6	113.9	93.6	35.9	485.0	Sa.	礫片素材
Ⅲ-19-24	41-24	－	435	すり石	C	Ⅲc	Q-5	102.0	76.0	21.0	225.0	Sa.	敲打痕有
Ⅲ-19-25	41-25	ⅢST 023	2033 3068 3098	砥石	－	Ⅲc U Ⅲc L Ⅲc L	Q-4 Q-4 R-4	164.9	(121.5)	34.0	(738.0)	Sa.	
Ⅲ-19-26	41-26	－	2035	溝状面のある礫	－	Ⅲc U	Q-4	114.2	68.1	31.1	286.0	Sa.	敲打痕有
Ⅲ-19-27	41-27	－	4249	石皿	－	Ⅲc L	T-4	224.0	191.0	62.9	3960.0	Sa.	敲打痕有
Ⅲ-19-28	41-28	－	1048	台石	－	Ⅲc	U-5	208.1	130.9	70.4	2801.0	Sa.	
Ⅲ-19-29	41-29	－	2924	台石	－	Ⅲc L	R-6	(138.0)	144.0	39.3	(954.0)	Sa.	

第Ⅳ章　縄文時代の調査

本章ではⅤ・Ⅵ層で出土、検出した遺構、遺物を対象としているが、土器の一部はⅢc 層下位から出土したものも含む。遺構は竪穴式住居跡 1 軒、土坑 9 基、灰集中 1 ヵ所、焼土 43 ヵ所、土器集中 4 ヵ所、礫集中 1 ヵ所を検出した（表Ⅳ-1）。遺構については特徴的な分布は認められず全体的に検出している（図Ⅳ-1）。遺物は縄文早期後半から晩期まで幅広く出土している。包含層調査においては基本的にⅤa 層やⅤb 層上位からは晩期や後期前葉の土器が出土しているが、前期後半から中期後半にかけての土器はⅤb 層中位からⅤc 層にかけて幅広く出土する。また、Ⅴb 層中位からは微細な焼骨片が全体的に分布しているが、ブロックとして区画できるほど明瞭ではない。これら焼骨片と土器が上下して出土する状況からⅤb 層が動かされている可能性も考えられるが分層できるほど明瞭ではない。遺物点数は土器が 8, 134 点出土し、早期後半から晩期中葉まで出土しているが、中期後半に分類した萩ヶ岡 1 式、同 2 式、天神山式が約 30%ともっとも多く出土する（表Ⅰ-3）。（奈良）

表Ⅳ-1　縄文時代遺構群一覧表

遺構名	帰属時期	グリッド	層位	備考	遺構名	帰属時期	グリッド	層位	備考
VH-01	縄文時代中期末葉	T・U-6	VbM		VF-20	縄文時代前期～中期	R-3	VbL	
VP-01	縄文時代中期後葉	S-3・4	VbM		VF-21	縄文時代前期～中期	R-3	VbL	
VP-02	縄文時代	Q-6	Ⅵ		VF-22	縄文時代前期～中期	R-3	VbL	
VP-03	縄文時代	S-6	Ⅵ		VF-23	縄文時代後期	T-6	VbU	
VP-04	縄文時代	S-5	Ⅵ		VF-24	縄文時代前期～中期	R-6	VbL	
VP-05	縄文時代	T-6	Ⅵ		VF-25	縄文時代前期～中期	S-6	VbL	
VP-06	縄文時代	R-3・4	Ⅵ		VF-26	縄文時代前期～中期	R-5	Vc	
VP-07	縄文時代	U-4	Ⅵ		VF-27	縄文時代前期～中期	Q-3	VbL	
VP-08	縄文時代	S・T-5	Ⅵ		VF-28	縄文時代前期～中期	T-6	VbL	
VP-09	縄文時代	S-4	Ⅵ		VF-29	縄文時代前期～中期	Q・R-5	VbL	
VAS-01	縄文時代前期～中期	Q-5	VbL		VF-30	縄文時代前期～中期	Q-6	VbL	
VF-01	縄文時代前期～中期	T-4・5	VbL		VF-31	縄文時代前期～中期	Q・R-6	VbL	
VF-02	縄文時代前期～中期	T-4	VbL		VF-32	縄文時代前期～中期	R-6	VbL	
VF-03	縄文時代中期	R-6	VbM		VF-33	縄文時代前期～中期	Q・R-5	VbL	
VF-04	縄文時代中期	R・S-6	VbM		VF-34	縄文時代前期～中期	Q-6	VbL	
VF-05	縄文時代中期	R-6	VbM		VF-35	縄文時代前期～中期	U-4	VbL	
VF-06	縄文時代中期	T-5	VbM		VF-36	縄文時代前期～中期	S-3	Vc	
VF-07	縄文時代前期～中期	T-5	VbL		VF-38	縄文時代前期～中期	S-6	Vc	
VF-08	縄文時代前期～中期	T-5	VbL		VF-39	縄文時代前期～中期	S-6	Vc	
VF-09	縄文時代前期～中期	T-5	VbL		VF-40	縄文時代前期～中期	S-6	Vc	
VF-10	縄文時代前期～中期	T-5	VbL		VF-41	縄文時代前期～中期	R-6	Vc	
VF-11	縄文時代前期～中期	S-5	VbL		VF-42	縄文時代前期～中期	R-6	Vc	
VF-12	縄文時代前期～中期	S-5	VbL		VF-43	縄文時代前期～中期	Q-6	Ⅵ	
VF-13	縄文時代前期～中期	T-4	VbL		VF-44	縄文時代前期～中期	S・T-5	Vc	
VF-14	縄文時代前期～中期	S-4	VbL		VPB-01	縄文時代後期中葉	S-6	VbU	
VF-15	縄文時代中期	R-5	VbM		VPB-02	縄文時代後期初頭	T-4	VbU	
VF-16	縄文時代中期	R-5	VbM		VPB-03	縄文時代後期初頭	S-3	VbU	
VF-17	縄文時代中期	R-5	VbM		VPB-04	縄文時代中期後半	S-6	VbL	
VF-18	縄文時代前期～中期	R-4	Vc		VSB-01	縄文時代後期	R-4・5・Q・S	VbU	
VF-19	縄文時代前期～中期	R-4	VbL		VFCB-01	縄文時代後期	S-6	VbU	

図Ⅳ-1　縄文時代遺構配置図

第１節　住居跡

VH-01（図Ⅳ-2　図版 16-1･2）

位置：T･U-6 区　規模：（404）×（174）cm　検出層位：VbM

長軸方向：－　平面形：－　付属遺構：HF01･HP01～07

確認・調査　住居跡の検出については、調査区の削平されている南西側法面を精査した段階でⅦb 層に達する落ち込みを確認していたため、当初から存在は確認できていた。

調査は当初から検出していた法面とこれに直交する位置にベルトとトレンチを設定し、床面及び壁面の立ち上がりを確認した。同時に周囲の掘り下げも行ったところVb 層主体にⅦb パミスが混入する土壌を検出したため、掘り上げ土を考慮してプランの記録を行った。こうしたⅦb パミスが混入する土壌は住居跡周辺に多く認められたが、北東側は倒木痕の揚げ土が顕著であったため、明瞭な北西側のみを記録した。住居跡のプランはトレンチで壁面の立ち上がりが認められたため、これに沿って遺物を取り上げながら掘削を行い、十字ベルトを残した状態で断面の記録を行った。その後、ベルトを外して床面の遺物を残した状態で完掘写真、平面の記録を行った。遺物取り上げ後に柱穴と炉跡の確認調査を行い、柱穴は壁面付近に７本、炉跡はほぼ中央と思われる位置に検出した。それぞれ平面、断面の記録を行って調査終了とした。

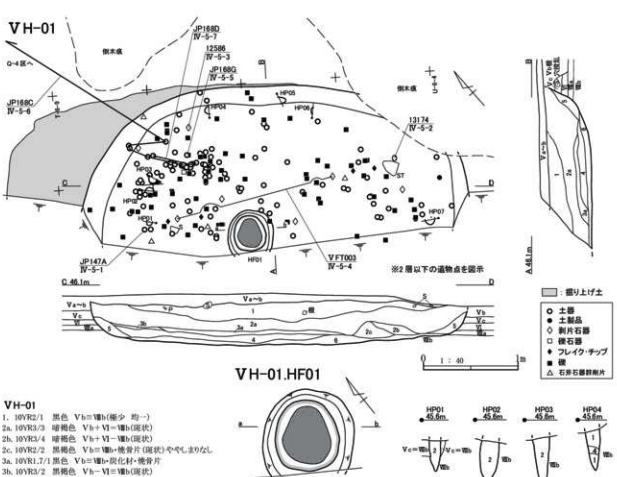
形態　平面形は概ね半分ほど削平され、一部倒木で撹乱を受けているため不明瞭であるが、炉跡を中央付近と考えると隅丸方形状になる。壁面は比較的明瞭に立ち上がる。

堆積状態　1 層は極少量のⅦb パミスを含んでいるが、住居跡窪みに流れ込んだ自然堆積層で後期前葉の土器が出土している。2 層はⅦb パミスを多く含み住居跡全体に認められることから屋根土と思われる。3 層以下は 2 層以前の自然堆積で、5 層は壁面付近のいわゆる三角堆積。6 層は住居跡全体に広がり、Vb 層主体で微量にⅦb パミスを含み締りがある。炉跡を検出した中央付近は層厚約 2cm で、床面直上層と思われる。掘り上げ土については断面で捉えることはできなかったが、概ねVb 層中位で確認している。

付属遺構　HF01 とした焼土は住居跡ほぼ中央に黒色プランを検出したのでトレンチで断面確認したところ、浅い掘り込みを伴う炉跡で弱い被熱層（2 層）に微量の焼骨片を含み、僅かに付帯黒色土（3 層）が認められる。1 層は僅かに焼骨片や炭化材を含む。被熱層の位置から掘り込みを伴う炉跡と判断できる。

確認した柱穴は 7 本で全て打ち込みである。HP06 と 07 の間には柱穴が認められない。確認面での直径は約 6～10cm、深さは HP03 が最も深くて 26cm、最も浅いものは HP01 の 8cm である。

出土遺物（図Ⅳ-5-1～7　図版 42-1～7）　1～4 は床面付近出土遺物で、1 はⅢ群 B3 類の口縁部片。平縁で三角形状に肥厚し、口縁部には円形刺突文が認められる。2 は B1 類の石槍で鏃身部が長く薄い。尖頭部を欠損している。3 は C1 類のスクレイパーで、左側縁に急角度の刃部を作出している。表面に岩砕面、裏面に主剥離面を残す。4 は 2 点が接合した C 類の両面調整石器で、表裏面に粗い剥離調整を施す。右側縁と裏面に岩砕面を残すことから、調整途中で破損した可能性がある。すべて黒曜石製である。5～7 は 2 層出土の土器とその同一個体片である。全てⅢ群 B3 類の胴部片で 5 は縦位の貼付文に押引文が付される。6･7 は地文縄文のみであるが器表面に縄端結縛痕が認められる。



VH-01
1. 10YR2/1　黒色　Vb＝VBb(極少　均一)
2a. 10YR3/3　暗褐色　Vb＋VI＝VBb(斑状)
2b. 10YR3/4　暗褐色　Vb＋VI－VBb(斑状)
2c. 10YR2/2　黒褐色　Vb＝VBb＋焼骨片(斑状)ややしまりなし
3a. 10YR1.7/1 黒色　Vb＝VBb＋炭化材＋焼骨片
3b. 10YR3/2　黒褐色　Vb－VI＝VBb(斑状)
4. 10YR3/2　黒褐色　Vb＋VI＝VBb(斑状)
5. 10YR2/2　黒褐色　Vb＝VI(均一)＝VBb(斑状)
6. 10YR2/1　黒色　Vb＝VBb(斑状)しまり有り

VH-01.HF01
1. 10YR2/3　黒褐色　Vb＝Vc＝焼骨片・炭化材・VBb(斑状)
2. 5YR4/6　赤褐色　VBb被熱層＝焼骨片(斑状)
3. 10YR2/2　黒褐色　付帯黒色土

HP-01～07
1. 10YR2/1　黒色　Vb＝VBb(φ5↓ 斑状)しまり有り
2. 10YR3/4　暗褐色　Vb－VBb(均一)しまり有り
3. 10YR1.7/1 黒色　Vb＝VBb(極少量 均一)ややしまり有り
4. 7.5YR4/6　褐色　VBb＝Vb(均一)しまりなし

図Ⅳ-2　VH-01平面及び断面図

時期　床面付近出土の土器と掘り上げ土の検出位置から縄文時代中期末葉の北筒式に伴う住居跡と思われる。　（奈良・石器：宮崎）

第2節　土坑

土坑は9基検出している。VP-01は調査区トレンチで断面を確認していたことからVb層から調査を行った。VP-02～09は全てⅥ層上面で黒色プランを検出してから調査している。

VP-01（図Ⅳ-3　図版17-9～12）

位置：S-3･4区　規模：(215)×200 cm/（192）×180 cm　検出層位：VbM

確認・調査　調査区南西-北東軸のSライントレンチでVb層が落ち込む地点を確認した。断面観察では北東側が倒木痕でやや乱れているが立ち上がりが認められたため遺構と判断した。A-Bラインの断面記録後、これに直交する形でC-Dラインを設定してベルトを残した状態で立ち上がりの確認をした。C-Dラインの記録後、坑底面付近の遺物を残した状態で完掘写真、平面の記録を行って調査終了とした。本遺構は長軸が約2mあるため当初住居跡を想定していた

が、炉跡及び柱穴が認められないため土坑と判断した。

堆積は 1 層がⅤb 層主体でⅥ・Ⅶb 層が斑状に少量混入し、2 層はⅤb 層主体に焼骨片、炭化材が微量に混入する。いずれも自然堆積。時期は坑底面直上の 2 層からⅢ群 B1 類 b 種が出土しているため縄文時代中期後半に帰属すると思われる。なお覆土 1 層からはⅢ群 A1 類の土器が出土しているが、構築時の掘削した土壌中に入っていた本遺構より古い時期の土器片が再流入したものと思われる。

出土遺物（図Ⅳ-5-8～16　図版 42-8～16）　出土遺物は 8～14 が 2 層出土。8～13 はⅢ群 B1 類 b 種の土器で、8・10・11 は同一個体である。8・10 の口縁部は三角形状の肥厚帯を有し、8 は棒状貼付文にボタン状貼付文が施される。12 は 2 層下位で横に倒れて出土した胴部下半から底部の土器。地文縄文のみで上げ底である。13 は波状の口縁部片で三角形状に肥厚し、短い棒状貼付文が付く。8 はⅦ-01 の 2 層出土だが、本遺構の出土土器と同一個体のためここで掲載する。14 はC類に分類した砂岩製のすり石で、不整形の扁平礫の下端部に横方向のすり面がある。上部先端にはわずかな敲打痕と剥離があり被熱している。15・16 は覆土 1 層出土のⅢ群 A1 類土器で、15 の口唇部は撚糸圧痕による縦位の刻み、口縁部は剥落した貼付文と半裁竹管による刺突文、撚糸圧痕文が施される。15・16 ともに内面のミガキ調整は顕著である。

VP-02（図Ⅳ-3　図版 18-1～3）

位置：Q-6 区　規模：124×120 cm/98×93 cm　検出層位：ⅤbL

確認・調査　調査区南西側にⅦb 層が環状に廻る内側にⅤb 層主体の黒色土のプランを検出した。検出状態の撮影とⅦb 範囲を記録した後、半掘して堆積状態の確認を行った。断面記録後に残り半分を完掘し、平面形の記録を行い調査終了とした。

堆積は 2・4・7・12・14 層がⅦb パミス主体で、8 層以下は水平に近い堆積を示している。こうした堆積状態や壁面の崩落が認められないことから、埋め戻しの土坑墓と考えられ、15 層はいわゆる遺体層の可能性もある。土器は上位の埋土からⅢ群 B1・B2 類、中位の埋土から富良野盆地系のⅠ群 B3 類が出土しているが、坑底面から遺物は出土していないため、構築時期は不明である。

VP-03（図Ⅳ-3　図版 18-4～6）

位置：S-6 区　規模：(80)×（52）cm/（56）×（39）cm　検出層位：Ⅵ

確認・調査　Ⅵ層で不定形礫がまとまって出土する地点とその周囲に黒色土の落ち込みが認められた。礫出土状態の微細図を実測し、半掘して断面確認したところ坑底面が水平で、立ち上がりから土坑と判断した。遺物取り上げ後に完掘して調査終了とした。なお、半掘する際に北西側を掘り過ぎたため推定線で図化している。

出土遺物（図Ⅳ-4-6-17　図版 42-17）　17 は被熱した砂岩製の石皿の破片。表面上部がわずかに窪み、裏面は上部側に浅く窪むすり面のごく一部が残る。

VP-04（図Ⅳ-3　図版 18-7・8）

位置：S-5 区　規模：92×88 cm/68×64 cm　検出層位：Ⅵ

確認・調査　調査区中央のやや南西側で円形の黒色プランを検出。半掘して断面確認したところ坑底面が水平で立ち上がりから土坑と判断した。断面、完掘、平面記録を行って調査終了とした。堆積は 1・2 層ともにⅤb 層主体にⅦ層が少量から微量混入する自然堆積。

出土遺物（図Ⅳ-6-18～20　図版 43-18～20）　18・19 はたたき石。18 はⅠB1 類で、縦長礫の表面の上下 2 ヵ所に深い敲打痕、裏面は上部側の 1 ヵ所に敲打痕がある。19 は上下端部が欠損しているがⅠB3 類に分類したもの。表面の長軸方向に続く敲打痕は中央部で破断しているが、裏面は連続しており、右側縁稜にも敲打痕がある。20 はA類のすり石。断面三角形の礫の稜にすり面があるもの。左右側面は破断面であるが、すり面は湾曲しており破損礫を素材としたと思われる。すべて砂岩製である。

VP-05（図Ⅳ-3　図版 19-1・2）

位置：T-6 区　規模：80×80 cm/64×60 cm　検出層位：Ⅵ

確認・調査　調査区南西側で黒色土プランを検出。トレンチで断面確認したところ坑底面が水平で、立ち上がりから土坑と判断した。断面、完掘、平面の記録を行って調査終了とした。堆積はⅤb、Ⅴc 層主体にⅦb パミスが混入する自然堆積。

VP-06（図Ⅳ-4　図版 19-3・4）

位置：R-3・4 区　規模：70×68 cm/52×48 cm　検出層位：Ⅵ

確認・調査　調査区北側で黒色円形プランを検出。半掘で断面確認したところ坑底面が水平で、立ち上がりは北東側がやや緩やかであったが土坑と判断した。断面、完掘、平面の記録を行って調査終了とした。堆積はⅤb 層主体にⅦb パミスが混入する自然堆積。

VP-07（図Ⅳ-4　図版 19-5・6）

位置：U-4 区　規模：57×49 cm/40×38 cm　検出層位：Ⅵ

確認・調査　調査区南東側の段丘縁辺部付近で黒色円形プランと土製品・礫を検出。遺物を横断する形で半掘して断面確認を行った。遺物は中央付近のみで、坑底面は水平、立ち上がりも認められたため土坑と判断した。断面記録後に遺物取り上げを行い、完掘、平面の記録を行って調査終了とした。堆積はいずれもⅤ層主体でⅦ層が混入する自然堆積。

出土遺物（図Ⅳ-6-21・22　図版 43-21・22）　21・22 はいわゆる「サツマアゲ状土製品」（道埋文 1998）の破片である。欠損しているが楕円形状に形成されている。21 は中心部に焼成前の穿孔がある。

VP-08（図Ⅳ-4　図版 19-7・8）

位置：S・T-5 区　規模：68×60 cm/45×40 cm　検出層位：Ⅵ

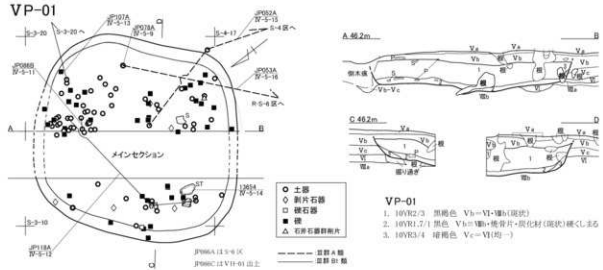
確認・調査　調査区中央のやや南東側、試掘坑下位で黒色円形プランを確認した。半掘で断面確認したところ坑底面は狭く、口坑部が開く立ち上がりが認められたため土坑と判断した。断面、遺物取り上げ、完掘、平面の記録を行って調査終了とした。2 層は縦方向の堆積であるため根痕の可能性がある。

VP-09（図Ⅳ-4　図版 20-1・2）

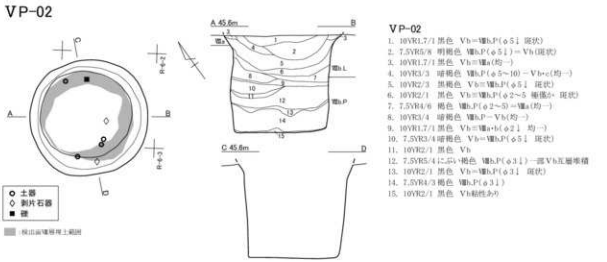
位置：S-4 区　規模：63×57 cm/52×48 cm　検出層位：Ⅵ

確認・調査　調査区中央付近で黒色円形プランを確認した。半掘して断面確認したところ西側の立ち上がりは緩やかであるが坑底面が水平であるため土坑とした。断面、完掘、平面の記録を行って調査終了とした。堆積は 2 層がⅤb 層主体でⅦb 層が混入し、3 層はⅦ層主体のため部分的な崩落と思われる自然堆積。　（奈良・石器：宮崎）

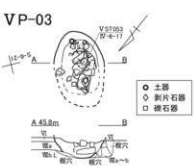
VP-01



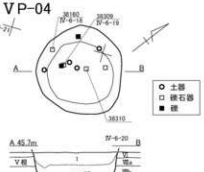
VP-02



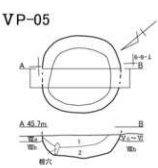
VP-03



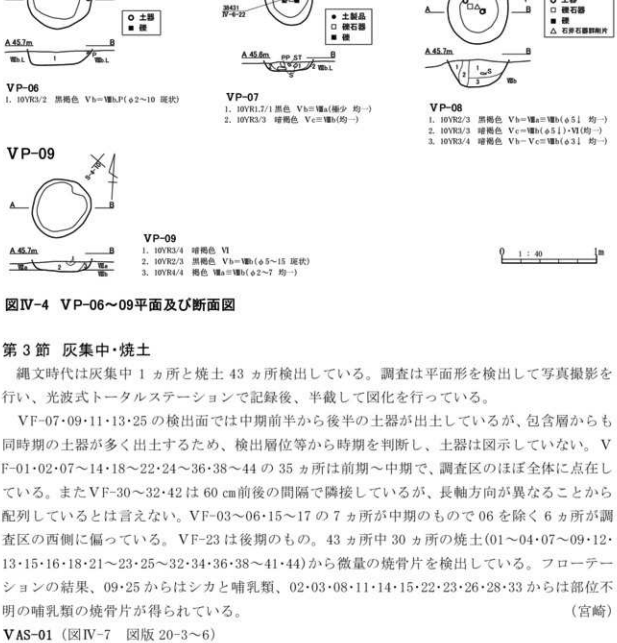
VP-04



VP-05



図Ⅳ-3　VP-01～05平面及び断面図



図Ⅳ-4 VP-06～09平面及び断面図

第3節 灰集中・焼土

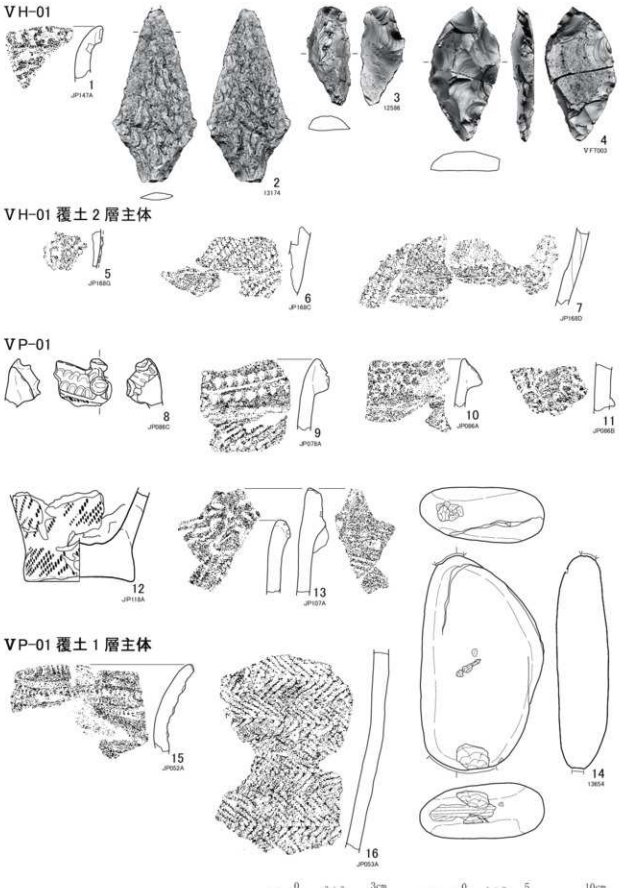
縄文時代は灰集中1ヵ所と焼土43ヵ所検出している。調査は平面形を検出して写真撮影を行い、光波式トータルステーションで記録後、半截して図化を行っている。

VF-07・09・11・13・25の検出面では中期前半から後半の土器が出土しているが、包含層からも同時期の土器が多く出土するため、検出層位等から時期を判断し、土器は図示していない。VF-01・02・07～14・18～22・24～36・38～44の35ヵ所は前期～中期で、調査区のほぼ全体に点在している。またVF-30～32・42は60㎝前後の間隔で隣接しているが、長軸方向が異なることから配列しているとは言えない。VF-03～06・15～17の7ヵ所が中期のもので06を除く6ヵ所が調査区の西側に偏っている。VF-23は後期のもの。43ヵ所中30ヵ所の焼土(01～04・07～09・12・13・15・16・18・21～23・25～32・34・36・38～41・44)から微量の焼骨片を検出している。フローテーションの結果、09・25からはシカと哺乳類、02・03・08・11・14・15・22・23・26・28・33からは部位不明の哺乳類の焼骨片が得られている。 (宮崎)

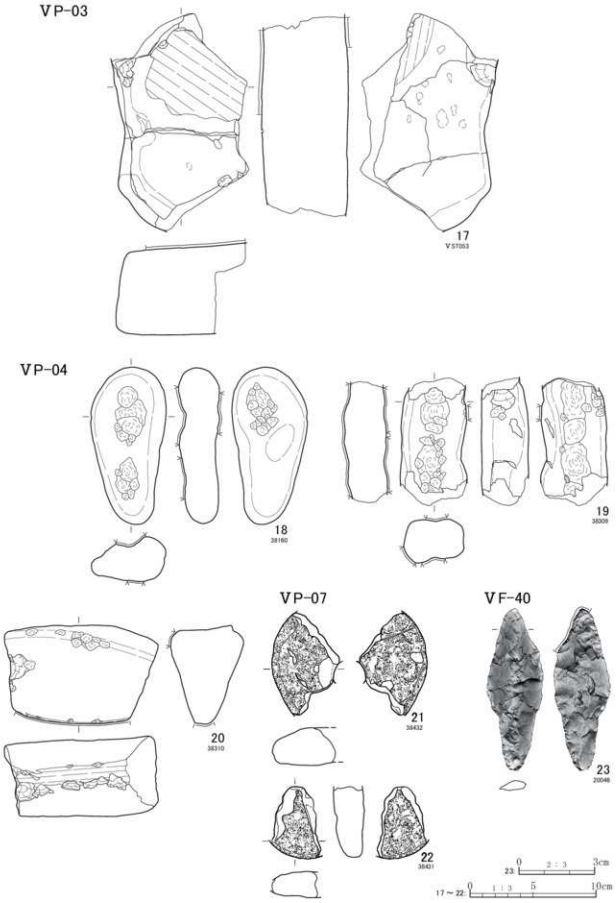
VAS-01 (図Ⅳ-7 図版20-3～6)

位置：Q-5区 規模：44×37㎝ 検出層位：VbL

調査区北西側の削平された法面にかかるようにV層が落ち窪む範囲を検出した。当初、住居跡などの遺構と考えトレンチを設定たが、約20㎝程度掘り下げたところで灰層ブロックを検出したため上層部分の断面の図化を行った後、ベルトを除去してプランを確認した。断面確認で下位に焼土がないことから、灰集中とした。灰層ブロックは不整形だが、比較的水平に検出しているため窪みへの流れ込みではなく、窪地への投棄と思われる。また、この窪みについては立ち上がりや基底面が不明瞭であることから大型の根跡と判断した。 (奈良)



図Ⅳ-5　VH-01·VP-01 出土遺物



図Ⅳ-6 VP-03·04·07·VF-40 出土遺物

VF-01（図Ⅳ-7　図版 2-7・8）

位置：T-4・5 区　規模：－　検出層位：VbL　平面形：－

確認・調査　調査開始前から試掘坑壁面のVb 層下位で、獣骨の焼骨片を含む被熱層を確認していた。被熱層はメインセクショントレンチと根による撹乱で大きく破壊されている。隣接する土器集中VPB-02(Vb 層上位)からは縄文時代後期の土器が出土しているが、焼土の検出層位から関連はないものと思われる。

VF-02（図Ⅳ-7　図版 21-1・2）

位置：T-4 区　規模：39×(12)㎝　検出層位：VbL　平面形：－

確認・調査　VF-01 から約 1.4m 北西のVb 層下位で検出した。メインセクションの部分は掘削してしまい、全体の平面形は不明である。

VF-03～05（図Ⅳ-7　図版 21-3～8）

03：位置：R-6 区　規模：36×24 ㎝　検出層位：VbM　平面形：楕円形

04：位置：R・S-6 区　規模：32×26 ㎝　検出層位：VbM　平面形：不整形

05：位置：R-6 区　規模：36×33 ㎝　検出層位：VbM　平面形：円形

確認・調査　VF-03～05 は同一層位で約 2m と近接して検出しているため、まとめて記載する。3 ヵ所はVb 層中位を調査中に検出し、平面形はそれぞれ楕円形・不整形・円形で、断面はいずれも皿状である。04 は断面右側に大型の破損した礫が埋没していたが、石組炉等の可能性はないと思われる。

VF-06（図Ⅳ-7　図版 22-1・2）

位置：T-5 区　規模：36×18 ㎝　検出層位：VbM　平面形：不整形

確認・調査　調査区の南東側で検出した。断面形が薄い皿状の焼土。根による撹乱で離れた下層にも被熱層が動いている。

VF-07・08（図Ⅳ-7　図版 22-3～6）

07：位置：T-5 区　規模：38×17 ㎝　検出層位：VbL　平面形：不整形

08：位置：T-5 区　規模：51×22 ㎝　検出層位：VbL　平面形：楕円形

確認・調査　VF-07・08 は同一層位で約 1m と近接して検出しているため、まとめて記載する。07 は不整形で断面は皿状の弱い被熱層、08 は強い被熱層の周囲に弱い被熱層がみられ、焼土下部は根により被熱層が押し込まれる。検出面からⅢ群 B1 類の土器が 1 点出土している。

VF-09（図Ⅳ-7　図版 22-7・8）

位置：T-5 区　規模：32×27 ㎝　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　厚さ 7㎝ の浅鉢状の焼土。1 層は焼骨片を含む弱い被熱層で、燃焼面の可能性がある。2 層は赤褐色の強いVb 被熱層。

VF-10（図Ⅳ-8　図版 23-1・2）

位置：T-5 区　規模：42×27 ㎝　検出層位：VbL　平面形：楕円形

確認・調査　VF-09 の約 60 ㎝北側で検出した。楕円形で厚さ 4 ㎝の浅い皿状を呈しており、強い被熱はごく部分的である。

VF-11（図Ⅳ-8　図版 23-3・4）

位置：S-5 区　規模：30×21 ㎝　検出層位：VbL　平面形:不整形

確認・調査　調査区の中央付近 S-5 区を調査中に検出した。厚さ 4 cmの被熱層の間に根によると思われる黒色土が入り込んでいる。検出面からⅢ群 B2 類、Ⅲ群 B3 類の土器がそれぞれ 1 点ずつ出土している。

VF-12（図Ⅳ-8　図版 23-5･6）

位置：S-5 区　規模：38×23 cm　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　VF-11 から約 1.5m 南西の地点で検出した。不整形の被熱層は薄く微量の焼骨片が含まれている。

VF-13（図Ⅳ-8　図版 23-7･8）

位置：T-4 区　規模：(53)×35 cm　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　調査区東側斜面付近の T-4 区で斑状に被熱層を確認した。半截して断面を確認したところ、北側は隣接する大きな倒木痕で切られていた。被熱層の厚さは最大で 5 cm。検出面からⅢ群 A2 類土器が 1 点出土している。

VF-14（図Ⅳ-8　図版 24-1･2）

位置：S-4 区　規模：55×43 cm　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　調査区の中央付近、S-4 区で検出した。長軸が 55 cmのやや大型の焼土である。断面形状は概ね皿状で厚さは 8.5 cm、部分的に強く被熱している。焼土下は根痕で乱されている。検出面から U･F が 1 点出土しているが図示していない。

VF-15（図Ⅳ-8　図版 24-3･4）

位置：R-5 区　規模：36×22 cm　検出層位：VbM　平面形：楕円形

確認・調査　VSB-01 を調査中、R-5 区のVb 層中位で検出した。弱い被熱層だが、焼骨片を微量に含む。

VF-16（図Ⅳ-8　図版 24-5･6）

位置：R-5 区　規模：36×27 cm　検出層位：VbM　平面形：楕円形

確認・調査　VF-15 の南西側 1.9m の地点で検出した楕円形の焼土。断面形は皿状で厚さは 6 cm。

VF-17（図Ⅳ-8　図版 24-7･8）

位置：R-5 区　規模：54×31 cm　検出層位：VbM　平面形：楕円形

確認・調査　VF-15 の北西 70 cmの地点で検出した。長軸は 54 cmで同時期のものと思われる VF-15･16 より規模が大きく、断面形は皿状。

VF-18（図Ⅳ-8　図版 25-1･2）

位置：R-4 区　規模：37×33 cm　検出層位：Vc　平面形：不整形

確認・調査　Vc 層を調査中、調査区北西側の R-4 区で検出した。被熱層の最大厚は 6 cm。

VF-19（図Ⅳ-8　図版 25-3･4）

位置：R-4 区　規模：32×25 cm　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　VF-18 の東側 70 cmのVb 層下位で検出した。平面形は不整形で中心部に根痕が入り込んでいるため断面形は不明である。残存部分はごく弱い被熱層である。

VF-20･21（図Ⅳ-8　図版 25-5～8）

20：位置：R-3 区　規模：20×14 cm　検出層位：VbL　平面形：不整形

21：位置：R-3 区　規模：33×25 cm　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　VF-20・21 は同一層位で約 1m と近接して検出しているため、まとめて記載する。焼土はいずれも小規模で中心部に根が入り込んでおり被熱層が押し込まれている。21 は微量の焼骨片を伴う。

VF-22（図Ⅳ-9　図版 26-1・2）

位置：R-3 区　規模：36×31 cm　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　VF-20 の北西側 1.5m の地点で検出した。不整形の焼土で、中心部は強く被熱しており、断面形はボウル状。1 層には焼骨片を伴う。

VF-23（図Ⅳ-9　図版 26-3・4）

位置：T-6 区　規模：40×(13) cm　検出層位：VbU　平面形：不整形

確認・調査　今回、唯一Vb 層上位で検出した焼土で、調査時に北西側を掘削してしまった。残存していた被熱層は 2 ブロックに分かれていたため A・B ブロックとした。厚さは A ブロックが 4 cm、B ブロックが 2 cmで A には微量の焼骨片が含まれていた。おおよそ 1.2m 西側に同時期のものとみられるVFCB-01(図Ⅳ-11)を検出している。

VF-24（図Ⅳ-9　図版 26-5・6）

位置：R-6 区　規模：29×15 cm　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　Vb 層下位で検出した。不整形で被熱層の厚さは 4 cm。断面形は浅い皿状を呈する。

VF-25（図Ⅳ-9　図版 26-7・8）

位置：S-6 区　規模：45×30 cm　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　平面形は不整形だが、断面形状は皿状を呈する。上層にVFCB-01(図Ⅳ-11)を検出している。検出面からⅢ群 B2 類土器が 1 点出土している。

VF-26（図Ⅳ-9　図版 27-1・2）

位置：R-5 区　規模：32 cm×不明　検出層位：Vc　平面形：不明

確認・調査　遺構確認中、R-5 区のVc 層で検出。焼土の中心付近に根痕が入り込み、残存しているのは長軸方向の両側のみである。被熱層の厚さは約 2.5 cmである。

VF-27（図Ⅳ-9　図版 27-3・4）

位置：Q-3 区　規模：33×24 cm　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　調査区北端付近の Q-3 区で検出した。皿状でやや厚みのある焼土である。

VF-28（図Ⅳ-9　図版 24-5・6）

位置：T-6 区　規模：（44）×33 cm　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　VH-01 の調査終了後、周囲を掘り下げていたところ、住居跡の北西側約 20 cm の地点で検出した。近くに複数の倒木痕があり根痕等で被熱層は乱されている。検出層位から住居跡より古い時期のものと思われる。

VF-29（図Ⅳ-9　図版 27-7・8）

位置：Q・R-5 区　規模：31×21 cm　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　調査区西側で検出した。被熱層の厚さは 4 cmである。

VF-30（図Ⅳ-9　図版 28-1・2）

位置：Q-6区　規模：（32）×27㎝　検出層位：VbL　平面形：楕円形

確認・調査　遺構確認中のQ-6区で検出した。同一面でVF-31・32・34・42・43を検出しており、それらの中心付近にVP-02を検出している。焼土同士の間隔は0.3～2mと近接しているが長軸方向が異なっているため単独の焼土と思われる。平面形は楕円形で西側部分に根痕が入り込んでいる。断面は浅い皿状を呈する。

VF-31（図Ⅳ-9　図版28-3・4）

位置：Q・R-6区　規模：41×38㎝　検出層位：VbL　平面形：楕円形

確認・調査　調査区西側のVb層下位で検出した。楕円形の被熱層の厚さは約5㎝。50㎝北東側にVF-42を検出している。

VF-32（図Ⅳ-9　図版28-5・6）

位置：R-6区　規模：不明×46㎝　検出層位：VbL　平面形：不明

確認・調査　遺構確認時に検出した。被熱層には激しく根痕が入り込み原形をとどめていない。残存部分での厚さは6㎝。

VF-33（図Ⅳ-10　図版28-7・8）

位置：Q・R-5区　規模：27×19㎝　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　Vb層下位を調査中、焼骨片が点在する範囲を確認し、その下層で被熱層を確認した。断面形は皿状で、東側に根痕が入り込んでいる。

VF-34（図Ⅳ-10　図版29-1・2）

位置：Q-6区　規模：37×28㎝　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　調査区の西側先端部付近で検出した。被熱層は根の影響を受けて黒色土が斑状に混じる。

VF-35（図Ⅳ-10　図版29-3・4）

位置：U-4区　規模：47×29㎝　検出層位：VbL　平面形：不整形

確認・調査　調査区の東端付近で検出した。厚さ5㎝の被熱層は強く被熱している。

VF-36（図Ⅳ-10　図版29-5・6）

位置：S-3区　規模：36×27㎝　検出層位：Vc　平面形：不整形

確認・調査　遺構確認中、調査区東側の段丘縁辺部で検出した。根痕が入り込んでおり、平面形は不整形、断面は皿状を呈していると思われる。

VF-38（図Ⅳ-10　図版29-7・8　30-1・2）

位置：S-6区　規模：55×35㎝　検出層位：Vc　平面形：不整形

確認・調査　遺構確認中S-6区で検出した。平面形では根痕が焼土を分断しており、断面では根痕を境界に高低差がある。1層に焼骨片を含む。

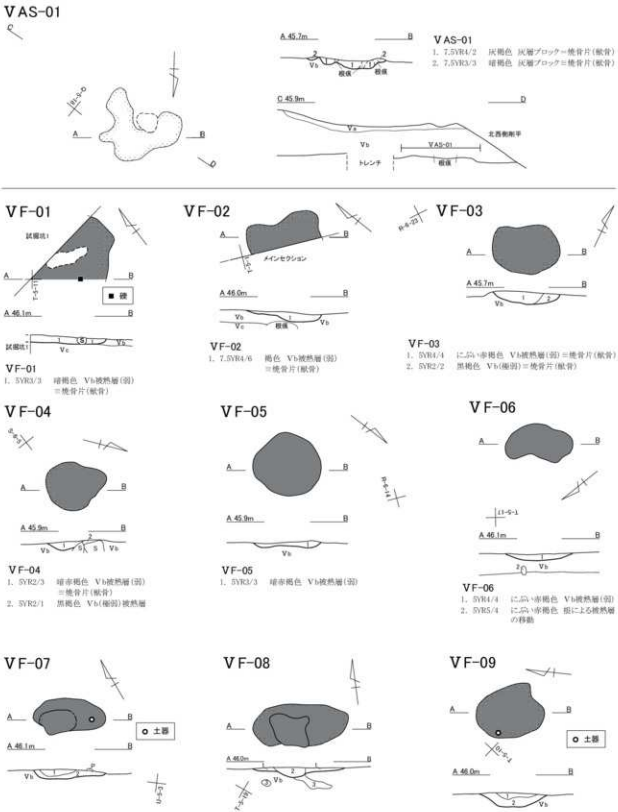
VF-39（図Ⅳ-10　図版30-1・2）

位置：S-6区　規模：63×40㎝　検出層位：Vc　平面形：楕円形

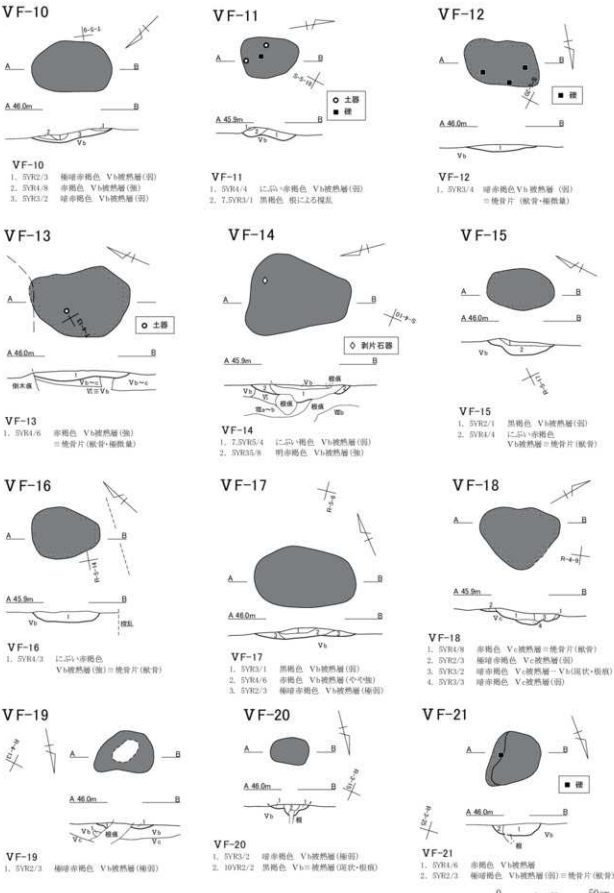
確認・調査　調査区南西側で検出した。断面形は根痕の影響で大きく乱れており、被熱層が部分的に押し込まれている。1層に焼骨片を含む。

VF-40（図Ⅳ-10　図版30-3・4）

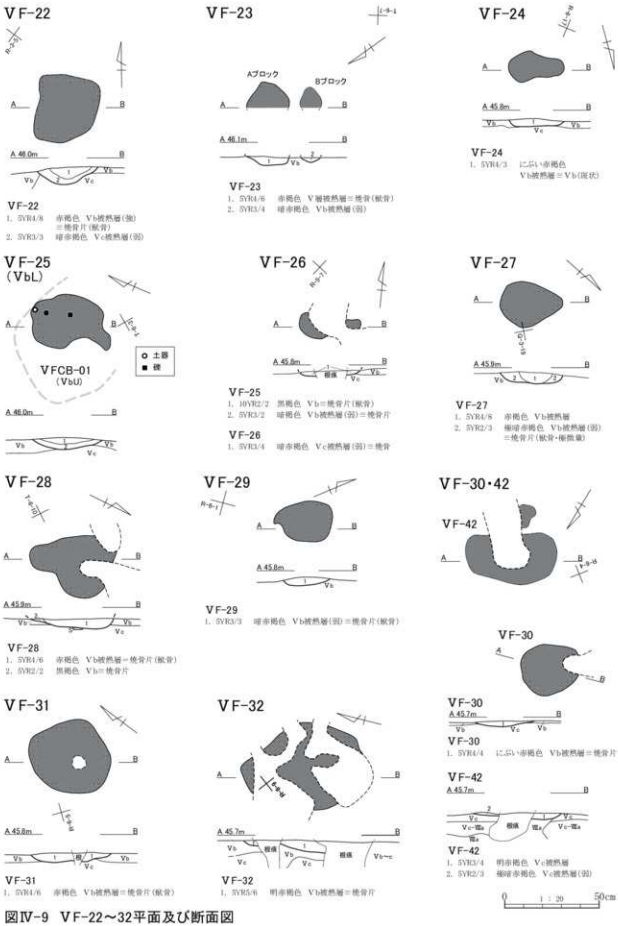
位置：S-6区　規模：（28）×19㎝　検出層位：Vc　平面形：不整形



図Ⅳ-7　VAS-01・VF-01～09平面及び断面図

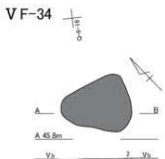


図Ⅳ-8 VF-10～21平面及び断面図

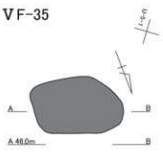


図Ⅳ-9　VF-22～32平面及び断面図

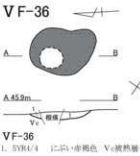
VF-33
1. SYR3/4　暗赤褐色　Vb被熱層(弱)



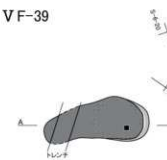
VF-34
1. SYR2/3　極暗赤褐色
Vb根の影響受ける被熱層
2. SYR4/4　にぶい赤褐色
Vb被熱層＝焼骨片(脱骨・極熟量)



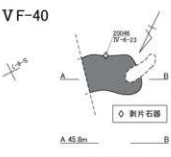
VF-35
1. SYR4/6　赤褐色　Vc被熱層(強)
2. SYR3/2　暗赤褐色　Vc被熱層(弱)



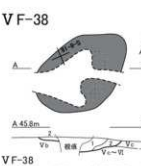
VF-36
1. SYR4/4　にぶい赤褐色　Vc被熱層＝焼骨片(脱骨)



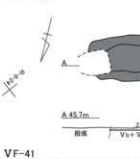
VF-39
1. SYR5/8　明赤褐色　Vc被熱層(強)＝焼骨片(脱骨)
2. SYR3/3　暗赤褐色　Vc被熱層(弱)＝Vc(根の影響)
3. SYR3/4　暗赤褐色　Vc被熱層(弱)
4. SYR2/2　黒褐色　付帯加色土(若干色調明るい)



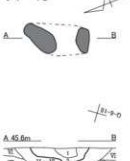
VF-40
1. SYR5/8　明赤褐色　Vc被熱層(強)
＝焼骨片(脱骨・極熟量)
2. SYR4/4　にぶい赤褐色　Vc被熱層(弱)



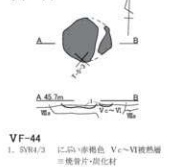
VF-38
1. SYR3/4　暗褐色　Vc被熱層(弱)＝焼骨片(脱骨)
2. SYR2/3　極暗褐色　Vc被熱層(極弱)



VF-41
1. SYR3/6　暗赤褐色　Vc被熱層(弱)＝焼骨片(脱骨)
2. SYR2/2　黒褐色　Vc＝1層(斑状)＝焼骨片



VF-43
1. SYR2/1　黒褐色　Vc＝2層(斑状)
2. SYR4/6　赤褐色　VI被熱層



VF-44
1. SYR4/3　にぶい赤褐色　Vc～VI被熱層
＝焼骨片・炭化材

図Ⅳ-10　VF-33～36・38～44平面及び断面図

確認・調査　調査区南側の遺構確認中に検出した。焼土の北東側が撹乱で欠失している。被熱層の厚さは5.5㎝で強く被熱している。被熱層上面で石槍1点が出土している。

出土遺物（図Ⅳ-6-23　図版43-23）　23はB2類の黒曜石製の石槍である。鏃身部が長く左側縁は直線的だが、右側縁上部が偏っていることから、スクレイパーとして使用した可能性もある。

VF-41（図Ⅳ-10　図版30-5･6）

位置：R-6区　規模：(43)×24㎝　検出層位：Ⅴc　平面形：楕円形

確認・調査　調査区の南西側を遺構確認中に検出した。焼土の東側と北西側に根痕が入り込んでいる。弱い被熱層は約2㎝と極めて薄い。主体の2層が斑状であることから、根の影響もしくは焼骨片を含む投棄焼土と思われる。

VF-42（図Ⅳ-10　図版30-7･8）

位置：R-6区　規模：48×25㎝　検出層位：Ⅴc　平面形：不整形

確認・調査　VF-30の北東約30㎝の同一面で検出した。被熱層は分かれているように見えるが、根痕が入り込んでいるため原形は不明。被熱層の厚さは約3㎝。

VF-43（図Ⅳ-10　図版31-1･2）

位置：Q-6区　規模：31×(15)㎝　検出層位：Ⅵ　平面形：不明

確認・調査　調査区西端で検出した。断面観察から被熱層の周囲は浅鉢状にⅤc層が落ち込んでおり、焼土形成前の根痕と思われる。

VF-44（図Ⅳ-10　図版31-3･4）

位置：S･T-5区　規模：26×22㎝　検出層位：Ⅴc　平面形：円形

確認・調査　ジョレンで遺構確認中に上面を削ってしまったが、ほぼ円形の平面形。残存している被熱層の厚さは最大で1㎝、微量の焼骨片と炭化物を含む。（宮崎）

第4節　集中出土遺物

1．土器集中

今回報告する土器集中は4ヵ所で、縄文時代晩期中葉、後期前葉、中期後半の土器が出土している。このうち、VPB-02･03については土器が細片であるため接合に至らず出土状態の微細図及び座標点のみ掲載、報告する。

VPB-01（図Ⅳ-11　図版31-5）

位置：S-6区　規模：（122）×（80）㎝　検出層位：ⅤbU

確認・調査　本集中は調査区南西側中央付近でⅤb層上位を掘り下げていると比較的まとまった状態で土器片を検出した。周囲には同一層位で連続して遺物が出土していないために土器集中と判断し、平面の記録を行い調査終了とした。土器の微細図については2㎝以下の図化は行わず座標点のみの記録とした。出土状態は中心部に比較的大きな胴部片が器表面を上にして、その周囲に内面を上にした土器と、小破片が分布していた。整理の結果VPB-01にはⅤ群B1類土器が4個体出土しており、まとめて廃棄など行われた可能性がある。本集中は南西側が削平されており、本来はさらに南西側に広がっていた可能性がある。

出土遺物（図Ⅳ-13-1～12　図版43-24～35）1～8はⅤ群B1類に分類した晩期中葉の土器である。1･2は深鉢の同一個体で地文は縦走気味の斜行縄文、1には縄線文が2条認められる。3

は復元個体で富良野盆地系の浅鉢。正面の台形状突起口唇部には刺突文、直下にも同一工具による刺突列、縦位の短い貼付文 2 ヵ所の内側に 10 貫通孔がそれぞれ認められ、地文は斜行縄文が施される。4～8 はミニュチア土器の鉢？形土器で 4～6 は同一個体で無文、内面はナデ調整で成形される。7･8 も同一個体で地文は斜行縄文が施される。これら集中から出土した土器は 1～3･7･8 が接合資料に二次被熱を含む。焼土を検出していない範囲で出土しているため、意図的に破砕して一部を焼いた後、まとめて投棄された可能性がある。9 は A3b 類の被熱した石鏃。やや膨らみを持つ鏃身部で逆刺が不明瞭。10 はＦ類の石錐で、ポイント類からの転用品。鏃身部に再調整を施して機能部を作出しており、柄部の欠損は転用以前のものと思われる。11 は B1b 類のラウンド･スクレイパー。下端部に急角度の刃部を作出しており、裏面には主剥離面が残る。全体に被熱しているが、表面中央の剥離はその後のもので焼ければじけの可能性もある。12 は C1 類のサイド･スクレイパーで、表面上端部と下端部の一部、裏面が岩砕面であることから棒状原石素材と思われる。右側縁に刃部を作出している。すべて黒曜石製である。

VPB-02（図Ⅳ-11　図版 31-6）

位置：T-4 区　規模：（73）×（35）cm　検出層位：VbU

確認・調査　本集中は試掘坑の南東側でまとまりを確認した。土器は細片の集中であったが、周囲の同一レベルに遺物があまり出土していないため土器集中と判断した。細片集中のため微細図は 2cm 以上の土器と礫の出土状態を図化し、細片は単点のみ記録して調査終了とした。遺物は細片のため接合に至らず図示していないがⅣ群 B1 類の後期前葉の土器である。

VPB-03（図Ⅳ-11　図版 31-7）

位置：S-3 区　規模：94×35 cm　検出層位：VbU

確認・調査　本集中は北東側斜面でまとまりを確認した。土器はVPB-02 同様、細片の集中であったが、周囲に土器が殆ど出土しておらず、同一個体と判断できたことから土器集中として平面の記録を行って調査終了とした。遺物は細片のため図示していないがⅣ群 B1 類の後期前葉の土器である。

VPB-04（図Ⅳ-11　図版 31-8）

位置：S-3 区　規模：（72）×52 cm　検出層位：VbL

確認・調査　本集中はVPB-01 調査終了後、更に掘り下げるとVb 層下位で比較的まとまった状態の土器を検出した。集中範囲の土器は同一個体であったため土器集中と判断して、平面の記録を行って調査終了とした。集中から土器片は 82 点出土しているが、殆どが細片で復元に至っていない。

出土遺物（図Ⅳ-13-13　図版 43-36）　13 はⅢ群 B2 類の口縁部片である。平縁で若干外反し、口唇部は隅丸角状で、竹管状工具で斜位の刺突文を施す。器表面は地文縄文のみ。

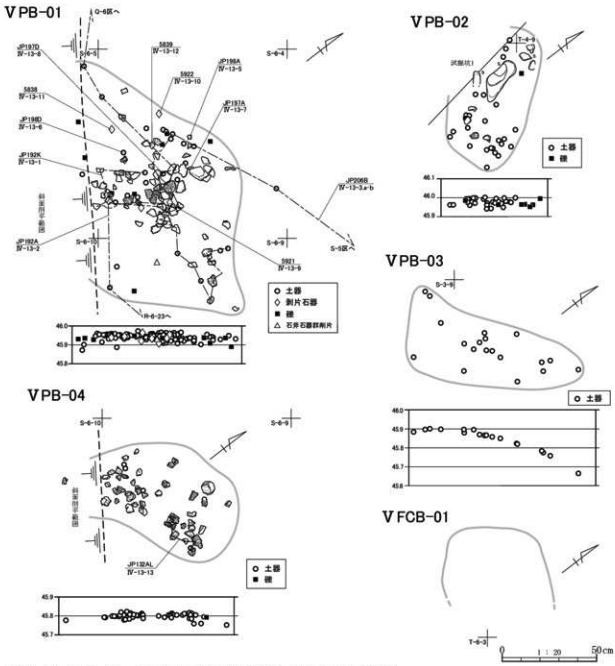
（奈良･石器:宮崎）

2. 礫集中

縄文時代の礫集中は 1 ヵ所の検出である。

VSB-01（図Ⅳ-12　図版 32-1･2）

位置：Q-5･R-4･5 区　規模：(576)×492 cm　検出層位：VbU



図Ⅳ-11　ⅤPB-01～04平面及び垂直分布図・ⅤFCB-01平面図

確認・調査　Q･R-5 区でⅤb 層中位を調査中、破損した複数の大型板状礫とその周辺の広範囲に礫石器、礫等を多数検出した。調査開始前から北西側の法面で黒色土の落ち込みを確認していたため、遺構の可能性を想定して調査区北西側にグリッドラインに平行するＴ字にベルトを設定し面的に掘削を行った。遺物出土状態の写真を撮影、微細図を作成して大型礫を除く遺物の取り上げを行った後、さらに周辺を掘り下げた。その結果、北西側の低い位置で先に出土していた大型礫の同一個体片を検出し、浅い窪みにも集中が続いていることが確認された。再度、全体検出に努め、追加の遺物出土状態の写真撮影を行った。

遺物は礫石器、礫以外にも土器、剥片石器、フレイク･チップ、礫削片などが窪み縁辺から

南東方向に多数出土している。本集中は北西側の浅い窪みに向かって分布が薄くなっているため、分布範囲としては調査範囲内でほぼまとまると思われる。また範囲内にⅤF-15～17・26・33を検出しているが、いずれも層位が異なるため関連はないものと思われる。

出土遺物（図Ⅳ-13-14～18・14-19～30・15-31～36　図版 44-36～58・45-59～61）　遺物は土器97点、剥片石器9点、礫石器39点と礫271点、その他フレイク・チップなど22点が出土している。

14～21はⅢ群B3類土器である。14は口縁部片で三角形状の口唇部には刺突文が2列、口縁部下の無文帯にOI刺突文が施文され、内面が突瘤状にやや膨らむ。15～17は富良野盆地系土器。15・16は同一個体で15は口唇部に押引文、口縁部にIO刺突文がやや下方から施される。18～21は同一個体で18は山形突起の下に棒状貼付文が付され、19と同じく肥厚する口縁部にはOI刺突文が施文され、内面が突瘤状にやや膨らむ。地文は結束第1種斜行縄文が施文される。22はⅣ群B1類の口縁部片である。地文は縦回転の結束第1種羽状縄文で口縁部直下はナデ消しによる無文帯を形成している。23・24はポイント類。23はA3b類。明瞭な逆刺を持ち、茎部端を欠損している。鏃身部は両側縁を内湾気味に調整し、先端は細く尖る。24はC類で未成品である。茎部の調整途中で折損したもの。25・26はスクレイパー類。25はC1類のサイド・スクレイパーで縦長剥片を素材とする。刃部は右側縁下部に作出しており、左側が磨滅している。表面には岩砕面が残る。26はC2類で刃部端が欠損している。縦長剥片を素材とし表面のみを調整している。両側縁の刃部は急角度に作出し、緩く湾入しており幅は狭い。27～33はたたき石で、27・28は2点が接合したもの。27はⅠB1類で、表面上部のみに集中する敲打痕の下部で折損しており、使用中に破損したものと思われる。28はⅠB3類。表裏面の敲打痕は、上部側は密集して深く窪み上端部まで続いているが、下部側と右側面の敲打は部分的で浅い。29・30はⅡB2類。29は下端尖端部と上部側縁稜に敲打痕がある。30は下部の稜と平坦面に敲打痕と剥離があり、上端部にも僅かにみられる。31・32はⅢA類。31は扁平楕円形礫の表裏平坦面に敲打痕がある。表面は中心付近に密集しているが、裏面は上部に偏りごく疎らである。32は長軸約85mmの小型のたたき石。2点が接合したもので使用は表面の上端側、中央左側、左下端部である。中央の敲打痕部分で破損している。33はⅢB類でやや厚みのある楕円形礫を素材としたもの。表面は2ヵ所、裏面は1ヵ所の集中した敲打痕があり、左側縁の裏面側には疎らな敲打痕と剥離がある。34・35は石皿。34は平面形が二等辺三角形を呈する礫を素材としているが、裏面全体が欠損している。表面の右側に2つの単位ですり面が認められる。左側と下部は大きく剥離している。35は層理面で薄く割れた大型の板状礫の破断面をすり面に使用した石皿で、上部・下部とも破損している。すり面は礫の大きさと比して狭く部分的な使用である。

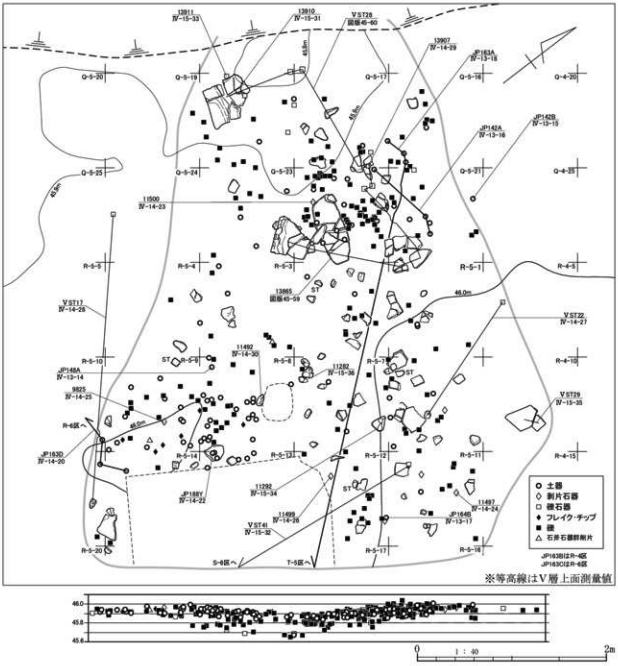
写真図版45-1-59・60は25,000g超える礫石器のため、写真のみの掲載とした。59は長軸約74cm、重量25,390gを量る大型の台石である。敲打痕は右側面中央部にごく僅かに認められるのみである。60は加工痕のある礫で破片の状態で出土した板状礫15点が接合したもの。長軸82cm、重量32,480gを量るが、上部と左下部が欠損している。面的に割れた板状礫の左側縁稜に沿って連続した剥離調整を行っている。36は加工痕のある礫で、平面形と断面形が三角形を呈する。左側縁に沿って連続した剥離調整が行われ、断面は刃部状で鋭角に成形されている。礫石器の石材はすべて砂岩である。（宮崎・土器：奈良）

3. フレイク・チップ集中

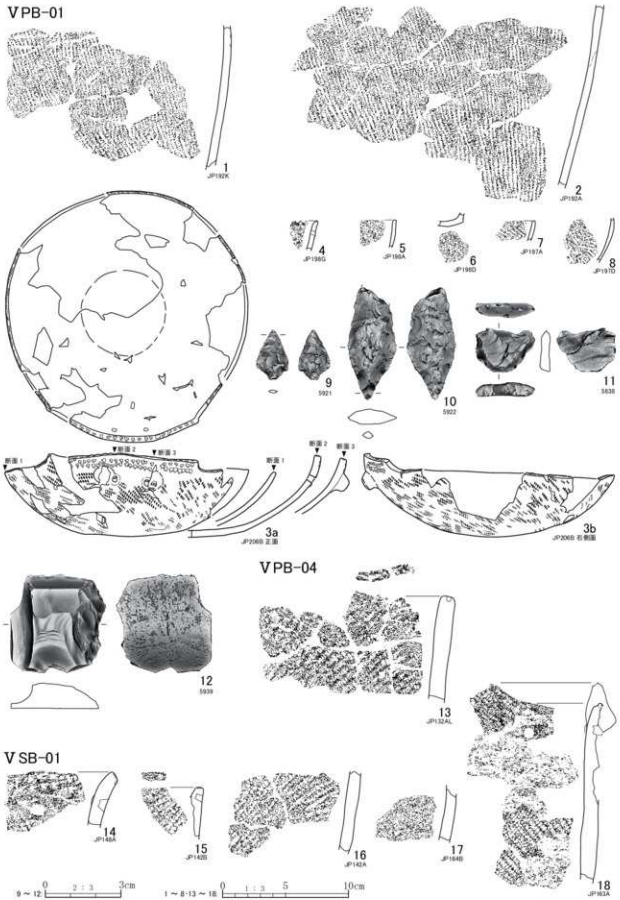
ⅤFCB-01（図Ⅳ-11　図版 32-3）

位置：S-6 区　規模：（55）×46 ㎝　検出層位：ⅤbU

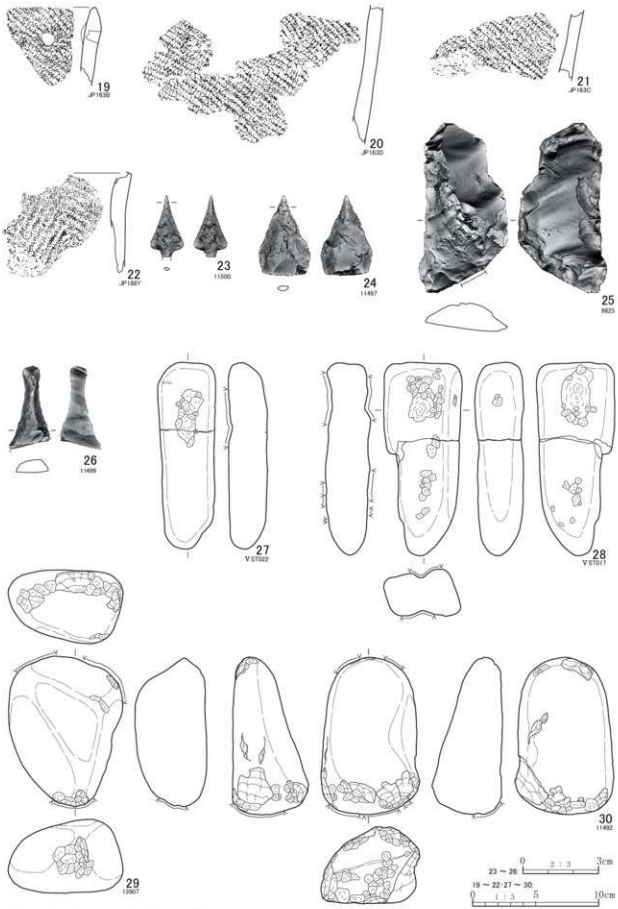
確認・調査　Ⅴb 層上位で剥片がまとまって出土する範囲を検出しⅤFCB-01 を付番した。平面の記録をした後に土壌ごと取り上げ、乾燥した後、ウォーターセパレーションで微細遺物を回収した。遺物は剥片石器 5 点、（ポイント類 3 点、ナイフ・スクレイパー1 点、R・F1 点）、石斧石器群削片 2 点、フレイク・チップ 322 点出土している。石材は頁岩 1 点、緑色泥岩 2 点でそれ以外は全て黒曜石である。剥片石器は掲載していない。（奈良）



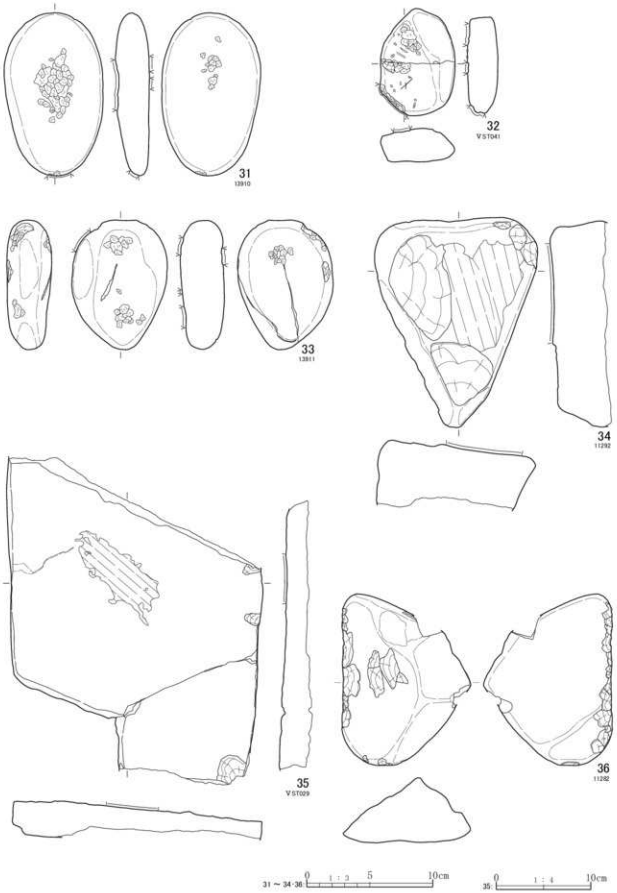
図Ⅳ-12　ⅤSB-01平面及び垂直分布図



図Ⅳ-13　ⅤPB-01・04・ⅤSB-01 出土遺物（1）



図Ⅳ-14　ⅤSB-01 出土遺物（2）



図Ⅳ-15　V SB-01 出土遺物（3）

第５節　包含層出土遺物

１．土器・土製品（図Ⅳ-16～26　図版 46～56）

縄文時代早期のⅠ群から晩期中葉のⅤ群までの各時期が出土し、Ⅴ層包含層出土土器点数は7,339 点である。主体となる時期は中期後葉で萩ヶ岡１式、同２式、天神山式土器である。このほか前期後葉の植苗式、大麻Ⅴ式土器も個体数がやや多く出土している。特徴的な土器として、厚真川上流域にて出土例が多い富良野盆地系土器（町教委 2004）も早期、中期、後期の土器に含まれている。このほか、道南系土器として後期初頭の天祐寺式土器も出土している。

図示にあたっては口縁部片を抽出したが、同一個体片の胴部や底部片も掲載した。なお、拓影土器の個別表記は、属性表（表Ⅳ-12～26）に詳細を示すのでこれを参考とされたい。

Ⅰ群土器

縄文時代早期に属する土器。Ｂ類の早期後葉の東釧路系土器が圧倒的主体を占める。

Ⅰ群Ａ類（1）

1 は内面に横位の条痕文が施された口縁部片細片で、口唇部形状や胎土より貝殻文系土器の後半期にあたる虎杖浜式やアルトリ式相当の平底貝殻文系土器と判断した。本群はこの破片 1 点のみの出土であり、器表面や破断面の風化が進行していることや出土層位もⅤ層上面であることから遺跡外からの二次的搬入と思われる。

Ⅰ群 B2 類（2）

コッタロ式土器に相当するもの。2 は器表面の短縄文施文後に貼付文を施していることから本分類とした。貼付文も 2mm と細いため、後続する中茶路式土器（Ⅰ群 B3 類）に近い時期のものと思われる。1 点のみの出土であり、単独で遺跡形成時期を示すものではない。

Ⅰ群 B3 類（3～15）

中茶路式土器に相当するもの。口唇部は尖状で、器厚は薄く、焼成は比較的良好である。地文施文前に貼付文や微隆起線文を施す。主要文様要素の微隆起線文等は水平に数条を施すものが主体であるが、波状（10･11）や縦位（7）に施されるものもある。微隆起線文間等の器表面には、絡条体圧痕文（3～6）、短縄文（7～10）、斜行縄文（11）、結束第１種斜行縄文（12）、隆起線文を挟んで斜行縄文を羽状構成するもの（13）がある。ほか微隆起線文は確認できないが結節回転の綾縷文を施すもの（14･15）がある。3～6 は細い軸を用いた細密な絡条体圧痕文を施すもので、古手の可能性があり、14･15 は文様から新しい段階の可能性がある。

Ⅰ群 B4 類（16～18）

東釧路Ⅳ式土器に分類したもので、絡条体や自縄自巻の原体による撚糸文が施されたもの。16 は痕跡的な微隆起線文が施されているが、自縄自巻の原体による羽状構成の撚糸文が施されていることから本種に分類した。17･18 も細片であるものの斜行する撚糸文が、羽状構成をなすものと思われる。なお、17 は器形成形時の粘土帯接合部で破損している。破断面の器表面側には撚糸文が施されており、施文と成形の輪積みをセットに器形成形するものと思われる。なお、撚糸文が２条１対となる新しい段階のものは出土しておらず、直前型式の中茶路式との連続性をもつ前半期のものが主体と思われる。

厚真川上流域でも各遺跡から少数の出土があるが、上幌内３遺跡（道埋文 2016a）ではややまとまった個体数が出土している。

Ⅱ群土器

縄文時代前期に属する土器。前期前半の丸底・尖底土器群のＡ類土器と後半期の円筒土器下層式やこれに並行する在地系平底群のＢ類土器が出土しており、前期前葉と後葉の土器が出土している。

Ⅱ群 A1 類（19～28）

綱文式系土器に相当し、口唇部が角状で丸底の土器群である。0 段多条のやや太い原体で地文縄文の条が横走するものが主体で、器厚は 15.7㎜ 前後と厚手のものが多く、内面は平滑にナデ調整が施されている。胎土には繊維を多量に含むものが多い。

19 は口唇部直下に不明瞭な無文帯を有する。20･21 も口縁部や底部の条が僅かに斜行し、文様帯を意図する痕跡がみられることから、本群の中でもやや古手の可能性がある。地文縄文の条が横走し、条内の節を撫で消しているもの（25･26）もある。28 は綱文式に伴う 4 本丸組紐の横位回転文で、近隣での出土例として安平町大町２遺跡（道埋文 2006）のほか、苫小牧市静川８遺跡Ｃ区（苫教委 1987）では土器上半が綱文式の地文で下半が組紐回転文を施す土器片が出土している。ただし、千歳市美々４遺跡、同美々５遺跡では次の段階（トビノ式期）との出土例があることから、Ⅱ群 A2 類に伴う可能性もある。

Ⅱ群 A2 類（29～33）

広義の静内中野式に相当する土器。斜行縄文が器表面全面に施される土器で、胎土に繊維を含む。29 は口唇部が角状に整形されていることや整然とした斜行縄文が施されていることから中野式土器群の中でも古手のトビノ式土器に相当する一群と思われる（29～31）。32 は底部付近の破片で、条間が開くやや粗い斜行縄文が施されている。33 は口縁部の細片で、胎土に蛇紋岩を含む土器である。丸状の口唇部形態より本群に含めた。本群の中でも新しい段階のものと思われる。

Ⅱ群 B2 類 a 種（34～36）

円筒土器下層式の後半期に属するもので、円筒下層 d 式に相当するもの。34 は細片であるものの、多軸絡条体回転文が施され、内面は入念なミガキ調整が施されている。35･36 は、底部側面の無文帯、底面から底部側面への変換点の形状、胎土に繊維を含むことから本種に分類した。

Ⅱ群 B2 類 b 種（37～40）

フゴッペ貝塚式土器に相当するもの。2 個体分 4 点を図示した。37～39 は同一個体で、口唇部の形態や口縁部の施文具、文様構成、地文縄文などからフゴッペ貝塚 2 式に相当するものと思われる。40 は地文縄文からⅢ群 A 類 1 種に分類される可能性があるが、内面調整や胎土が 37～39 の個体に類似していることから本種に分類した。町内ではヲチャラセナイ遺跡（町教委 2013a･2014c）やショロマ１遺跡（町教委 2015a･2018a）での出土例があり、客体的個体数で内面調整や胎土から大麻Ｖ式や円筒上層 a 式土器に伴う搬入品と思われる。

Ⅱ群 B3 類（41～52）

植苗式、大麻Ｖ式に相当する土器。新旧連続する型式であるものの、胴部片では型式細分が困難なことから一括した分類区分である。口縁部がやや外反する円筒形の平底土器で、口唇部が外傾する角状のものが主体である。口唇部には縄文を施すものが主体で、縄線文を施すもの

もある（49・52）。口縁部には縄線文を1～2条施し、内面に縄文を施すものがある（41・42・47）。46は器内面の縄文施文が胴部下半に及ぶもので、植苗式に属するものと思われる。地文縄文は撚りの異なる2本の原体で施された羽状縄文が主体であるが、菱形状構成のもの（41・43）もある。本種の底部は殆ど出土していないが、44・45では平底の底面に縄文を施している。胎土には繊維をやや多く含み、器表面に焼失痕跡が多く見受けられる。ただし、52は口唇部形態や胎土から本種の中でも新しい段階の大麻Ⅴ式に分類できるもので、地文縄文も他の土器片よりも緻密であり、口縁部の縄線文も3条と多い。

幌内8遺跡から出土した本種の土器群の中で、植苗式に特徴的な太い隆帯を伴う土器片は皆無であり、これらの土器は植苗式土器から大麻Ⅴ式土器への移行期段階か、大麻Ⅴ式並行の太平洋沿岸域の土器の可能性がある。なお、近隣の出土例としてはヲチャラセナイ遺跡（町教委2013a・2014c）、ショロマ1遺跡（町教委2015a・2018a）で多数の出土点数が得られている。

Ⅱ群B4類（53・54）

細片のため当初は分類不明としたが、ヲチャラセナイ遺跡の縄文前期後半の円筒下層d1式期のⅦ-06覆土上層捨て場遺構（町教委2014c）において型式未設定の蛇紋岩を含む土器が出土しており、植苗式に並行する土器と思われる。胎土や焼成はこれに類似しているが、口唇部形態が異なるので、厳密な分類確定はできない。胎土から日高変成岩帯の地域で製作された可能性があり、客体的な出土点数であることからも搬入品と思われる。

Ⅲ群土器

縄文時代中期に属する土器。前半期の円筒上層式系統の土器群をA類とし、中葉以降の後半期の土器群をB類と大別した。幌内8遺跡ではⅢ群B1類土器が圧倒的主体を占めている。

Ⅲ群A1類（55～61）

円筒土器上層式の前半期にあたる上層a式、b式土器に相当するもの。口縁部は波状でM字状突起を有する（56・57）。貼付文と撚糸文、馬蹄形巻紐圧痕文を施すもので、地文縄文は結束第1種斜行縄文（57）、結束第1種羽状縄文（60・61）とがある。内面は入念なミガキ調整が施されている。55・60・61は厚手であり、口唇部形態や地文縄文などから上層a式の可能性がある。

Ⅲ群A2類a種（62・69～72）

円筒土器上層式の後半期にあたるサイベ沢Ⅵ式・Ⅶ式土器に相当するもの。62は山形の小突起下に棒状ないしはボタン状の貼付文が垂下し、ヘラ状工具による押引文が施されている。内面の調整がやや粗雑であり、地文縄文も無節の結束第1種羽状縄文であることから在地的様相が濃い。70の底部片はⅢ群A2類b種の可能性もある。71・72は波状口縁（72）や平縁に山形突起（71）を有し、口唇部には絡条体や棒状工具による圧痕文を施しており、サイベ沢Ⅶ式相当と思われる。

Ⅲ群A2類b種（63～68）

厚真1式土器（赤石1999）に相当するもの。サイベ沢Ⅵ式に並存し、胆振東部から日高地方にかけて分布する土器で、巻紐条線文をメルクマールとする。器形的には並存するⅢ群A2類a種と同じで、文様もヘラ状工具による押引文（64・66・67）、地文縄文も結束第1種羽状縄文（63・65・67・68）が施されており共通している。また、66の突起下の棒状ないしはボタン状貼

付文は、Ⅲ群 A2 類 62 の貼付文と同じで形態あり、Ⅲ群 A2 類と並存するものと思われる。ただし 63 は条線文のほか、爪形状の巻紐圧痕文が施されており、Ⅲ群 A1 類の馬蹄形巻紐圧痕文に由来するものと思われ、やや古手の可能性もある。

本種の土器はオニキシベ４遺跡（町教委 2014a）や上幌内３遺跡（道埋文 2016c）など厚真川上流域において散発的に出土している。

Ⅲ群 B1 類 a 種（73～86）

萩ヶ岡１式土器（高橋 1982）に相当するもの。口縁が外反する波状口縁で、口縁部文様帯は波頂部から垂下する貼付文（73･75･80）によって区画され、これを横位に連結する貼付文が施されている（75･80）。その間を鋸歯状に貼付文を配するもの（75･77･84･85）がある。貼付文や口唇部肥厚帯上には竹管（73･74･84･85）、指先･爪（75～79）、棒状工具（80～83）、縄（86）を施文原体とする刺突文や圧痕文が施されている。地文縄文は結束第１種羽状縄文が主体を占めている。貼付文の施文工具や地文縄文では円筒上層式系統の古い様相があり、高橋正勝氏が設定した萩ヶ岡１式を追認する一群である。

近隣ではオニキシベ１遺跡（道埋文 2014b）やショロマ２遺跡（町教委 2015b）においてややまとまった出土例がある。

Ⅲ群 B1 類 b 種（87～133）

萩ヶ岡２式、天神山式（萩ヶ岡３式）土器の中期後葉前半の土器群で、幌内８遺跡出土の縄文土器の主体を占める。口縁部が外反し、4 ヵ所配置の波状縁（87･93～95･99･101･102･105･106･109･116･122･125･126･129）が主体を占め、平縁に山形突起（107･112･113･123･127･128）や棒状突起（96～98･100･118･119･121）を配する。口唇部は断面形が三角形状に肥厚するものを主体とし、蒲鉾状に肥厚（105）するものもある。胴部上半は直立して文様帯を構成し、胴部下半では窄む。底部側面が張り出す（130･131）か直立（132･133）し、弱い上げ底ないしは平底となる。

突起部分にも貼付文や半裁竹管による刺突文や沈線文など施し、装飾性が強い。貼付文構成は波頂部や突起下に縦位の棒状（87･95～99･128）ないしは瘤状（100･118）の貼付文が垂下するものが多く、文様帯下縁を貼付文（103･115）や沈線文（107･114）、押引文（120･124･125）で区画する。胴部上半の文様帯は波頂部や突起垂下の縦位構成を沈線文で横位に連結するもの（107･108･114･115）もある。地文縄文は結束第１種羽状縄文（87）、結束第１種斜行縄文（88～90･92）が少数例あるものの、0 段多条 LR 斜行縄文が主体を占め、複節斜行縄文（112～117）もある。また底部側面まで地文縄文を施し、底面に縄文を施すもの（133）がある。なお、底部の出土率は低いものの、底面に網代痕を残すものは皆無であった。内面調整はミガキ調整を施しているが、Ⅲ群 A2 類やⅢ群 B1 類 a 種よりも粗雑で、斑があり工具痕が残る。少数例であるものの口縁部や突起部分内面に縄文を施すもの（96～98）もある。

これらの土器片で 121～129 は次のⅢ群 B3 類土器との区分に苦慮したものだが、口縁部形態や口唇部の肥厚帯、内面調整から本群に分類した。しかし、貼付文の装飾性が低くなり、貼付文自体も細く、押引文の平面形が方形状となることなどから本群の中でも新しい段階のものと思われる。

近隣における出土例としてはオニキシベ５遺跡（町教委 2013b）、ショロマ２遺跡（町教委

2015b）、イクバンドユクチセ２遺跡（道埋文 2014c）、苫小牧市ニナルカ遺跡（苫教委 1985）、安平町安平Ａ遺跡（早来町教委 1976）がある。

Ⅲ群 B2 類（134～158）

柏木川式（萩ヶ岡４式）土器に相当するもので、大きく３つに細分できる。

貼付文上などに縄原体による圧痕や刻みを有するもの（134～144）と半裁竹管や棒状工具による刺突文（145～147･157）、篦状工具による押引文（148･155）を施すものと地文縄文のみのもの（153･154）または無文のもの（155･156）とがある。縄原体を文様施文具とする一群は、口縁部が大きく外反し、内面調整が粗雑（152）で、胎土にも繊維をやや多く含む傾向がある。134 は口縁部が２分の１ほど復元できたが、小突起が１ヵ所のみの稀有な事例である。139～144 は同一個体片で、口径が約 29cm、胴部中位からの現存高が約 23cm のやや大型の深鉢土器である。平縁で山形突起を有し、139 の口唇部には縄による刻みと半裁竹管状工具による刺突文とが並存している。同一個体片は全て２条１対の結節回転文を伴う斜行縄文が底部側面まで全面に施されている。棒状や篦状工具を施文とする一群のうち 147･148 は、胎土に砂粒を主体的に含むものであり、刺突列交点のボタン状貼付文（剥落）と地文の結束第１種羽状縄文（147）や口縁部肥厚帯上の押引文（148）の文様要素から次のⅢ群 B3 類に近い。153･154 は同一個体片で絡条体回転による撚糸文が施文され、口唇部断面が三角形状に肥厚している。155 は無文の土器で口唇部に押引文が施されている。胎土は砂粒を主体としておりⅢ群 B3 類に近い印象をもつ。

157･158 は胎土中に粒径 1.5mm 以上の石英結晶をやや多く含む富良野盆地系土器である。157 は凹帯を伴う口縁部肥厚帯を配し、口唇部も角状であることからⅣ群 A1 類に類似しており、かつ肥厚帯上の刺突列からⅢ群 B3 類に含まれる可能性があるものの OI 刺突文が無いことから本群に分類した。158 は地文の斜行縄文のみの破片であるが、胎土に繊維をやや多く含むことから本群に分類した。

Ⅲ群 B3 類（159～192）

北筒式土器に相当するもので、OI 刺突文が施されているものを本群に分類した。全般的に胎土には繊維を殆ど含まないため、胴部片の分類は比較的容易であった。地文縄文の種類で大きく区分し、結束第２種羽状縄文のもの（159～164）と結束第１種羽状縄文（165～172･185）、斜行縄文のもの（173～184）がある。この他に石英結晶粒を多量に含む富良野盆地系土器（186～192）の一群がある。

159･160 は富良野盆地系の同一個体片で、胴部は膨らみ口縁部が外反する。口唇部は角状で縄文と押引文、肥厚帯上には凹帯が回り押引文が施されている。口縁部の凹帯は前述のⅢ群 B2 類や他の遺跡の富良野盆地系土器の口縁部の特徴でもある。胴部上半の文様帯は水平垂直に配する貼付文や刺突列を施す一群がある（161～177）。165 は２個１対の山形突起を４ヵ所有し、これから垂下する貼付文２条と横位に連結する貼付文が施されている。166･167 や 173～177 の同一個体のうち、175 の剥落した貼付文も同じ文様構成と思われる。幌内８遺跡の出土個体ではこれらの貼付文が施されるタイプは、結束第１種･第２種羽状縄文を地文とするものの比率が高い。また口唇部は角状に整形され、肥厚帯が幅広で断面形が長方形状となる傾向がある。この様な事例は千歳市丸子山遺跡（千教委 1994）や同美々３遺跡（道埋文 1990）の同種の土

器の口唇部や肥厚帯の形状、地文縄文などの属性において共通しており、道央部における北筒式土器の一時期を成すものと思われる。口唇部の角状形態や断面形が長方形状の折り返し状となる特徴は並行期にある煉瓦台式との関連性も想定できる。

斜行縄文を地文とするもの（173～184）は、口縁部がやや肥厚し断面形が三角形状となり、口唇が尖るものが主体を占める。口縁部の押引文も１条（178）や縦位の刻み（180）、指頭圧痕文（181）、縄文のみ（182･183）と装飾性に乏しい。181 は口唇部形態や口縁部の指頭圧痕文、胎土に多量の繊維を含み、内外面共に器表面調整が粗く凹凸も激しい。他のⅢ群 B3 類とは異質な土器である。

富良野盆地系土器の一群（186～192）は胎土のみならず、口唇部が角状に肥厚し、張り出すもの（185）や地文縄文が前々段反撚 RLL で特異な原体を使用しているもの（187･188）、無文で口縁部の OI 刺突文の径が小さく痕跡的なもの（190）など異質な土器であるが、OI 刺突文や押引文などが施されていることから本群に分類した。189 は比較的緻密な結束第１種羽状縄文が施されており、内面調整も平滑に仕上げられており、胎土には繊維を含んでいない。他の富良野盆地系土器とはやや異なる。

Ⅳ群土器

縄文時代後期に属する土器。初頭の余市式土器群前半期の伊達山式（古段階）、天祐寺式、伊達山式（新段階）、タプコプ式（古段階）をＡ類とし、前葉のタプコプ式（新段階）をＢ類、後葉の堂林式系統の土器群をＤ類とした。後期中葉のＣ類とした手稲式、鮏澗式土器は出土していない。

Ⅳ群 A1 類 a 種（193･194）

余市式土器群の中で古手の伊達山式相当の土器。193 は胴部下半の破片で横環する貼付帯と撚りの異なる縄原体による羽状縄文が施されている。194 は複節斜行縄文の底部片で、富良野盆地系土器である。本群は厚真町内で遺跡数が最も多く、発掘調査では少なからずの破片が出土するが、幌内８遺跡では極少数に留まっている。

Ⅳ群 A1 類 b 種（195～197）

余市式土器群の中で古手に並存する道南系の天祐寺式に相当する土器で２個体が出土している。地文縄文は縦回転施文の斜行縄文が施され、地文施文後に施される貼付文上の縄文と羽状構成をなす。いずれも胎土にも海綿骨針は含まれていない。これまでの厚真川上流域での発掘調査においても数例が出土している。

Ⅳ群 A2 類（198～201）

余市式土器群の中で時期的に中位段階のもの。タプコプ式の古段階、伊達山式の新しい段階に相当する土器。厚手の粗雑な土器で、胎土には多量の砂礫を含む。口唇部に縄文を施し、棒状工具による横位の刺突文（199･200）や縄端を刺突するもの（198）がある。198 は葺瓦や階段状と表現されるタイプで、201 は階段状の段差境界部分に当たる胴部中位の破片である。町内ではオニキシベ３遺跡（道理文 2017c）、オニキシベ５遺跡（町教委 2013b）で多数出土している。

Ⅳ群 B1 類（202～215）

タプコプ式土器（新段階）に相当するもの。平縁で口縁部がやや内湾する深鉢形土器で、角

状の口唇部に縄文が施されている（202･205･207･210）。口縁部には斜行縄文地に２条１対の破線状の縄線文（205）を施す以外は地文縄文のみで、約３～5cm の幅が狭い羽状縄文を施すもの（202～204）、横走気味の斜行縄文（211）、撚糸文（212）、無文のもの（213）がある。羽状構成のものが本群の中でも古手と思われる（202～204）。地文縄文施文後に器表面にナデ調整を施すものが主体を占める。口縁部内面にも縄文を施すもの（205･207･208）もある。底部は側面が外傾していることから小型な底部となり、胴部下半は窄むと思われる。底面は縄文を施文しており、やや上げ底となっている（214･215）。胎土には砂粒を極めて多く含み、破損した器表面や破断面では板状に剥離する並行組織が発達しているものが多い（202･203･207～209）。

町内ではオニキシベ３遺跡、イクバンドユクチセ３遺跡（道埋文 2015b）で多く出土している。

Ⅳ群 D1 類（216）

後期後葉の堂林式に相当するもの。胴部細片であるが、地文縄文に撚りの異なる径 3mm 未満の細い縄を用いた羽状縄文が施されている。器厚も比較的薄く、内径も比較的小さいことから鉢形土器の可能性がある。焼成も良好であることなどから本群に分類した。この細片１点のみの出土であり、Ⅴ群の胴部片の可能性もある。

Ⅴ群 B1 類（217～223）

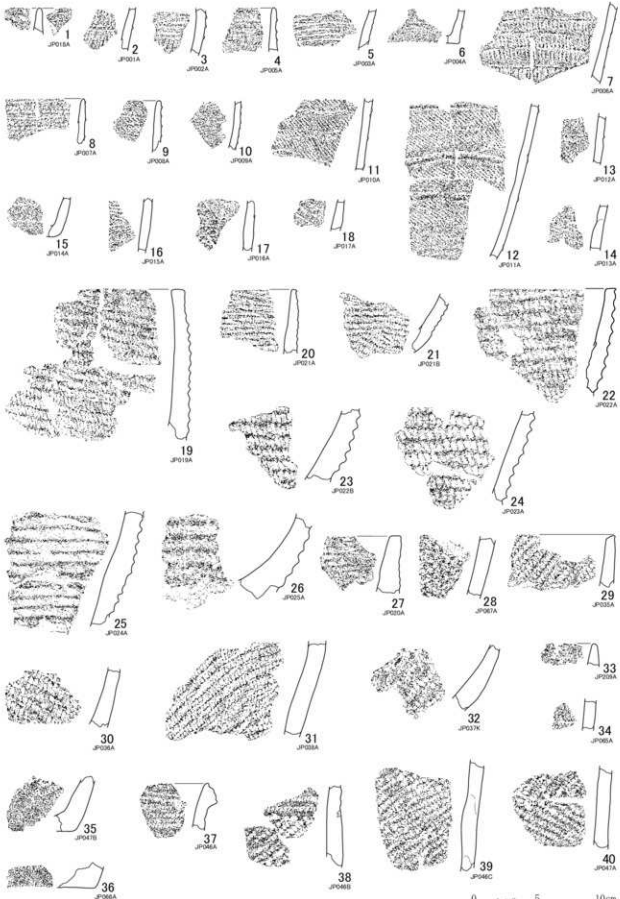
晩期中葉の土器群でママチⅠ群（道埋文 1982）に相当する土器。包含層出土土器掲載破片からは細分時期の判断が難しいが、土器集中ⅤPB-01 の深鉢（図Ⅳ-13-1･2）や浅鉢形土器（図Ⅳ-13-3）と同一層位（Ⅴb 層上位主体）であることなどから本群に分類した。なお、一部はⅢc 層下位から出土した破片（221･222）もあるが、これらは本来、Ⅴ層上面（Ⅴa 層）出土の土器と思われる。217･218 は深鉢の斜行縄文を施す胴部片で、成形時の内傾接合部で破損している。219～223 は浅鉢形土器で、219 は主飾部前突起部分の右側縁部、229 は前突起部分の左側縁部と思われる。223 は底部片で、器表面の縄文がやや潰れている。

土製品（224～228）

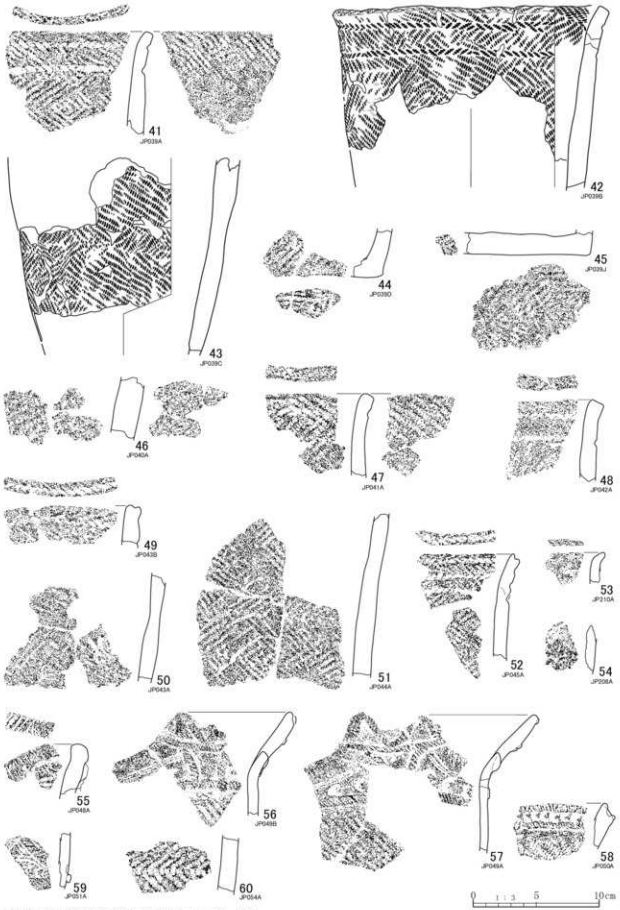
本資料は「焼成粘土類」（工藤 2006）や「サツマアゲ状土製品」（道埋文 1997）、「盤状粘土塊」（道埋文 2012）とされるものである。遺構出土のものも含め 151 点が出土している。ほぼ完形と思われる資料（224）が１点出土しており、これ以外は破片資料である。

完形の 224 の平面形やこれまでの出土例などから本来は扁平の楕円形を呈するものと思われ、断面形状は下面が水平となり、表面が膨らむことから成形時はやや軟質な粘土を使用しており、平坦な礫などの台に置いて乾燥させたものと思われる。表面には縄文や網代痕などの痕跡も無いが、指で整形した際の平坦面（228）や裏面に台座の緩い凹凸が残るもの（225･227･228）がある。未掲載のものを含めて全て灰白色で、胎土は極微量の砂粒を含むのみである。破断面も同系色で、内部までしっかりと被熱、焼成しているが、脆弱な資料であり、単調な形で厚さがあるものの完存率は極めて低い。

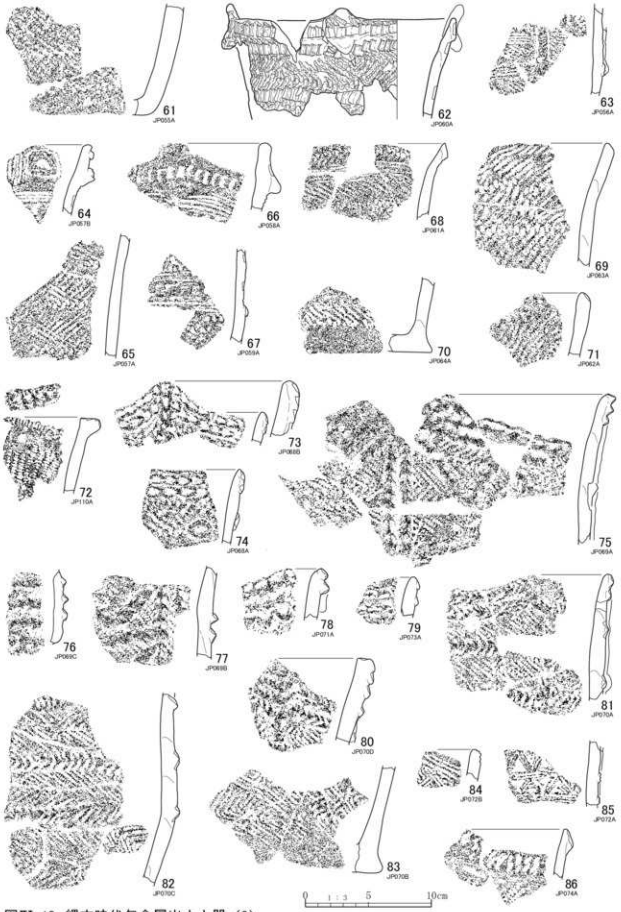
町内の出土例としては、ヲチャラセナイ遺跡、ショロマ１遺跡、厚幌２遺跡があり、近隣では苫小牧市静川 22 遺跡やニナルカ遺跡、千歳市キウス５遺跡Ｂ･Ｃ地区、梅川小野遺跡などが



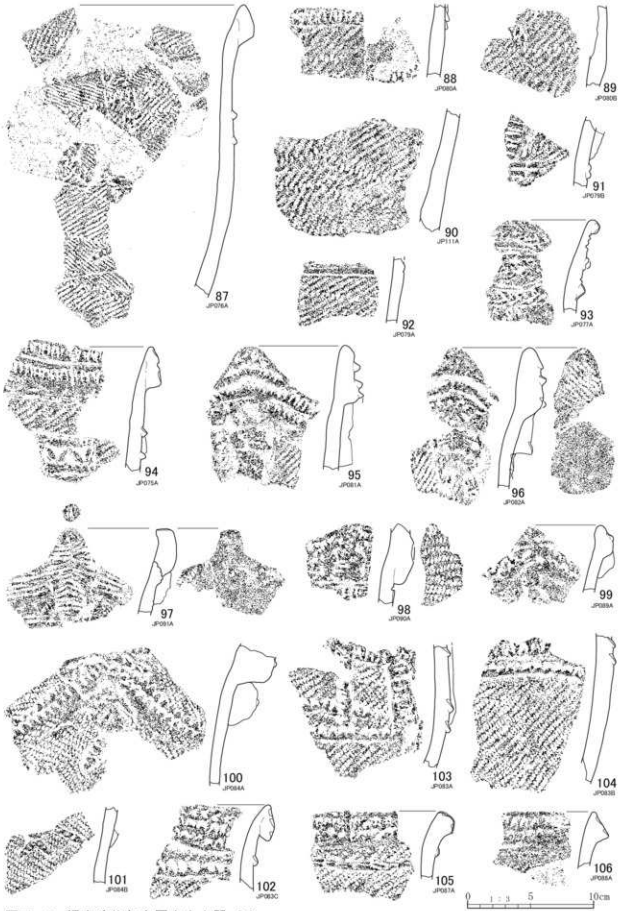
図Ⅳ-16 縄文時代包含層出土土器（1）



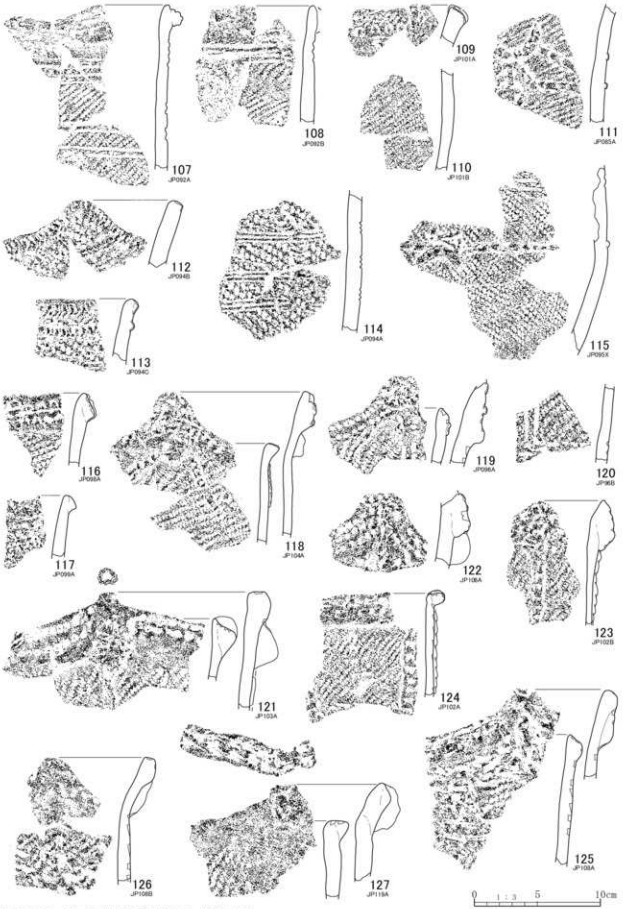
図Ⅳ-17　縄文時代包含層出土土器（2）



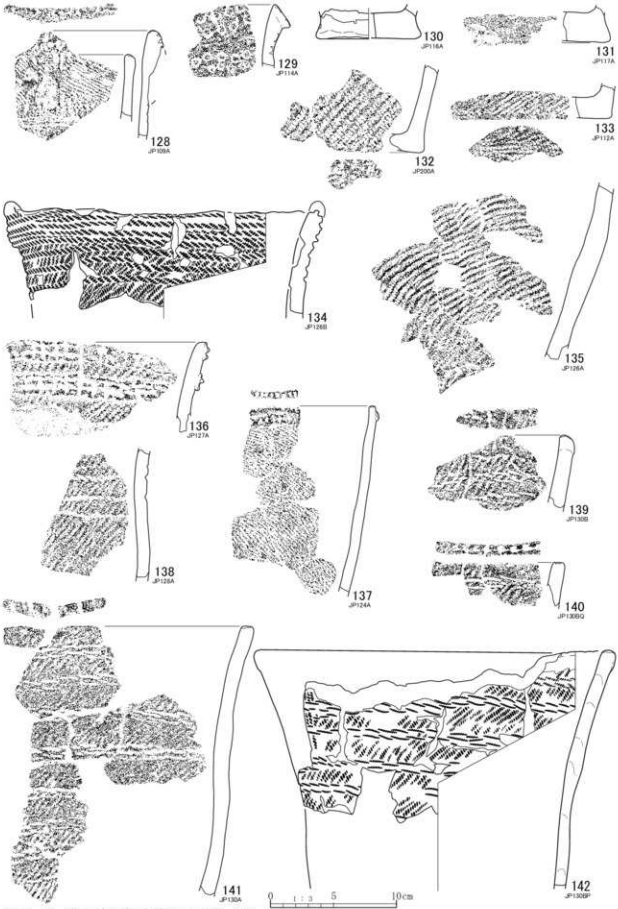
図Ⅳ-18 縄文時代包含層出土土器（3）



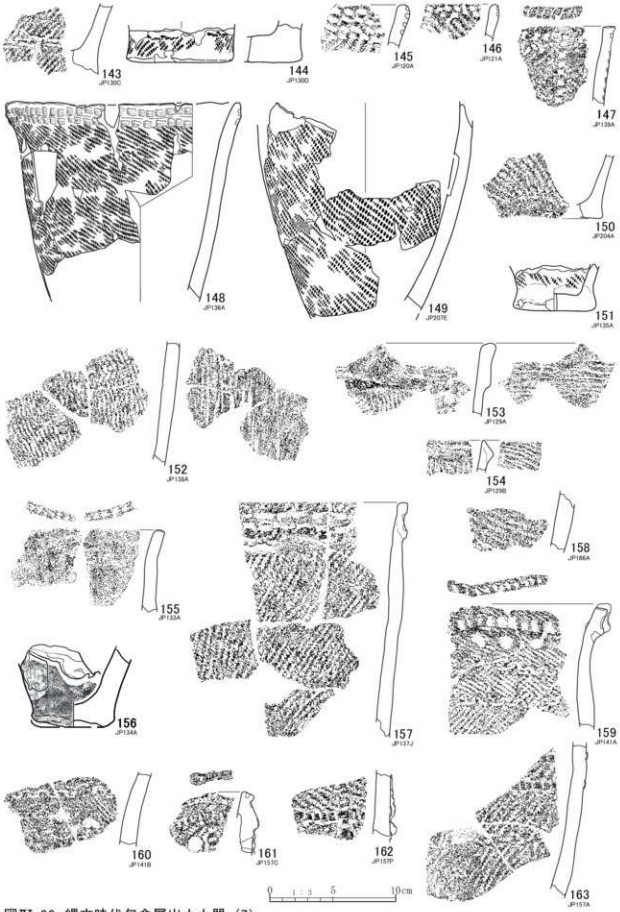
図Ⅳ-19　縄文時代包含層出土土器（4）



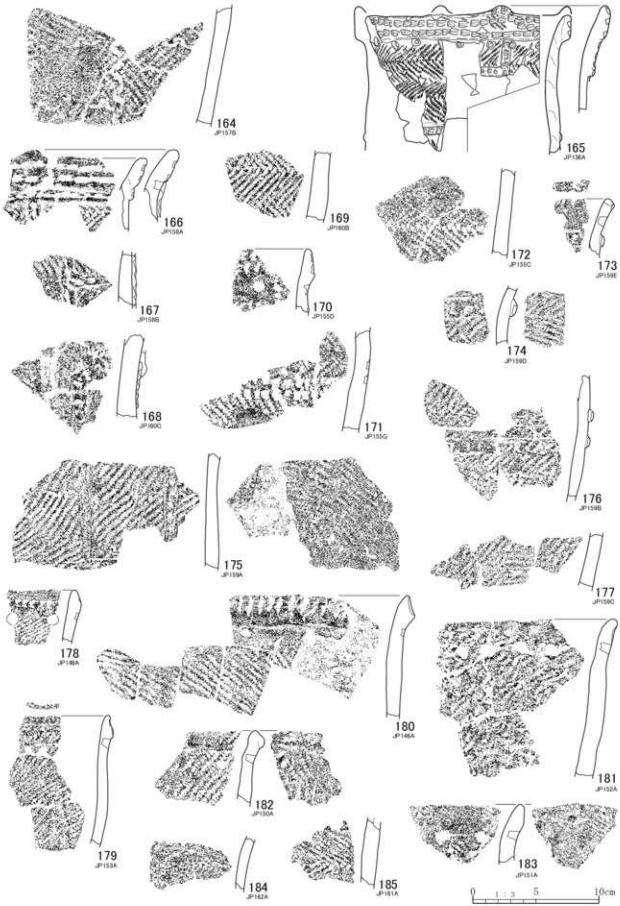
図Ⅳ-20 縄文時代包含層出土土器（5）



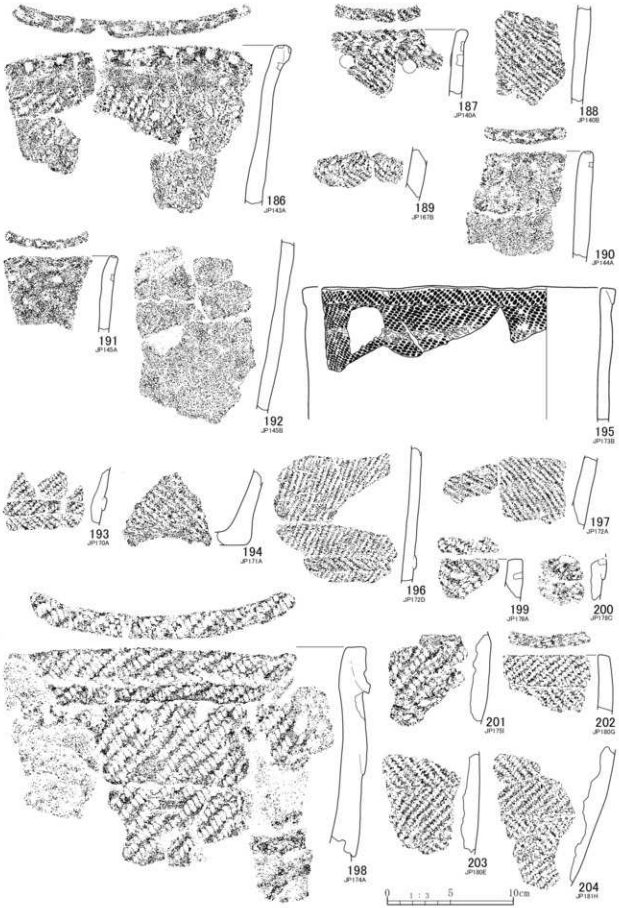
図Ⅳ-21　縄文時代包含層出土土器（6）



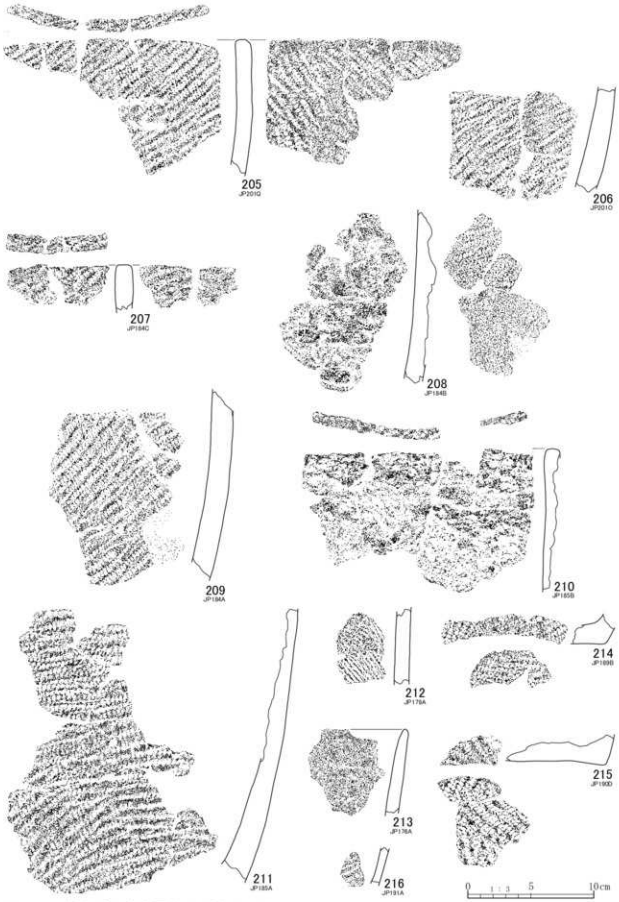
図Ⅳ-22 縄文時代包含層出土土器（7）



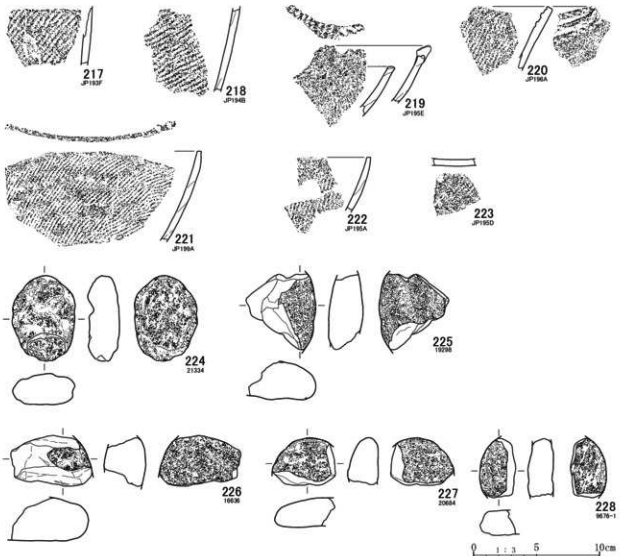
図Ⅳ-23　縄文時代包含層出土土器（8）



図Ⅳ-24 縄文時代包含層出土土器（9）



図Ⅳ-25　縄文時代包含層出土土器（10）

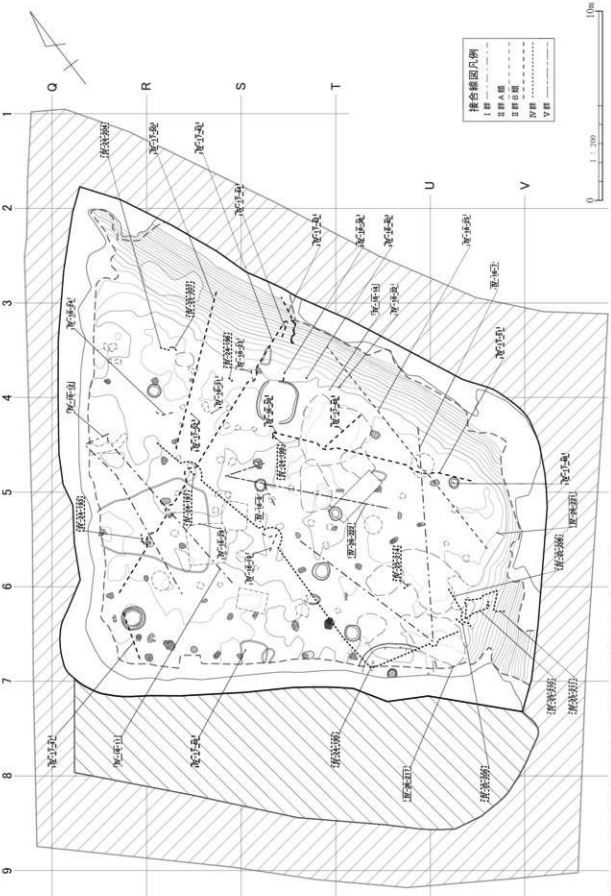


図Ⅳ-26 縄文時代包含層出土土器（11）及び土製品

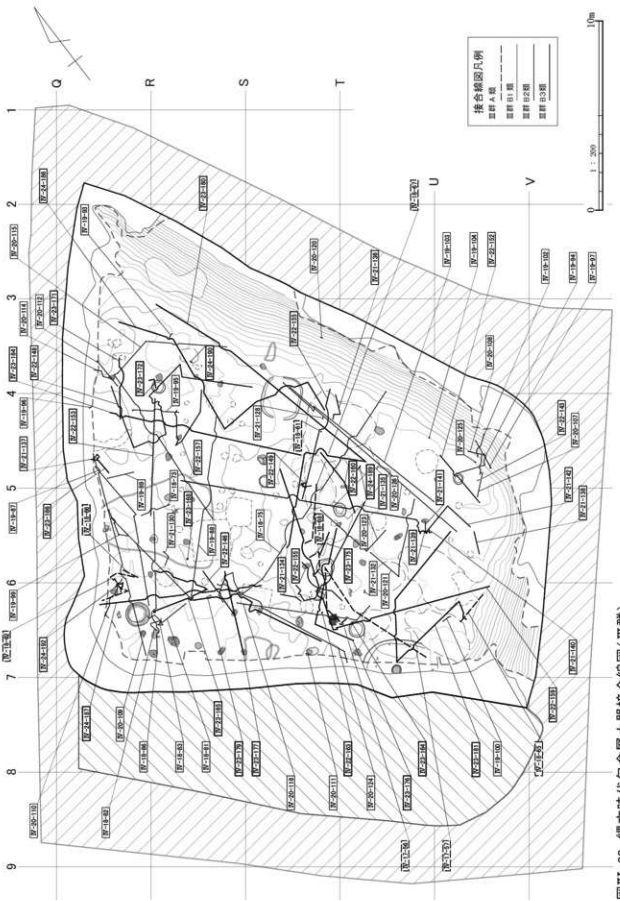
ある。これらの報告における帰属時期は　文時代前期初　から前期末　までの時期だが、　料の　土から　文時代後期の可　性も示唆されている　　埋文 2019　。なお、前期前　、トビノ式段　の幌内　　町教委 2010　や後　型式の　内中　式期の盛土　構を検出したオコッコ　　埋文 2019　では、1点も出土しておらず、前期前半期まで　るのものではないものと思われる。幌内　　においては植　式ないしは大　V式が出土しており、既に工　　氏が指摘されているとおり、　文時代前期後　に帰属するものと思われる　工　2006　。

本　料の生産 利用目的については土器原材　土　　田 2012 新家 2019　、　土の固形保存形態　工　2006　と　えられているが、今回は、それらにまで　及できるほどのデータは得られていない。また、このような利用目的を　慮した場合、土　品とした名　が　切かも検　する必　があるものの、便宜的に土　品として　　した。

なお幌内　　は天神山式　土器　を主体とし、後　する柏木川式土器も少数出土しているが、この時期に特徴的な三　形状の土器片加工品　恵教委 1992 2015、千教委 1990 1997　は皆無である。町内でも中期後半の　料が上幌内　　で1点が出土しているに　ぎず、日本海側水　または石狩低地帯中　に　定されたものかもしれない。　　乾



図Ⅳ-27　縄文時代包含層土器接合線図（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・ⅤA群）



図Ⅳ-28 縄文時代包含層土器接合線図(Ⅲ群)

2．剥片石器（図Ⅳ-29～32　図版 58～60）

包含層から出土した剥片石器は破片を含めて 1,149 点が出土した。ポイント類がＣ類を含めると 392 点、石錐 41 点、ナイフ・スクレイパー類が 125 点、両面調整石器が 31 点、ピエス・エスキーユ 1 点、石核 3 点。R･F159 点、U･F396 点、原石 1 点である。図示したのはそのうちの 63 点である。

なお、今回の報告では、写真画像の３Ｄデジタル処理による剥片石器の掲載とした。掲載図化の作業時間の短縮と経済的比較においてメリットがあるものの、詳細な観察のもとでの遺物実測図よりも図上での情報の伝達力に限界があるため、個々の石器の属性について詳細に記載することとした。この手法に賛否両論があろうかと思うが、変わりゆく諸条件の中で現在の新たな技術の導入についても検討していく必要があろう。（宮崎・乾）

石鏃（1～20）

石鏃は 211 点出土した。A1 類 2 点、A2 類 86 点、A3 類 110 点、A4 類 13 点である。1 は A1 類で五角形鏃の薄手のもの。基端を微細剥離で調整している。2～8 は無茎の石鏃である。2･3 は A2a 類の平基で、2 は重心線より上半の尖頭部には入念な剥離整形、基部は裏面から表面への剥離調整が施され、表面の中央部に素材剥片の古い剥離面を残す。基部左側縁が欠損し、裏面右側縁は調査時のいわゆるガジリも入っている。3 は表裏面全面に入念な剥離調整を施し、薄手である。4～7 は A2b 類の凹基。4 は側縁部が弓状に膨らむ概ね正三角形状の平面形。基部の湾入は浅い。鏃身部が寸詰まりの特異な形態であるが、明瞭な再調整の痕跡はない。5 の左側縁は入念な剥離調整が施され、右側縁には素材剥片の主剥離面を残す。裏面も右側縁に連続する入念な剥離調整を施し、左側には素材剥片の剥離面が大きく残存している。6 は表裏面全体が粗い剥離で、裏面には素材剥片の剥離面を残す厚手のもの。3 辺の側縁単位で連続した剥離が施され、尖頭部の調整がなされておらず、未成品の可能性もある。7 は二等辺三角形で表裏面に素材剥片の剥離面を残すことから薄い剥片を素材としていることが判かる。基部は入念な調整を施しているが湾入は浅い。8 は A2c 類円基。表裏面全面に入念な剥離調整が施され、鏃身部側縁は内湾気味で、尖頭部先端角は鋭角となる。9～11 は A3a 類。9･10 は鏃身部と茎部境界に棘状の明瞭な逆刺を作出している。9 は非左右対称形で茎部の調整が粗く厚いが、鏃身部は比較的入念な剥離により薄く作出されている。10 は左右対称形で入念な剥離調整が施され、長短比に対し薄手の作りである。11 は鏃身部が短く、幅広く長い茎部。鏃身部の左右側縁はやや内湾し、比較的入念な剥離調整によって薄く作出されている。鏃身部表面には尖頭部方向から頸部調整剥離を切る大きな剥離があり、折損による剥離の可能性がある。剥離新旧関係からも鏃身部再生の可能性もある。12～16 は A3b 類で茎部が明瞭に作出されている。12･13 は逆刺が明瞭でなもの。12 は被熱し、表裏面全体が風化しているが、尖頭部には調査時のガジリにより光沢のある新しい剥離破損が生じている。13 は二等辺三角形状の鏃身部に比べて茎部が短い。尖頭部と茎部は入念な剥離調整が施され、表裏面の鏃身部下部には素材剥片の剥離面が残る。最大幅は鏃身部下部にあり、逆刺部はやや窄む特徴的な形態となっている。この形態は、円筒上層式後半期の土器を主体とする渡島半島の遺跡から出土例が多い。近隣では苫小牧市美沢東６遺跡でも出土している（第 4-106 図-43･44）。14～16 は逆刺が不明瞭なもの。14･15 は比較的長い茎部の両側縁が弓状に湾入し、平面形の端部が角状をなす。鏃身部側縁は直線状ないし

はやや膨らむため尖頭部は鈍角となる。いずれも入念な剥離調整が施されており、形態や剥離調整は石槍 B1 類に類似しており、町内の出土例などから縄文時代前期後半期に伴うものと思われる。15は尖頭部側縁に連続する剥離が施されるが、尖頭部先端は一次調整剥離が残り、最終的な尖頭部作出がなされていないため、未成品の可能性もある。被熱し表裏面全面が風化している。16は鏃身部が二等辺三角形状と長く、茎部は短い。表裏面は入念な剥離調整が施され、薄手の作りである。17･18は A3c 類の素材剥片の形状を残すもの。17は小型で長軸は 15.7mm、鏃身部が短い。鏃身部先端は表裏面の剥離調整で作出されており、茎部は裏面右側縁のみ側縁から浅い剥離で、素材剥片の主剥離面を大きく残している。18は表裏面の縁辺部のみに浅い剥離調整によって成形されている。表裏面には素材剥片剥離面をほぼ全面に残し、薄い縦長剥片を素材としていることが判る。茎部は素材剥片の打点が残りやや厚味がある。尖頭部は素材剥片の縁辺部側で薄い。被熱により表裏面全体が銀化している。19は A4 類。平面形は細身の紡錘形で尖頭部に入念な剥離調整が施されている。茎部の表裏面は縁辺部の調整のみで、素材剥片の主剥離面等が残る。20は尖頭部の剥離調整が粗く、折損した茎部の調整は表裏面共に入念な剥離調整が施されている。このため茎部と鏃身部の判断が間違っており、図示も天地逆転の配置となる可能性もある。石鏃の材質は19が頁岩製で、それ以外は黒曜石製である。

石槍（21～30）

石槍は124点の出土で、B1 類が66点、B2 類が21点、B3 類が35点、B4 類が2点である。21～24は B1 類で茎部に比して鏃身部が短いもの。21は鏃身部表面中央に先端部方向からの深い剥離によって茎部との境界で階段状となっている。鏃身部にはこれを切る剥離調整が連続し、茎部と比較して、厚さが極度に減じることから、尖頭部折損後に鏃身部を再加工しているものと思われる。基端は細部調整が施されておらず、縁辺は不規則な形態を示すが、稜に僅かな磨滅があることから完形品と思われる。22の鏃身部は入念な剥離調整で両側縁はやや膨らむ。茎部は粗い調整で素材剥片の打面を残し、厚く棒状を呈している。23の鏃身部は入念な剥離調整で側縁稜はやや膨らむ。茎部は表裏面ともに1枚の剥離は大きく、やや粗い剥離調整が施されている。茎端付近の茎部両側縁は僅かに湾入し、基端には大きく2面の剥離面があり、縁辺に微細剥離があることから完成当初の形態と思われる。24は非対称の平面形で、鏃身部と茎部の境界が右側縁は丸く、左側縁は棘状となっている。剥離調整も粗く、裏面には素材剥片の主剥離面を大きく残している。石鏃 A3b の未成品の可能性もある。25･26は B2 類の鏃身部、茎部が長いタイプで、平面形が非対称となる。全体的に粗い剥離調整で整形されている。茎部上半の側縁は緩く湾入し、逆刺を形成している。27～29は B3 類の不明瞭な茎部をもつもので、平面形が菱形や縦長の紡錘形となるもの。27は表裏面共に全面的に入念な剥離調整が施されている。28は長軸 95.9mm を測る頁岩製の大型資料。全周を連続した剥離で調整しているが、縁辺部からの剥離は浅く、表裏面に素材剥片の剥離面が残る。素材剥離面の光沢や剥離の切り合い部分の稜が磨滅している。基端部にノッチ加工を施し、つまみ状の端部を作出している。29は平面形が柳葉状を呈し長軸 116.5mm を測る。全体的に粗い剥離調整で、尖頭部先端は素材剥片の剥離面が残り厚い。茎部は表裏面に粗い茎部成形剥離がなされている。尖頭部形状や粗い剥離から未成品の可能性が高い。30は再調整品と思われる B4 類。23の形態に類似する石槍 B1 類の茎部を再調整し、尖頭部を作出しているものと思われる。表裏面全面が被熱により風化してい

るが、鏃身部右側縁の欠損部分には被熱痕跡が認められない。石槍の材質は 28 が頁岩製でそれ以外は黒曜石製である。うち、21･27･29 は透明度のある漆黒に灰色の層状構造が見えることから置戸町所山産の黒曜石の可能性がある。

石錐（31～37）

石錐は 41 点の出土で、内訳は A 類 2 点、B 類 5 点、C 類 13 点、D 類 8 点、E 類 3 点、F 類 4 点、G 類の欠損品 6 点である。31 は A 類で素材剥片の 3 辺に剥離を施し 2 ヵ所の機能部を作出している。表面左側の機能部先端稜は磨滅しているが、主軸下部の機能部には磨滅がみられない。32 は B 類。薄い剥片を素材とし、機能部は表裏面ともに入念な調整で、縁辺部が弓状となり、機能部を作出している。柄部の右側縁には転礫面を残す。他の遺跡の出土例から縄文時代前期前半に伴うと思われる。33･34 は C 類とした平面形が棒状で、調整により機能部、柄部の区分が明瞭なもの。33･34 は機能部の作出が長軸の約 2 分の 1 に達し、柄部断面形が方形ないしは長方形となっている。33 は機能部両側縁が並行する棒状で、頭部は転礫面である。機能部先端の稜がやや磨滅している。34 の機能部は表面を全面、裏面は主に右側縁の調整によって尖状、鋭角に作出されている。柄部は素材剥片の剥離面を残し、表面の稜が磨滅、裏面の素材主剥離面には光沢がみられることから着柄による使用形態の可能性がある。35 は棒状 D 類で、柄部と機能部の区別が不明瞭である。36 は平面形が紡錘形を呈する。35･36 は機能部に磨滅等の使用の痕跡がなく、形態では石鏃の可能性もあるが、機能部の厚さが石鏃の尖頭部よりも厚い傾向にあり、石錐と分類した。37 は F 類。柄部は転用された石器の粗い剥離で、表面左側縁は片刃状の断面形となっている。縁辺部に微細剥離が伴うことからスクレイパーを転用していると思われる。機能部は入念な剥離調整によって側縁がやや内湾し、鋭角な先端部を作出している。材質は 31 がメノウ質頁岩、それ以外は全て黒曜石である。

ナイフ･スクレイパー類

つまみ付ナイフ（38～47）

つまみ付ナイフは 46 点の出土で、A1 類 23 点、A2 類 3 点、A3 類 2 点、A4 類 5 点、A5 類の欠損品 13 点で、縦型のものが圧倒的主体を占める。38～43 は A1 類の縦型のもので、下端部が丸状から隅丸角状を呈するもの（38～40）と尖状のもの（41～45）がある。38 は縦長剥片を素材とし、つまみ部は素材剥片の打面を残し、裏面はバルバースカーが発達している。つまみ部のノッチ加工以外は片面調整で、素材剥片の主剥離面である。表面（素材剥片背面）の体部は二次加工が縁辺部を全周しているが、下端部は入念な調整で刃角が急角度となる。なお、刃毀れ様の微細剥離は体部下半の両側縁から円刃状の下端部にかけて存在しており、刃部としての利用範囲が読み取れ、下端部は急角度な刃角よりエンド･スクレイパー的な使用方法が考えられる。39 は表面全面に剥離調整が及ぶ片面調整で、裏面は縦長剥片の素材主剥離面である。刃部は右側縁に作出され、刃部再生の再調整のため刃角がやや急角度を呈する。表面左側は石器完成時の剥離面で光沢があり、裏面左側縁の不連続な微細剥離は使用時に生じたものと思われ、稜がやや磨滅している。裏面左側縁に表面左側縁への剥離の打面が削除されているものの、これらの特徴は縄文時代早期後葉から前期初頭にかけて東日本の北陸地方北部、東北地方、北海道石狩低地帯にかけて分布する「松原型石匙」（秦 1991）と共通しており、本石器は形態的に早期後葉の中茶路式ないしは東釧路Ⅳ式土器に伴うものと思われる。40 はつまみ部頭部が扇状

に成形され、抉り部分はやや幅広となる特徴的な形態である。体部は斜行するが、ほぼ一定の幅で長方形状の平面形である。刃部は表面右側縁に形成され、急角度の刃角で、使用による階段状の微細剥離が右側縁下部から下端部にかけての刃縁にみられる。刃部に対向する左側縁にも連続する微細剥離が認められるが、刃潰しとしての細部調整と思われる。41～45は下端部が尖状となるもの。42は表面全体に剥離調整を施す片面調整で刃部を右側縁にもつ。刃部刃角は急角度で刃縁中位には使用による微細剥離が著しく残り、オーバーハングするため裏面から表面の一部が見通せる。刃部再調整による新しい剥離面であることから、刃部以外の剥離面の稜線、裏面の素材主剥離面に光沢が生じている。縦長剥片を素材とし、つまみ頭部には素材剥片の打面が残っている。43 は半円形状を呈する幅広のもの。剥離調整は全周に施されているが、縁辺部からの剥離は浅く表面中央部に素材剥片の腹面が残る。右側縁にやや急角度な刃部を作出し、刃縁のエッジは鋭いが、対向する表面左側縁の縁辺部は磨滅している。裏面は右側縁中位から上位にかけて表面への剥離調整の際の打面形成剥離が残っているのみで、つまみ部ノッチ加工の剥離以外は大きく主剥離面を残している。裏面の体部中位には左側縁から右側縁にかけて帯状の光沢範囲があり、使用の痕跡と思われる。44･45は A2 類で縦横中間型のもので刃部が大きく傾く。44は右側縁に大きく傾く刃部を作出している。刃角は 60～80°と鈍角をなし刃縁には使用に伴う微細剥離がある。つまみ部のノッチは浅く、幅広で裏面からの表面へのノッチ加工となっており、裏面は素材剥片の主剥離面のみとなっている。小型の資料で幅広のつまみ頭部で斜刃となる特徴的な形態である。45 も右側縁に刃部を作出し、体部中央付近の刃縁には使用の結果と思われる微細剥離が密集しており、平面形も抉れている。表面左側は縁辺部から深い剥離が施され、体部の刃面との稜は右へ極度に偏っている。また左側縁にも不連続な微細剥離が残るが、刃潰しを意図したものと思われる。裏面は体部上半に剥離調整が施されているが、素材剥片の主剥離面のバルブ除去のためと思われる。46 は A3 類の横型のもの。図示した資料の他に 1 点のみの出土である。片面調整で、つまみ部と対向する側縁にやや弓状に反る刃部が作出されているが、刃面の中央やや左寄りに大きな瘤状の残存部分がある。使用に伴う微細剥離は刃縁中央部に集中している。47 は A4 類で素材剥片につまみ部のみを作出するもの。ノッチ加工は裏面からのみで浅く、左側縁に使用による微細剥離が連続している。つまみ付ナイフの材質は 38･40～42･46 は頁岩、39･44 は珪化岩、43 はチャート、45･47 が黒曜石で、ポイント類と対照的な石材選択となっている。このような傾向は、厚真町や石狩低地帯の遺跡に普遍的な石材選択である。石器製作に適した珪質頁岩、珪化岩は町内で産出しておらず、幌内8遺跡内においても、これらの石材のフレイク･チップがほとんど出土していないことから、つまみ付ナイフは完成品の状態で遺跡内に持ち込まれているものと思われる。

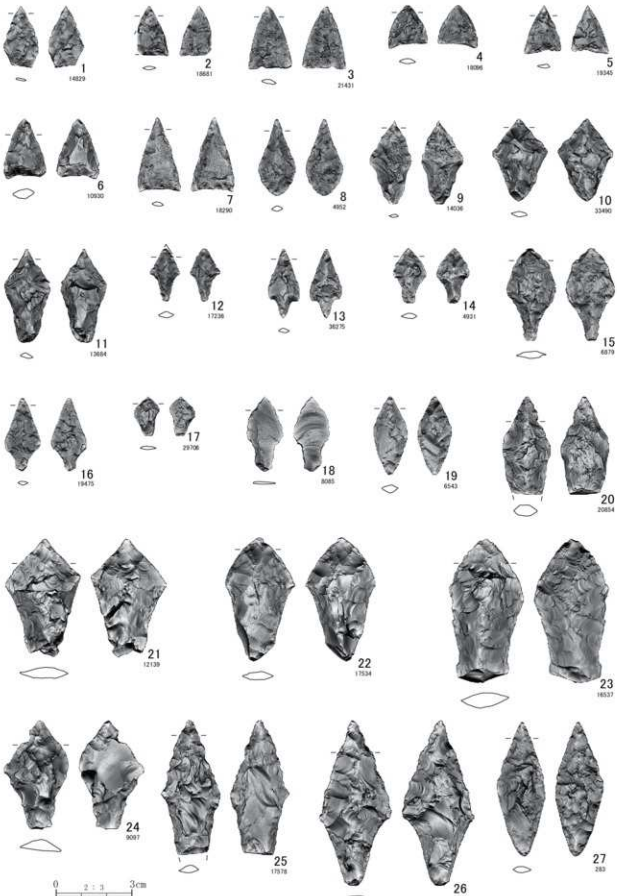
スクレイパー類（48～58）

スクレイパー類は計 79 点の出土で、内訳は B1 類 5 点、B2 類 5 点、C1 類 39 点、C2 類 8 点、C3 類 8 点、E 類の 14 点である。48･49 は B1 類の片面調整のラウンド･スクレイパーである。48 は剥離が全周する楕円形のもの。長軸上下端部に二次加工が施され、下端部は厚く刃角がほぼ 90°となる。裏面は岩砕面を残すが上部の左右側縁には対称的に浅い剥離調整が施されている。49 は薄手で小型なものであり下部に円刃状の刃部を作出している。基部は折れている。50 は B2 類のエンド･スクレイパー。剥離は表裏面ほぼ全面に及ぶが、長軸下端部に弧状の刃部が作

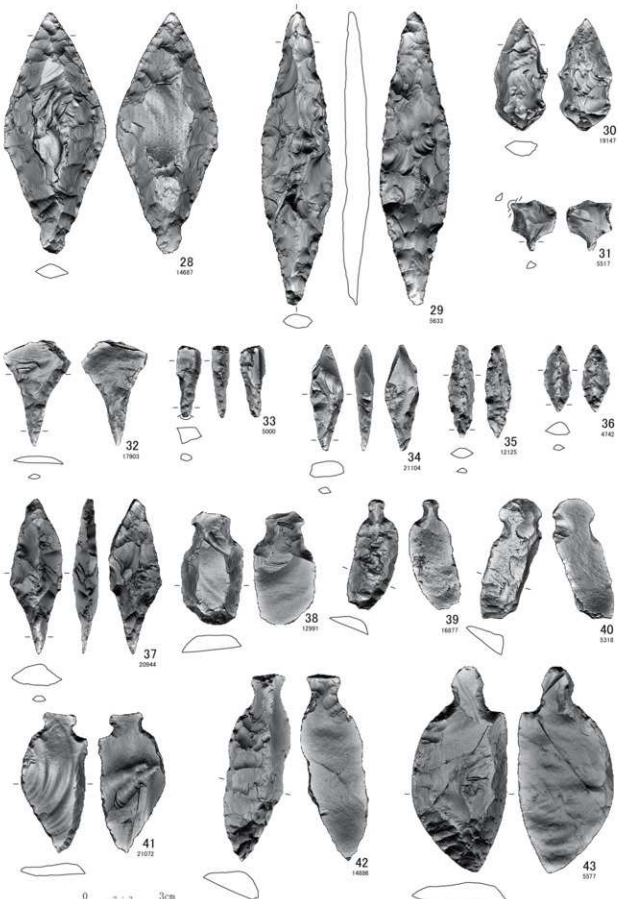
出されている。右側面と上端面には岩砕面が残り、左側縁稜は側面観がジグザグ状を呈し、不安定である。なお下部に表裏面を貫通する孔は石材そのものの岩質で、折損の際に球果等が抜け落ちた可能性がある。51～55 は C1 類のサイド・スクレイパーで、直線的な刃部を作出したもの。51 は片面調整で素材剥片の左側縁に刃部を作出したもの。52 も左側縁に刃部を作出している。下端部は折損しているが、刃部中央から下部にかけて使用に伴う連続した微細剥離があり、平面形において刃縁も浅く湾入している。右側縁の中位にも部分的な刃部調整が施され、右側縁下部にも微細剥離があり下端部は両側縁を利用していた可能性がある。裏面は右側縁に浅い剥離がほぼ連続しており、表面への刃部調整剥離の際に切られている。53 は右側縁に刃角が鈍角となる刃部を作出している。刃縁には使用に伴う微細剥離が残り、中央付近は特に密集している。刃部に対向する左側面は転礫面が大きく残存している。裏面は刃部側の右側縁は素材剥片の剥離面を残す片刃状となっており、右側縁は厚味を減じるための粗い剥離調整が連続している。素材主剥離面と調整剥離との境界の稜は磨滅しており、使用の際に対象物と繰り返し接していたものと思われる。54 は縦長剥片を素材とし、左側縁に刃部を作出している。刃縁に微細剥離を伴う部分は平面形がやや湾入し、平面形での凹凸が激しい。剥離はほぼ刃部作出のみの範囲であるため表面と右側面に大きく、上端面と左側縁の一部に岩砕面を残す。55 は上部が折損しているが、厚味のある棒状の剥片を素材とし左側縁に刃部を作出している。上部側に刃部作出の剥離がなされ、左側縁下半は使用に伴う微細剥離が連続する。裏面は左側縁に厚味を減じるための粗い剥離が連続している。表面左側面と下端部は転礫面を残している。なお、上部折損面右側は被熱により赤色化している。サイド・スクレイパー類は、前述のつまみ付きナイフと同様に縦型を主体とするが、素材剥片の左側縁に刃部を作出するものが多く、つまみ付きナイフと対称的な刃部の位置となる。56・57 は C2 類のコンケイブ・スクレイパー。56 は左側縁下部に内湾した刃部、左側縁上部と右側縁に直線的な刃部を作出している。主要刃部となる左側縁下部と右側縁の刃部刃角は鈍角で、刃縁には使用による微細剥離が密集する。右側縁刃部も微細剥離の部分は刃縁が湾入し、裏面にも微細剥離がみられる。57 は大型の縦長剥片を素材とし、左右両側縁に内湾した刃部を作出している。特に左側縁の刃部は弓状に湾入し、刃縁には使用時に生じた微細剥離が密集し、エッジが滅失している。裏面は素材剥片の主剥離面で大きなバルバースカーがある。右側縁には表面の刃部調整剥離に切られる不連続な浅い剥離がある。黒曜石の素材剥片で上下端部は岩砕面であり、原産地露頭から直接採掘された石材を利用している。58 は C3 類の抉入石器。平面形が縦位の台形状の素材剥片の長辺に、表裏面からのノッチングによる抉入部が作出されている。ノッチングは表裏面で上下がやや異なる位置から施されている。また、使用に伴うと思われる微細剥離は抉入部開口部下部の表裏面にもある。スクレイパー類の材質は 51 がメノウ、55 が頁岩でそれ以外は黒曜石である。

両面調整石器（59～61）

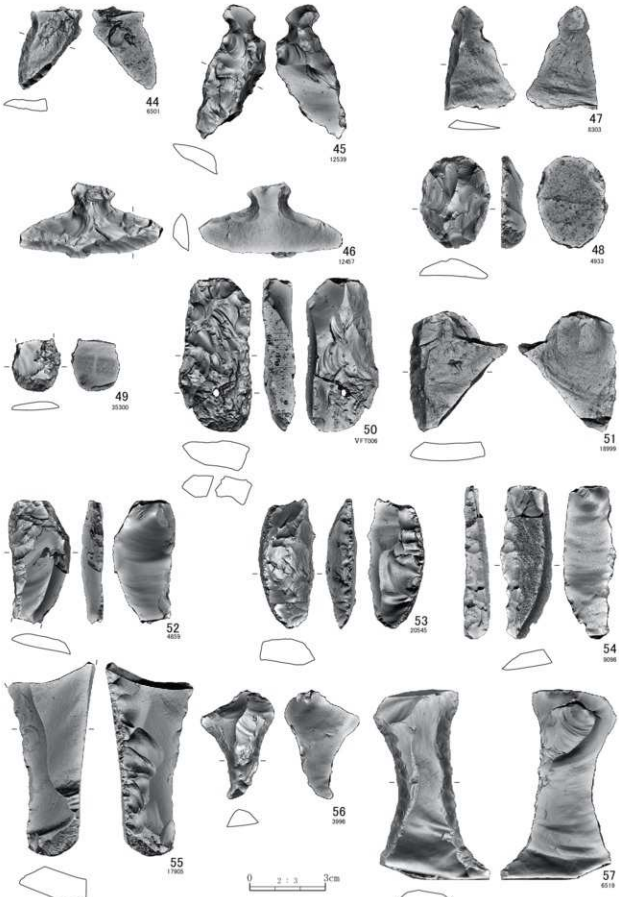
両面調整石器は 31 点出土で、A 類 10 点、B 類 10 点、C 類 9 点、欠損品の D 類が 4 点である。59 は A 類の大型の木葉形のもの。表裏面ともに粗い剥離によって成形され、表裏面の中央部に素材剥片の剥離面が残り、切り合う剥離面との稜に磨滅がみられる。縁辺部には微細剥離が表裏面共に全周しており、側縁部には転礫面や岩砕面、素材剥片の破損面等の面は無い。同種の石器は縄文時代前期後半のものがヲチャラセナイ遺跡、ショロマ 1 遺跡で多数出土しており、



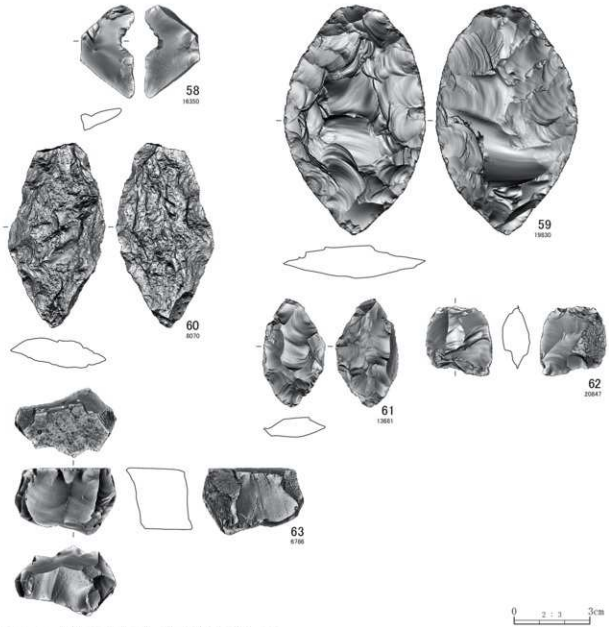
図Ⅳ-29 縄文時代包含層出土剥片石器（1）



図Ⅳ-30　縄文時代包含層出土剥片石器（2）



図Ⅳ-31 縄文時代包含層出土剥片石器（3）



図Ⅳ-32 縄文時代包含層出土剥片石器（4）

本資料も前期後半期のものと思われる。当該期における定型的な器種と考えられ、流通母材の形態と思われる。60はB類で、表面の右側縁の下部は岩砕面を残し、表裏面の全面が粗い剥離で調整されている。形態的には石槍にも類似しているが、尖頭部作出がないことから、本器種に分類した。石材は赤井川産黒曜石で、流紋岩球果が層状に極めて多く入り、ガラス質との比率は概ね4：6程度で剥離面は不明瞭である。61はC類。木葉形で小型のもの。比較的厚手の資料でもある。表裏両面に粗い剥離調整が施され、縁辺部の側面観の稜はジグザク状を呈している。3点とも黒曜石製である。

ピエス・エスキーユ（62）

ピエス・エスキーユは掲載した1点の出土で、62は平面形が隅丸方形状で、表裏面の上下部分に階段状の剥離がある。表面左側面が剪断面で裏面には一部転礫面が残る。断面形は紡錘形。

石核（63）

石核は全部で3点が出土している。63は上面の岩砕面を打面とし、作業面は約3cmを測り正面の1面である。剥離は最少で6枚分が確認できる。岩砕面は打面のほか、正面の右側下部と背面にもある。下面にも裏面を打面とする剥離作業面が確認できる。小型の縦長剥片を剥削する石核は北筒式や余市式に伴うものが知られている。（乾・宮崎）

3．礫石器・石製品（図Ⅳ-33～39　図版61～63）

包含層から、礫石器は破片を含めて1,038点が出土した。内訳は石斧が110点、たたき石564点、すり石71点、砥石78点、石鋸7点、滑沢面のある礫2点、線条痕のある礫10点、石皿74点、台石が92点、加工痕のある礫が30点で、他に石製品が2点である。そのうち45点を図示した。

石　斧(1～9)

1～3はA1類。1は片刃で長軸約8cm、短軸約1.5cmの小型で厚みがあり、棒状を呈するもの。表裏面の研磨は入念でほぼ全面に及んでいるが、左右側縁には磨き残しがあり、素材礫の転礫面が残る。2は円刃片刃。基端を除き研磨を行っているが、表面基部付近に成形時の剥離、左側縁上部に粗い調整擦痕が残る。3は長軸長が25.7cmを測る大型の円刃両刃の石斧。破片5点が接合したもので基部中間部分が欠損している。研磨は入念であるが中間部を中心に成形剥離を残し、両刃の刃縁右側が大きく剥離している。被熱は破損後と思われる。4～6はA2類に分類したもの。4は扁平でほぼ全面に研磨を施す。刃部は直刃片刃で、明瞭な刃面を作出している。5は板状礫を素材とする。入念な研磨調整は刃部付近のみで、刃縁の中心部に刃こぼれがある。右側面は粗い調整擦痕が残る。6は断面形がかまぼこ状を呈する厚手、棒状の石斧。曲刃片刃。基端を除き全体的に研磨調整を施す。表面は研磨調整単位による複数の稜が形成されている。部分的に素材転礫面と整形剥離面、裏面右側縁稜には敲打調整痕を残す。7～9は石斧未成品。7は長軸が20cmを超える大型のもの。剥離成形の後、全体的に細かな敲打整形を行っているが表面と裏面の一部に素材転礫を残す。被熱部分には黒色の付着物がみられる。8は表面全面に剥離と敲打調整、下端部には剥離調整を施しているが、裏面は素材転礫面を残す。9は調整痕の認められない自然礫であるが、石斧の素材礫と思われる。石材は1･4が青色片岩、それ以外は緑色泥岩である。

たたき石（10～29）

たたき石は素材礫の形状と敲打痕の位置で細分した。10 はⅠA1 類で縦長扁平礫の表裏面上部に縦長に集中した敲打痕がある。11 はⅠA3 類。断面形が低い二等辺三角形状で、中心稜と裏面にそれぞれ 2 ヵ所の深い敲打痕があり、下部端と左右側縁にも部分的に敲打痕が認められる。12～14 はⅠB1 類である。12 は表裏平坦面の中央よりやや上部に 1 ヵ所、集中的な敲打痕がある。13 は表裏面それぞれ 2 ヵ所、左右側面の上部に 1 ヵ所の敲打痕があり、全体が被熱している。14 は表裏面に縦長でやや深い窪みが続く敲打痕で、両側面は上下 2 ヵ所にやや深い敲打痕がある。15～17 はⅠB3 類。15 は表裏面と左側面に 2 ヵ所、右側面は表面から続く上部 1 ヵ所の深い敲打痕がある。16 は角柱状の礫を素材とする。表裏面 2 ヵ所に縦長で密な敲打痕があり、下部先端にも敲打痕と剥離が認められる。17 は縦長で撥形の棒状礫を素材としたもの。両端部には敲打痕と剥離が認められ、下端部平面形は V 字状を呈する。表面中央部と左側縁稜付近、右側縁下部にも細かい敲打痕がある。18 はⅡA1 類。扁平で不整形礫の両面に 2 ヵ所ずつの敲打痕があり、特に表面上部の棒状に近い部分の敲打痕は深く窪む。19 はⅡA2 類。扁平礫の左側縁と下端部を使用している。20～22 はⅡA3 類のたたき石。20 は不整形礫の表面に 2 ヵ所、裏面上部と左側縁下部に 1 ヵ所の敲打痕がある。21 は表裏面にそれぞれ 2 ヵ所の敲打痕があり、左側縁は複数の剥離がみられる。被熱している。22 は表裏面の上部に深い敲打痕と下部先端部に敲打痕と剥離がある。23･24 はⅡB1 類。23 は小型でやや厚みのある方形状の亜角礫を素材としたもの。表裏面の中心部を使用しており被熱している。24 は素材礫の表面中心付近にわずかな敲打痕が認められる。風化により表面にはクラックが生じている。25 はⅡB2 類。楕円形礫の上下端部と右側縁部を使用したもの。敲打痕と剥離が密集している。26･27 はⅡB3 類。26 は表面の平坦面に 2 ヵ所、裏面に 1 ヵ所の密な敲打痕があり、下部先端に敲打痕とこれに伴う剥離が集中している。27 は方形礫の表面の下側に 1 ヵ所の敲打痕が、下端部は中央付近から右側縁にかけて連続した敲打痕がある。28 はⅢA 類。扁平楕円形礫の表面中央と側縁稜のほぼ全周に敲打痕がある。29 はⅤ類で、礫片を素材としたもの。裏面と左側縁は破断面である。表裏面の中央にやや深い敲打痕がある。左側縁は礫破断面を研磨調整し、平滑に仕上げている。たたき石の石材は 17･25 が玄武岩でそれ以外は砂岩である。

すり石（30～34）

30 は A 類で断面三角形の礫の稜にすり面があるもの。擦痕の両側縁には使用に伴う剥離がみられる。31～33 は D 類の北海道式石冠である。31 は半割した厚みのある楕円形礫を素材としたもの。表裏面に把握部整形のための幅の広い帯状の敲打調整を行っているが、両側縁部は繋がっていない。すり面の擦痕は全体に及んでいるものの中心部付近は使用前の敲打調整痕が残る。32 は扁平の楕円形礫を半割して使用したもの。把握部の敲打調整は一周し、すり面は左右先端部から表面に偏る。33 は未成品。厚みのある楕円形礫を半割している。調整は左右縁辺部から頭頂部にかけて行っているが、表裏平坦面と右側縁上部には転礫面が残る。すり面となる破断面には使用の痕跡はみられない。34 はⅠ類に分類したすりとたたきを併用するもの。楕円形礫の短軸に敲打痕が一周し、上下端部にも敲打痕がある。すり面は多面で稜が形成され、赤色の付着物が痕跡的に認められる。すり石の石材は 30～33 は砂岩、34 は玄武岩である。

砥石(35・36)

35は破片で、表面の砥面は側縁から中心部に向かって深く湾入している。破断面は一番薄い部分で約5mmを測り使用が進んでいる。表面は方向の異なる複数の擦痕が認められ、裏面は横方向の擦痕がある。36は縦形の不整形礫側面に4単位の砥面があり、僅かに稜を形成している。いずれも砂岩製である。

石鋸(37)

37は石鋸の欠損品で上下側縁に機能部がある。刃部断面は共にU字形である。表裏面にも擦痕が認められることから砥石を転用した可能性がある。砂岩製。

線条痕のある礫(38)

38は不整形の板状礫を素材とし、左側縁と下部を欠損している。表面中心付近と上端側に長軸方向の線条痕が認められるが長さは一定していない。砂岩製である。

石皿(39)

39は層理面で割れた長方形礫の破断面を使用している。上端からおおよそ4分の3の範囲を使用しているが、平滑な面は部分的で破断面の凹凸が広範囲に残る。右側縁に連続した剥離がみられる。

台石(40～42)

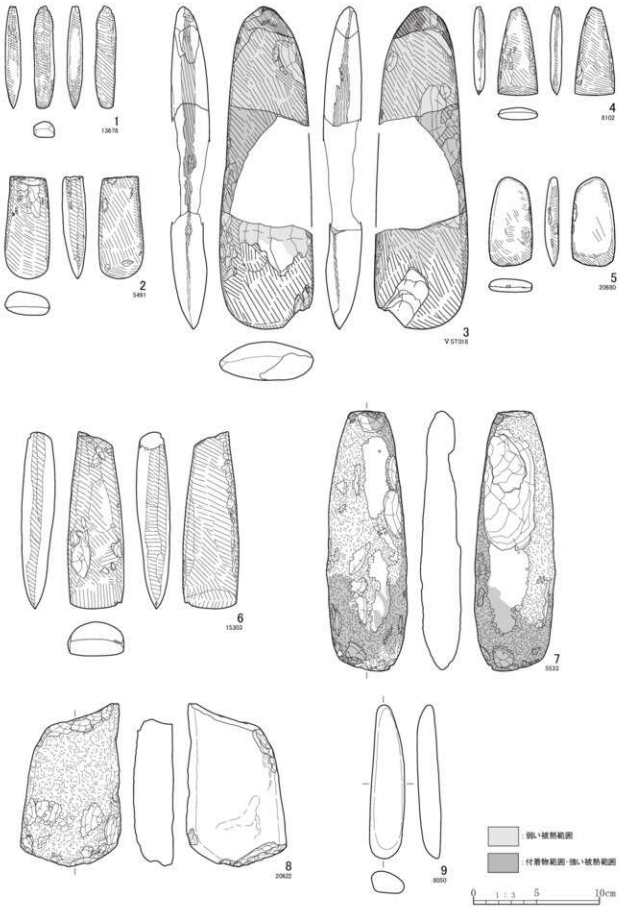
40は厚みのある不整形礫の表面を使用している。敲打痕は上部にややまとまっており、下部は疎らになる。41は扁平気味の不整形礫を素材としたもの。表裏面と下部先端部にまとまった敲打痕がある。先端部の使用は手持ちと考えられ、たたき石の性格が強いが重量(1,236g)から台石に分類した。42は平面形が隅丸五角形状の礫を素材とし、表面全面を使用したもの。複数の深い敲打痕が点在し、その周囲に敲打痕と敲打により生じた剥離がある。幌内8遺跡では同様の特徴を持つ台石が他に4点出土している。

加工痕のある礫(43)

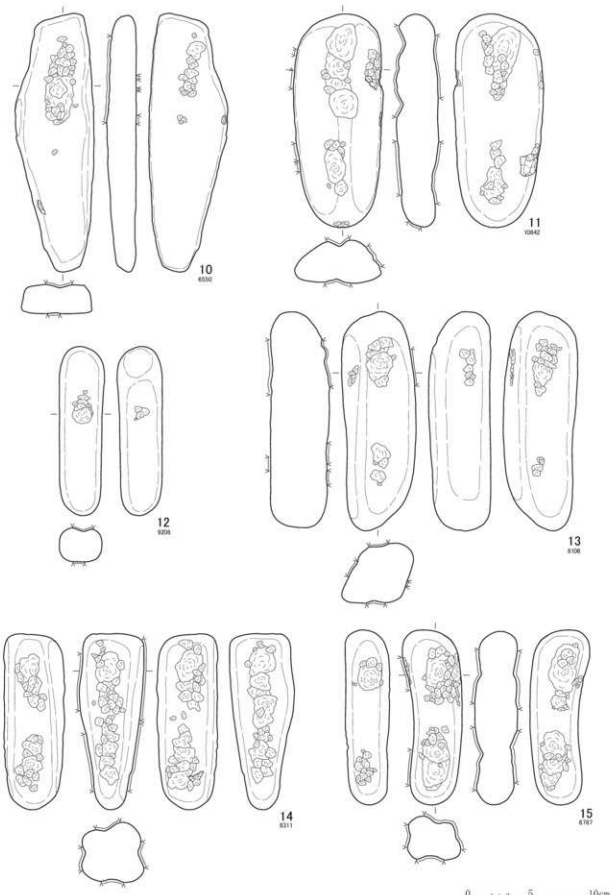
43は加工痕のある礫と思われるもの。右側縁部のみに剥離調整が施されている。砂岩製である。

石製品(44・45)

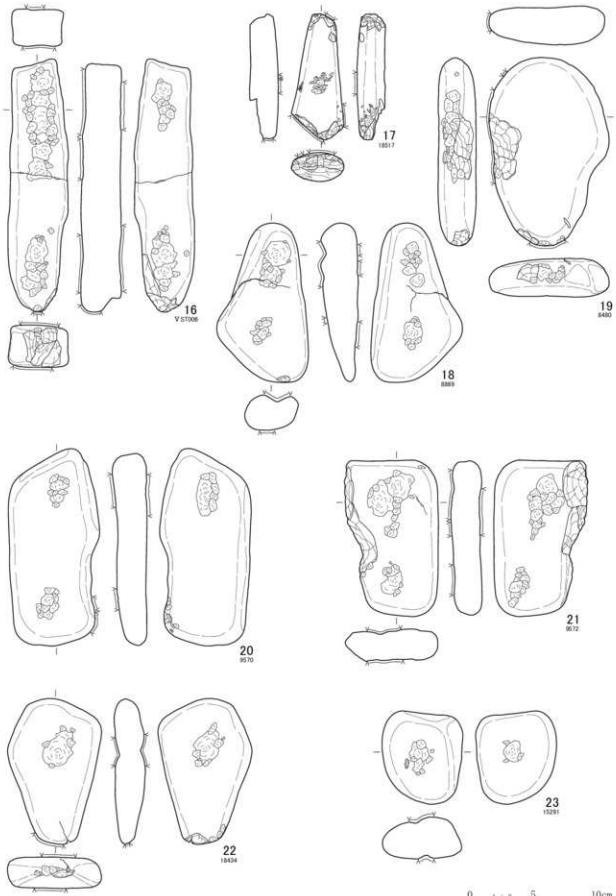
44は直径約28mm、厚さ4.8mmの円盤状のもの。表裏面及び側面を入念な研磨調整により成形している。中心部には表裏面からの穿孔があるが、紐ずれの痕跡はない。砂岩製。45は研磨調整による多面体の紡錘形のもの。厚真町では平成25～28年度に発掘調査したショロマ1遺跡から同様のものが多数出土している。(宮崎)



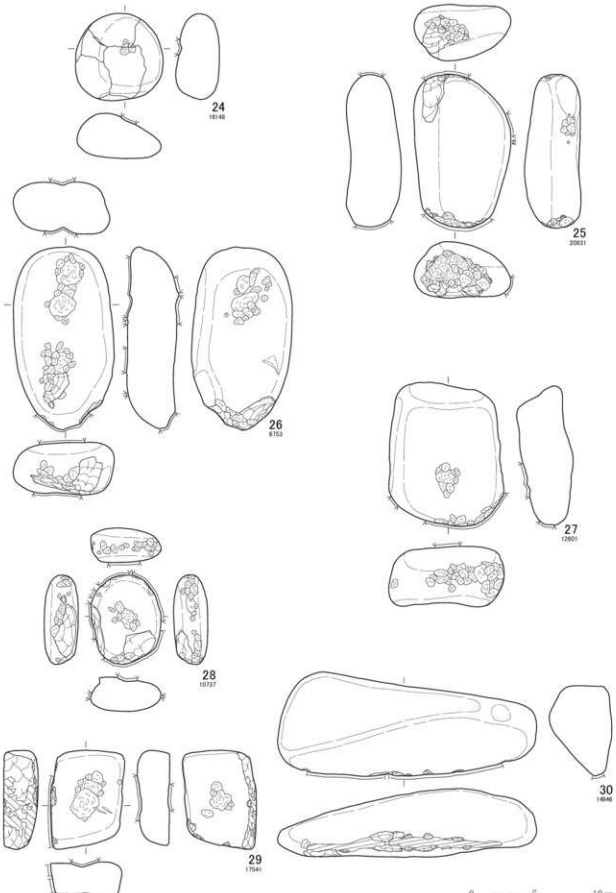
図Ⅳ-33　縄文時代包含層出土礫石器（1）



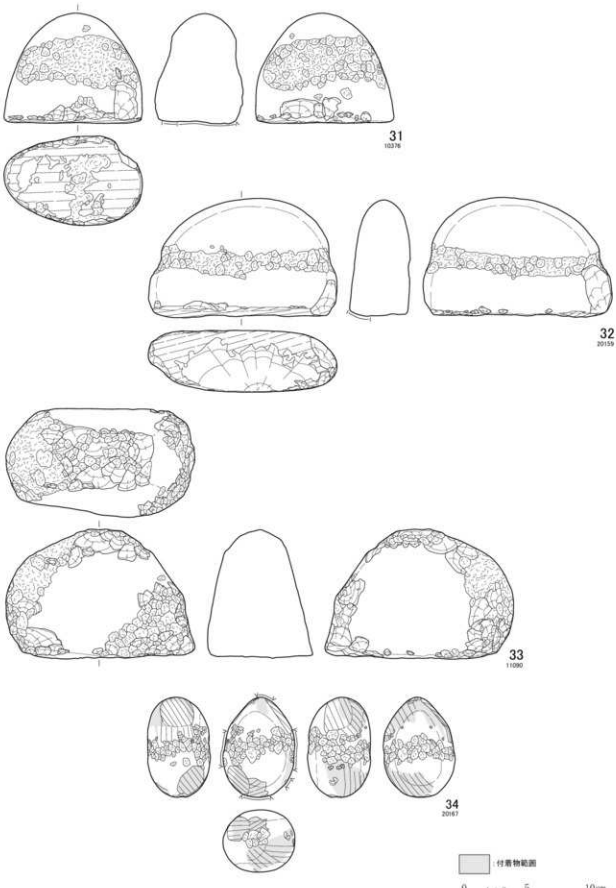
図Ⅳ-34 縄文時代包含層出土礫石器（2）



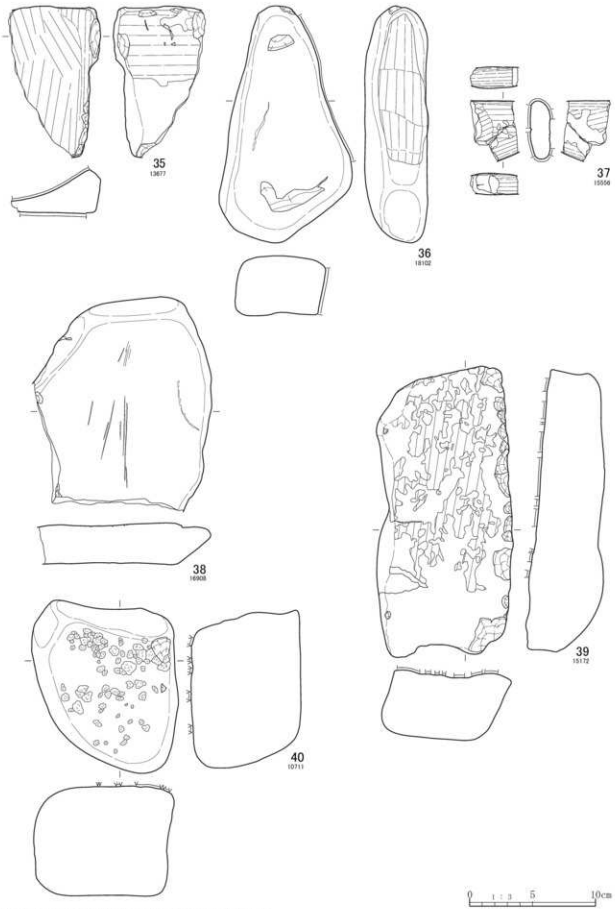
図Ⅳ-35　縄文時代包含層出土礫石器（3）



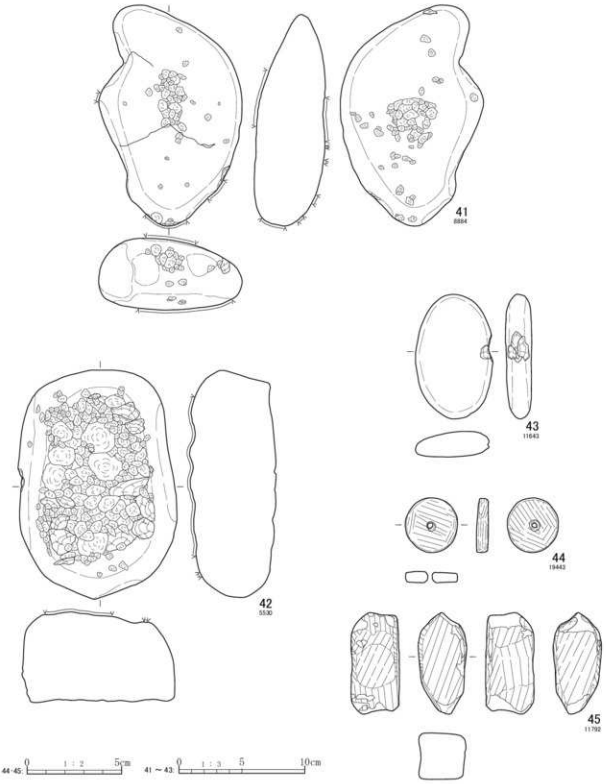
図Ⅳ-36 縄文時代包含層出土礫石器（4）



図Ⅳ-37　縄文時代包含層出土礫石器（5）



図Ⅳ-38 縄文時代包含層出土礫石器（6）



図Ⅳ-39　縄文時代包含層出土礫石器（7）·石製品

表Ⅳ-2　VH属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
Ⅳ-2	16-1・2	VH-01	T・U-6	VbM	-	(404.0)	(174.0)	364.0	(152.0)	44.0	約半分欠失

表Ⅳ-3　VH付属炉属性表

挿図番号	図版番号	遺構名		グリッド	確認層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
							長軸	短軸	厚さ		
Ⅳ-2	16-3～5	VH-01	HF01	T-6	Ⅶ	楕円形	36.0	32.0	6.6	焼骨	地床炉

表Ⅳ-4　VH-01柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	柱痕規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅳ-2	16-6・7	HP01	6.0	0.0	8.0	0	打込み	
Ⅳ-2	16-8・9	HP02	9.0	0.0	20.0	4	打込み	
Ⅳ-2	16-10・11	HP03	9.4	0.0	26.0	4	打込み	
Ⅳ-2	17-1・2	HP04	7.2	0.0	20.0	5	打込み	
Ⅳ-2	17-3・4	HP05	6.4	0.0	15.0	8	打込み	
Ⅳ-2	17-5・6	HP06	6.6	0.0	11.0	6	打込み	
Ⅳ-2	17-7・8	HP07	9.0	0.0	11.0	10	打込み	

表Ⅳ-5　VP属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	調査面長短比	坑底面長短比	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸				
Ⅳ-3	17-9～12	VP-01	S-3・4	VbM	隅丸方形/隅丸方形	(215.0)	200.0	(192.0)	180.0	27.5	(1.1)	(1.1)	
Ⅳ-3	18-1～3	VP-02	Q-6	Ⅵ	円形/円形	124.0	120.0	98.0	93.0	102.0	1.0	1.1	土坑墓
Ⅳ-3	18-4～6	VP-03	S-6	Ⅵ	- / -	(80.0)	(52.0)	(56.0)	(39.0)	19.0	(1.5)	1.4	
Ⅳ-3	18-7・8	VP-04	S-5	Ⅵ	円形/円形	92.0	88.0	68.0	64.0	32.0	1.0	1.1	
Ⅳ-3	19-1・2	VP-05	T-6	Ⅵ	円形/円形	80.0	80.0	64.0	60.0	23.0	1.0	1.1	
Ⅳ-4	19-3・4	VP-06	R-3・4	Ⅵ	隅丸方形/円形	70.0	68.0	52.0	48.0	13.0	1.0	1.1	
Ⅳ-4	19-5・6	VP-07	U-4	Ⅵ	楕円形/円形	57.0	49.0	40.0	38.0	8.5	1.2	1.1	
Ⅳ-4	19-7・8	VP-08	S・T-5	Ⅵ	円形/円形	68.0	60.0	45.0	40.0	28.0	1.1	1.1	
Ⅳ-4	20-1・2	VP-09	S-4	Ⅵ	円形/不整形	63.0	57.0	52.0	48.0	11.0	1.1	1.1	

表Ⅳ-6　VAS・VF属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	調査面層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備　考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅳ-7	20-3~6	VAS-01	Q-5	VbL	不整形	44.0	37.0	4.5	灰・焼骨	
Ⅳ-7	20-7・8	VF-01	T-4・5	VbL	-	-	-	3.5	焼骨	試掘坑等により損壊
Ⅳ-7	21-1・2	VF-02	T-4	VbL	-	39.0	(12.0)	4.5	焼骨	トレンチにより損壊
Ⅳ-7	21-3・4	VF-03	R-6	VbM	楕円形	36.0	24.0	6.5	焼骨	
Ⅳ-7	21-5・6	VF-04	R・S-6	VbM	不整形	32.0	26.0	4.0	焼骨	
Ⅳ-7	21-7・8	VF-05	R-6	VbM	円形	36.0	33.0	3.5	-	
Ⅳ-7	22-1・2	VF-06	T-5	VbM	不整形	36.0	18.0	3.5	-	
Ⅳ-7	22-3・4	VF-07	T-5	VbL	不整形	38.0	17.0	5.0	焼骨	
Ⅳ-7	22-5・6	VF-08	T-5	VbL	楕円形	51.0	22.0	5.0	焼骨	
Ⅳ-7	22-7・8	VF-09	T-5	VbL	不整形	32.0	27.0	7.0	焼骨	
Ⅳ-8	23-1・2	VF-10	T-5	VbL	楕円形	42.0	27.0	4.0	-	
Ⅳ-8	23-3・4	VF-11	S-5	VbL	不整形	30.0	21.0	4.0	-	
Ⅳ-8	23-5・6	VF-12	S-5	VbL	不整形	38.0	23.0	3.5	焼骨	
Ⅳ-8	23-7・8	VF-13	T-4	VbL	不整形	(53.0)	35.0	5.0	-	
Ⅳ-8	24-1・2	VF-14	S-4	VbL	不整形	55.0	43.0	8.5	-	
Ⅳ-8	24-3・4	VF-15	R-5	VbM	楕円形	36.0	22.0	7.0	焼骨	
Ⅳ-8	24-5・6	VF-16	R-5	VbM	楕円形	36.0	27.0	6.0	焼骨	
Ⅳ-8	24-7・8	VF-17	R-5	VbM	楕円形	54.0	31.0	5.0	-	
Ⅳ-8	25-1・2	VF-18	R-4	Vc	不整形	37.0	33.0	6.0	焼骨	
Ⅳ-8	25-3・4	VF-19	R-4	VbL	不整形	32.0	25.0	2.0	-	
Ⅳ-8	25-5・6	VF-20	R-3	VbL	不整形	20.0	14.0	5.5	-	
Ⅳ-8	25-7・8	VF-21	R-3	VbL	不整形	33.0	25.0	6.0	焼骨	
Ⅳ-9	26-1・2	VF-22	R-3	VbL	不整形	36.0	31.0	9.0	焼骨	
Ⅳ-9	26-3・4	VF-23	T-6	VbU	不整形	40.0	(13.0)	4.0	焼骨	2ブロック
Ⅳ-9	26-5・6	VF-24	R-6	VbL	不整形	29.0	15.0	4.0	-	
Ⅳ-9	26-7・8	VF-25	S-6	VbL	不整形	45.0	30.0	6.0	焼骨	上層にVFCB-01
Ⅳ-9	27-1・2	VF-26	R-5	Vc	-	32.0	-	2.5	焼骨	根痕撹乱顕著
Ⅳ-9	27-3・4	VF-27	Q-3	VbL	不整形	33.0	24.0	6.0	焼骨	
Ⅳ-9	27-5・6	VF-28	T-6	VbL	不整形	(44.0)	33.0	5.5	焼骨	
Ⅳ-9	27-7・8	VF-29	Q・R-5	VbL	不整形	31.0	21.0	4.0	焼骨	
Ⅳ-9	28-1・2	VF-30	Q-6	VbL	楕円形	(32.0)	27.0	3.0	焼骨	
Ⅳ-9	28-3・4	VF-31	Q・R-6	VbL	楕円形	41.0	38.0	5.0	焼骨	
Ⅳ-9	28-5・6	VF-32	R-6	VbL	-	-	46.0	6.0	焼骨	根痕撹乱顕著
Ⅳ-10	28-7・8	VF-33	Q・R-5	VbL	不整形	27.0	19.0	3.0	焼骨	
Ⅳ-10	29-1・2	VF-34	Q-6	VbL	不整形	37.0	28.0	4.5	焼骨	
Ⅳ-10	29-3・4	VF-35	U-4	VbL	不整形	47.0	29.0	5.0	-	
Ⅳ-10	29-5・6	VF-36	S-3	Vc	不整形	36.0	27.0	3.5	焼骨	
Ⅳ-10	29-7・8	VF-38	S-6	Vc	不整形	55.0	35.0	6.0	焼骨	
Ⅳ-10	30-1・2	VF-39	S-6	Vc	楕円形	63.0	40.0	8.0	焼骨	
Ⅳ-10	30-3・4	VF-40	S-6	Vc	不整形	(28.0)	19.0	5.5	焼骨	
Ⅳ-10	30-5・6	VF-41	R-6	Vc	楕円形	(43.0)	24.0	2.0	焼骨	
Ⅳ-9	30-7・8	VF-42	R-6	Vc	不整形	48.0	25.0	3.5	-	
Ⅳ-10	31-1・2	VF-43	Q-6	Ⅵ	-	31.0	(15.0)	8.0	-	2ブロック
Ⅳ-10	31-3・4	VF-44	S・T-5	Vc	円形	26.0	22.0	1.0	焼骨	

表Ⅳ-7　VPB・VSB・VFCB属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		被熱の有無	備　考
						長軸	短軸		
Ⅳ-11	31-5	VPB-01	S-6	VbU	不整形	(122.0)	(80.0)	有	二次被熱片有
Ⅳ-11	31-6	VPB-02	T-4	VbU	不整形	(73.0)	(35.0)	-	
Ⅳ-11	31-7	VPB-03	S-3	VbU	不整形	94.0	35.0	-	
Ⅳ-11	31-8	VPB-04	S-6	VbL	不整形	(72.0)	52.0	-	
Ⅳ-12	32-1・2	VSB-01	R-4・5・Q-5	VbU	不整形	(576.0)	492.0	有	一部被熱
Ⅳ-11	32-3	VFCB-01	S-6	VbU	不整形	(55.0)	46.0	有	一部被熱・329点出土

表Ⅳ-8　縄文時代遺構出土土器属性表(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グ	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁 口唇/胴部/底側面 変換点 底面	文様 **口唇 口縁 内面/胴部 内面/底側面 底面 内面**	胎土	備考
VH-01											
Ⅳ-5-1	42-1	JP147A	ⅢB3	VH-01	4	1	深鉢/口縁胴上半	平縁 三角形状肥厚 外反-丸状	刺突文/OI刺突文 無文帯 LL斜行縄文-	砂粒中量	
Ⅳ-5-5	42-5	JP168G	ⅢB3	VH-01	1	1	深鉢/胴上半	直立	貼付文+押引文 LR斜行縄文-内面剥落	砂粒少量	
Ⅳ-5-6	42-6	JP168C	ⅢB3	VH-01	1	1	深鉢/胴上半	外傾	LR斜行縄文 縄端結縛痕 -	砂粒少量(白色岩片微量)	成形時粘土帯接合部破損 外傾接合
				VH-01	2	2					
Ⅳ-5-7	42-7	JP168D	ⅢB3	Q-4	ⅢcU	1	深鉢/胴下半	外傾	LR斜行縄文 縄端結縛痕 -	砂粒少量(白色岩片微量)	成形時粘土帯接合部破損 外傾接合
				T-6	VbU	2					
				VH-01	1	2					
				VH-01	2	1					
VP-01											
Ⅳ-5-8	42-8	JP086C	ⅢB1b	VH-01	2	1	深鉢/口縁	波状縁 外反-三角形状肥厚 尖状	縦位棒状貼付文+ 状貼付文+半裁竹管刺突文 半裁竹管刺突文 3列 - ガキ	砂粒少量 繊維少量	
Ⅳ-5-9	42-9	JP078A	ⅢB1b	VP-01	2	1	深鉢/口縁胴上半	波状縁 外反-三角形状肥厚 尖状/ほぼ直立	半裁竹管刺突文 内面 斜位刺突 +沈線文 状工具連続刺突 /0段多条結束第1種斜行縄文-部分的に ガキ	砂粒中量 繊維微量	
Ⅳ-5-10	42-10	JP086A	ⅢB1b	S-6	VbM	1	深鉢/口縁胴上半	波状縁 外反-三角形状肥厚 尖状/ほぼ直立	半裁竹管刺突文 3列 LR斜行縄文-弱い ガキ	砂粒中量 繊維微量	
				S-6	VbL	1					
Ⅳ-5-11	42-11	JP086B	ⅢB1b	VP-01	2	2	深鉢/胴上半	直立	貼付文+半裁竹管刺突文 0段多条LR斜行縄文-弱い ガキ	砂粒少量 繊維少量	
Ⅳ-5-12	42-12	JP118A	ⅢB1b	VP-01	2	6	深鉢/胴下半 底	外反/穴-穴張り出し-隅丸角状-上げ底	0段多条LR斜行縄文-無文-	砂粒中量 繊維少量	
Ⅳ-5-13	42-13	JP107A	ⅢB1b	VP-01	2	1	深鉢/口縁胴上半	波状縁 外反-三角形状肥厚 尖状	半裁竹管状工具刺突文 外面 /棒状貼付文+半裁竹管状工具押引文 外面 0段多条LR斜行縄文-	砂粒中量 繊維微量	
				S-3	VbL	1					
Ⅳ-5-15	42-15	JP052A	ⅢA1	VP-01	1	1	深鉢/口縁	平縁 外反-丸状	R撚糸圧痕文 縦位刻み -貼付文 剥落 +半裁竹管刺突文+R撚糸圧痕文- ガキ	砂粒中量	
				S-4	Vb	1					
				S-4	VbL	1					
Ⅳ-5-16	42-16	JP053A	ⅢA1	VP-01	1	1	深鉢/胴	ほぼ直立	結束第1種羽状縄文- ガキ	砂粒中量	
				R-6	Ⅵ	1					
				S-6	VbM	1					
VPB-01											
Ⅳ-13-1	43-24	JP192K	VB1	VPB-01	Va	12	深鉢/胴上半	直立 外傾	RL縄線文 破線状RL縦走気味斜行縄文- 一部弱い ガキ	砂粒少量	二次被熱破片多数 接合、意図的破損資料?
Ⅳ-13-2	43-25	JP192A	VB1	VPB-01	Va	10	深鉢/胴上半下半	直立 外傾	RL縦走気味斜行縄文- 一部弱い ガキ	砂粒少量	二次被熱破片多数 接合、意図的破損資料?
				VPB-01	VbU	3					
				R-6	Va	5					
				S-6	VbU	1					

表Ⅳ-9　縄文時代遺構出土土器属性表(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面	胎土	備考
VPB-01											
Ⅳ-13-3a,3b	43-25	JP206B	VB1	VPB-01	Va	19	浅鉢/口縁～底	平縁・台形状突起(前面・左右端部やや突出)・外傾-角状/膨らみをもって外反/平底(中央部突出)	突起部分:刺突文・左右端部やや肥厚,LR縄文/突起部:刺突文,縦位棒状貼付文+刺突文,IO貫通孔,無文帯,RL斜行縄文/RL斜行縄文/RL縄文-ナデ(部分的に弱いミガキ)	砂粒少量(石英結晶微量)	富良野盆地系,二次被熱,破片接合
				S-5	VbU	1					
				S-6	VbU	3					
				Q-6-3	Vc	1					
Ⅳ-13-4	43-26	JP198G	VB1	VPB-01	VbU	1	ミニチュア土器・鉢?/口縁	平縁・外傾-丸状	刻み-IO貫通孔,無文-ナデ	砂粒微量	
Ⅳ-13-5	43-27	JP198A	VB1	VPB-01	Va	1	ミニチュア土器・鉢?/口縁	外傾	無文-ナデ	砂粒微量	
Ⅳ-13-6	43-28	JP198D	VB1	VPB-01	Va	1	ミニチュア土器・鉢?/底	ほぼ直立-隅丸角状-凸底	無文-無文-ナデ	砂粒微量	JP198A欠番へ変更
Ⅳ-13-7	43-29	JP197A	VB1	VPB-01	Va	1	ミニチュア土器・鉢?/口縁	内湾気味に直立-角状	RL斜行縄文-ナデ	砂粒少量	二次被熱,破片?
Ⅳ-13-8	43-30	JP197D	VB1	VPB-01	VbU	2	ミニチュア土器・鉢?/胴上半～下半	直立～外傾	RL斜行縄文-ナデ	砂粒少量	二次被熱,破片?
VPB-04											
Ⅳ-13-13	43-35	JP132AL	ⅢB2	VPB-04	VbL	9	深鉢/口縁	平縁・外反-隅丸角状	竹管斜位刺突文-0段多条LR斜行縄文-ヘラナデ	砂粒少量・繊維中量	
VSB-01											
Ⅳ-13-14	44-36	JP148A	ⅢB3	VSB-01	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・三角形肥厚・外反-尖状	刺突文,無文/OI刺突文,無文帯,R斜行縄文(縄端結縛痕)-ナデ	砂粒中量	
Ⅳ-13-15	44-37	JP142B	ⅢB3	Q-5	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外反-丸状/直立	押引文-OI刺突文,LR斜行縄文-ナデ	砂粒極多量(石英結晶多量)	富良野盆地系
Ⅳ-13-16	44-38	JP142A	ⅢB3	VSB-01	VbU	2	深鉢/胴上半	外傾	LR斜行縄文-ナデ	砂粒極多量(石英結晶多量)	富良野盆地系
				Q-5	VbM	1					
Ⅳ-13-17	44-39	JP164B	ⅢB3	VSB-01	VbU	1	深鉢/胴下半	外傾	L斜行縄文-ナデ	砂粒中量(石英結晶中量)	富良野盆地系
Ⅳ-13-18	44-40	JP163A	ⅢB3	VSB-01	VbU	3	深鉢/口縁～胴上半	平縁・山形突起(肥厚)・やや外反-尖状/直立	突起部分:棒状貼付文,OI刺突文,0段多条LR斜行縄文/0段多条結束第1種LR斜行縄文-ナデ	砂礫少量・繊維微量	
			ⅢB3	T-5	Vb	5					
Ⅳ-14-19	44-41	JP163B	ⅢB3	R-4	VbM	1	深鉢/口縁	平縁・三角形状肥厚・やや外反-尖状	OI刺突文,0段多条結束第1種LR斜行縄文-ナデ	砂礫少量・繊維微量	
Ⅳ-14-20	44-42	JP163D	ⅢB3	VSB-01	VbU	2	深鉢/胴下半	外傾	0段多条結束第1種LR斜行縄文-ナデ	砂礫少量・繊維微量	
			ⅢB3	R-5	VbM	1					
			ⅢB3	R-5	VbL	1					
			ⅢB3	R-6	VbU	1					
			ⅢB3	R-6	VbM	1					
Ⅳ-14-21	44-43	JP163C	ⅢB3	R-5	VbL	1	深鉢/胴下半	外傾	0段多条結束第1種LR斜行縄文-ナデ	砂礫少量・繊維微量	
			ⅢB3	R-6	VbU	1					
Ⅳ-14-22	44-44	JP188Y	ⅣB1	VSB-01	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	波状縁?・外反-角状/直立	無文(地文施文後ナデ消し)/0段多条結束第1種羽状縄文(縦位転施文・施文後ナデ)-ナデ	砂粒極多量	

表Ⅳ-10 縄文時代遺構出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド/遺構名	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅳ-5-2	42-2	-	13174	ポイント類	B1	4	VH-01	(68.9)	33.4	5.5	(10.2)	Obs.	尖頭部欠損
Ⅳ-5-3	42-3	-	12586	ナイフ・スクレイパー類	C1	4	VH-01	40.0	17.4	5.8	4.2	Obs.	
Ⅳ-5-4	42-4	VFT 003	10007 8940	両面調整石器	C	2 4	VH-01	53.5	28.7	9.3	11.2	Obs.	床面直上
Ⅳ-5-14	42-14	-	13654	すり石	C	2	VP-01	167.9	106.7	45.2	905.0	Sa.	敲打痕有
Ⅳ-6-17	42-17	VST 053	38304 38325 38134 38292	石皿	-	1	VP-03	(173.0)	(113.0)	(70.9)	(1467.0)	Sa.	
Ⅳ-6-18	43-18	-	38160	たたき石	ⅠB1	1	VP-04	124.5	60.3	34.1	300.0	Sa.	
Ⅳ-6-19	43-19	-	38309	たたき石	ⅠB3	2	VP-04	(101.8)	50.4	36.7	(245.0)	Sa.	
Ⅳ-6-20	43-20	-	38310	すり石	A	2	VP-04	119.7	82.3	60.2	645.0	Sa.	
Ⅳ-6-23	43-23	-	20046	ポイント類	B2	Vc	VF-40	64.4	21.6	6.4	7.0	Obs.	スクレイパー転用
Ⅳ-13-9	43-32	-	5921	ポイント類	A3b	Va	VPB-01	19.8	12.2	2.5	0.6	Obs.	
Ⅳ-13-10	43-33	-	5922	石錐	F	Va	VPB-01	(44.9)	19.3	6.1	(5.0)	Obs.	基部欠損・ポイント転用
Ⅳ-13-11	43-34	-	5838	ナイフ・スクレイパー類	B1b	Va	VPB-01	24.2	20.4	5.0	2.3	Obs.	
Ⅳ-13-12	43-35	-	5839	ナイフ・スクレイパー類	C1	Va	VPB-01	39.5	37.9	9.8	15.7	Obs.	棒状原石素材
Ⅳ-14-23	44-46	-	11500	ポイント類	A3b①	VbU	VSB-01	(24.5)	13.1	2.5	(0.5)	Obs.	基部欠損
Ⅳ-14-24	44-47	-	11497	ポイント類	C	VbU	VSB-01	31.4	20.5	5.1	3.0	Obs.	未成品
Ⅳ-14-25	44-48	-	9825	ナイフ・スクレイパー類	C1	Va	VSB-01	67.9	33.4	10.9	21.7	Obs.	刃縁一部磨滅
Ⅳ-14-26	44-49	-	11499	ナイフ・スクレイパー類	C2	VbU	VSB-01	(33.1)	(16.7)	4.7	(1.8)	Obs.	刃部欠損
Ⅳ-14-27	44-50	VST 022	11291 16910	たたき石	ⅠB1	VbU	VSB-01 R-4	148.0	46.9	30.3	290.0	Sa.	
Ⅳ-14-28	44-51	VST 017	11491 21211	たたき石	ⅠB3	VbU Ⅵ	VSB-01 Q-5	153.0	60.1	37.8	461.0	Sa.	
Ⅳ-14-29	44-52	-	13907	たたき石	ⅡB2	VbU	VSB-01	118.8	90.5	55.5	752.0	Sa.	
Ⅳ-14-30	44-53	-	11492	たたき石	ⅡB2	VbU	VSB-01	124.7	81.9	60.0	630.0	Sa.	
Ⅳ-15-31	44-54	-	13910	たたき石	ⅢA	VbU	VSB-01	128.5	78.1	27.1	334.0	Sa.	
Ⅳ-15-32	44-55	VST 041	11330 9720	たたき石	ⅢA	VbU VbM	VSB-01 S-6	84.6	59.6	26.7	164.1	Sa.	
Ⅳ-15-33	44-56	-	13911	たたき石	ⅢB	VbU	VSB-01	102.0	75.0	36.8	332.0	Sa.	
Ⅳ-15-34	44-57	-	11292	石皿	-	VbU	VSB-01	160.4	128.0	(52.9)	(1160.0)	Sa.	
Ⅳ-15-35	44-58	VST 029	16911 12995	石皿	-	VbU	VSB-01	(354.2)	267.0	52.0	(3840.0)	Sa.	
-	45-59	-	13865	台石	-	VbU	VSB-01	738.0	295.0	96.0	25392.0	Sa.	
-	45-60	VST 028	13866 13867	加工痕のある礫	-	VbU	VSB-01	820.0	468.0	80.0	(32480.0)	Sa.	
Ⅳ-15-36	45-61	-	11282	加工痕のある礫	-	VbU	VSB-01	134.9	101.1	53.0	633.0	Sa.	

表Ⅳ-11 縄文時代遺構・包含層出土土製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド/遺構名	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
VP-07													
Ⅳ-6-21	43-21	-	38432	土製品	-	1	VP-07	(80.7)	(53.4)	(30.1)	(63.4)	Cray.	焼成前穿孔
Ⅳ-6-22	43-22	-	38431	土製品	-	1	VP-07	(55.9)	(36.2)	(24.5)	(25.2)	Cray.	
包含層													
Ⅳ-26-224	56-224	-	21334	土製品	-	Vc	Q-6	67.7	50.1	24.6	37.5	Cray.	
Ⅳ-26-225	56-225	-	19298	土製品	-	Vc	T-5	(59.7)	(54.9)	(28.7)	(48.1)	Cray.	
Ⅳ-26-226	56-226	-	16636	土製品	-	VbL	R-4	(61.0)	(38.6)	(33.9)	(47.2)	Cray.	
Ⅳ-26-227	56-227	-	20684	土製品	-	Vc	S-4	(49.9)	(37.0)	22.2	(30.5)	Cray.	
Ⅳ-26-228	56-228	-	9676-1	土製品	-	VbU	S-6	(46.4)	(28.1)	19.7	(16.0)	Cray.	

表Ⅳ-12 縄文時代包含層出土土器属性表(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面	胎土	備考
Ⅳ-16-1	46-1	JP018A	ⅠA	S-5	VbU	1	深鉢/口縁	平縁-隅丸角状	風化刺落-貝殻条痕文(横走)	細砂粒やや多量	
Ⅳ-16-2	46-2	JP001A	ⅠB2	Q-4	VbL	1	深鉢/胴下半	外反	貼付文+刻み,0段多条LR・RL短縄文-ナデ	砂粒少量	
Ⅳ-16-3	46-3	JP002A	ⅠB3	Q-4	VbM	1	深鉢/胴上半	外傾(内湾気味)	貼付文+刻み,絡条体圧痕文(斜位)-ナデ	砂粒中量	
Ⅳ-16-4	46-4	JP005A	ⅠB3	Q-4	Vc	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁-丸状/やや外傾	LR斜行縄文/微隆起線文,L原体1,巻き絡条体圧痕文-ケズリ	砂粒中量	
Ⅳ-16-5	46-5	JP003A	ⅠB3	Q-4	Vc	2	深鉢/胴下半	外傾	R原体絡条体圧痕文-ヘラナデ	細砂粒中量	
Ⅳ-16-6	46-6	JP004A	ⅠB3	S-5-1	Vb	1	深鉢/底	外反-角状-平底	微隆起線文,0段多条RL短縄文,R原体絡条体圧痕文-ナデ	砂粒中量	二次被熱
Ⅳ-16-7	46-7	JP006A	ⅠB3	S-5	VbL	1	深鉢/胴下半	外傾	微隆起線文(一部縦位),RL短縄文-ナデ	砂粒中量	二次被熱 破片接合
				T-4	VbL	1					
				U-6	Vb	1					
Ⅳ-16-8	46-8	JP007A	ⅠB3	S-5	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・直立-実状/直立	自縄自巻LR斜行縄文/微隆起線文,自縄自巻LR短縄文-ナデ	砂粒多量(石英結晶中量・雲母微量)	富良野盆地系
				S-4	VbU	1					
Ⅳ-16-9	46-9	JP008A	ⅠB3	Q-6	VbL	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外反-角状/直立	RL斜行縄文/微隆起線文,R短縄文(斜位)-ヘラナデ	砂粒少量(石英結晶微量)	富良野盆地系
Ⅳ-16-10	46-10	JP009A	ⅠB3	Q-4	Vc	1	深鉢/胴上半	直立	微隆起線文(波状),RL短縄文-ナデ	砂粒中量	
Ⅳ-16-11	46-11	JP010A	ⅠB3	Q-4	Vc	1	深鉢/胴上半	外傾	貼付文,刺突列,0段多条RL斜行縄文-ケズリ→ナデ	砂粒中量	
				Q-4	Ⅵ	1					
Ⅳ-16-12	46-12	JP011A	ⅠB3	Q-4	VbM	2	深鉢/胴下半～底	外傾/内湾気味外傾	貼付文,刺突列,結束第1種斜行縄文-ナデ/結束第1種斜行縄文-ナデ	砂粒中量	
				Q-4	Vc	1					
				R-6	Vc	1					
Ⅳ-16-13	46-13	JP012A	ⅠB3	R-5	VbL	1	深鉢/胴下半	外反	微隆起線文,RL・LR羽状縄文-ナデ	砂粒中量	
Ⅳ-16-14	46-14	JP013A	ⅠB3	S-3	VbU	2	深鉢/胴下半	外反	0段多条LR斜行縄文+R結節回転文-ヘラナデ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-16-15	46-15	JP014A	ⅠB3	R-6	VbM	1	深鉢/底	外傾-隅丸角状-平底	RL斜行縄文+L結節回転文-ナデ	砂粒少量	二次被熱
Ⅳ-16-16	46-16	JP015A	ⅠB4	R-6	VbL	1	深鉢/胴上半	ほぼ直立	微隆起線文,自縄自巻RL・LR羽状縄文-ナデ	砂粒中量	
Ⅳ-16-17	46-17	JP016A	ⅠB4	U-4	Vb	1	深鉢/胴上半	外傾	RR撚糸回転文-ナデ	砂粒中量・繊維微量	成形様合面剥離,成形時非打の痕文
Ⅳ-16-18	46-18	JP017A	ⅠB4	R-5	Vc	1	深鉢/胴下半	外傾	RR撚糸回転文(斜行)-ナデ	砂粒中量	
Ⅳ-16-19	46-19	JP019A	ⅡA1	S-5	VbU	4	深鉢/口縁～胴上半	平縁・直立(器表面やや内湾)-角状/やや外傾	無文帯/0段多条RL斜行気味横走縄文-ヘラナデ	砂粒微量・繊維多量	
				S-5	VbM	1					
				S-5	Vc	1					
Ⅳ-16-20	46-20	JP021A	ⅡA1	U-5	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・ほぼ直立(器表面やや内湾)-角状/直立	0段多条横走気味斜行縄文/0段多条RL横走縄文-ヘラナデ	砂粒少量(白色双片微量)・繊維中量	
Ⅳ-16-21	46-21	JP021B	ⅡA1	T-5	Vc	1	深鉢/胴下半～底	外傾/内湾気味外傾	0段多条RL横走縄文/RL斜行縄文-ヘラナデ	砂粒少量・繊維多量	
Ⅳ-16-22	46-22	JP022A	ⅡA1	T-3	VbL	1	深鉢/口縁	やや外傾-角状	0段多条RL横走縄文-ナデ	砂粒少量(白色双片微量)・繊維多量	
				T-3	Vc	1					

表Ⅳ-13 縄文時代包含層出土土器属性表(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 **口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面**	胎土	備考
Ⅳ-16-23	46-23	JP022B	ⅡA1	S-3	VbU	1	深鉢/胴下半	外傾	0段多条RL横走縄文-ナデ	砂粒少量・繊維中量	
				S-3	Vc	1					
Ⅳ-16-24	46-24	JP023A	ⅡA1	R-4	Vc	1	深鉢/胴下半	やや外反	RL横走縄文-ナデ	砂粒少量・繊維少量	
				R-4	Ⅵ	2					
Ⅳ-16-25	46-25	JP024A	ⅡA1	U-5	VbU	1	深鉢/胴上半	外傾	0段多条RL横走縄文(条内の節を擦り消し)-ナデ	砂礫多量・繊維少量	
				S-3	Vc	1					
Ⅳ-16-26	46-26	JP025A	ⅡA1	T-3	Vc	1	深鉢/底	内湾気味に外傾	0段多条RL横走縄文(部分的に条内の節を擦り消し)-ナデ	砂粒中量・繊維やや多量	
Ⅳ-16-27	46-27	JP020A	ⅡA1	Q-4	Ⅵ	1	深鉢/口縁	平縁・外傾(器表面側直立)-隅丸角状	R横走縄文-ナデ	砂粒やや多量(白色岩片中量)・繊維多量	
Ⅳ-16-28	46-28	JP067A	ⅡA1	Q-3	Vc	1	深鉢/胴	外傾	4本丸組紐回転文-弱いミガキ	砂粒・繊維中量	
Ⅳ-16-29	46-29	JP035A	ⅡA2	R-5	Vc	1	深鉢/口縁	平縁・ほぼ直立-角状(やや内傾)	LR斜行縄文-ナデ	砂粒少量・繊維中量	
				R-5	Ⅵ	1					
Ⅳ-16-30	46-30	JP036A	ⅡA2	Q-3	VbL	1	深鉢/胴下半	外傾	0段多条RL斜行縄文-ナデ	砂粒中量・繊維少量	
Ⅳ-16-31	46-31	JP038A	ⅡA2	R-4	Vc	2	深鉢/胴下半	外傾	0段多条LR斜行縄文-ナデ	砂粒少量・繊維中量	
Ⅳ-16-32	46-32	JP037K	ⅡA2	U-5	VbU	1	深鉢/底	外傾	LR斜行縄文-ナデ	砂粒微量・繊維少量	
Ⅳ-16-33	46-33	JP209A	ⅡA2	R-6-4	Vc	1	深鉢/口縁	直立	無文-ナデ	砂粒中量(蛇紋岩主部,比重頑度に低い)	蛇紋岩主部,比重頑度に低い
Ⅳ-16-34	46-34	JP065A	ⅡB2a	Q-2-4	Vc	1	深鉢/胴下半	外傾	多軸絡条体回転文-強いミガキ	砂粒・繊維中量	
Ⅳ-16-35	46-35	JP047B	ⅡB2a	S-4	Vc	1	深鉢/底	やや懸込みをもって外反-隅丸角状-平底	LR斜行縄文,無文帯(ミガキ)-強いミガキ	砂粒中量(石英結晶微量)・繊維中量	
Ⅳ-16-36	46-36	JP066A	ⅡB2a	S-4	Ⅵ	1	深鉢/底	やや懸込みをもって外反-隅丸角状-平底	無文(ミガキ)-無文(強いミガキ)-風化顕著	砂粒・繊維中量	
Ⅳ-16-37	46-37	JP046A	ⅡB2b	S-3	VbM	1	深鉢/口縁	平縁(三角形肥厚)・外反-実状	L撚糸圧痕文(3条),絡条体圧痕文(3条)-強いミガキ	砂粒中量(石英結晶やや多量)・繊維多量	
Ⅳ-16-38	46-38	JP046B	ⅡB2b	S-3	Vc	2	深鉢/口縁～胴上半	やや外反/直立	絡条体圧痕文(3条),竹管刺突文(横列斜位刺突)/結束第1種斜行縄文-強いミガキ	砂粒(石英結晶やや多量)・繊維中量	
Ⅳ-16-39	46-39	JP046C	ⅡB2b	S-4	Vc	2	深鉢/胴上半	ほぼ直立	結束第1種斜行縄文-強いミガキ	砂粒(石英結晶やや多量)・繊維中量	
Ⅳ-16-40	46-40	JP047A	ⅡB2b	S-3	VbM	2	深鉢/胴上半	ほぼ直立	結束第1種羽状縄文-強いミガキ	砂粒(石英結晶微量)・繊維中量	
Ⅳ-17-41	47-41	JP039A	ⅡB3	S-3	Vc	1	深鉢/口縁～胴上半	やや外反-隅丸角状/直立	LR・RL斜行縄文-LR・RL縄線文(2条),0段多条RL斜行縄文-0段多条LR・L羽状縄文/0段多条LR・RL羽状縄文-ナデ	砂粒少量・繊維中量	
Ⅳ-17-42	47-42	JP039B	ⅡB3	S-2	Ⅵ	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・外反-角状(外傾)/直立	0段多縄LR縄文-0段多縄LR・RL条縄文,0段多縄LR・RL羽状縄文-0段多縄LR・羽状縄文/0段多縄LR・RL羽状縄文-ナデ	砂粒少量・繊維中量	補修孔
				S-3	VbL	2					
				S-3	Vc	9					
				表採	-	1					

表Ⅳ-14　縄文時代包含層出土土器属性表(3)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	**口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面**		
Ⅳ-17-43	47-43	JP039C	Ⅱ B3	S-3	VbL	2	深鉢/胴下半	外傾	0段多縄LR・RL羽状縄文-ヘラナデ(調整痕顕著)	砂粒少量・繊維中量	
				S-3	Vc	12					
				S-3	Ⅵ	2					
				Q-6	Vc	1					
Ⅳ-17-44	47-44	JP039D	Ⅱ B3	S-3	Vc	2	深鉢/底	外傾-角状-平底	0段多条LR斜行縄文-0段多条LR・RL羽状縄文-成形時指頭圧痕	砂粒少量・繊維多量	
Ⅳ-17-45	47-45	JP039J	Ⅱ B3	S-3	Vc	1	深鉢/底	外傾-角状-平底	0段多条LR斜行縄文-0段多条LR・RL羽状縄文-ナデ	砂粒少量・繊維多量	
Ⅳ-17-46	47-46	JP040A	Ⅱ B3	U-4	Ⅵ	3	深鉢/胴下半	外傾	LR・RL羽状縄文-LR・RL羽状縄文・ナデ	砂粒中量・繊維少量・砂礫微量	
Ⅳ-17-47	47-47	JP041A	Ⅱ B3	Q-6	VbL	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・外反-隅丸角状(やや外傾)/直立	0段多条LR縄文-LR・RL縄線文(1条)、0段多条LR・RL羽状縄文-0段多条RL斜行縄文-ナデ	砂粒少量・繊維中量	
				Q-6	Vc	1					
Ⅳ-17-48	47-48	JP042A	Ⅱ B3	T-4	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・外反-角状(やや外傾)/直立	0段多条LR・RL縄文羽状構成-LR・RL縄線文(2条)、0段多条LR・RL羽状縄文-ナデ	砂粒少量・繊維多量	
				S-4	V	1					
Ⅳ-17-49	47-49	JP043B	Ⅱ B3	S-6	Vc	2	深鉢/口縁	平縁・外反-隅丸角状(やや外傾)	0段多条LR縄線文-0段多条LR・RL縄線文(2条)、0段多条LR・RL羽状縄文-ナデ	砂粒・繊維中量	
Ⅳ-17-50	47-50	JP043A	Ⅱ B3	R-4	VbL	2	深鉢/胴下半	ほぼ直立～外傾	0段多条RL・L縄文羽状構成-ナデ	砂粒中量・繊維多量	
				R-2	Vc	1					
Ⅳ-17-51	47-51	JP044A	Ⅱ B3	U-4	VbU	1	深鉢/胴下半	外傾	0段多条LR・RL羽状縄文-ナデ	砂粒中量・繊維多量	
				S-4	Vc	3					
Ⅳ-17-52	47-52	JP045A	Ⅱ B3	R-4	Vc	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・外反-角状(外傾)/直立	0段多条LR・RL縄線文、LR斜行縄文-0段多条LR・RL縄線文(3条)、0段多条LR・RL羽状縄文-ナデ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-17-53	47-53	JP210A	Ⅱ B4	Q-6	VbL	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・外反-丸状/直立	RL縄文-無文/無文-ナデ	砂礫中量(蛇紋岩中量)	蛇紋岩土器,比重やや低い
Ⅳ-17-54	47-54	JP208A	Ⅱ B4	R-4	VbL	1	深鉢/胴上半	やや外傾	無文-内面剥落	砂礫中量(蛇紋岩少量)	蛇紋岩土器,比重やや低い
Ⅳ-17-55	47-55	JP048A	Ⅲ A1	R-4	Vc	1	深鉢/口縁	波状縁・外反-丸状	R撚糸圧痕文-貼付文+L撚糸圧痕文・RL縄圧痕文-強いミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-17-56	47-56	JP049B	Ⅲ A1	T-6	VbL	2	深鉢/口縁～胴上半	平縁・M字状突起・外反-隅丸外削ぎ切り出し状(肥厚)/直立	L撚糸圧痕文(斜位)-貼付文+L撚糸圧痕文(斜位)、L撚糸圧痕文(3条)+馬蹄形巻結圧痕文/結束第1種斜行縄文-強いミガキ	砂粒中量(石英結晶微量)・繊維微量	
Ⅳ-17-57	47-57	JP049A	Ⅲ A1	VH-01	1	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・M字状突起・外反-隅丸外削ぎ切り出し状(肥厚)/直立	L撚糸圧痕文(斜位)-貼付文+L撚糸圧痕文(斜位)、L撚糸圧痕文(3条)+馬蹄形巻結圧痕文/結束第1種斜行縄文-強いミガキ	砂粒中量(石英結晶微量)・繊維微量	補修孔
				S-6	VbL	1					
				T-6	VbM	1					
				T-6	VbL	1					
				VP-04	1	1					

表Ⅳ-15 縄文時代包含層出土土器属性表(4)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁ー口唇/胴部/底側面ー変換点ー底面	文様 **口唇ー口縁ー内面/胴部ー内面/底側面ー底面ー内面**	胎土	備考
Ⅳ-17-58	47-58	JP050A	ⅢA1	Q-5	VbL	1	深鉢/口縁	平縁(三角形肥厚)・外反-実状	貼付文+R燃糸圧痕文(斜位)+馬蹄形巻紐圧痕文-ミガキ/0段多条RL斜行縄文-ミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-17-59	47-59	JP051A	ⅢA1	Q-6	VbM	1	深鉢/口縁	波状縁・外反	貼付文+R燃糸圧痕文(斜位)+L燃糸圧痕文+馬蹄形巻紐圧痕文-ミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-17-60	47-60	JP054A	ⅢA1	T-6	Vb	1	深鉢/胴下半	ほぼ直立	0段多条結束第1種羽状縄文-ミガキ	砂粒中量	
Ⅳ-18-61	47-61	JP055A	ⅢA1	S-4	Vb	2	胴下半～底	やや膨らみをもって外反ー隅丸角状-平底	結束第1種羽状縄文-無文(弱いミガキ)-ミガキ	砂粒少量・繊維少量	
Ⅳ-18-62	48-62	JP060A	ⅢA2a	Q-5	VbM	2	深鉢/口縁～胴上半	平縁・山形突起・外反-丸状/外反	突起部分:棒状貼付文(下部垂下突出)、押引文、L・R結束第1種羽状縄文/押引文、L・R結束第1種羽状縄文---部弱いミガキ・ナデ	細砂粒やや多量・繊維微量	
				Q-5	VbL	3					
				Q-6	VbL	4					
Ⅳ-18-63	48-63	JP056A	ⅢA2b	VSB-01	VbU	1	深鉢/胴部上半	ほぼ直立	貼付文(交点ボタン状)+L・R燃糸圧痕文、爪形状巻紐圧痕文・条縄文、結束第1種羽状縄文-ミガキ	砂粒中量	
				R-5	VbL	1					
				R-5	Ⅵ	1					
Ⅳ-18-64	48-64	JP057B	ⅢA2b	T-4	VbM	1	深鉢/口縁	平縁・三角形状肥厚+山形小突起・外反-実状	突起下リング状貼付文+R燃糸文、斜位貼付文+R燃糸文、条縄文+押引文、LR斜行縄文-弱いミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-18-65	48-65	JP057A	ⅢA2b	U-6	Vc	1	深鉢/胴下半	やや外反	結束第1種羽状縄文-ミガキ	砂粒やや多量	
				U-6	VbL	1					
Ⅳ-18-66	48-66	JP058A	ⅢA2b	Q-5	VbM	1	深鉢/口縁	平縁・三角形状肥厚+山形小突起・外反-実状	突起下ボタン状貼付文、条縄文+押引き-ナデ	砂粒中量・繊維微量	
				Q-5	VbL	1					
Ⅳ-18-67	48-67	JP059A	ⅢA2b	S-4	Vb	1	深鉢/胴上半	直立	条縄文+押引文、貼付文+刻み、結束第1種羽状縄文-弱いミガキ	砂粒中量	
				S-5	VbU	1					
				S-5	VbL	1					
Ⅳ-18-68	48-68	JP061A	ⅢA2b	S-5	VbM	2	深鉢/口縁	平縁(三角形肥厚)・外反-実状	条縄文、0段多条結束第1種羽状縄文-弱いミガキ	砂粒中量	
				S-5	VbL	2					
Ⅳ-18-69	48-69	JP063A	ⅢA2a	VSB-01	VbU	1	深鉢/口縁	平縁・三角形肥厚・外反-実状	0段多条結束第1種斜行縄文-ミガキ	砂粒少量・繊維少量(種実痕跡有)	
				R-5	VbM	1					
Ⅳ-18-70	48-70	JP064A	ⅢA2a	S-5	Vc	1	深鉢/底	強い張り出し-実状-弱い上げ底	無節結束第1種羽状縄文/無文(強いミガキ)-弱いミガキ	砂粒やや多量・繊維微量	
Ⅳ-18-71	48-71	JP062A	ⅢA2a	Q-3	VbL	1	深鉢/口縁	平縁・台形状突起・やや外反-丸状	馬蹄形状圧痕文、0段多条結束第1種羽状縄文-弱いミガキ	砂粒やや多量・繊維微量	
Ⅳ-18-72	48-72	JP110A	ⅢA2a	R-6	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	波状縁・やや外反-角状(肥厚)/直立	刻み+棒状工具刺突文/0段多条LR斜行縄文-ヘラナデ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-18-73	48-73	JP068B	ⅢB1a	Q-5	VbU	1	深鉢/口縁	平縁・山形突起・外反-実状	貼付文+半裁竹管刺突文、0段多条結束第1種羽状縄文-強いミガキ	砂粒中量	補修孔
				R-5	VbU	1					

表Ⅳ-16 縄文時代包含層出土土器属性表(5)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 **口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面**	胎土	備考
Ⅳ-18-74	48-74	JP068A	Ⅲ B1a	S-6	V c	1	深鉢/口縁	平縁・外反-尖状	貼付文+半裁竹管刺突文、ボタン状貼付文+指頭圧痕文、0段多条結束第1種羽状縄文-強いミガキ	砂粒中量	
Ⅳ-18-75	48-75	JP069A	Ⅲ B1a	T-3	V bU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・山形?突起・やや外反-角状/ほぼ直立	指頭圧痕文/鋸歯状構成貼付文+指頭圧痕文(一部矢羽状構成)、結束第1種羽状縄文-強いミガキ	砂粒・繊維微量	
				R-5	V bU	1					
				R-5	V bM	2					
				S-5	V bM	1					
				R-6	V bU	2					
				R-6	V bM	1					
Ⅳ-18-76	48-76	JP069C	Ⅲ B1a	R-5	V c	2	深鉢/口縁～胴上半	突起下縦位貼付帯(剥落)	突起下縦位貼付文、横位貼付文+指頭圧痕文-内面剥落	砂粒・繊維微量	
Ⅳ-18-77	48-77	JP069B	Ⅲ B1a	R-5	V bL	1	深鉢/胴上半	直立	鋸歯状構成貼付文+指頭圧痕(爪形文-一部矢羽状構成)、結束第1種羽状縄文-強いミガキ	砂粒・繊維微量	
Ⅳ-18-78	48-78	JP071A	Ⅲ B1a	T-5	V bL	1	深鉢/口縁	波状縁・外反-角状(貼付帯肥厚)	貼付文+指頭圧痕文(鋸歯状構成)-強いミガキ	砂粒少量・繊維微量	
Ⅳ-18-79	48-79	JP073A	Ⅲ B1a	U-5	V bM	1	深鉢/口縁	波状縁・外反-丸状	貼付文+指頭圧痕文(爪形状)-弱いミガキ	砂粒少量・繊維微量	
Ⅳ-18-80	48-80	JP070D	Ⅲ B1a	R-6	V bU	1	深鉢/口縁	平縁・山形突起・やや外反-丸状	突起頂部/圧痕文/貼付文+刺突文(矢羽状構成)、0段多条結束第1種羽状縄文-ミガキ	砂粒やや多量	
Ⅳ-18-81	48-81	JP070A	Ⅲ B1a	Q-6	V c	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・山形突起・やや外反-丸状/ほぼ直立	貼付文+刺突文(矢羽状構成・交点はボタン状)、0段多条結束第1種羽状縄文-ミガキ	砂粒やや多量	補修孔
				Q-6	Ⅵ	1					
				R-6	V bM	1					
				R-6	V bL	2					
Ⅳ-18-82	48-82	JP070C	Ⅲ B1a	Q-6	V bU	3	深鉢/胴	ほぼ直立	貼付文+刺突文(矢羽状構成)、0段多条結束第1種羽状縄文-ミガキ・ナデ	砂粒やや多量	
				R-6	V bM	2					
				R-6	V bL	3					
Ⅳ-18-83	48-83	JP070B	Ⅲ B1a	R-6	V bM	3	深鉢/胴下半～底	外傾/張り出し-丸状-平底	0段多条結束第1種羽状縄文-ナデ/無文(強いミガキ)	砂粒やや多量	
				R-6	V bL	2					
Ⅳ-18-84	48-84	JP072B	Ⅲ B1a	Q-2	V bU	1	深鉢/口縁	波状縁・外反-丸状	貼付文+半裁竹管沈線文(内面)、結束第1種羽状縄文-ミガキ	砂粒少量・繊維微量	
Ⅳ-18-85	48-85	JP072A	Ⅲ B1a	T-5	V bL	1	深鉢/胴上半	直立	貼付文+半裁竹管沈線文(内面・鋸歯状構成)、結束第1種羽状縄文-部分的なミガキ	砂粒少量・繊維微量	
Ⅳ-18-86	48-86	JP074A	Ⅲ B1a	R-5	V bM	1	深鉢/口縁～胴上半	波状縁・外反-三角形状(肥厚)・尖状/外反	LR縄側面圧痕/LR斜行縄文-ナデ	砂粒少量・繊維微量	
				R-6	V c	1					
Ⅳ-19-87	49-87	JP076A	Ⅲ B1b	Q-4	V bU	1	深鉢/口縁～胴下半	波状縁・外反-三角形状(肥厚)・尖状/直立～内湾気味に外反	0段多条結束第1種羽状縄文/棒状貼付文(剥落)+半裁竹管刺突文、0段多条結束第1種羽状縄文-ミガキ	砂粒やや多量・繊維微量	
				Q-5	V bM	1					
				Q-5	V c	1					
				Q-6	V bL	1					

表Ⅳ-17 縄文時代包含層出土土器属性表(6)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面	胎土	備考
Ⅳ-19-88	49-88	JP080A	ⅢB1b	R-4	VbL	1	深鉢/胴上半	外傾	貼付文+半裁竹管刺突文、結束第1種0段多条LR斜行縄文-部分的なミガキ	砂粒やや多量・繊維微量	
				Q-5	VbL	1					
				R-6	VbL	1					
Ⅳ-19-89	49-89	JP080B	ⅢB1b	Q-4	VbU	1	深鉢/胴上半	やや内湾気味に外反	貼付文+半裁竹管刺突文、0段多条LR斜行縄文-部分的なミガキ	砂粒やや多量・繊維微量	
				Q-4	VbM	1					
Ⅳ-19-90	49-90	JP111A	ⅢB1b	U-5	Vc	1	深鉢/胴下半	外傾	0段多条結束第1種LR斜行縄文-部分的に弱いミガキ	砂粒中量・繊維少量	
Ⅳ-19-91	49-91	JP079B	ⅢB1b	S-5	VbU	1	深鉢/胴上半	やや外反	貼付文+半裁竹管刺突文・押引文、結束第1種0段多条LR斜行縄文-強いミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-19-92	49-92	JP079A	ⅢB1b	R-5	VbU	1	深鉢/胴下半	外傾	半裁竹管沈線文(内面)、結束第1種斜行縄文-強いミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-19-93	49-93	JP077A	ⅢB1b	R-3	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	波状縁・外反-丸状	貼付文+半裁竹管刺突文(羽状構成)-ミガキ	砂粒中量・繊維少量	
				R-3	VbL	1					
Ⅳ-19-94	49-94	JP075A	ⅢB1b	U-4	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	波状縁・外反-三角形状(肥厚)・尖状/直立	半裁竹管刺突文、沈線文/貼付文+半裁竹管刺突文、貼付文+半裁竹管沈線文(内面・鋸歯状構成)、0段多条LR斜行縄文-ミガキ?(風化顕著)	砂粒中量・繊維微量	
				U-4	VbL	2					
Ⅳ-19-95	49-95	JP081A	ⅢB1b	R-4	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	波状縁・外反-角状(肥厚・外傾)	波頂部分:貼付文+半裁竹管刺突文、半裁竹管刺突文・貼付文+半裁竹管刺突文/縦位棒状貼付文+半裁竹管刺突文、0段多条LR斜行縄文-部分的に弱いミガキ	砂粒中量・繊維微量	
				Q-4	VbM	2					
				Q-4-2	VbU	1					
Ⅳ-19-96	49-96	JP082A	ⅢB1b	Q-4	VbL	2	深鉢/口縁～胴上半	棒状突起・外反	突起部分:貼付文+半裁竹管刺突文(内面)-R斜行縄文/縦位棒状貼付文+半裁竹管刺突文、貼付文+半裁竹管刺突文、0段多条LR斜行縄文-ミガキ	砂粒・繊維少量	
Ⅳ-19-97	49-97	JP091A	ⅢB1b	U-4	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・棒状突起・外反-三角形状肥厚・尖状/外反	半裁竹管沈線文(内面)-0段多条LR斜行縄文/突起下棒状貼付文+半裁竹管沈線文(内面)、半裁竹管沈線文(内面)、0段多条LR斜行縄文-0段多条LR斜行縄文、ミガキ	砂粒少量・繊維微量	
				U-4	VbM	1					
				U-4	VbL	1					
Ⅳ-19-98	49-98	JP090A	ⅢB1b	T-5	Vb	1	深鉢/口縁	棒状突起-丸状(肥厚)	半裁竹管刺突文-沈線文(半裁竹管内面)-0段多条LR横走縄文	砂粒中量	
Ⅳ-19-99	49-99	JP089A	ⅢB1b	Q-5	VbL	1	深鉢/口縁	波状縁・外反-三角形状(肥厚)	突起部分:半裁竹管沈線文(内面)、半裁竹管刺突文(2列)、LR斜行縄文-ナデ	砂粒少量・繊維微量	
				Q-5	VbU	1					

表Ⅳ-18　縄文時代包含層出土土器属性表(7)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁ー口唇/胴部/底側面ー変換点ー底面	文様 **口唇ー口縁ー内面/胴部ー内面/底側面ー底面ー内面**	胎土	備考
Ⅳ-19-100	49-100	JP084A	Ⅲb1b	U-6	Vb	2	口縁～胴上半	波状縁・棒状突起・外反-三角形状(肥厚)・尖状/直立	突起部分:貼付文+半裁竹管押引文(内面)、RL斜行縄文(絞り)、半裁竹管刺突文(2列)、縦位棒状貼付文+半裁竹管刺突文・沈線文/貼付文+半裁竹管刺突文、RL斜行縄文(絞り)-ナデ	砂粒中量	
				U-6	Vc	1					
Ⅳ-19-101	49-101	JP084B	Ⅲb1b	U-5	Vc	1	深鉢/口縁～胴上半	やや外傾	貼付文+半裁竹管押引文(内面)、RL斜行縄文(絞り)-弱いミガキ	砂粒中量・繊維微量	二次被熱破片
Ⅳ-19-102	49-102	JP083C	Ⅲb1b	U-4	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	波状縁・外反-三角形状(肥厚)・尖状/直立	半裁竹管刺突文(3列)/貼付文+半裁竹管刺突文(内面・外面)、LR斜行縄文-弱いミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-19-103	49-103	JP083A	Ⅲb1b	S-3	VbU	1	深鉢/胴上半	直立～外反(内湾気味)	貼付文+半裁竹管刺突文、0段多条LR斜行縄文-ミガキ	砂粒・繊維少量	
				T-5	VbL	1					
Ⅳ-19-104	49-104	JP083B	Ⅲb1b	T-4	VbU	2	深鉢/胴下半	直立～外反(内湾気味)	貼付文+半裁竹管刺突文、0段多条LR斜行縄文-ミガキ	砂粒・繊維少量	
Ⅳ-19-105	49-105	JP087A	Ⅲb1b	U-5	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	波状縁・外反-三角形状(肥厚)・尖状/直立	半裁竹管刺突文、縦位貼付文+半裁竹管沈線文(内面)/貼付文+半裁竹管押引文(内面)、LR斜行縄文-弱いミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-19-106	49-106	JP088A	Ⅲb1b	S-4	VbL	1	深鉢/口縁～胴上半	波状縁・外反-三角形状(肥厚)・尖状/直立	半裁竹管刺突文(2列)/LR斜行縄文-弱いミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-20-107	49-107	JP092A	Ⅲb1b	U-4	VbU	3	深鉢/口縁～胴上半	平縁・山形突起・ほぼ直立-三角形状肥厚(剥落)・尖状/直立	半裁竹管押引文-無文帯、半裁竹管沈線文(内面・2条1対)、0段多条LR斜行縄文-部分的に弱いミガキ	砂粒中量・繊維微量	
				U-5	VbL	1					
				U-4-2	VbL	1					
Ⅳ-20-108	49-108	JP092B	Ⅲb1b	U-4	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外反-三角形状肥厚(剥落)・尖状/ほぼ直立	半裁竹管沈線文(内面・2条1対)、半裁竹管刺突文、0段多条LR斜行縄文-部分的に弱いミガキ	砂粒中量・繊維微量	
				U-4	VbM	1					
				U-4	Vc	1					
Ⅳ-20-109	49-109	JP101A	Ⅲb1b	Q-4	VbL	1	深鉢/口縁	波状縁・外反-三角形状肥厚・尖状	LR斜行縄文、貼付文、円形竹管刺突文-部分的なミガキ	砂粒微量・繊維少量	
				Q-6	VbL	1					
Ⅳ-20-110	49-110	JP101B	Ⅲb1b	Q-6	VbL	1	深鉢/胴下半	ほぼ直立	LR斜行縄文-弱いミガキ	砂粒微量・繊維少量	
				Q-5	VbL	1					
Ⅳ-20-111	49-111	JP085A	Ⅲb1b	S-6	Vc	2	深鉢/胴上半	やや外反	貼付文+半裁竹管刺突文・押引文(内面)、0段多条LR斜行縄文-弱いミガキ	砂粒微量・繊維微量	
Ⅳ-20-112	50-112	JP094B	Ⅲb1b	Q-3	VbM	1	深鉢/口縁	平縁・山形突起、外反-隅丸三角形状肥厚(貼付文)	半裁竹管刺突文-貼付文+半裁竹管押引文、RL斜行縄文-ミガキ	砂粒中量・繊維微量	
				Q-3	VbL	1					
Ⅳ-20-113	50-113	JP094C	Ⅲb1b	Q-3	VbU	1	深鉢/口縁	平縁・山形突起、外反-隅丸三角形状肥厚(貼付文)	半裁竹管刺突文-貼付文+半裁竹管押引文(羽状構成)、RL斜行縄文-ミガキ	砂粒中量・繊維微量	

表Ⅳ-19 縄文時代包含層出土土器属性表(8)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 **口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面**	胎土	備考
Ⅳ-20-114	50-114	JP094A	ⅢB1b	Q-3	VbL	3	深鉢/胴上半	ほぼ直立	Y字状貼付文+棒状貼付文+半裁竹管刺突文(羽状構成)、半裁竹管沈線文(内面・2条1対)、RL,LR斜行縄文-ミガキ	砂粒中量・繊維微量	
				Q-3	Vc	1					
Ⅳ-20-115	50-115	JP095X	ⅢB1b	Q-3	VbU	1	深鉢/胴上半～下半	直立～膨らみをもって外反	半裁竹管沈線文(外面)、貼付文+半裁竹管押引文、RL斜行縄文-部分的なミガキ	砂粒中量・繊維少量	
				Q-3	Vb	1					
				Q-3	VbL	1					
				R-3	VbM	1					
				R-5	VbL	1					
Ⅳ-20-116	50-116	JP098A	ⅢB1b	T-4	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	波状縁・外反-三角形状肥厚・尖状	半裁竹管刺突文、縦位貼付文+半裁竹管刺突文/LRL斜行縄文-ミガキ	砂粒少量・繊維微量	
Ⅳ-20-117	50-117	JP099A	ⅢB1b	U-5	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外反・山形突起?-三角形状肥厚・尖状/直立	RLR斜行縄文/RLR斜行縄文-部分的なミガキ	砂粒少量・繊維微量	突起基部残存
Ⅳ-20-118	50-118	JP104A	ⅢB1b	T-6	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・棒状突起・直立～突起部やや外反-三角形状肥厚・尖状～角状/直立	突起部分・貼付文+半裁竹管状刺突文、刺突文/突起下棒状貼付文+半裁竹管状工具刺突文、貼付文+刺突文(鉤歯状構成)、LR斜行縄文-弱いミガキ	砂粒少量・繊維微量	
				T-6	VbL	1					
				R-6	Vc	1					
Ⅳ-20-119	50-119	JP096A	ⅢB1b	Q-4	VbL	1	深鉢/口縁	平縁・棒状突起、外反-隅丸三角形状肥厚	突起部分:貼付文+円形刺突文、円形刺突列(2列)、突起下部棒状貼付文+円形刺突文、貼付文+竹管押引文、竹管押引文(突起-棒状貼付文垂下)、LR斜行縄文-部分的なミガキ	砂粒少量・繊維微量	
Ⅳ-20-120	50-120	JP096B	ⅢB1b	S-3	Ⅵ	2	深鉢/胴上半	ほぼ直立	半裁竹管押引文(2条1対・外面)、LR斜行縄文-ミガキ	砂粒少量・繊維微量	二次被熱破片
Ⅳ-20-121	50-121	JP103A	ⅢB1b	T-5	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・ほぼ直立・棒状突起-三角形状(肥厚)・尖状/直立	突起頂部:円形竹管刺突文、円形刺突文、棒状貼付文・半裁竹管(内面)刺突文-棒状貼付文+半裁竹管(内面)刺突文/貼付文+円形竹管刺突文、0段多条LR斜行縄文-ミガキ	細砂粒中量・繊維微量	
				T-5	Vb	1					
				T-5	VbL	2					
Ⅳ-20-122	50-122	JP106A	ⅢB1b	R-6	Vc	1	深鉢/口縁	波状縁・外反-三角形状肥厚・尖状	突起部分:リング状貼付文+刺突文、円形竹管文刺突文、棒状貼付文+円形竹管文刺突文-ヘラナデ→弱いミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-20-123	50-123	JP102B	ⅢB1b	S-5	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外反・山形突起(棒状貼付文)-隅丸角状(貼付文・肥厚)/直立	突起部分:棒状貼付文+半裁竹管刺突文/貼付文+半裁竹管刺突文、0段多条LR斜行縄文-ナデ	砂粒少量・繊維微量	
				T-5	VbM	1					
				T-5	VbL	1					

表Ⅳ-20　縄文時代包含層出土土器属性表(9)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 **口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面**	胎土	備考
Ⅳ-20-124	50-124	JP102A	Ⅲb1b	R-6	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・直立-隅丸角状(貼付文・肥厚)/直立	貼付文+縦位貼付文+半裁竹管刺突文/貼付文+半裁竹管刺突文、半裁竹管刺突文(縦位,横位区画列),0段多条LR斜行縄文-ナデ	砂粒少量・繊維微量	
				T-6	VbM	1					
				T-6	VbL	1					
Ⅳ-20-125	50-125	JP108A	Ⅲb1b	U-4	VbL	2	深鉢/口縁～胴上半	波状縁・やや外反-三角形状肥厚・実状	半裁竹管状工具刺突文-波頂部下棒状貼付文、半裁竹管刺突文、LR斜行縄文-ミガキ	細砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-20-126	50-126	JP108B	Ⅲb1b	S-3	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	波状縁・やや外反-三角形状肥厚・実状	半裁竹管状工具刺突文-波頂部下棒状貼付文、半裁竹管刺突文、LR斜行縄文-ミガキ	細砂粒中量・繊維微量	
				U-5	VbM	1					
Ⅳ-20-127	50-127	JP119A	Ⅲb1b	R-5	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・山形突起・突起部外反・他はほぼ直立-三角形状肥厚・隅丸角状/ほぼ直立	竹管状工具押引文-突起頂部垂下棒状貼付文+竹管状工具刺突文、LR斜行縄文-ナデ	砂粒多量・繊維微量	
Ⅳ-21-128	50-128	JP109A	Ⅲb1b	S-4	Vb	2	深鉢/口縁～胴上半	平縁・山形突起-角状	半裁竹管刺突文-棒状貼付文+半裁竹管刺突文(地文施文後貼付・剥落)、沈線文、R斜行縄文+RL斜行縄文-弱いミガキ	砂粒少量・繊維微量	
Ⅳ-21-129	50-129	JP114A	Ⅲb1b	U-5	Vc	1	深鉢/口縁	波状縁・外反-三角形状(肥厚)・隅丸角状	円形竹管文、無文地-ナデ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-21-130	50-130	JP116A	Ⅲb1b	R-5	VbM	2	深鉢/底	張り出し-角状-やや上げ底	無文(ナデ)-無文(ナデ)-ナデ	砂粒中量・繊維微量	
				R-5	VbL	1					
Ⅳ-21-131	50-131	JP117A	Ⅲb1b	T-5	VbL	1	深鉢/底	張り出し-隅丸角状-やや上げ底	無文(ミガキ)-無文(ミガキ)-ナデ	砂粒中量	
Ⅳ-21-132	50-132	JP200A	Ⅲb1b	T-6	VbM	2	深鉢/胴下半～底	外傾/直立-隅丸角状-平底	0段多条LR斜行縄文-ナデ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-21-133	50-133	JP112A	Ⅲb1b	T-5	Vc	1	深鉢/底	ほぼ直立-隅丸角状-やや上げ底	LR斜行縄文-LR斜行縄文-ナデ	砂粒やや多量・繊維微量	
Ⅳ-21-134	51-134	JP126B	Ⅲb2	S-6	VbU	3	深鉢/口縁～胴上半	平縁・山形突起(肥厚)・外反-尖状～丸状(肥厚)/ほぼ直立	0段多条LR縄線文、0段多条LR斜行縄文-ヘラナデ	砂粒多量・繊維少量	二次被熱破片検合
Ⅳ-21-135	51-135	JP126A	Ⅲb2	T-5	VbL	1	深鉢/胴下半	膨らみをもって外反	0段多条LR斜行縄文-ナデ	砂粒やや多量・繊維中量	
				S-6	VbU	3					
				S-6	VbM	2					
				S-6	VbM	1					
				S-6	VbL	1					
Ⅳ-21-136	51-136	JP127A	Ⅲb2	S-4	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・外反-丸状	貼付文+LR縄線文+LR縄原体刻み、LR斜行縄文-ヘラナデ	細砂粒やや多量・繊維少量	
				S-4	Vb	1					
				S-4	Vc	1					
				T-4	Vc	1					
Ⅳ-21-137	51-137	JP124A	Ⅲb2	Q-4	VbL	1	深鉢/口縁～胴下半	平縁・ほぼ直立-隅丸角状/外傾	ヘラ状工具刺突文-無文、貼付文+RR縄原体刻み、0段多条RL斜行縄文+RR斜行縄文-部分的に弱いミガキ	砂粒微量・繊維微量	
				Q-4	Vc	4					
				Q-4-4	VbL	1					
Ⅳ-21-138	51-138	JP128A	Ⅲb2	U-5	VbU	2	深鉢/口縁～胴上半	直立/緩く内湾	0段多条LR縄線文、0段多条LR斜行縄文-ヘラナデ	細砂粒やや多量・繊維中量	二次被熱片検合

表Ⅳ-21 縄文時代包含層出土土器属性表(10)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	**口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面**		
Ⅳ-21-139	51-139	JP130B	ⅢB2	T-5	VbM	2	深鉢/口縁	平縁・山形突起(頂部肥厚・内傾)・外反-隅丸角状・突起頂部は隅丸切出し状(外削ぎ)	突起部分:LR縄原体刻み、平縁部分:半裁竹管状工具刺突文-0段多条LR斜行縄文+付加条R結節回転文(2条1対)-ヘラナデ	砂粒少量・繊維中量	地文施文後に山形突起付加成形
Ⅳ-21-140	51-140	JP130BQ	ⅢB2	T-5	VbU	1	深鉢/口縁	平縁・外反-隅丸角状	半裁竹管状工具刺突文-0段多条LR斜行縄文+付加条R結節回転文(2条1対)-ヘラナデ	砂粒少量・繊維少量	
				T-5	VbM	1					
				T-5-3	VbM	1					
Ⅳ-21-141	51-141	JP130A	ⅢB2	T-5	VbM	3	深鉢/口縁～胴上半	平縁・外反-隅丸角状/ほぼ直立～やや内湾	LR縄原体刻み-0段多条LR斜行縄文+付加条R結節回転文(2条1対)-ヘラナデ	砂粒少量・繊維中量	地文施文は底部から口縁部への折り、底部縄文は目話されず無く縄文の節が明瞭、口縁部は原体への粘土付着による目話されず地文縄文の節が不明瞭。
				T-5	VbL	4					
				T-5	Vc	4					
Ⅳ-21-142	51-142	JP130BP	ⅢB2	R-4	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・緩く外反-隅丸角状/直立	刻み(R縄原体)-付加条R結節回転文(2条1対)+0段多条LR斜行縄文/付加条L結節回転文(2条1対)+0段多条LR斜行縄文-ヘラナデ	砂粒中量・繊維少量	内面-ヘラナデ調整痕顕著
				T-5	VbM	3					
				T-5	VbL	11					
				T-5	Vc	2					
				U-5	Vb	2					
Ⅳ-22-143	51-143	JP130C	ⅢB2	U-4	VbU	2	深鉢/胴下半～底	外反/やや張り出し	0段多条LR斜行縄文+付加条R結節回転文(2条1対)-ナデ	砂粒微量・繊維少量	
Ⅳ-22-144	51-144	JP130D	ⅢB2	U-5	ⅢcL	1	深鉢/底	直立-隅丸角状-やや上げ底	付加条R結節回転文+0段多条LR斜行縄文-ナデ(大部分は内面剥落)	砂粒少量・繊維少量	
Ⅳ-22-145	51-145	JP120A	ⅢB2	U-4	VbU	1	深鉢/口縁	平縁・外反-丸状(やや肥厚)	竹管状工具刺突文、0段多条LR斜行縄文-ミガキ	砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-22-146	51-146	JP121A	ⅢB2	R-5	VbU	1	深鉢/口縁	平縁・直立-角状	刺突文,0段多条RL斜行縄文-ナデ	砂粒やや多量	
				R-6	VbM	1					
Ⅳ-22-147	51-147	JP139A	ⅢB2	VH-01	1	1	深鉢/口縁	平縁・外反-角状	刻み-ボタン状貼付文(剥落)+刺突文,刺突文,結束第1種羽状縄文-ヘラナデ	砂粒やや多量	胎土,焼成,地文とも類似の可能性あり
Ⅳ-22-148	52-148	JP136A	ⅢB2	Q-3	VbU	1	深鉢/口縁～胴下半	平縁やや外反-三角形状肥厚・尖状/外傾	押引文/0段多条RL斜行縄文-ナデ	砂粒中量・繊維微量	
				R-3	VbU	2					
				S-3	VbM	1					
				Q-4	VbU	2					
				Q-4	VbM	1					
				R-4	VbU	2					
				R-4	VbM	4					
				R-4	VbL	1					

表Ⅳ-22　縄文時代包含層出土土器属性表(11)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面	胎土	備考
Ⅳ-22-149	52-149	JP207E	ⅢB2	S-4	Vb	3	深鉢/胴上半～下半	直立/外傾	RL斜行縄文-ナデ	砂粒中量・繊維微量	
				S-4	VbU	6					
				S-4	VbM	4					
				S-4	Vc	1					
Ⅳ-22-150	52-150	JP204A	ⅢB2	S-5	Vb	1	深鉢/底	外傾/張り出し-隅丸角状-平底	RL斜行縄文/無文-ナデ	砂粒中量	
Ⅳ-22-151	52-151	JP135A	ⅢB2	R-4	VbM	1	深鉢/胴下半～底	外傾/張り出し-隅丸角状-平底	RL斜行縄文/RL斜行縄文-無文-ナデ	砂粒中量・繊維少量	
Ⅳ-22-152	52-152	JP138A	ⅢB2	U-4	VbM	3	深鉢/胴下半	外傾	R縦走縄文-ヘラナデ(調整痕顕著)	砂粒少量・繊維微量	
				U-5	VbU	1					
Ⅳ-22-153	52-153	JP129A	ⅢB2	T-5	Vb	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・山形突起(肥厚)やや外反-三角形状(肥厚)・角状	突起部分:無文、絡条体L撚糸L巻き横走回転文/縦走+横走回転文-横走回転文	細砂粒中量・繊維微量	地文施文後に山形突起付加成形
				R-4	VbL	1					
Ⅳ-22-154	52-154	JP129B	ⅢB2	T-5	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外反-三角形状(肥厚)・尖状	絡条体L撚糸L巻き横走回転文/縦走回転文-横走回転文	細砂粒中量・繊維微量	
Ⅳ-22-155	52-155	JP133A	ⅢB2	T-6	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・外反-隅丸角状/直立	半裁竹管押引文-無文(ナデ)-ナデ	砂礫中量・繊維微量	
				S-5	VbL	1					
Ⅳ-22-156	52-156	JP134A	ⅢB2	S-3	Vb	1	深鉢/底	外傾-丸状-やや凸状の平底	無文(ナデ)	砂粒中量	
				S-5	Vb	1					
Ⅳ-22-157	52-157	JP137J	ⅢB2	R-3	VbL	1	深鉢/口縁～胴下半	平縁・直立-隅丸角状/ほぼ直立～外傾	肥厚帯+無文帯(凹帯)+刺突文,0段多条LR斜行縄文/0段多条LR斜行縄文-ナデ	砂粒(極多量(石英結晶多量・雲母微量)・繊維微量	富良野盆地系
				R-4	VbU	4					
				R-4	VbM	1					
Ⅳ-22-158	52-158	JP166A	ⅢB2	S-4	VbL	1	深鉢/胴下半	外傾	0段多条RL斜行縄文-ナデ	砂粒少量(石英結晶少量)・繊維多量	富良野盆地系
Ⅳ-22-159	52-159	JP141A	ⅢB3	S-4	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・外反-三角形状肥厚・角状/直立～やや窄まむ	刺突文+0段多条RL縄文-棒状貼付文+押引文+0段多条RL斜行縄文/OI刺突文,0段多条RL・LR結束第2種羽状縄文-ナデ(成形時指頭圧痕顕著)	砂粒中量(石英結晶中量・凝灰岩少量・褐鉄鉱微量)	富良野盆地系
				S-6	VbM	2					
				S-6	VbL	1					
				U-6	VbL	1					
Ⅳ-22-160	52-160	JP141B	ⅢB3	S-4	Vb	1	深鉢/胴下半	外反	0段多条RL・LR結束第2種羽状縄文-ナデ	砂粒中量(石英結晶少量・凝灰岩少量)	富良野盆地系
				T-4	VbU	1					
				T-5	Vc	1					
Ⅳ-22-161	52-161	JP157C	ⅢB3	T-4	Vb	1	深鉢/口縁	平縁・山形突起・外反-角状	突起頂部:刺突文-肥厚帯+押引文,OI刺突文,貼付文+押引文、結束第2種羽状縄文-ヘラナデ	砂粒やや多量	
Ⅳ-22-162	52-162	JP157P	ⅢB3	T-4	VbU	1	深鉢/胴上半	やや外傾	貼付文+押引文,ボタン状貼付文,結束第2種羽状縄文-ヘラナデ	砂粒やや多量	
Ⅳ-22-163	52-163	JP157A	ⅢB3	S-6	VbM	2	深鉢/胴上半～下半	やや外傾	貼付文+押引文、結束第2種羽状縄文-ヘラナデ	砂粒やや多量	
Ⅳ-23-164	52-164	JP157B	ⅢB3	T-6	VbM	3	深鉢/胴下半	外傾	第2種羽状縄文(一部縦回転施文)-ヘラナデ	砂粒やや多量	

表Ⅳ-23 縄文時代包含層出土土器属性表(12)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 **口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面**	胎土	備考
Ⅳ-23-165	53-165	JP156A	Ⅲ B3	R-5	VbU	2	深鉢/口縁～胴上半	平縁・山形突起(2個1対)・外反-三角形状肥厚・丸状/やや外反～直立	突起部分:押引文,押引文,RL斜行縄文/OI刺突文,貼付文+押引文,0段多条LR・RL結束第1種羽状縄文-ナデ	砂粒中量	
				R-6	VbM	11					
				R-6	VbL	1					
Ⅳ-23-166	53-166	JP158A	Ⅲ B3	Q-4	VbM	3	深鉢/口縁～胴上半	平縁・山形突起・突起部外反・他はほぼ直立-切出し状(内削ぎ)/ほぼ直立	押引文,OI刺突文/貼付文+押引文,0段多条結束第1種羽状縄文-ナデ	砂粒中量	
				Q-4-2	VbL	1					
Ⅳ-23-167	53-167	JP158B	Ⅲ B3	Q-3	Vc	1	深鉢/胴上半	やや外傾	貼付文+押引文,0段多条結束第1種羽状縄文-ナデ	砂粒中量	
Ⅳ-23-168	53-168	JP160C	Ⅲ B3	R-5	VbM	3	深鉢/胴上半	やや外反	貼付文+押引文,0段多条LR斜行縄文-ヘラナデ	砂粒やや多量・繊維微量	
				R-5	VbU	1					
Ⅳ-23-169	53-169	JP160B	Ⅲ B3	R-6	VbM	1	深鉢/胴下半	外傾	0段多条第1種結束羽状縄文-ヘラナデ	砂粒やや多量・繊維微量	
Ⅳ-23-170	53-170	JP155D	Ⅲ B3	R-3	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・三角形状肥厚・外反-丸状	半截竹管状刺突文/無文帯+OI刺突文,刺突文-ナデ	砂粒中量	
Ⅳ-23-171	53-171	JP155G	Ⅲ B3	Q-4	VbU	1	深鉢/胴上半	ほぼ直立	刺突文(2条1対区画帯),結束第1種羽状縄文-ヘラナデ	砂粒中量	
				Q-3	VbL	1					
Ⅳ-23-172	53-172	JP155C	Ⅲ B3	Q-3	VbU	1	深鉢/胴下半	外傾	結束第1種羽状縄文-ヘラナデ	砂粒中量	
				R-3	VbU	1					
				R-3	Vc	1					
Ⅳ-23-173	53-173	JP159E	Ⅲ B3	S-6	VbM	1	深鉢/口縁	平縁・外反-角状	押引文-OI刺突文,無文帯,貼付文+押引文-ナデ	砂粒中量	
Ⅳ-23-174	53-174	JP159D	Ⅲ B3	T-6	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	外反/直立	OI刺突文,無文帯,貼付文+押引文/0段多条LR斜行縄文-0段多条LR斜行縄文+付加条1?縄原体(縦回転・横回転施文により羽状構成	砂粒中量	
Ⅳ-23-175	53-175	JP159A	Ⅲ B3	S-5	VbM	1	深鉢/胴上半	やや外反～ほぼ直立	貼付文+押引文(剥落),0段多条LR斜行縄文+付加条1?縄原体+0段多条LR斜行縄文+縄端付加条1結縛痕(縦回転・横回転施文)・ナデ・部分的に細密条痕	砂粒中量	
				S-5	Vc	1					
Ⅳ-23-176	53-176	JP159B	Ⅲ B3	S-5	VbM	1	深鉢/胴上半	直立	貼付文+押引文(2条1対区画文・剥落),0段多条LR斜行縄文+付加条1?縄原体-ナデ・部分的に細密条痕	砂粒中量	
				S-5	VbL	1					
				T-6	VbU	1					
				S-6	VbU	1					
Ⅳ-23-177	53-177	JP159C	Ⅲ B3	R-5	Ⅲ bL	1	深鉢/胴下半	外傾	0段多条LR斜行・一部横走縄文+付加条1?縄原体-ナデ・部分的に細密条痕	砂粒中量	
				R-6	VbL	1					
				R-6	Vc	2					
Ⅳ-23-178	53-178	JP149A	Ⅲ B3	T-5	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外反-三角形状肥厚・実状	押引文,無文/OI刺突文,L斜行縄文-ナデ	砂粒やや多量	

表Ⅳ-24　縄文時代包含層出土土器属性表(13)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 **口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面**	胎土	備考
Ⅳ-23-179	53-179	JP153A	Ⅲ B3	S-6	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・三角形状肥厚・ほぼ直立-丸状/直立～やや外傾	刺突文-刺突文,0段多条LR斜行縄文/OI刺突文,0段多条LR斜行縄文-ナデ	砂粒中量	
				R-6	VbM	1					
				R-6	VbL	1					
Ⅳ-23-180	53-180	JP146A	Ⅲ B3	R-3	VbU	2	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外反-三角形状肥厚・尖状	刻み,OI刺突文,無文帯/R斜行縄文-ヘラナデ	砂粒中量	
				S-4	VbL	2					
				T-4	VbU	1					
				S-5	VbM	1					
				S-5	Vc	1					
Ⅳ-23-181	53-181	JP152A	Ⅲ B3	U-5	VbU	1	深鉢/口縁～胴下半	平縁・外反-隅丸角状～丸状	指頭圧痕,OI刺突文/L斜行縄文-ナデ	砂粒少量・繊維少量	
				T-6	VbU	1					
				U-6	VbL	1					
				U-6	Vc	1					
				VH-01	1	1					
Ⅳ-23-182	53-182	JP150A	Ⅲ B3	S-4	Vb	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・三角形状肥厚・外反-尖状	0段多条LR斜行縄文/OI刺突文,0段多条LR斜行縄文-ナデ・LR斜行縄文(縦回転施文)	砂粒微量・繊維微量	
Ⅳ-23-183	53-183	JP151A	Ⅲ B3	T-5	VbL	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・三角形状肥厚・外反-丸状	R斜行縄文-R斜行縄文/OI刺突文,R斜行縄文-ナデ	砂礫多量	風化顕著
Ⅳ-23-184	53-184	JP162A	Ⅲ B3	S-4	Vb	1	深鉢/胴下半	外傾	0段多条LR斜行縄文+付加条R結節回転文-ナデ	砂粒中量・繊維微量	
				Q-4	VbL	1					
Ⅳ-23-185	53-185	JP161A	Ⅲ B3	R-3	VbL	1	深鉢/胴上半	やや外反	OI刺突文,無節結束第1種羽状縄文-ナデ	砂礫やや多量	二次被熱破片
Ⅳ-24-186	54-186	JP143A	Ⅲ B3	Q-3	Vb	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外反-隅丸角状肥厚/外傾	刺突文-OI刺突文,無文帯/LR斜行縄文-ヘラナデ	砂粒極多量(石英結晶多量・雲母微量)	富良野盆地系
				R-3	VbM	1					
				S-3	VbU	1					
				R-4	VbU	1					
				S-4	Vb	1					
				S-4	Vc	1					
Ⅳ-24-187	54-187	JP140A	Ⅲ B3	S-6	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外反-隅丸角状	前々段反撚RLL斜行縄文-押引文,OI円形刺突文,前々段反撚RLL斜行縄文-ナデ	砂粒極多量(石英結晶多量)	富良野盆地系
				Q-6	Vc	1					
Ⅳ-24-188	54-188	JP140B	Ⅲ B3	S-6	Va	1	深鉢/胴上半	外傾	前々段反撚RLL斜行縄文-ナデ	砂粒極多量(石英結晶多量)・繊維微量	富良野盆地系
Ⅳ-24-189	54-189	JP167B	Ⅲ B3	T-4	Vb	1	深鉢/胴下半	外傾	0段多条結束第1種羽状縄文-ナデ	砂粒多量(石英結晶多量・褐炭岩少量)	富良野盆地系
				T-4	Ⅵ	1					
Ⅳ-24-190	54-190	JP144A	Ⅲ B3	R-3	VbL	2	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外傾-隅丸角状/やや外傾	押引文-OI刺突文,無文/無文-ナデ	砂粒多量(石英結晶多量・雲母微量)	富良野盆地系
Ⅳ-24-191	54-191	JP145A	Ⅲ B3	Q-6	VbM	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外反-隅丸角状/やや外傾	刺突文-OI刺突文,無文(ナデ)/無文(ナデ)-ナデ(風化顕著)	砂粒極多量(石英結晶多量)	富良野盆地系
Ⅳ-24-192	54-192	JP145B	Ⅲ B3	Q-6	VbU	3	深鉢/胴上半～下半	外傾	無文(ナデ)/無文(ナデ)-ナデ(風化顕著)	砂粒極多量(石英結晶多量)	富良野盆地系
					VbM	2					

表Ⅳ-25 縄文時代包含層出土土器属性表(14)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等 口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	文様 **口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面**	胎土	備考
Ⅳ-24-193	54-193	JP170A	ⅣA1a	Q-5	VbU	1	深鉢/胴下半	外傾	貼付文+0段多条LR斜行縄文,0段多条LR・RL羽状縄文-内面剥落	砂粒中量	
				Q-5	VbM	2					
Ⅳ-24-194	54-194	JP171A	ⅣA1a	R-4	VbL	1	深鉢/底	外傾-角状-平底	RLR斜行縄文-ナデ	砂粒やや多量(石英結晶中量-雲母微量)	富良野盆地系
Ⅳ-24-195	54-195	JP173B	ⅣA1b	VH-01	1	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや内湾-角状/直立	貼付文+RL斜行縄文/RL斜行縄文(縦回転)-口縁部内面は成形時指頭圧痕、胴部内面はヘラナデ	砂粒やや多量	道南系土器
				R-4	VbL	1					
				S-5	VbL	1					
				S-5	Vc	1					
				T-6	VbU	1					
				U-6	Vb	1					
Ⅳ-24-196	54-196	JP172D	ⅣA1b	R-3	VbU	3	深鉢/胴上半	ほぼ直立	貼付文(地文施文後)+0段多条RL斜行縄文、0段多条RL斜行縄文(縦回転施文)-ナデ	砂粒やや多量	道南系土器
Ⅳ-24-197	54-197	JP172A	ⅣA1b	R-4	VbU	1	深鉢/胴下半	外反	0段多条LR斜行縄文(縦回転施文)-ナデ	砂粒やや多量	道南系土器
				R-4	VbL	1					
Ⅳ-24-198	54-198	JP174A	ⅣA2	S-4	VbU	11	深鉢/口縁～胴上半	平縁・やや内湾気味に直立-角状/やや外傾	LR縄文-幅広の貼付文+LR縄線文、LR斜行縄文/縄端刺突文、葺瓦状器表面、LR斜行縄文-ナデ	砂粒極多量(白色岩片微量)	葺瓦状成形土地文縄文の施文を同時施文
				S-4	VbL	1					
Ⅳ-24-199	54-199	JP178A	ⅣA2	S-6	VbU	1	深鉢/口縁	平縁・直立-角状	0段多条RL縄文-刺突文(横位)、0段多条RL斜行縄文-ナデ	砂粒多量(白色岩片多量)	破断面並行繊維発達顕著
Ⅳ-24-200	54-200	JP178C	ⅣA2	S-6	VbM	1	深鉢/胴上半	直立	貼付文+刺突文(横位)+0段多条RL斜行縄文、LR斜行縄文-剥落	砂粒多量(白色岩片やや多量)	破断面並行繊維発達顕著
Ⅳ-24-201	54-201	JP175I	ⅣA2	R-4	Vc	1	深鉢/胴上半	直立	LR・RL羽状縄文-内面剥落	砂粒極多量	
Ⅳ-24-202	54-202	JP180G	ⅣB1	U-6	VbU	1	深鉢/口縁	平縁・やや内湾-角状	0段多条LR縄文(施文後ナデ)-0段多条LR・RL羽状縄文(施文後剥いナデ)-0段多条LR斜行縄文	砂粒極多量	破断面並行繊維発達
Ⅳ-24-203	54-203	JP180E	ⅣB1	U-5	VbU	1	深鉢/胴上半	やや外傾	0段多条LR・RL羽状縄文(施文後ナデ)-剥落	砂粒極多量	破断面並行繊維発達
Ⅳ-24-204	54-204	JP181H	ⅣB1	R-3	VbU	3	深鉢/胴下半	外傾	0段多条LR・RL羽状縄文-全面剥落	砂粒多量(白色岩片少量)	
Ⅳ-25-205	55-205	JP201Q	ⅣB1	U-6	Vb	2	深鉢/口縁～胴上半	平縁・直立-隅丸角状/やや外傾	0段多条LR縄文-0段多条LR縄線文(2条1対・破線状)、0段多条LR斜行縄文(施文後ナデ)-0段多条LR斜行縄文(縦回転施文)	砂粒極多量(白色岩片多量)	
				U-6	Vc	2					
Ⅳ-25-206	55-206	JP201O	ⅣB1	U-6	Ⅵ	2	深鉢/胴下半	外傾	0段多条LR斜行縄文、ナデ	砂粒極多量(白色岩片多量)	
Ⅳ-25-207	55-207	JP184C	ⅣB1	R-3	VbU	1	深鉢/口縁	やや内湾気味に直立	0段多条LR縄文-0段多条LR斜行縄文(施文後ナデ)-0段多条LR斜行縄文(施文後ナデ)	砂粒極多量	破断面並行繊維発達顕著
				R-3	VbM	1					

表Ⅳ-26　縄文時代包含層出土土器属性表(15)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器形/部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁－口唇/胴部/底側面－変換点－底面	**口唇－口縁－内面/胴部－内面/底側面－底面－内面**		
Ⅳ-25-208	55-208	JP184B	ⅣB1	R-4	Va	1	深鉢/胴上半	直立～外傾	0段多条LR斜行縄文(器表面ほぼ全面剥落)-0段多条LR横走気味斜行縄文,ナデ	砂粒極多量	破断面並行縄縄発達
Ⅳ-25-209	55-209	JP184A	ⅣB1	R-3	VbM	1	深鉢/胴上半	外傾	0段多条LR斜行縄文(施文後ナデ)-ナデ	砂粒極多量	破断面並行縄縄発達顕著
Ⅳ-25-210	55-210	JP185B	ⅣB1	U-6	Vb	1	深鉢/口縁～胴上半	平縁・外反-角状/直立	LR斜行縄文(施文後ナデ)-LR斜行縄文(ほぼ全面剥落)-ナデ	砂粒多量(白色岩片多量)	
				U-6	VbU	4					
				U-6	VbL	3					
				U-6	Vc	1					
Ⅳ-25-211	55-211	JP185A	ⅣB1	U-6	VbU	7	深鉢/胴上半～下半	直立～膨らみをもって外反	0段多条LR横走気味斜行縄文～斜行縄文(施文後ナデ)-ナデ	砂粒多量(白色岩片多量)	
				U-6	Vb	1					
Ⅳ-25-212	55-212	JP179A	ⅣB1	R-3	VbU	1	深鉢/胴上半	やや外傾	OI刺突文(破断面破損),絡条体L原体L巻き斜位回転文-ナデ	砂粒多量(白色岩片やや多量)	破断面並行縄縄発達
Ⅳ-25-213	55-213	JP176A	ⅣB1	T-5	VbU	1	深鉢/口縁～胴上半	小型土器:平縁・外傾-丸状	無文(ナデ)-ナデ	砂粒多量	
Ⅳ-25-214	55-214	JP189B	ⅣB1	T-6	Vb	1	深鉢/底	外傾-角状-平底	0段多条LR斜行縄文-0段多条LR縄文-ナデ	砂粒多量(白色岩片多量)	破断面並行縄縄発達
				T-5	Vb	1					
Ⅳ-25-215	55-215	JP190D	ⅣB1	T-6	Vb	2	深鉢/底	外傾-角状-上げ底	0段多条LR斜行縄文-0段多条LR縄文-剥落	砂粒少量(白色岩片微量)	
Ⅳ-25-216	55-216	JP191A	ⅣD1	S-4-1	VbM	1	深鉢/胴下半	膨らみをもって外反	LR・RL羽状縄文-ナデ	砂粒中量	
Ⅳ-26-217	56-217	JP193F	VB1	U-6	Vb	2	深鉢/胴上半	ほぼ直立	0段多条LR斜行縄文-ナデ	砂粒少量	内傾接合
Ⅳ-26-218	56-218	JP194B	VB1	VSB-01	VbU	2	深鉢/胴下半	外傾	0段多条LR斜行縄文-弱いミガキ	砂粒少量	
Ⅳ-26-219	56-219	JP195E	VB1	T-5	VbU	1	浅鉢/口縁～胴上半	平縁・台形状突起・外傾-突起部:隅丸角状,切出し状(内削ぎ)/外傾	突起部分:LR縄線文+LR縄原体刻み-無文帯/LR縦走縄文-ナデ(部分的に弱いミガキ)	砂粒微量	成形粘土帯接合部破断:内傾接合
Ⅳ-26-220	56-220	JP196A	VB1	U-4-1	KR	1	浅鉢/口縁～胴上半	平縁・台形状突起・外傾-突起部:隅丸角状/外傾	LR斜行縄文-LR縄線文+沈線文-ナデ	砂粒中量	内傾接合
Ⅳ-26-221	56-221	JP199A	VB1	U-5	ⅢcL	2	鉢・浅鉢/口縁～胴上半	平縁・やや外傾-角状/内湾気味外傾	LR斜行縄文/LR斜行縄文-弱いミガキ	細砂粒中量	
Ⅳ-26-222	56-222	JP195A	VB1	R-4	ⅢbL	1	浅鉢/口縁～胴上半	平縁・外傾-切出し状(内削ぎ)	無文帯/LR縦走気味斜行縄文-弱いミガキ	砂粒微量	成形粘土帯接合部破断:内傾接合
				S-4	ⅢbL	1					
				T-5	VbU	1					
Ⅳ-26-223	56-223	JP195D	VB1	T-4	VbU	1	浅鉢/底(底面)	凸底	LR縄文-弱いミガキ	砂粒微量	

表Ⅳ-27　縄文時代包含層出土剥片石器属性表(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド/遺構名	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅳ-29-1	57-1	－	14829	ポイント類	A1	Vc	U-5	23.6	14.1	3.0	0.8	Obs.	
Ⅳ-29-2	57-2	－	18681	ポイント類	A2a	Vc	S-5	19.6	(12.5)	2.7	(0.6)	Obs.	左側縁欠損
Ⅳ-29-3	57-3	－	21431	ポイント類	A2a	Ⅵ	U-5	24.7	17.1	2.8	1.0	Obs.	
Ⅳ-29-4	57-4	－	18096	ポイント類	A2b	VbU	U-5	16.1	15.8	3.0	0.6	Obs.	
Ⅳ-29-5	57-5	－	19345	ポイント類	A2b	Ⅵ	U-4	18.3	14.8	2.3	0.5	Obs.	
Ⅳ-29-6	57-6	－	10930	ポイント類	A2b	VbL	T-5	23.3	16.9	5.7	2.0	Obs.	
Ⅳ-29-7	57-7	－	18290	ポイント類	A2b	VbL	U-4	29.3	16.9	2.5	1.1	Obs.	
Ⅳ-29-8	57-8	－	4952	ポイント類	A2c	VbU	R-5	30.4	14.8	3.7	1.2	Obs.	

表Ⅳ-28　縄文時代包含層出土剥片石器属性表(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド/遺構名	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅳ-29-9	57-9	-	14036	ポイント類	A3a	VbL	R-3	33.1	16.6	6.0	1.9	Obs.	
Ⅳ-29-10	57-10	-	33490	ポイント類	A3a	VbU	R-3-3	32.8	21.8	5.0	2.7	Obs.	
Ⅳ-29-11	57-11	-	13684	ポイント類	A3a	VbL	R-3	37.4	18.0	5.8	2.9	Obs.	
Ⅳ-29-12	57-12	-	17236	ポイント類	A3b①	VbL	Q-4	(21.0)	11.9	3.4	(0.5)	Obs.	被熱後実測部欠損
Ⅳ-29-13	57-13	-	36275	ポイント類	A3b①	VbU	Q-2-4	27.4	12.5	3.3	0.8	Obs.	
Ⅳ-29-14	57-14	-	4931	ポイント類	A3b②	VbU	S-6	21.9	13.1	4.1	0.8	Obs.	
Ⅳ-29-15	57-15	-	6879	ポイント類	A3b②	VbU	Q-3	36.8	19.6	4.4	2.5	Obs.	
Ⅳ-29-16	57-16	-	19475	ポイント類	A3b②	Vc	T-5	29.0	14.1	3.1	0.9	Obs.	
Ⅳ-29-17	57-17	-	29706	ポイント類	A3c	VbU	R-6-1	15.7	10.2	1.9	0.3	Obs.	
Ⅳ-29-18	57-18	-	8085	ポイント類	A3c	VbU	R-6	29.7	14.5	2.9	0.7	Obs.	
Ⅳ-29-19	57-19	-	6543	ポイント類	A4	Vc	T-6	31.1	13.7	3.9	1.4	Sh.	
Ⅳ-29-20	57-20	-	20854	ポイント類	A4	Vc	U-5	(38.8)	19.2	6.4	(4.8)	Obs.	基部欠損
Ⅳ-29-21	57-21	-	12139	ポイント類	B1	VbL	S-5	46.9	30.2	9.4	9.4	Obs.	尖頭部再調整
Ⅳ-29-22	57-22	-	17534	ポイント類	B1	Vc	R-6	49.2	27.6	9.1	10.7	Obs.	
Ⅳ-29-23	57-23	-	16537	ポイント類	B1	VbL	Q-5	57.4	29.7	11.5	17.0	Obs.	
Ⅳ-29-24	57-24	-	9097	ポイント類	B1	VbU	S-3	43.3	25.9	8.2	5.8	Obs.	
Ⅳ-29-25	57-25	-	17578	ポイント類	B2	Vc	S-5	(53.3)	23.4	4.7	(5.6)	Obs.	基部欠損
Ⅳ-29-26	57-26	-	7895	ポイント類	B2	VbU	T-4	65.7	28.2	7.8	10.1	Obs.	
Ⅳ-29-27	58-27	-	283	ポイント類	B3	VbU	U-4	53.1	19.0	6.2	4.2	Obs.	
Ⅳ-30-28	58-28	-	14687	ポイント類	B3	VbL	Q-6	95.9	40.1	13.9	45.0	Sh.	基部にノッチ有
Ⅳ-30-29	58-29	-	5633	ポイント類	B3	VbU	S-4	116.5	27.8	10.8	28.3	Obs.	
Ⅳ-30-30	58-30	-	19147	ポイント類	B4	Vc	T-4	44.6	21.5	9.4	(8.2)	Obs.	被熱痕実測図再調整
Ⅳ-30-31	58-31	-	5517	石錐	A	Va	R-6	18.1	20.3	5.4	1.8	Aga・Sh.	
Ⅳ-30-32	58-32	-	17903	石錐	B	VbM	U-4	42.1	26.7	5.4	2.7	Obs.	転礫面
Ⅳ-30-33	58-33	-	5000	石錐	C	VbU	R-4	28.2	9.5	6.8	1.7	Obs.	機能形態減、転礫面
Ⅳ-30-34	58-34	-	21104	石錐	C	Ⅵ	R-5	42.1	13.5	7.3	3.8	Obs.	
Ⅳ-30-35	58-35	-	12125	石錐	D	VbL	S-5	36.8	10.5	5.3	1.8	Obs.	
Ⅳ-30-36	58-36	-	4742	石錐	E	Vb	T-5	26.5	11.0	5.9	1.5	Obs.	側木痕範囲出土
Ⅳ-30-37	58-37	-	20944	石錐	F	Vc	Q-3	61.6	21.0	9.9	9.1	Obs.	ガレーナ・ジルの転用
Ⅳ-30-38	58-38	-	12991	ナイフ・スティーバー類	A1	VbM	R-5	41.0	27.0	6.4	11.0	Sh.	
Ⅳ-30-39	58-39	-	16877	ナイフ・スティーバー類	A1	VbL	R-6	44.0	22.0	5.2	4.4	Qua.	
Ⅳ-30-40	58-40	-	5318	ナイフ・スティーバー類	A1	VbU	S-6	48.0	26.0	7.5	7.2	Sh.	先端部欠損後再調整
Ⅳ-30-41	58-41	-	21072	ナイフ・スティーバー類	A1	Ⅵ	S-6	55.0	27.0	4.6	7.4	Sh.	
Ⅳ-30-42	59-42	-	14886	ナイフ・スティーバー類	A1	VbL	T-5	75.0	25.0	10.1	20.2	Sh.	
Ⅳ-30-43	59-43	-	5577	ナイフ・スティーバー類	A1	VbU	T-6	82.0	37.0	8.7	28.5	Cha.	
Ⅳ-31-44	59-44	-	6501	ナイフ・スティーバー類	A4	Va	T-6	40.0	22.0	6.0	4.7	Qua.	
Ⅳ-31-45	59-45	-	12539	ナイフ・スティーバー類	A2	VbL	R-6	54.0	29.0	6.1	8.4	Obs.	欠損後再調整
Ⅳ-31-46	59-46	-	12457	ナイフ・スティーバー類	A3	VbL	T-4	31.0	58.0	10.5	13.6	Sh.	
Ⅳ-31-47	59-47	-	8303	ナイフ・スティーバー類	A4	VbM	S-4	42.0	30.0	3.8	3.1	Obs.	
Ⅳ-31-48	59-48	-	4933	ナイフ・スティーバー類	B1a	VbU	R-6	37.0	28.4	9.1	9.3	Obs.	岩砕面
Ⅳ-31-49	59-49	-	35300	ナイフ・スティーバー類	B1b	VbL	T-5-1	(21.1)	18.6	3.5	(1.7)	Obs.	基部欠損
Ⅳ-31-50	59-50	VFT 006	11251 34682	ナイフ・スティーバー類	B2	VbM	R-6 R-5-3	65.0	31.0	11.7	24.7	Obs.	岩砕面 接合後完形
Ⅳ-31-51	59-51	-	18999	ナイフ・スティーバー類	C1	Vc	T-6	43.3	39.6	6.7	14.2	Aga.	
Ⅳ-31-52	59-52	-	4859	ナイフ・スティーバー類	C1	VbU	Q-3	48.7	24.4	6.6	7.7	Obs.	
Ⅳ-31-53	59-53	-	20454	ナイフ・スティーバー類	C1	Vc	Q-3	50.8	21.8	10.1	14.8	Obs.	転礫面
Ⅳ-31-54	59-54	-	9096	ナイフ・スティーバー類	C1	VbM	S-4	60.9	20.9	9.9	11.2	Obs.	岩砕面
Ⅳ-31-55	59-55	-	17905	ナイフ・スティーバー類	C1	Vc	U-4	(77.6)	33.3	17.7	(32.7)	Sh.	転礫面
Ⅳ-31-56	60-56	-	3996	ナイフ・スティーバー類	C2	VbU	T-5	42.6	26.3	7.2	6.8	Obs.	
Ⅳ-31-57	60-57	-	6519	ナイフ・スティーバー類	C2	VbU	S-3	76.6	44.5	7.5	24.1	Obs.	岩砕面
Ⅳ-32-58	60-58	-	16350	ナイフ・スティーバー類	C3	Vc	U-4	32.2	29.1	5.3	4.2	Obs.	
Ⅳ-32-59	60-59	-	19830	両面調整石器	A	Vc	R-6	91.5	56.1	15.3	63.5	Obs.	表裏面の縁や中間減
Ⅳ-32-60	60-60	-	8070	両面調整石器	B	VbU	R-6	73.6	37.5	12.2	32.9	Obs.	岩砕面
Ⅳ-32-61	60-61	-	13681	両面調整石器	C	VbL	R-3	43.0	24.2	10.2	9.2	Obs.	
Ⅳ-32-62	60-62	-	20847	ピエス・エスキーユ	-	VbL	U-6	27.8	26.4	11.1	6.7	Obs.	転礫面
Ⅳ-32-63	60-63	-	6786	石核	-	VbU	S-5	32.2	29.1	5.3	4.2	Obs.	岩砕面

表Ⅳ-29　縄文時代包含層出土礫石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	グリッド/遺構名	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅳ-33-1	61-1	-	13678	石斧	A1	VbL	R-3	80.5	15.3	12.0	26.0	Bl-Sch.	
Ⅳ-33-2	61-2	-	5491	石斧	A1	VbU	Q-3	80.6	34.1	18.6	85.0	Gr-Mud.	
Ⅳ-33-3	61-3	VST 018	6602	石斧	A1	VbU	T-6	257.0	73.5	28.6	(610.0)	Gr-Mud.	被熱
			10876			Vb	U-5						
			15534			Vc	U-6						
			16146			VbL	S-5						
			38233			Ⅵ	S-6						
Ⅳ-33-4	61-4	-	8102	石斧	A2	VbU	R-6	69.2	30.3	9.0	38.0	Bl-Sch.	
Ⅳ-33-5	61-5	-	20680	石斧	A2	Ⅵ	S-4	70.2	34.1	10.9	40.0	Gr-Mud.	
Ⅳ-33-6	61-6	-	15303	石斧	A2	VbL	Q-6	137.7	43.8	24.1	262.0	Gr-Mud.	
Ⅳ-33-7	61-7	-	5533	石斧	B	Vc	S-4	205.8	63.1	33.1	690.0	Gr-Mud.	未成品・付着物有
Ⅳ-33-8	61-8	-	20622	石斧	C	Vc	Q-4	(132.6)	78.0	32.1	(569.0)	Gr-Mud.	未成品
Ⅳ-33-9	61-9	-	8050	石斧	D	VbU	Q-6	122.1	26.8	16.0	112.0	Gr-Mud.	石斧原材
Ⅳ-34-10	61-10	-	6550	たたき石	ⅠA1	VbU	T-5	204.6	62.0	25.0	425.0	Sa.	
Ⅳ-34-11	61-11	-	10842	たたき石	ⅠA3	VbU	S-5	167.2	71.0	34.8	503.0	Sa.	
Ⅳ-34-12	61-12	-	9208	たたき石	ⅠB1	VbM	U-5	133.3	35.4	27.0	195.0	Sa.	
Ⅳ-34-13	61-13	-	8106	たたき石	ⅠB1	VbU	R-6	173.5	57.9	47.7	673.0	Sa.	
Ⅳ-34-14	61-14	-	8311	たたき石	ⅠB1	VbM	S-4	138.1	48.7	48.0	455.0	Sa.	
Ⅳ-34-15	61-15	-	6787	たたき石	ⅠB3	VbU	S-5	138.5	45.1	34.3	305.0	Sa.	
Ⅳ-35-16	61-16	VST 006	7204	たたき石	ⅠB3	VbL	S-4	200.1	46.2	32.3	534.0	Sa.	
			14966			VbU							
Ⅳ-35-17	61-17	-	15817	たたき石	ⅠB3	VbL	T-6	99.0	32.3	23.0	138.0	Bs.	
Ⅳ-35-18	61-18	-	8869	たたき石	ⅡA1	VbM	S-5	125.9	71.1	30.0	280.0	Sa.	
Ⅳ-35-19	61-19	-	8480	たたき石	ⅡA2	VbU	R-5	147.9	94.1	31.8	527.0	Sa.	
Ⅳ-35-20	62-20	-	9570	たたき石	ⅡA3	VbM	S-4	155.2	71.9	27.2	443.0	Sa.	
Ⅳ-35-21	62-21	-	9572	たたき石	ⅡA3	VbM	S-4	127.8	73.6	24.5	352.0	Sa.	
Ⅳ-35-22	62-22	-	18434	たたき石	ⅡA3	VbL	Q-5	114.8	75.1	25.2	261.0	Sa.	
Ⅳ-35-23	62-23	-	15291	たたき石	ⅡB1	VbL	S-5	75.9	63.3	34.7	200.0	Sa.	
Ⅳ-36-24	62-24	-	16148	たたき石	ⅠB1	VbL	T-5	69.5	68.5	36.2	214.0	Sa.	風化によるクラック
Ⅳ-36-25	62-25	-	20831	たたき石	ⅡB2	Ⅵ	T-6	121.3	75.6	44.0	605.0	Bs.	
Ⅳ-36-26	62-26	-	6753	たたき石	ⅡB3	VbL	U-5	144.1	78.7	41.5	656.0	Sa.	
Ⅳ-36-27	62-27	-	12601	たたき石	ⅡB3	VbM	S-4	108.0	91.6	46.2	664.0	Sa.	
Ⅳ-36-28	62-28	-	10737	たたき石	ⅢA	VbM	S-5	70.2	54.2	25.8	139.0	Sa.	
Ⅳ-36-29	62-29	-	17541	たたき石	Ⅴ	VbL	Q-6	80.8	56.5	26.9	186.0	Sa.	破断面に擦痕有り
Ⅳ-36-30	62-30	-	14946	すり石	A	VbM	Q-5	203.2	80.8	52.0	916.0	Sa.	
Ⅳ-37-31	62-31	-	10376	すり石	D	VbM	Q-4	110.0	89.0	71.7	874.0	Sa.	
Ⅳ-37-32	62-32	-	20159	すり石	D	Vc	S-6	148.6	92.2	46.0	1040.0	Sa.	
Ⅳ-37-33	62-33	-	11090	すり石	D	VbM	R-6	147.8	100.1	85.0	1785.0	Sa.	未成品
Ⅳ-37-34	62-34	-	20167	すり石	F	Vc	U-6	79.2	56.4	48.5	318.0	Bs.	たたき痕・付着物有
Ⅳ-38-35	62-35	-	13677	砥石	-	VbL	R-3	118.1	(70.2)	34.8	(228.0)	Sa.	
Ⅳ-38-36	62-36	-	18102	砥石	-	VbL	U-4	184.8	98.1	52.9	1101.0	Sa.	
Ⅳ-38-37	62-37	-	15556	石錘	-	VbL	R-5	(33.5)	(50.0)	16.2	(34.0)	Sa.	両側縁使用
Ⅳ-38-38	63-38	-	16908	敲痕のある礫	-	VbL	R-4	(175.5)	(140.5)	31.0	(1117.0)	Sa.	
Ⅳ-38-39	63-39	-	15172	石皿	-	VbL	S-5	228.0	107.0	69.0	2110.0	Sa.	破断面使用
Ⅳ-38-40	63-40	-	10711	台石	-	VbM	T-6	146.8	114.3	89.0	1975.0	Sa.	
Ⅳ-39-41	63-41	-	8884	台石	-	VbM	S-5	177.1	113.0	56.8	1236.0	Sa.	
Ⅳ-39-42	63-42	-	5530	台石	-	VbU	S-5	185.0	127.5	72.0	2400.0	Sa.	
Ⅳ-39-43	63-43	-	11643	加工痕のある礫	-	VbM	Q-3	97.2	61.3	20.1	152.0	Sa.	
Ⅳ-39-44	63-44	-	19443	石製品	-	Vc	S-5	28.5	27.5	4.8	11.0	Sa.	
Ⅳ-39-45	63-45	-	11792	石製品	-	VbM	R-3	52.8	25.4	24.7	52.0	Tu.	

第Ⅴ章 自然科学的分析

第1節 厚真町幌内8遺跡の動物

札幌大学非常勤講師 高橋 理

【遺跡の概要】

遺 跡 名；厚真町 幌内8遺跡（あつまちょう ほろない8いせき）（登載番号J－13－136）
調査理由：開発事業（経営体育成基盤整備事業）
調 査 地：勇払郡厚真町字幌内564
調査主体：厚真町教育委員会
調査期間：平成30年6月1日～11月16日 令和元年5月15日～31日
調査面積：1,023㎡
検出遺構：中世アイヌ文化期：焼土3ヵ所、焼土ブロック4ヵ所、礫集中9ヵ所・獣骨集中（未被熱）2ヵ所
続縄文文化期：焼土6ヵ所・土器集中7ヵ所・礫集中1ヵ所・獣骨集中9ヵ所
縄文時代：竪穴式住居跡1軒、土坑9基、灰集中1ヵ所、焼土43ヵ所、土器集中4ヵ所、礫集中1ヵ所、フレイク・チップ集中1ヵ所
時 期：中世アイヌ文化期・続縄文文化期・縄文時代早期～晩期

【はじめに】

経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財の事前調査が行われた幌内8遺跡において、縄文時代、続縄文文化期、中世アイヌ文化期の動物遺体が検出された。

筆者に分析の機会を与えられた厚真町教育委員会各位に感謝申し上げます。

【出土動物】

検出された動物骨は、二枚貝綱カワシンジュガイ、サケ科魚類、コイ科魚類、イタチ？、ニホンジカであった。これらは表1～3に内容を示しており、次のように分類、整理される。

二枚貝綱 Pelecypoda
カワシンジュガイ *Margaritifera laevis*
条鰭綱 Actinopterygii
サケ目 Salmoniformes
サケ科 Salmonidae
サケ属 *Oncorhynchus*
イトウ属 *Hucho*
イトウ *Hucho perryi* ？
コイ目 Cypriniformes

コイ科 Cyprinidae

哺乳綱 Mammallia

食肉目 Carnivora

イヌ科 Canidae

イタチ　*Mustela itatsi*　？

クジラ偶蹄目 Cetartiodactyla

シカ科 Cervidae

ニホンジカ　*Cervus nippon*

出土状況

・中世アイヌ文化期

未被熱の獣骨集中（ブロック）1-A～C、獣骨集中11、該期包含層（Ⅲb・Ⅲc）から動物骨が出土している。

獣骨集中1-Aでは動物骨はすべてシカで占められ、第二頚椎（1点）以外はすべて四肢骨であった。頭骨及び椎骨・寛骨等の中軸骨はみられない。獣骨集中1-Bでは、種不明のものを除きすべてシカの四肢骨であった。1－A・Bともに大型の個体が認められた。

獣骨集中1-Cでもシカの四肢骨が多いが、そこに下顎歯槽部（2点）及び脱落歯、下顎枝関節突起など頭骨の関連部位が含まれていた。下顎歯槽に植立していた臼歯歯冠（磨耗指数M1：4・M2：5・M3：7、M2：5・M3：7）は、いずれも生後2歳1ヶ月から3歳6ヶ月程度の若い個体のものであることを示している（大泰司1980）。

獣骨集中11ではすべてシカの四肢骨で占められている。同一個体の距骨・踵骨が関節する例があるが、踵骨背面には齧歯目による噛痕（Biting Mark）がみられた。

包含層でもほぼすべてシカであったが、イタチ？の上顎・下顎骨が1点ずつ混じっていた。上顎骨は切歯及び犬歯とその歯槽部である。包含層ではシカの脱落臼歯がやや多い点を指摘できる。磨耗指数を示す例は1点（M1：5）であるが、1歳6ヶ月前後の若い個体のものかと推定される。また、種不明であるが側頭骨と思われる破片が1点認められた。

焼土遺構ⅢF-01・04・05では、サケ科魚類の脱落歯及び椎骨片が多く、コイ科魚類の椎骨やシカの角、臼歯、四肢骨の破片が出土。イトウかと思われる椎骨片が1点みられる。

焼土ブロックⅢFB-03ではシカの臼歯片の他に、下顎骨歯槽部片や部位不明破片がみられる。シカに帰属する可能性が高い。

礫集中ⅢSB-04・05、貝集中ⅢSHB-01、包含層Ⅲb・Ⅲcからカワシンジュガイの集積が検出された。殻皮だけが残る状態が多いが、包含層以外では礫集中や貝集中では殻皮に殻や殻頂を伴う例がみられる。

・続縄文文化期

ⅢF-02・03・06～08の焼土遺構では、多数のサケ科魚椎骨片、鰭棘片のほかにサケ科魚類の顎骨などがみられる。また、哺乳類ではすべてシカに帰属する骨片であるが特に指趾骨が多い。

礫集中ⅢSB-10では哺乳類の破片が少量出土している。

骨集中ⅢBB-02～10 では、少量のサケ科魚類の他はすべてシカで、特に指趾骨が非常に多くみられる。ⅢBB-04 では例外的に下顎骨関節突起のほかに尺骨、手根骨、足根骨、中手・中足骨などが混じる。

杭跡ⅢKP-20 ではシカの末節骨が出土している。

包含層においても、指趾骨とそれに連関する部位が特に多く出土する。

・縄文時代

VH-01 は縄文時代中期の遺構と考えられているが、シカの第2・5指趾末節骨のほか哺乳類骨片がやや多く出土している。

焼土遺構は VF-01～03・08・09・11・14・15・22・23・25・26・28・33 など多数が検出されているが、骨の保存状態は不良であることから種の同定にいたった例は多くない。VF-09 でシカの中手・中足骨背側破片、VF-25 においてシカの切歯歯根、手根骨を確認できた。このことから、他の哺乳類破片もほぼすべてシカに帰属すると考えてよいものと思われる。

灰集中 VAS-01 では哺乳類破片がやや多くみられる。

考察

幌内8遺跡では、中世アイヌ文化期、続縄文文化期、縄文時代を通してシカを対象とする狩猟が盛んであったことが示された。このことは厚真町に所在する遺跡に共通してみられる特質であり、厚真川におけるサケ科魚類の遡上は概ね不振であったこと、本地域における個体数がごく多いシカが長い期間を通じて十分な食資源を保障してきたこと等を示すものだろう。本地域においては、縄文時代からすでにシカ猟に特化した生業システムができあがっていたと考えられる。

一方で、中世アイヌ文化期の焼土遺構ⅢF-01・04・05 では、サケ科魚類の脱落歯及び椎骨片が多く、コイ科魚類の椎骨やイトウかと思われる椎骨片が1点みられるなど、河川資源の利用度の高まりを示している。このことと、礫集中ⅢSB-04・05、貝集中ⅢSHB-01、包含層Ⅲb 層における多くのカワシンジュガイの集積の検出は親和的といえる。

イタチ？は初見である。今後の資料増加を期待したい。

ところで、本遺跡においてヒグマの検出はなかった。これまで筆者は 17 世紀以前においては盛大な「イオマンテ」は成立の前夜であった可能性を指摘してきた（高橋 2009 など）。それはコタンやチャシにおいてヒグマ骨の出土数がごく少なく、さらに頭骨に由来する部位がほとんど認められないことを根拠としてきた。そしてそれはヒグマ儀礼そのものを否定するのではなく、他の動物と同様にプリミティブな形としての儀礼の存在を想定するものであった（註）。

ヒグマの出土数の僅少さと頭骨に由来する部位を欠如する点は、さらに中世 13 世紀のヲチャラセナイ遺跡においても同じく認められており（高橋 2013）、今回の幌内8遺跡の中世アイヌ文化期の出土動物のあり方からもそのことをうかがうことができる。

註　シカの送り儀礼がむしろより大きな位置をしめていたかのような指摘もある（山浦 2008, p. 14）。

表1-1　幌内8遺跡　ハンドピック法動物遺存体同定一覧表（獣骨）

□：写真図版掲載

時期/種別	調査区/遺構名	層位	骨No.	出土動物	出土骨	出土部位	L・R	数量	備考
中世 アイヌ文化期 /狩猟集中 1 Aブロック	第BB-01,A1	第1層	22	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	3	
			23	哺乳類 non det.	長管骨	骨幹	不明	3	
			24	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	3	
			26	哺乳類 spp.	不明	不明	不明	2	
			29	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
			30	シカ	中足骨	近位骨幹内側	R	2	
			31	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			32	シカ	臼歯	歯冠	–	5	
			33	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			34	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	3	
			35	哺乳類 spp.	長管骨	骨幹	不明	2	
			37	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
			38	シカ?	橈骨?	近位骨幹内側?	L ?	1	
			39	シカ?	大腿骨?	遠位顆上異形?	R ?	1	
			40	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			41	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
			42	哺乳類 non det.	長管骨	骨幹	不明	4	
			43	シカ	橈骨	近位端	R	2	大型個体
			44	シカ	距骨	ほぼ完形	R	1	
			45	哺乳類 spp.	長管骨	骨幹	不明	2	
			46	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			48	シカ	尺骨	近位滑車切痕部	R	1	大型個体 焼こり点
					橈骨	近位骨幹掘痕	R	1	尺骨と同一個体
			49	哺乳類 spp.	長管骨	骨幹	不明	2	
			50	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	3	
			51	シカ	大腿骨	遠位骨幹顆上異上位	L	3	個2点不明
			52	哺乳類 spp.	不明	不明	不明	2	
			53	**シカ**	**尺骨**	**滑車切痕・橈骨切痕**	**R**	**1**	
			54	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			55	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			57	哺乳類 spp.	不明	不明	不明	2	
			59	哺乳類 non det.	長管骨	骨幹	不明	6	
			60	**シカ**	**第二掌骨**	**輪郭**	**–**	**2**	**大型個体 個1点不明**
			62	シカ	距骨?	近位骨幹?	L ?	1	54と同一個体
			63	シカ	距骨	遠位端	L	2	62同一 個体 大型個体
			64	哺乳類 spp.	不明	不明	不明	2	
			65	シカ	中手骨	遠位骨骨側	–	1	
			66	シカ?	尺骨?	関節面ほぼ骨層?	R?	1	
			67	シカ	上腕骨	遠位滑車	R	2	
			68	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
中世 アイヌ文化期 /狩猟集中 1 Bブロック	第BB-01,B1	第1層	72	シカ	距骨	距骨・足根骨滑車を欠く	R	1	
			73	シカ	距骨	骨体矢側を一部欠く	R	1	
			74	シカ	中手骨	遠位端	–	1	
			75	**シカ**	**橈骨**	**近位端**	**L**	**1**	**大型個体 焼骨 個1点不明**
			76	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			78	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			79	哺乳類 spp.	長管骨	骨幹	不明	2	
			80	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
中世 アイヌ文化期 /狩猟集中 1 Bブロック	第BB-01,B1	第1層	81	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
			82	シカ	大腿骨	遠位骨幹外側	R	3	
			83	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
			84	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	5	
			85	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	5	
			86	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	3	
			87	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
			88	哺乳類 spp.	長管骨	骨幹	不明	2	
			89	シカ	橈骨	遠位骨幹	L	1	大型個体
				シカ?	上腕骨?	遠位骨幹内側?	R?	1	
			91	哺乳類 spp.	長管骨	骨幹	不明	2	
			92	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
			93	哺乳類 non det.	長管骨	骨幹	不明	4	
			94	シカ	大腿骨	骨幹後面	L	5	同2点が 一個体 MG,N 個含む
			95	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			96	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
			97	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			98	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			99	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			101	シカ	橈骨	骨幹後面	L	1	大型個体
			102	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
			103	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	3	
			104	哺乳類 non det.	長管骨	骨幹	不明	4	
中世 アイヌ文化期 /狩猟集中 1 Cブロック	第BB-01,C1	第1層	110	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			111	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	8	
			113	**シカ**	**下顎骨**	**PM3-M3**	**R**	**2**	**個体識別MG: 6, M2:5,M3:2**
			114	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
			115	**シカ**	**下顎骨**	**下顎枝開閉筋起**	**R**	**2**	
			117	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	3	
			118	シカ	足根骨	中心第4足根骨	L	2	大型個体
			119	哺乳類 spp.	不明	不明	不明	2	
			124	哺乳類 non det.	距骨?	骨幹後面?	不明	6	
			125	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	4	
			126	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			127	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	5	
			128	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	多	
			129	**シカ**	**基節骨**	**近位端**	**–**	**1**	
			132	哺乳類 non det.	長管骨	骨幹	不明	多	
			133	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	多	
			135	哺乳類 spp.	長管骨	骨幹	不明	2	
			136	哺乳類 spp.	不明	不明	不明	2	
			139	シカ	下顎骨	PM3-M3歯冠・歯槽	L	多	個体識別 MG:3, M1:2
			140	シカ	臼歯	歯冠破片	不明	1	
			150	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
中世 アイヌ文化期 /狩猟集中11	第BB-11	第1層	197	シカ	大腿骨	遠位骨幹	L	1	顆上異形 骨幹
			199	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			200	哺乳類 spp.	長管骨	骨幹	不明	2	

表1-2 幌内8遺跡 ハンドピック法動物遺存体同定一覧表(獣骨)

□:写真図版掲載

時期/種別	調査区/遺構名	層位	骨No.	出土動物	出土骨	出土部位	L・R	数量	備考
中世 アイヌ文化期 /縄舟集中11	第10-11	第4	203	シカ	上腕骨	遠位端	L	4	
				シカ	足根骨	中心第4足根骨	L	1	
			204	シカ	距骨	近位完形	R	1	関節状態は未閉合種骨後面に癒着
			205	シカ	橈骨	近位完形	R	1	
			208	シカ	橈骨	近位端	R	1	内側に力ット2方向
			209	哺乳類 sp.	長管骨	骨幹	不明	1	
			211	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			212	シカ	距骨	近位完形	R	1	
			213	シカ	足根骨	中心第4足根骨	R	1	
			216	哺乳類 sspp.	不明	不明	不明	2	
			218	シカ	上腕骨	骨幹外側	R	2	大型個体
			219	シカ	中手骨	骨幹骨側	L??	2	
			224	シカ	橈骨	遠位端	L	1	ヤットは無 ノ字傷・浅傷有
			227	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
			229	哺乳類 non det.	長管骨	骨幹	不明	4	
			230	シカ	距骨	距骨滑車を欠く骨体	R	1	
			231	シカ	距骨	遠位端	L	1	
			232	シカ	足根骨	中心第4足根骨	R	1	
			234	シカ	大腿骨	近位骨幹	L	1	
			235	シカ	距骨	遠位端	R	2	2点同一個体
			238	シカ	中足骨	骨幹骨側	L	2	
			239	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	3	骨側縁薄下端に機能
			240	シカ	上腕骨	近位端	L	1	骨端ハの骨膜癒
			241	シカ	大腿骨	転部骨	L	1	
			242	シカ	大腿骨	遠位骨幹内側	L	1	
			243	シカ	中足骨	骨幹骨側から遠位端	幼	1	
			244	シカ	橈骨骨	近位完形	L	1	
			245	シカ	大腿骨	遠位端	L	1	2点別個体
						遠位骨幹 顆上高部		1	
			246	シカ	中手骨	遠位端から骨幹骨側	-	2	
				シカ	中足骨	骨幹骨側		1	
			247	哺乳類 non det.	長管骨	不明	不明	4	
			248	シカ	大腿骨	遠位骨幹	R	1	
中世 アイヌ文化期 /別会舟	U-5	第4	1	シカ	臼歯	上顎臼歯歯冠	不明	12	摩耗指数不明
	U-5	第4	2	シカ	臼歯	歯冠小片	不明	7	摩耗指数不明
	T-5	第4	3	シカ?	刺甲骨?	刺甲基端?	L	1	
	T-5	第4	5	シカ	中足骨	遠位滑車一部	不明	1	
	T-5	第4	7	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	多	
	T-5	第4	10	哺乳類 sspp.	不明	不明	不明	2	
	T-5	第4	11	哺乳類 sspp.	不明	不明	不明	2	
	T-5	第4	15	哺乳類 non det.	長管骨?	骨幹	不明	4	
	T-4	第4	16	シカ?	刺甲骨?	後縁一部?	L?	多	
	S-5	第4	17	シカ?	長管骨	骨幹	不明	多	
	Q-5	第4	18	シカ	中足骨	骨幹骨側	不明	多	骨側縁片ハ
	Q-5	第4	19	シカ	橈骨	骨幹後縁	L	多	他不明縁片多数
	R-6	第4	141	シカ	距骨	遠位端外側	L	1	
	R-6	第4	142	シカ	寛骨	寛骨臼ふち部骨	R	1	
	Q-5	第4	144	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	4	
	Q-3	第4	146	シカ	頭骨	前頭骨角根	L	1	
	Q-3	第4	147	シカ?	大腿骨?	遠位端内側	R	4	
	Q-4	第4	148	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	3	
	Q-5	第4	149	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	5	
	R-4	第4	151	シカ	下顎臼歯	M3	L	2	摩耗指数M1-5
	S-5	第4	152a	イタチ?	上顎骨	切歯・犬歯歯槽	L	1	
			152b	イタチ?	下顎骨	下顎歯槽臼歯・第四歯	L	1	
	S-5	第4	153	シカ	距骨	近位端骨側	R	多	破片5点
	S-5	第4	154	シカ	距骨	骨側内側	R	3	骨端部は未閉合骨から離脱
	S-5	第4	155	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
	S-4	第4	157	シカ	距骨	骨側内側	R	1	
	U-5	第4	158	シカ	臼歯	上顎臼歯M3?	L	7	摩耗指数不明
	U-5	第4	159	シカ	臼歯	上顎臼歯 歯冠破片	不明	15	摩耗指数不明
	U-5	第4	161	シカ	臼歯	歯冠破片	不明	10	摩耗指数不明
	U-5	第4	162	シカ	臼歯	歯冠破片	不明	8	摩耗指数不明
	S-6	第4	164	哺乳類 spp.	不明	不明	不明	2	
	S-6	第4	167	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	5	
	R-6	第4	168	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	4	
	R-6	第4	169	シカ	距骨	遠位骨幹	L	1	大型個体
	R-6	第4	170	哺乳類 sp.	頭骨?	側頭骨一部?	-	1	
	R-6	第4	171	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	4	幼獣骨
	R-6	第4	172	哺乳類 spp.	不明	不明	不明	2	
	R-4	第4	173	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	3	
	R-6	第4	176	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
	U-5	第4	177	シカ	臼歯	歯冠破片	不明	5	摩耗指数不明
	U-5	第4	178	シカ	臼歯	歯冠破片	不明	13	摩耗指数不明
	U-5	第4	179	シカ	角	角根破片	不明	3	
	U-5	第4	180	シカ	臼歯	歯冠破片	不明	6	摩耗指数不明
	R-6	第4	182	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	多	
	R-6	IIb	183	シカ	上腕骨	骨幹	L	1	大型個体
	R-6	IIb	184	シカ	寛骨	腸骨筋部	R	1	
	R-6	IIb-L	188	哺乳類 sp.	不明	不明	-	1	
	U-5	IIb-L	189	シカ	臼歯	歯冠破片	不明	26	摩耗指数不明
	U-5	IIb-L	190	シカ	臼歯	歯冠破片	不明	多	摩耗指数不明
	U-5	IIb-L	191	シカ	臼歯	歯冠破片	不明	多	摩耗指数不明
	R-6	IIb-L	192	哺乳類 sp.	不明	不明	不明	1	
	R-6	IIb-L	193	シカ	踵骨	結節突起ふの骨体上部	L	1	17.5?同一個体?関節
	R-6	IIb-L	194	シカ	距骨・足骨	距骨・足骨遠位端	L	2	同一個体?関節
	R-6	IIb-L	195	哺乳類 non det.	不明	不明	不明	多	他?遺存ふ込み
	R-6	IIb-L	196	シカ	距骨	骨体中央	L	1	他?遺存ふ込み
	R-6	IIb-L	249	シカ	上腕骨	遠位滑車上位	R	2	第10-11層位
	R-6	IIb-L	250	シカ	橈下骨	完形	-	1	橈?骨終骨癒着?6
	R-6	IIb-L	251	シカ	中手骨	骨幹から遠位端	L?	3	第10-11層位

表2　幌内8遺跡　ハンドピック法動物遺存体同定一覧表（殻片）

□：写真図版掲載

時期/種別	調査区/遺構名	層位	目No.	貝種	個体数	重量(殻と殻皮「多」のもののみ)	出土状態
中世アイヌ文化期/縄集中4	⊞SB-04	⊞bM	20	カワシンジュガイ	1	－	殻皮のみ
			21		1	－	殻皮のみ
			22		1	－	殻皮のみ
			23		1	－	殻皮のみ
			24		1	－	殻皮のみ
			25		1	－	殻皮のみ
			26		1	－	殻皮のみ
			27		1	－	殻皮のみ
			28		多	6.49g	殻皮のみ
			29		1	－	殻皮のみ
			30		1	－	殻皮のみ
			31		1	－	殻皮のみ
			32		1	－	殻皮のみ
			33		1	－	殻皮のみ
			34		**7**	**39.95g**	**No.34～36・38と重なりあう。殻頂部残存**
			35				
			36				
			38				
			37		1	－	殻皮のみ
			39		1	－	殻皮のみ
			40		多	2.8g	⊞SB-04出土カワシンジュガイ残滓
中世アイヌ文化期/縄集中5	⊞SB-05	⊞bM	7	カワシンジュガイ	1	－	殻皮のみ
			8		1	－	殻皮のみ
			9		1	－	殻皮のみ
			10		1	－	殻皮のみ
			11		1	－	殻皮のみ
			12		1	3.38g	殻頂部残存
			13		1		
			14		多	6.86g	殻皮のみ
			15		多	6.32g	殻皮のみ
			16		1	－	殻皮のみ
			17		1	－	殻皮のみ
			18		1	－	殻皮のみ
			55		1	－	2段目検出、殻皮のみ
			56		1	－	2段目検出、殻皮のみ
			57		1	－	2段目検出、殻皮のみ
			58		1	－	2段目検出、殻皮のみ
			59		1	－	2段目検出、殻皮のみ
			60		1	－	2段目検出、殻皮のみ
中世アイヌ文化期/縄集中5	⊞SB-05	⊞bM	61	カワシンジュガイ	1	－	2段目検出、殻皮のみ
			62		1	－	2段目検出、殻皮のみ
			63		1	2.3g	2段目検出 殻頂部分残存
			64		1	－	2段目検出、殻皮のみ
			65		1	－	2段目検出、殻皮のみ
			67		多	1.06g	⊞SB-05出土カワシンジュガイ残滓、殻皮のみ
中世アイヌ文化期/貝集中1	⊞SB-01	⊞bM	40	カワシンジュガイ	1	－	殻皮のみ
			41		1	－	殻皮のみ
			42		1	－	殻皮のみ
			43		1	－	殻皮のみ
			44		1	－	殻皮のみ
			45		1	－	殻皮のみ
			46		1	－	殻皮のみ
			47		1	－	殻皮のみ
			48		1	－	殻皮のみ
			49		1	－	殻皮のみ
			50		1	－	殻皮のみ
			51		1	－	殻皮のみ
			52		1	－	殻皮のみ
			53		1	25.34g	No.53・54と重なり合う。殻頂部残存
			54		1		
			68		1	－	⊞SB-01出土カワシンジュガイ残滓
中世アイヌ文化期/包含層			K-6	⊞bM	1	カワシンジュガイ	1	－	殻皮のみ
			K-6	⊞bM	2		多	0.74g	殻皮のみ
			K-6	⊞bM	3		1	－	殻皮のみ
			K-6	⊞bM	4		1	－	殻皮のみ
			K-6	⊞bM	5		1	－	殻皮のみ
			K-6	⊞bM	6		1	－	殻皮のみ
			K-6	⊞bM	19		1	－	殻皮のみ
			K-6	⊞bL	69		多	1.47g	殻皮のみ
			K-6-4	⊞aL	70		1	－	殻皮のみ
			S-6	⊞bM	71		1	－	殻皮のみ

表3-1 幌内8遺跡 フローテーション法動物遺存体同定一覧表

遺構No.	時代(推定)	遺構名/グリッド名	層位	出土動物	部位	L/R	数量	備考
1	中世アイヌ文化期	Ⅲ F-01	Ⅲ bM	哺乳類spp.	部位不明	不明	2	
				サケ科sp.	脊椎骨	－	1	
				サケ科Oncorhynchus det.	椎骨片	－	52	
				魚類Pisces det.	鱗嶋			3.7g
4	中世アイヌ文化期	Ⅲ F-04	Ⅲ bL	魚類	部位不明	－	1	8.5G, 第Ⅲ-95土器同
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明	36	
				サケ科Oncorhynchus det.	脊椎骨	－	3	
				サケ科Oncorhynchus det.	椎骨片	－	17	
				サケ科Oncorhynchus det.	鱗嶋類片	－		3.95g
				イルカ	椎骨片	－	1	
				ヨイ科Phocoenidae det.	椎骨	－	8	
5	中世アイヌ文化期	Ⅲ F-05	Ⅲ bL	シカ	第2-3指肋末節骨	－	1	
				シカ	白鳥亜目冠鳥片	－	1	
				シカ	種子骨	－	1	
				サケ科Oncorhynchus det.	鱗嶋類片	－	24	
19	中世アイヌ文化期	Ⅲ KP-20	Ⅲ c	シカ	大腿骨遠位端	－	1	Ⅲ HR-06と接合
				シカ	大腿骨遠位端	－	1	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明	147	22g
20	中世アイヌ文化期	Ⅲ FR-03	Ⅲ bM	シカ	白鳥亜目冠鳥片	－	1	
				哺乳類sp.	下顎骨歯槽部鳥片	不明	1	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明	36	7g
26	中世アイヌ文化期	Ⅲ-4	Ⅲ bM	シカ	基節骨遠位端	－	6	下層に縄文文化層の複層あり
				シカ	中節骨遠位端	－	1	
				シカ	末節骨遠位端	－	3	
				シカ	種子骨	－	1	
				シカ	橈骨前骨関節癒着一部	左	1	
				シカ	橈骨中心第4足根骨関節癒着一部	左	1	
				シカ	中手-中足骨遠位癒着一部	－	4	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明		51g
2	縄文文化期	Ⅲ F-02	Ⅲ cL	哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明	31	
3	縄文文化期	Ⅲ F-03	Ⅲ bL・Ⅲ cL	サケ科sp.	脊椎		1	
				シカ	基節骨遠位端	－	4	
				シカ	基節骨遠位端	－	3	
				シカ	中節骨遠位端	－	7	
				シカ	中節骨遠位端	－	2	
				シカ	末節骨遠位端	－	4	
				シカ	末節骨遠位端	－	6	
				シカ	第2-3指肋末節骨	－	3	
				シカ	種子骨	－	7	
				シカ	橈骨中心第4足根骨関節癒	右	1	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明		665g
6	縄文文化期	Ⅲ F-06	Ⅲ bL	哺乳類不明	部位不明	不明	4	
7	縄文文化期	Ⅲ F-07	Ⅲ bL・Ⅲ cL	サケ科Oncorhynchus det.	椎骨片	－	58	
				サケ科Oncorhynchus det.	鱗嶋片	－	26	
				シカ	基節骨遠位端	－	2	
				シカ	中節骨遠位端	－	2	
				シカ	末節骨遠位端	－	1	
				シカ	種子骨	－	1	
				シカ	橈骨前骨関節癒着	左	1	
				シカ	尺骨手根骨	右	1	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明		137.3g
8	縄文文化期	Ⅲ F-08	Ⅲ cL	哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明	42	
				サケ科Oncorhynchus det.	鱗嶋類片	－	18	
9	縄文文化期	Ⅲ SR-10	Ⅲ cL	哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明	4	
10	縄文文化期	Ⅲ HR-02	Ⅲ cL	シカ	基節骨遠位端	－	1	
				シカ	中節骨遠位端	－	4	
				シカ	中節骨遠位端	－	4	
				シカ	末節骨遠位端	－	2	
				シカ	種子骨	－	2	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明		101g
11	縄文文化期	Ⅲ HR-03	Ⅲ cL	サケ科spp.	椎骨片	－	2	
				シカ	基節骨遠位端	－	1	
				シカ	中節骨遠位端	－	1	
				シカ	末節骨遠位端	－	3	
				シカ	第2-3指肋末節骨	－	1	
				シカ	種子骨	－	4	
11	縄文文化期	Ⅲ HR-03	Ⅲ cL	シカ	橈骨骨一部	右	1	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明		294g
12	縄文文化期	Ⅲ HR-04	Ⅲ cL	シカ	基節骨遠位端	－	5	
				シカ	基節骨遠位端	－	8	
				シカ	中節骨遠位端	－	3	
				シカ	中節骨遠位端	－	7	
				シカ	末節骨遠位端	－	6	
				シカ	末節骨遠位端	－	8	
				シカ	第2-3指肋末節骨	－	5	
				シカ	種子骨	－	10	
				シカ	下顎骨関節突起	右	1	
				シカ	中手-中足骨遠位端	－	3	
				シカ	尺骨回定起滑車切断	左	1	
				シカ	第2-3足根骨	左	1	第4不明骨1同一個体
				シカ	第4足根骨	左	1	
				シカ	第2-3足根骨	左	1	中足骨遠位端・第2-3足根骨同一個体の可能性
				シカ	中心第4足根骨	左	1	
				シカ	尺橈骨根骨	右	1	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明		543g
13	縄文文化期	Ⅲ HR-05	Ⅲ bL	シカ	基節骨遠位端	－	1	8.5G, 第Ⅲ-95土器同
				シカ	基節骨遠位端	－	2	
				シカ	中節骨遠位端	－	1	
				シカ	末節骨遠位端	－	1	
				シカ	前蹄	－	1	
				シカ	中心第4足根骨	右	1	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明		94g
14	縄文文化期	Ⅲ HR-06	Ⅲ bL	シカ	種子骨	－	1	
				シカ	末節骨	－	1	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明	96	22g
15	縄文文化期	Ⅲ HR-07	Ⅲ cL	シカ	基節骨遠位端	－	5	
				シカ	中節骨遠位端	－	1	
				シカ	末節骨遠位端	－	1	
				シカ	第2-3指肋末節骨	－	1	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明		75
16	縄文文化期	Ⅲ HR-08	Ⅲ cL	シカ	基節骨遠位端	－	1	
				シカ	中手-中足骨遠位癒着	－	2	
				シカ	大腿骨遠位一部	左	1	
				シカ	橈骨骨一部	左	2	
				シカ	橈骨前骨関節癒着	右	3	
				シカ	橈骨嶋嶋一部	右	1	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明		1000g
17	縄文文化期	Ⅲ HR-09	Ⅲ cL	シカ	基節骨遠位端	－	1	8.5G, 第Ⅲ-95土器同
				シカ	基節骨遠位端	－	2	
				シカ	第2-3指肋末節骨	－	1	
				シカ	種子骨	－	2	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明		205g
18	縄文文化期	Ⅲ HR-10	Ⅲ cL・Ⅲ cL	シカ	基節骨遠位端	－	5	
				シカ	基節骨遠位端	－	3	
				シカ	中節骨遠位端	－	6	
				シカ	中節骨遠位端	－	4	
				シカ	末節骨遠位端	－	2	
				シカ	第2-3指肋末節骨	－	8	
				シカ	第2-3指肋基節骨	－	1	
				シカ	種子骨	－	24	
				シカ	橈骨骨幹橈骨関節癒着	右	1	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明		178g
26	縄文文化期	Ⅲ-6	Ⅲ bM・Ⅲ bL・Ⅲ c	哺乳類Mammalia	基節骨遠位端	－	25	
				シカ	基節骨遠位端	－	34	
				シカ	中節骨遠位端	－	19	
				シカ	中節骨遠位端	－	42	
				シカ	末節骨遠位端	－	23	
				シカ	第2-3指肋中節骨	－	5	
				シカ	第2-3指肋末節骨	－	4	
				シカ	橈骨東骨関節部癒	右	1	
				シカ	種子骨	－	16	
				哺乳類Mammalia det.	部位不明	不明		605g

表3-2　幌内8遺跡　フローテーション法動物遺存体同定一覧表

委託No.	時代(推定)	遺構名/グリッド名	層位	出土動物	部位	LR	数量	備考
39	縄文文化期	S-5	Ⅲ1d.	シカ	基脚骨近位端	－	2	
				シカ	基脚骨遠位端	－	1	
				シカ	中節骨近位端	－	1	
				シカ	末節骨近位端	－	2	
				シカ	末節骨遠位端	－	2	
				シカ	第2・5指骨末節骨	－	2	
				シカ	第2・5指骨末節骨	－	1	
				シカ	種籽骨第四節節部	左	1	
				シカ	種子骨	－	2	
				哺乳類non det.	部位不明	不明		92g
40	縄文文化期	S-6	Ⅲ1d. Ⅲ1c.	シカ	基脚骨近位端	－	2	
				シカ	基脚骨遠位端	－	3	
				シカ	中節骨近位端	－	1	
				シカ	中節骨遠位端	－	2	
				シカ	末節骨近位端	－	1	
				シカ	第2・5指骨末節骨	－	1	
				シカ	種籽骨第四節節部	左	1	
				シカ	種子骨	－	2	
				シカ	中手・中足骨後面	横片	4	
				哺乳類non det.	部位不明	不明		28g
43	縄文文化期	U-5	Ⅲc	シカ	基脚骨近位端	－	3	
				シカ	基脚骨遠位端	－	3	
				シカ	中節骨近位端	－	2	
				シカ	中節骨遠位端	－	6	
				シカ	末節骨近位端	－	6	
				シカ	第2・5指骨中節骨	－	2	
				シカ	第2・5指骨末節骨	－	3	
				シカ	種子骨	－	6	
				シカ	中手・中足骨遠位端第一部	－	1	
				シカ	大腿骨外側顆外端上顆部	左ヲ	1	
				シカ	大腿骨滑車一部	左ヲ	1	
				シカ	距骨中心・第4足根骨側部内側滑車	右	1	
				シカ	第4・5指骨外端一部	左	1	
				シカ	第2・3足根骨一部	左	1	
				ヤクHson det.	臼歯前	－	6	
				ヤクHson det.	椎骨片	－	67	
				ヤクHson det.	橈骨片	－	5	
				哺乳類non det.	部位不明	不明		305g

委託No.	時代(推定)	遺構名/グリッド名	層位	出土動物	部位	LR	数量	備考
41	縄文文化期	T-5	Ⅲ1d.	シカ	中心・第4足根骨一部	右ヲ	1	
				シカ	基脚骨遠位端	－	2	
				シカ	中手・中足骨遠位端第一部	－	1	
				シカ	種子骨	－	1	
				哺乳類non det.	部位不明	不明	6	
				哺乳類non det.	部位不明	不明		7.7g
42	縄文文化期	T-6	Ⅲ1c. Ⅲ1d.	シカ	基脚骨近位端	－	1	
				シカ	基脚骨遠位端	－	1	
				シカ	中節骨遠位端	－	1	
				シカ	末節骨近位端	－	2	
				シカ	第2・5指骨末節骨	－	1	
				シカ	種籽骨第四節部一部	右	2	
				シカ	種子骨	－	2	
				シカ	第2・3足根骨一部	左	1	
				哺乳類non det.	部位不明	不明		23g
37	中世 アイヌ文化 ～ 縄文文化期	R-5	Ⅲ	シカ	基脚骨遠位端	－	1	
				シカ	中節骨遠位端	－	4	
				シカ	末節骨近位端	－	7	
				シカ	第2・5指骨末節骨	－	3	
				シカ	種子骨	－	7	
				哺乳類non det.	部位不明	不明		51g
21	縄文時代	VH-01	VIM	シカ	第2・5指骨末節骨近位端一部	－	1	
				哺乳類non det.	部位不明	不明	82	10g
22	縄文時代	VF-02	VIM.	哺乳類non det.	部位不明	不明	42	7g
23	縄文時代	VF-03	VIM	哺乳類non det.	部位不明	不明	111	21g
24	縄文時代	VF-08	VIM.	哺乳類non det.	部位不明	不明	46	
25	縄文時代	VF-09	VIM.	シカ	中手・中足骨骨側端片	－	1	
				哺乳類non det.	部位不明	不明	123	28g
26	縄文時代	VF-11	VIM.	哺乳類non det.	部位不明	不明	7	
27	縄文時代	VF-14	VIM.	哺乳類non det.	部位不明	不明	52	5g
28	縄文時代	VF-15	VIM	哺乳類non det.	部位不明	不明	21	
29	縄文時代	VF-22	VIM.	哺乳類non det.	部位不明	不明	69	
30	縄文時代	VF-23	VIM.	哺乳類non det.	部位不明	不明	11	1g
31	縄文時代	VF-25	VIM.	シカ	切歯歯髄	－	1	
				シカ	尺橈手根骨一部	左	1	
				哺乳類non det.	部位不明	不明	72	13g
32	縄文時代	VF-26	Vc	哺乳類non det.	部位不明	不明	21	1.4g
33	縄文時代	VF-28	VIM.	哺乳類non det.	部位不明	不明	153	23g
34	縄文時代	VF-33	VIM.	哺乳類non det.	部位不明	不明	39	6.7g
35	縄文時代	VA3-01	VIM.	哺乳類non det.	部位不明	不明	216	31 VF-37

【引用文献】

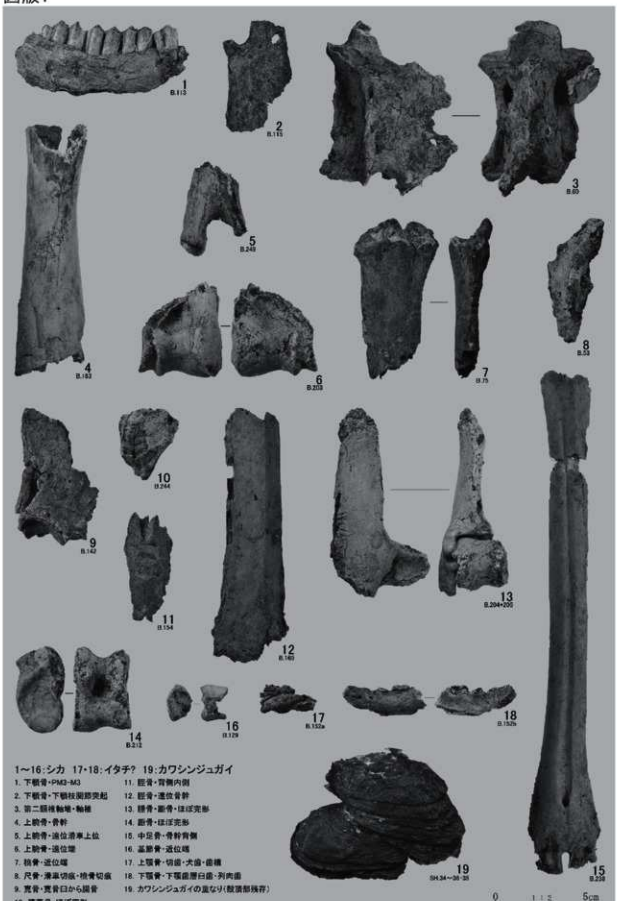
大泰司紀之 1980「遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別・年齢・死亡時期査定法」『考古学と自然科学』 13, pp. 51-73

高橋　理 2009　「北海道網走郡津別町ツペットウンチャシ跡の動物」『ツペットウンチャシ跡』津別町文化財調査報告書１　津別町教育委員会

2013　「第４節　北海道勇払郡厚真町ヲチャラセナイ遺跡の動物」『ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡　-厚幌ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5-』厚真町教育委員会　pp. 34-41

山浦　清 2008　「プロトニアイヌ期以降における銛頭の変遷とその背景」『北海道考古学』第 44 輯 pp. 1-20

図版1


1
B.113
2
B.183
3
B.80
4
B.183
5
B.249
6
B.203
7
B.75
8
B.53
9
B.142
10
B.244
11
B.154
12
B.140
13
B.204+205
14
B.212
15
B.228
16
B.129
17
B.132a
18
B.132b
19
SH.34～36・38
1～16:シカ 17・18:イタチ? 19:カワシンジュガイ
1. 下顎骨・PM3-M3
2. 下顎骨・下顎枝関節突起
3. 第二頸椎軸椎・軸椎
4. 上腕骨・骨幹
5. 上腕骨・遠位滑車上位
6. 上腕骨・遠位関
7. 橈骨・近位端
8. 尺骨・滑車切痕・橈骨切痕
9. 荒骨・荒骨口から関骨
10. 膝蓋骨・ほぼ完形
11. 脛骨・背側内側
12. 脛骨・遠位骨幹
13. 橈骨・遠骨・ほぼ完形
14. 脛骨・ほぼ完形
15. 中足骨・骨幹背側
16. 基節骨・近位端
17. 上顎骨・切歯・犬歯・歯槽
18. 下顎骨・下顎歯槽日歯・列肉歯
19. カワシンジュガイの貝なり(殻頂部残存)
0 1:2 5cm

第２節　厚真町幌内８遺跡から出土した炭化種子

北海道大学大学院文学研究院　高瀬克範

１.遺跡の概要

遺跡の名称　幌内８遺跡（J-13-136）　遺跡の所在地　勇払郡厚真町字幌内 564
発掘調査期間　2018 年６月１日～11 月 16 日/2019 年５月 15 日～31 日（調査面積 1,023 ㎡）
発掘調査機関　厚真町教育委員会
発掘調査担当　奈良智法・乾　哲也
遺跡の立地　独立丘
検出遺構　焼土，焼土ブロック，礫集中，獣骨集中（中世アイヌ文化期），焼土，土器集中，礫集中，獣骨集中（続縄文文化期），竪穴住居跡，土坑，灰集中，焼土，土器集中，礫集中，フレイク・チップ集中（縄文時代）

２.試料

本稿では，2018 年度に実施された幌内８遺跡の発掘調査によって検出された炭化種子について報告する。対象試料の取り上げ単位は，No.１～No.32 の 32 個に分かれている（表１）。このうち No.１～No.20 までの 20 個がウォーター・フローテーション法（メッシュサイズ 0.425㎜および 2㎜）によって回収されたもの，No.21～No.32 の 12 個がハンドピックによって回収されたものである。調査所見にもとづく炭化種子の帰属時期の内訳は，縄文時代が１個，続縄文文化期が 16 個，続縄文文化期～中世アイヌ文化期が２個，中世アイヌ文化期が 13 個である。なお，資料は 2019 年 12 月に報告者のもとに届き，観察・記録をおこなったのち 2020 年１月中に本報告とともにすべての資料を厚真町教育委員会へ返送した。

３．各時代の遺構から出土した種子

アワ *Setaria italica*（L.）P. Beauv.（図版 1-1：ⅢF-05 出土，図版 1-2：ⅢF-02 出土）

続縄文文化期のⅢF-02，中世アイヌ文化期のⅢF-05 で確認された。穎果はやや球形。背面には果長の三分の二ほどの胚があり，その反対側の腹面には小さなヘラ型のヘソが確認される（椿坂 1993）。出土種子は大半が内・外穎が外れた穎果であるが，内・外穎が一部に残存している種子も混在している。計測値は，図版 1-1：L 1.4 × B 1.3 × T 1.3（㎜），図版 1-2：L 1.3 × B 1.3 × T 1.0（㎜）である。

キビ *Panicum miliaceum* L.（図版 1-3：ⅢF-02 出土，図版 1-4，5：ⅢF-05 出土）

続縄文文化期のⅢF-02，および中世アイヌ文化期のⅢF-01，ⅢF-05，ⅢFB-01 で確認された。種子はやや球形または広卵形。背面には果長の二分の一ほどの胚があり，その反対側の腹面にはヘラ型状の大きなヘソがある（椿坂 1993）。出土種子の大半は内・外穎が外れた穎果であるが，内・外穎が一部に残存する種子も混在している。穎果には，横幅が広く丸みを帯びたタイプと（図版 1-3，4），横幅が狭い細身のタイプがある（図版 1-5）。計測値は，図版 1-3：L 2.7 × B 2.7 × T 1.9（㎜），図版 1-4：L 2.0 × B 2.1 × T 1.7（㎜），図版 1-5：L 2.2 × B 1.8 × T 1.3（㎜）である。

タデ科 POLYGONACEAE（図版 1-6：ⅢBB-09 出土）

縄文文化期のⅢBB-09 から 1 粒のみ出土した。痩果は三角状紡錘形で先が尖るが，形態が類似する種が多く，詳細な分類は困難である。計測値は，図版 1-6：L 1.7 × B 1.1 × T 1.0 (mm)である。

アカザ属 *Chenopodium* L.（図版 1-7：ⅢBB-09 出土）

縄文文化期のⅢBB-09 から 2 粒出土した。種子は扁平球形。側面には嘴状に突出したヘソがある。計測値は，図版 1-7：L 1.1 × B 1.1 × T 0.6 (mm)である。

ナス科 SOLANACEAE（図版 1-8：ⅢF-04 出土）

中世アイヌ文化期のⅢF-04 から 1 粒のみ出土した。種子は扁平広卵形で表面に大型網目の組織が確認される。計測値は，図版 1-8：L 1.4 × B 1.2 × T 0.6 (mm)である。

ブドウ科 VITIDACEAE（図版 1-9，10：ⅢF-05 出土）

縄文文化期のⅢBB-08，ⅢBB-09，ⅢBB-10，および中世アイヌ文化期のⅢF-01，ⅢF-04，ⅢF-05，ⅢFB-02 から計 79 粒，24 片が出土した。種子は広倒卵形。背面は円みがあり，倒へら形の凹みがある。腹面の中央に稜があり，稜の両側に針形の凹みがある。ブドウ属と同定され，エビヅル *Vitis ficifolia* Bunge var. *lobate* (Regel) Nakai もしくはヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat と考えられる。北海道ではエビヅルの現在の分布が南部に限られることを考慮すると，後者である可能性が高い。計測値は，図版 1-9：L 4.4 × B 3.1 × T 2.8 (mm)，図版 1-10：L 4.3 × B 2.9 × T 2.8 (mm)である。

マメ科 LEGUMINOSAE（図版 1-11，12：ⅢF-04 出土）

中世アイヌ文化期のⅢF-04，ⅢFB-03 から計 4 粒が出土した。図版 1-11 はほぼ球形で，種子の上端付近から下端付近にわたって長いヘソが確認される。レンリソウ属 *Lathyrus* L.に類似するが，科までの同定にとどめておく。図版 1-13 の種子は破損しているが扁平卵形で，腹面の下部に円形の小さなヘソが確認される。ハギ属 *Lespedeza* Michx.に分類されるが，形態が類似した種子が多いため，種までの同定は困難である。計測値は，図版 1-11：L 1.8 × B 1.7 × T 1.4 (mm)，図版 1-12：L 2.0 × B (1.3) × T 1.1 (mm)である。

キハダ属 *Phellodendron* Rupr.（図版 1-13，20，21：ⅢBB-08 出土）

縄文文化期のⅢF-03，ⅢBB-08，中世アイヌ文化期のⅢF-05，ⅢFB-01 から，果実 3 粒，種子 6 粒が確認された。果実は球形で中に 5 個の小核があり，それぞれに 1 個の種子が含まれる。種子は半横広卵形で表皮に浅い凹みによる網目模様がある。形態的特徴からキハダ *P. amurense* Rupr.と同定される。計測値は，図版 1-13：L 3.5 × B (1.8) × T 1.3 (mm)，図版 1-20：L 71.0 × B 70.0 × T 60.5 (mm)，図版 1-21：L 80.0 × B 75.0 × T 55.5 (mm)である。

マタタビ属 *Actinidia* Lindl.（図版 1-14，15：ⅢBB-08 出土）

縄文文化期のⅢF-03，ⅢBB-08 から計 7 粒が出土した。種子は長楕円形で，種子には凹点による網目模様がある。マタタビ *A. polygama* Planch.もしくはサルナシ *A. arguta* Planch.のいずれかと考えられるが，両者の種子は形態と表面組織がきわめて類似しているため種子からの同定は困難である。計測値は，図版 1-15：L 1.5 × B 1.1 × T 0.7（mm），図版 1-16：L 2.0 × B 1.2 × T 0.8（mm）である。

キイチゴ属 *Rubus* L.（図版 1-16：ⅢF-05 出土）

縄文文化期のⅢF-02，R-6 区ⅢbM・ⅢbL・Ⅲc 層，中世アイヌ文化期のⅢF-05 から，計 3 個が出土した。種子は半横広卵形で，繻子の表面には大きな網状の凹凸がある。キイチゴ属は形態と種子表面の構造の類似したものが多いので，種子から種を同定するのは困難である。計測値は，図版 1-16：L 1.9 × B 1.1 × T 0.8（mm）である。

サクラ属 *Prunus* L.（図版 1-22：ⅢF-05 出土）

中世アイヌ文化期のⅢF-05 から 0.1g が出土した。核編はやや扁平で，側面に沿ってやや深い縦溝がある。表面は粗面である。細片のためサイズの計測はしておらず，表 1 には個数ではなく重量を掲示した。

クルミ属 *Juglans* L.（図版 1-23，24：R-6 区ⅢbM 層，図版 1-25：S-4 区Ⅲ層出土）

縄文時代のⅤAS-01，縄文文化期のⅢF-02，ⅢF-03，ⅢSB-10，ⅢBB-02，R-6 区ⅢbM・ⅢbL・Ⅲc 層，R-4 区ⅢcL 層，S-5 区ⅢbL 層，縄文文化期～中世アイヌ文化期の S-4 区Ⅲ層，S-6-4 区Ⅲ層，中世アイヌ文化期のⅢF-01，ⅢF-04，ⅢF-05，ⅢFB-03，R-4 区ⅢbM 層，R-6 区ⅢbM 層，S-6 区ⅢbM 層，S-4 区ⅢbU 層，S-5 区ⅢbM 層から，計 43.71g が出土した。核の表面には縦に浅い溝状の模様があり，オニグルミ *J. sieboldiana* Maxim と同定される。いずれも細片のためサイズの計測はしておらず，表 1 には個数ではなく重量を掲示した。

不明ミレット Unidentifiable millet seeds

縄文文化期の R-6 区ⅢbM・ⅢbL・Ⅲc 層，中世アイヌ文化期のⅢF-01，ⅢF-05 から 71 粒が出土した。アワ・キビ・ヒエ属のなかのいずれかであるが保存状態の悪さにより種の同定ができなかったものである。ほとんどがアワもしくはキビのいずれかであると推定される。No. 18 のサンプルに含まれる縄文文化期の試料 1 粒は被熱による表面のダメージが大きいが，サイズと形態からみてキビの可能性がきわめて高い種子である。

冬芽 Bud（図版 1-17：R-4 区ⅢbM 層出土）

中世アイヌ文化期のⅢF-01，R-4 区ⅢbM 層から 2 個が出土した。冬芽は，枝との位置関係が確認でき，なおかつ冬芽全体が残存している場合は，科・属までの同定ができることもあるが，遺跡出土資料の場合は単体となった冬芽のみが検出されることが多く，同定は困難である。計測値は，図版 1-17：L 1.9 × B 1.1 × T 0.8（mm）である。

不明 Unidentifiable（図版1-18・19：ⅢBB-08出土）

不明種子のうち，将来的に同定できる可能性があるが，手元に比較標本がないために同定できないものを「不明 1」，破損や被熱によるダメージなどにより保存状態が悪いために同定不能である資料を「不明2」とした。図版1-18は，大きさと種子全体の形態からみてシソ属 *Perilla* L. に類似しているが，表面の網目状構造などが明確に観察できないため不明1とした。図版1-19は，イネ科 GRAMINEAE と考えられるが，比較資料がないため不明とした。計測値は，図版1-18：L 1.9 × B 1.6 × T 1.5（mm），図版1-19：L 2.4 × B 1.0 × T 0.6（mm）

4．コメント

幌内8遺跡から出土した炭化種子の構成は，これまで厚真町内の遺跡から発見された種子と類似した傾向を示している。幌内8遺跡のごく近傍の遺跡における発掘調査の成果だけをみても，ヒエ属，キビ，アワ，マメ科，タデ科，ニワトコ属，マタタビ属，キイチゴ属，ブドウ科，キハダ属，ウルシ科，ミズキ属，サクラ属，クマシデ属，バラ科，スモモ属，コナラ属，クルミ属が出土しており（椿坂 2009，2010a，b，c，d），幌内8遺跡出土種子もこの範囲内にある。周辺の遺跡と同様の植物利用が行われていたと考えられる。

留意すべき点として触れておかなければならないのは，続縄文文化期の焼土（ⅢF-02）から出土したアワ1粒とキビ1粒である。続縄文文化期の出土土器は，汐見式および北大Ⅰ式が中心である。この時期の遺構からアワ，キビが出土した事例はほかにもあるものの，続縄文文化期のアワ，キビの評価はまだ定まっていない。たとえば，札幌市 N434 遺跡からは続縄文文化後期の遺構からキビ1粒が（高瀬 2019），札幌市 K39 遺跡でも続縄文文化後期の遺構からアワ80粒以上，キビ6粒が出土している。しかし，K39 遺跡では，アワ5粒，キビ5粒の年代測定によって擦文文化期の資料である蓋然性が高いことが確認されている（小杉ほか 2011）。北海道島において，続縄文文化後期のアワ・キビは擦文文化期に比べると極端に数が少なく，擦文文化やアイヌ文化期との複合遺跡で出土する。したがって，本州島から輸入された可能性や（榊田・高瀬 2019），擦文文化期遺構の資料が続縄文文化期の文化層に混入した可能性も考慮しておく必要がある。

厚真町でも，栽培型のヒエが続縄文文化期の遺構から1粒だけ出土したことがある。発掘調査の所見では層位的に混入は考えにくい場合でも，フローテーションなど整理作業の過程でもコンタミネーションは生じうるため，このヒエについても続縄文文化の確実な資料とは言えない点が指摘されている（椿坂 2010b）。本遺跡でも，中世アイヌ文化期の遺構からは多数のアワ・キビが比較的安定的に出土しているのに対して，続縄文文化期のアワ・キビはそれぞれ1粒だけで，出土状況が不安定である。これ以外にも，続縄文文化期の遺構からキビの可能性がある種子が出土しているが，これも1粒にとどまる。今後，他遺跡の発掘調査によって続縄文後半のアワ，キビが増えてくれば本州島からの輸入品であった蓋然性は高まることになるが，現時点では混入の可能性も配慮しておく必要がある。

本稿の作成にあたって，椿坂恭代氏から多大なご協力と有益なご助言をいただいた。記して感謝申しあげる。

文献

小杉　康・高倉　純・守屋豊人編 2011 『K39 遺跡工学部共用実験研究棟地点発掘調査報告書』
北海道大学埋蔵文化財調査室

榊田朋広・高瀬克範 2019「石狩低地帯北部における先史・古代の植物利用―札幌市域における炭化種子・土器圧痕の検討―」『日本考古学』48，pp. 1-19

高瀬克範 2019「札幌市 N434 遺跡から出土した炭化種子」『N434 遺跡』pp. 256-260，360，札幌市教育委員会

椿坂恭代 1993「アワ・ヒエ・キビの同定」『先史時代と関連科学』，pp. 261-281，吉崎昌一先生還暦記念論集刊行会

椿坂恭代 2009「厚真町ニタップナイ遺跡から検出された炭化植物種子」『ニタップナイ遺跡(1)』，pp. 265-276，厚真町教育委員会

椿坂恭代 2010a「厚真町幌内 5 遺跡から検出された炭化植物種子」『幌内 5 遺跡(1)　富里 2 遺跡ニタップナイ遺跡(2)』，pp. 288-291，厚真町教育委員会

椿坂恭代 2010b「厚真町富里 2 遺跡から検出された炭化植物種子」『幌内 5 遺跡(1)　富里 2 遺跡ニタップナイ遺跡(2)』，pp. 292-296，厚真町教育委員会

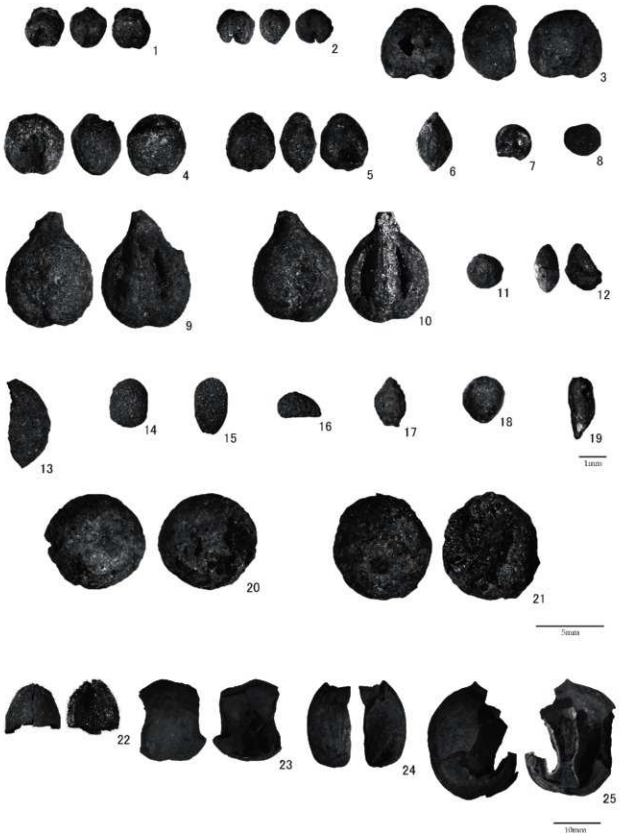
椿坂恭代 2010c「厚真町ニタップナイ遺跡から検出された炭化植物種子」『幌内 5 遺跡(1)　富里 2 遺跡ニタップナイ遺跡(2)』，pp. 297-301，厚真町教育委員会

椿坂恭代 2010d「幌内 7 遺跡出土の炭化種子について」『厚幌 1 遺跡(2)　幌内 7 遺跡(1)』，pp. 262-268，厚真町教育委員会

表1　幌内8遺跡　炭化種子同定一覧表

時代	遺構名	グリッド	層位	アワ	キビ	タデ科	アカザ属	ナス科	ブドウ科		マメ科	ハギ属	キハダ属			マタタビ属	キイチゴ属	サクラ属	クルミ属	不明ミレット	冬芽	不明1	不明2	土壌サンプル容量(ℓ)
				粒	粒	粒	粒	粒	種子(粒)	(片)	粒	粒	果実(粒)	種子(粒)	(片)	粒	粒	g	g	粒	片	粒	片	
中世アイヌ文化	Ⅲ F-01	R・S-6	Ⅲ bM		31				48	16									6.16	1	1		12	6.6
中世アイヌ文化	Ⅲ F-04	S-5	Ⅲ bL	1				1	19		2	1							0.62			2	31	45.7
中世アイヌ文化	Ⅲ F-05	R-6	Ⅲ bL	16	113				6	8			3		2		1	0.10	9.95	69		6	8	25.4
中世アイヌ文化	Ⅲ FB-01	S-6	Ⅲ bL		1									4									2	5.8
中世アイヌ文化	Ⅲ FB-02	S-5	Ⅲ bM						1													1		11.0
中世アイヌ文化	Ⅲ FB-03	S-5	Ⅲ bM									1							0.14				4	20.6
中世アイヌ文化	Ⅲ FB-04	S-6	Ⅲ bM																				7	5.8
中世アイヌ文化	－	R-6	Ⅲ bM																0.34					－
中世アイヌ文化	－	R-6	Ⅲ bM																0.14					－
中世アイヌ文化	－	S-6	Ⅲ bM																0.13					－
中世アイヌ文化	－	S-4	Ⅲ bU																0.17					－
中世アイヌ文化	－	S-5	Ⅲ bM																1.50					－
中世アイヌ文化	－	R-4	Ⅲ bM																0.33		1		1	5.0
縄文文化	Ⅲ F-02	S-4・5	Ⅲ cU	1	1												1		<0.01				2	5.6
縄文文化	Ⅲ F-03	T-4	Ⅲ bL・Ⅲ c											1	1				8.23			1	5	24.1
縄文文化	Ⅲ BB-02	R-4	Ⅲ cU																4.70					15.0
縄文文化	Ⅲ BB-04	R-6	Ⅲ bL・Ⅲ cU																				1	15.6
縄文文化	Ⅲ BB-08	Q-3	Ⅲ cU						2					1	6							1	1	19.8
縄文文化	Ⅲ BB-09	R-3	Ⅲ cU			1	2		2														2	13.4
縄文文化	Ⅲ BB-10	S・T-5	Ⅲ cU・Ⅲ cL						1															16.2
縄文文化	Ⅲ SB-10	Q-4	Ⅲ cL																3.06					7.2
縄文文化	Ⅲ SB-10	Q-4	Ⅲ cL																4.79					－
縄文文化	－	R-6	Ⅲ bM・Ⅲ bL・Ⅲ c														1		0.09	1			9	26.8
縄文文化	－	S-5	Ⅲ bL																				1	0.8
縄文文化	－	U-5	Ⅲ c																				5	26.3
縄文文化	－	R-4	Ⅲ cL																0.45					－
縄文文化	－	R-4	Ⅲ cL																0.29					－
縄文文化	－	R-4	Ⅲ cL																0.31					－
縄文文化	－	S-5	Ⅲ bL																0.12					－
縄文文化～中世アイヌ文化	－	S-4	Ⅲ																2.02					－
縄文文化～中世アイヌ文化	－	S-6-4	Ⅲ																0.12					－
縄文時代	Ⅴ AS-01	Q-5	Ⅴ bL																0.05					3.2
				18	146	1	2	1	79	24	2	2	3	6	2	7	3	0.1	43.71	71	2	11	91	299.9

図版1


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
1mm
20
21
5mm
22
23
24
25
10mm

引用 参 文献

石慎三 1999 「 小牧地方の円 上層式について」
『 小牧市埋 文化 査センター所報』1
小牧市埋 文化 査センター
石慎三 2006 「 小牧地方における 文時代中期後半
の土器について」『 報』3 小牧市博物
厚真町 1986 『厚真町史』
厚真町 1998 『増 厚真町史』
厚真町教 委員会
2004『厚幌1 』・2006『上幌内モイ (1)』
2007『上幌内モイ (2)』
2009a『上幌内モイ (3)』
2009b『ニタップナイ (1)』
2010a『厚幌1 (2) 幌内7 (1)』
2010b『幌内5 (1) 富 2
ニタップナイ (2)』
2011『オニキシベ2 』
2013a『ヲチャラセナイチャシ
ヲチャラセナイ 』
2013b『オニキシベ5 』
2013c『ヲイカルマイ 』
2014a『オニキシベ4 』
2014b『オニキシベ6 』
2014c『ヲチャラセナイ 』
2014d『ショロマ3 』・2014e『厚幌1 (3)』
2015a『ショロマ1 (1)』
2015b『ショロマ2 』
2016『上幌内1 』・2017a『上幌内2 』
2017b『一 沢 』・2018a『ショロマ1 (2)』
2018b『上幌内1 (2)』
厚真町土地改 区 1982 『 30周年 念 』
厚真町幌内 治会 1997 『 基百年 幌内のあゆみ』
厚真村 1956 『厚真村史』
厚真村だ土研 会 1962 『厚真村古代史』
新家水奈 2018
「 V 4 土 品 土塊 石 品」
『厚真町厚幌2 』北埋 報357
石狩町教 委員会 1984 『 山33号 』
出 実 2006 「 Ⅲ 2 ジオアーケオロジー」
『上幌内モイ (1)』厚真町教 委員会
恵庭市教 委員会
1992 『中島松1 南島松4 南島松3
南島松2 』
2015 『島松Bチャシ 島松沢8 』
江別市教 委員会 1982 『 ヶ岡 』
澄 「 Ⅲ 5 まとめ (2) 沢3 出土の
早期の土器にみられる文様について」
『 沢川流域の Ⅻ』北埋 報58
大泰司 1996 「 X 3 今回出土した土 品に
ついて」『キウス5 (4) B地区 C地区』
北埋 報116
大沼忠春 1989 「北 式土器様式」『 文土器大 』1
社
岡村 夫 1995 「 3 ピエス エスキーユ,楔形石器」
『 文文化の研 』7 山
加 孝幸他 2013 「 Ⅶ 5 土分析(2)」
『ヲチャラセナイチャシ ヲチャラセナイ 』
厚真町教 委員会
加 孝幸 他 2014 「 V 5 ヲチャラセナイ
土器 土分析」『ヲチャラセナイ 』厚真町教
委員会
亀井喜久太 1976 『厚真の旧地名を尋ねて』
工 2006 「 内 出土の焼成 土 について」
『 報』3 小牧市博物
( )北海 埋 文化 センター
1982 『ママチ 』北埋 報9
1987 『千歳市ママチ Ⅲ』北埋 報36
1988 『 沢川流域の Ⅻ』北埋 報58
1989 『深川市 内6丁目付 Ⅱ』北埋 報63
1990 「Ⅲ ヶ3 Ⅱ 土層の 査」『 沢
川流域の XⅣ』北埋 報69
1991 『余市町フゴッペ 塚』北埋 報72
1996 『千歳市キウス5 (4) B地区 C地区』
北埋 報116
1997 『 々 沢』
1998 『千歳市キウス5 (5) A-2地区』

北埋調報 125
2003 『厚真町浜厚真 3 遺跡』北埋調報 186
2006 『早来町大町 2 遺跡』北埋調報 228
2012 『千歳市祝梅川小野遺跡(1)・梅川 1 遺跡』
北埋調報 285
(公財)北海道埋蔵文化財センター
2014a『厚真町朝日遺跡』北埋調報 313
2014b『厚真町オニキシベ 1 遺跡』北埋調報 318
2014c『厚真町イクバンドエクチセ 2 遺跡』
北埋調報 319
2015a『厚真町ショロマ 4 遺跡』北埋調報 322
2015b『厚真町イクバンドエクチセ 3 遺跡』
北埋調報 325
2015c『厚真町富里 3 遺跡』北埋調報 326
2016a『厚真町上幌内 3 遺跡』北埋調報 335
2016b『厚真町厚幌 1 遺跡・幌内 6 遺跡・幌内 7 遺跡』
北埋調報 336
2016c『厚真町オコッコ 1 遺跡(1)』北埋調報 338
2017a『厚真町豊沢 5 遺跡・富里 1 遺跡・豊沢 10 遺
跡・豊丘 2 遺跡』北埋調報 341
2017b『厚真町上幌内 4 遺跡・上幌内 5 遺跡』
北埋調報 345
2017c『厚真町オニキシベ 3 遺跡』北埋調報 346
2018a『厚真町オコッコ 1 遺跡(2)』北埋調報 356
2018b『厚真町厚幌 2 遺跡』北埋調報 357
芝田直人 2012 「第Ⅵ章 第 2 節 祝梅川小野遺跡出土土
器等の胎土分析」『祝梅川小野遺跡(1)・梅川遺跡(1)』
北埋調報 285
瀬川拓郎 1982 「第 2 節 「短刺線文土器群」と「余市
式土器」の製作手法と器種構成」『札内台地の縄文時
代集落址』登別市教育委員会
早田 勉 2006 「上幌内モイ遺跡後期更新統の層序とテ
フラ」『上幌内モイ遺跡(1)』厚真町教育委員会
高橋正勝 1982 「第Ⅶ章 3. 萩ヶ岡式土器の設定」
『萩ヶ岡遺跡』江別市教育委員会
田才雅彦 1986 「北大式土器」『北奥古代文化』14
北奥古代文化研究会
田近 淳・大津 直・八幡正弘 2004 「厚幌 1 遺跡の地すべ
り堆積物」『厚幌 1 遺跡』厚真町教育委員会
戸井町教育委員会 1993 『戸井貝塚Ⅲ』
千歳市教育委員会
1990 『イヨマイ 6 遺跡における考古学的調査 2』
1994 『丸子山遺跡における考古学的調査』
1997 『イヨマイ 6 遺跡における考古学的調査 3』
2005 『美々貝塚北遺跡における考古学的調査』
苫小牧市教育委員会 1976 『植苗遺跡』
苫小牧市埋蔵文化財調査センター
1985 『ニナルカ』
1986 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』
1987 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』
1990 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』
1992a『静川 37 遺跡』
1992b『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』
1997 『柏原 27・ニナルカ・静川 5・6 遺跡』
1998 『美沢東遺跡群』
野澤謙庵 1692 「蝦夷記」『續々群書類從第九』
秦 昭繁 1991 「特殊な剥離技法をもつ 東日本の石匙
―松原型石匙の分布と製作時期について―」
『考古学雑誌』76-4 日本考古學會
早来町教育委員会 1976 『あびら-北海道勇払郡早来町・
安平 A 遺跡発掘調査報告書-』
平取町教育委員会 2010 『バシケヌツチミフ遺跡』
平取 15
益富壽之助 1987 『原色岩石図鑑』(全改訂新版) 保育社
町田勝則 1996 「石器の研究法―報告文作成に伴う観
察・記録法①―」『長野県の考古学』(財)長野県埋蔵
文化財センター
松浦武四郎(吉田常吉編) 1962
『蝦夷日誌 上 東蝦夷日誌』時事通信社
松浦武四郎(高倉信一郎校訂) 1985 『戊午東西蝦夷山川
地理取調日誌』中 北海道出版企画センター
松野久也・石田正夫 1960
『1:50,000 地質図幅説明書 早来』北海道開発庁
山内清男 1979 『日本先史土器の縄紋』 示人社